新潟県埋蔵文化財調査報告書　第125集

一般国道8号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

下 沖 北 遺 跡 Ⅰ

２００３

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道８号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

下沖北（しもおききた）遺跡 Ⅰ

２００３

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

近年、柏崎市周辺では産業・経済の変化により市街地が大きく郊外へ拡大しています。周辺地域の商業地、宅地化の進行に伴う道路交通量の増加によって、柏崎市周縁部の既存道路でも慢性的な渋滞が多くみられるようになり、旧市街の外側を通過する国道８号でも休日や通勤通学時間帯を中心に混雑を見せています。そのような状況の中で、柏崎市の長崎地内と鯨波地内を結ぶ、総延長11.0kmの国道８号柏崎バイパスの建設は、道路混雑の解消と円滑な交通の確保及び都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと期待されています。

新潟県教育委員会でも、道路建設に係る箕輪遺跡の発掘調査を平成８～12年度まで、小峯遺跡の発掘調査を平成10・11年度に行い、そして今回、下沖北遺跡の発掘調査を平成14年度に実施しました。既に箕輪遺跡の平成10年度調査の一部と平成12年度調査分は報告書が刊行されています。

調査の結果、下沖北遺跡は、掘立柱建物や井戸などを一辺60m以上の溝が方形に取り囲む、13～14世紀の鎌倉時代に築かれた集落跡であることが明らかとなりました。また、建物の周辺からは青磁や白磁などの中国製の輸入陶磁器や石鍋、茶道具などが出土しています。これらの中国製輸入陶磁器や九州地方で作られた石鍋からは約700年前の日本海をめぐる活発な交流がうかがえます。

今回の調査結果が、地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、併せて埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機になれば幸いです。

最後に、今回の調査に関して多大な御協力と御援助をいただいた柏崎市教育委員会ならびに地元住民の方々をはじめ、国土交通省北陸地方整備局・長岡国道工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

新潟県教育委員会

教育長　　板屋越　麟一

例　　言

1　本報告書は、新潟県柏崎市大字下方字下沖38番地１ほかに所在する下沖北遺跡の発掘調査記録である。

2　調査は一般国道８号柏崎バイパスの建設に伴い国土交通省から新潟県が受託したもので、発掘調査は調査主体である　新潟県教育委員会（以下、県教委と略す）が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団と略す）に委託し、平成14年度に実施したものである。

3　整理作業及び報告書作成に係る作業も、発掘調査に引き続き、平成14年度に埋文事業団がこれにあたった。

4　出土遺物及び調査・整理・自然科学分析に係る各種資料・データ類は、一括して県教委が保管・管理している。

5　遺物の注記は下沖北遺跡の略記号「下オキ北」とし、遺構番号や出土地点・層位を続けて記した。

6　本書の図中で示す方位はすべて真北である。

7　遺物番号は、土器・木製品・石製品・土製品・金属製品の順で一連の通し番号を付し、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。

8　引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

9　航空写真撮影は、株式会社国際航業に委託した。

10　遺構の平面測量は、株式会社榮技術に委託した。

11　土器の実測及びトレースは、有限会社JAWSに委託した。

12　自然科学分野に係る木製品の樹種同定は、株式会社パリノ・サーヴェイに委託した（第Ⅵ章）。

13　遺物・遺構図の各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託してDTPソフトにより実施し、デジタルデータから直接印刷した。

14　本書の執筆は、山本　肇（埋文事業団　班長）、高橋　保（同　国土交通省担当課長代理）、加藤義孝（同　主任調査員）、佐藤弘一（同　主任調査員）、金子正宏（同　主任調査員）、山崎忠良（同　文化財調査員）がこれにあたり、編集は山本、高橋が担当した。執筆分担は以下の通りである。

第Ⅰ章高橋、第Ⅱ章１加藤、２佐藤、第Ⅲ章１・２高橋、３・４山本、第Ⅳ章１山本、2A加藤、2B・G加藤、2C山本、2D金子、2E佐藤、2F金子、第Ⅴ章１山本、2A山崎、2B加藤、2C金子、2D佐藤、2E・F・G山本、第Ⅶ章１山本、２山崎、３山本

15　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

伊藤正敏　伊藤啓雄　柏崎市教育委員会　倉部繁雄　国生　尚　国土交通省長岡国道工事事務所　小林昌二
小林　卓　笹沢正史　品田高志　関矢　隆　舘野和己　鶴巻康志　三井田忠明　水澤幸一　横山勝栄

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理体制 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 2

1　地理的環境 …… 2

2　遺跡周辺の歴史的環境 …… 4

第Ⅲ章　調査の概要 …… 6

1　試掘調査 …… 6

A　調査方法 …… 6　　B　調査結果 …… 6

2　グリッドの設定 …… 8

3　層　　序 …… 8

4　調査の経過 …… 8

第Ⅳ章　遺　　構 …… 13

1　遺構の概要と記述の方法 …… 13

A　遺構の概要 …… 13　　B　記述の方法 …… 14

2　遺構各説 …… 14

A　区画溝 …… 14　　B　道状遺構 …… 15

C　掘立柱建物・柵列 …… 15　　D　方形竪穴状遺構 …… 19

E　井　　戸 …… 19　　F　土　　坑 …… 21

G　溝 …… 24

第Ⅴ章　遺　　物 …… 25

1　遺物の概要 …… 25

2　遺物各説 …… 26

A　土器・陶磁器 …… 26　　B　木製品 …… 32

C　石製品 …… 35　　D　土製品 …… 37

E　金属製品 …… 37　　F　製鉄関連遺物 …… 38

G　銭　　貨 …… 38

第Ⅵ章　自然科学分析 …… 39

下沖北遺跡から出土した木製品などの樹種 …… 39

第Ⅶ章　ま　と　め …… 45
1　遺　　構 …… 45
2　土器・陶磁器について …… 47
3　遺跡の性格 …… 50

《要　　約》 …… 51
《引 用 文 献》 …… 52
《観　察　表》 …… 53

挿図目次

第 1 図　鵜川の旧河道跡 …… 3
第 2 図　鵜川流域の中世遺跡分布図 …… 5
第 3 図　試掘調査トレンチ設定図 …… 7
第 4 図　グリッド設定図 …… 9
第 5 図　土層柱状図 …… 10
第 6 図　土師質土器皿分類図 …… 27
第 7 図　出土木材の顕微鏡写真（1） …… 43
第 8 図　出土木材の顕微鏡写真（2） …… 43
第 9 図　出土木材の顕微鏡写真（3） …… 44
第10図　出土木材の顕微鏡写真（4） …… 44
第11図　遺構模式図 …… 45
第12図　土師質土器皿の変遷 …… 49

表　目　次

第 1 表　作業工程表 …… 12
第 2 表　土師質土器皿の分類表 …… 26

図版目次

［図面図版］

図版　1　遺構全体図
図版　2　遺構分割図（1）
図版　3　遺構個別図（1）
図版　4　遺構個別図（2）
図版　5　遺構分割図（2）
図版　6　遺構個別図（3）
図版　7　遺構個別図（4）
図版　8　遺構個別図（5）
図版　9　遺構分割図（3）
図版 10　遺構個別図（6）
図版 11　遺構個別図（7）
図版 12　遺構分割図（4）
図版 13　遺構個別図（8）
図版 14　遺構分割図（5）
図版 15　遺構個別図（9）
図版 16　遺構分割図（6）
図版 17　遺構個別図（10）
図版 18　遺構分割図（7）
図版 19　遺構個別図（11）
図版 20　遺構分割図（8）
図版 21　遺構個別図（12）
図版 22　出土土器（1）
図版 23　出土土器（2）
図版 24　出土土器（3）
図版 25　出土土器（4）
図版 26　出土土器（5）
図版 27　出土土器（6）・銭貨
図版 28　木製品（1）
図版 29　木製品（2）
図版 30　木製品（3）
図版 31　木製品（4）
図版 32　石製品（1）
図版 33　石製品（2）
図版 34　石製品（3）・土製品
図版 35　金属製品他

［写真図版］

図版36　遺跡周辺空中写真（昭和22年）
図版37　調査区近景（南から　左奥に番神堂）調査区近景（東から　左奥に米山）
図版38　調査区完掘状況
図版39　遺構集中区完掘状況（西側部）
図版40　2G・2J区（北から)2F・2J区（南西から）SK86完掘（東から）SK86土層断面（東から）SE8遺物出土状況（東から）SE9最深部遺物出土状況（東から）SE101土層断面（東から）SE101完掘（東から）
図版41　SK81土層断面（東から）SK81完掘（北から）SB255完掘（東から）SK235土層断面（東から）SK42土層断面（東から）SK42遺物出土状況（東から）SK33土層断面（南から）P2H14遺物出土状況（東から）
図版42　2M・2N・3M・3N区（北西から）2I・2J区（南から）SK80遺物出土状況（南から）SK80土層断面（南から）SE407最深部遺物出土状況（南から）SE407土層断面（南から）SK79土層断面（南から）SK71土層断面（南から）
図版43　2～4・I～K区　4I・5I・5J区（北から）SK89土層断面（南から）SK89完掘（北東から）SK89土層断面（東から）SK93土層断面（東から）SK94土層断面（東から）SK401土層断面（東から）
図版44　4I・4J・5I・5J区　5I・5J・5K区（南から）SD301A-A'土層断面（南から）SD301B-B'土層断面（南から）SE139土層断面（南から）SK438土層断面（東から）SK124完掘（東から）SE125完掘（東から）
図版45　2N・2M区（南から）2N・3M区（南から）SD145A-A'土層断面（東から）SD145B-B'土層断面（西から）SE180土層断面（南から）SK187土層断面（西から）SK130遺物出土状況（南から）SE129最深部遺物出土状況（東から）
図版46　SB275P2（SK171）（南から）SB275P5（SK149）土層断面（東から）SK182土層断面（南から）SK135土層断面（南から）SK225完掘　SK204完掘（西から）SK209完掘（東から）SK239完掘（東から）
図版47　3N・4M区（南から）SD145C-C'土層断面（西から）SD301土層断面（南から）SK228土層断面（南から）　SK331完掘（南から）SK331土層断面（南から）SK222土層断面（北から）SK227土層断面（北東から）
図版48　2L・3L区（北から）2M・3M区（東から）2O・2P区（北から）SK234土層断面（東から）SE140土層断面（東から）SE111土層断面上層（北から）SE111土層断面上層（北から）SE407完掘（東から）
図版49　2J・3K区　3I・3J・4I・4J区（北から）4K・4L区（北から）SK445完掘（南西から）SK445土層断面（南から）SK445土層断面（南から）SE435遺物出土状況上層（北から）SE435遺物出土状況最下層（北から）
図版50　3L・3K・4L・4K区（東から）2～3I区（東から）4M・4N区（北西から）SE236土層断面（南から）SE236完掘（南から）SE144土層断面（東から）SE144完掘（東から）SK440土層断面（南から）
図版51　SE111遺物出土状況（東から）SK207遺物出土状況（東から）SE205遺物出土状況（東から）SE205土層断面（東から）SK94土層断面（東から）SK93完掘状況（西から）SK401土層断面（東から）SE190土層断面（南から）
図版52　10I～12M区（東から）10I～12M区（南から）10I～11J区（北から）11I・11J区（北から）10J・11J区（北から）10N・11N区（南から）SK371土層断面（南から）SK222土層断面（北から）
図版53　B・C区　C区　SK436土層断面（東から）SK206土層断面（東から）B・C区（西から）B・C区（東から）9I・9J区（北西から）9I・9J区（東から）
図版54　出土遺物（土器・陶磁器）
図版55　出土遺物（土器・陶磁器）
図版56　出土遺物（土器・陶磁器）
図版57　出土遺物（土器・陶磁器・木製品）
図版58　出土遺物（木製品）
図版59　遺物（木製品）
図版60　遺物（木製品・石製品）
図版61　遺物（石製品・金属製品）

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

一般国道８号柏崎バイパスは、柏崎市大字長崎字本郷～大字鯨波間延長11kmで計画され、現在一般国道252号と353号間が供用している。この供用区間については平成８年度から12年度にかけて箕輪遺跡が、平成10、11年度に小峯遺跡がそれぞれ発掘調査されている。

平成12年度に入って、国道353から西側鵜川の左岸までについて、建設省長岡国道工事事務所から県教育委員会に分布調査の依頼があった。これを受けて、県埋蔵文化財調査事業団では平成12年12月19日に分布調査を実施した。調査の結果、鵜川の東側で古代から中世の土器、陶磁器が採集された。また、西側では、市教育委員会が既に確認調査を実施している剣野Ｂ遺跡をはじめとして、剣野沢遺跡、香積寺沢遺跡が周知遺跡として存在している。このことから、香積寺沢遺跡までの間については、全面試掘調査が必要な旨を、国土交通省に通知した。

平成13年8、9月には、国道353号～鵜川右岸までの間の試掘調査を実施した。一部用地の関係から実施できなかった部分もあったが、調査の結果、多くのトレンチから遺物が出土し、溝、ピットなどの遺構が確認されたトレンチもあった。遺物の年代は古代～近世までである。この結果、一部を除いてほぼ全面について、本調査が必要な旨回答した。面積は20,000m^{2}以上に及んだ。なお、新遺跡としての遺跡名は、小字が「下沖」であったが、既に市内に近接して「下沖遺跡」が存在したため、市教育委員会と協議の結果「下沖北遺跡」とした。国土交通省からは、平成14年度の調査要望があり、これを受けて6,500m^{2}の調査を実施することとした。

2　調査と整理体制

調査は、試掘調査を平成13年度に、本発掘調査・整理作業を平成14年度に実施した。なお、整理作業については、遺物の水洗・注記・接合復元・実測の一部を、10月末まで現場で発掘調査と並行して行い、図版作成、原稿執筆などは、11月以降、埋蔵文化財センターで行った。

調査内容	試　掘　調　査	本発掘調査・整理作業
調査年度	平成13年8月～9月の13日間	平成14年4月～平成15年3月
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　板屋越麟一）	同左
調　査	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団	同左
総　括	須田益輝（事務局長）	黒井幸一（事務局長）
管　理	長谷川司郎（総務課長）	同左
庶　務	椎谷久雄（総務課主任）	高野正司（総務課主任）
調査総括	岡本郁栄（調査課長）	同左
調査指導	高橋保（調査課課長代理）	同左
調査担当	沢田敦（文化行政課主任）	山本肇（調査課班長）
調査職員	後藤孝（調査課主任調査員） 渡辺弘（同上） 田中一穂（同　嘱託）	加藤義孝（調査課主任調査員） 佐藤弘一（同上） 金子正宏（同上）

第Ⅱ章　遺跡の環境

1　地理的環境

下沖北遺跡は、柏崎平野南部の丘陵の縁に沿った沖積地に立地し、柏崎平野の西側を北流する鵜川の河口より約3kmほど上流の右岸に位置する。

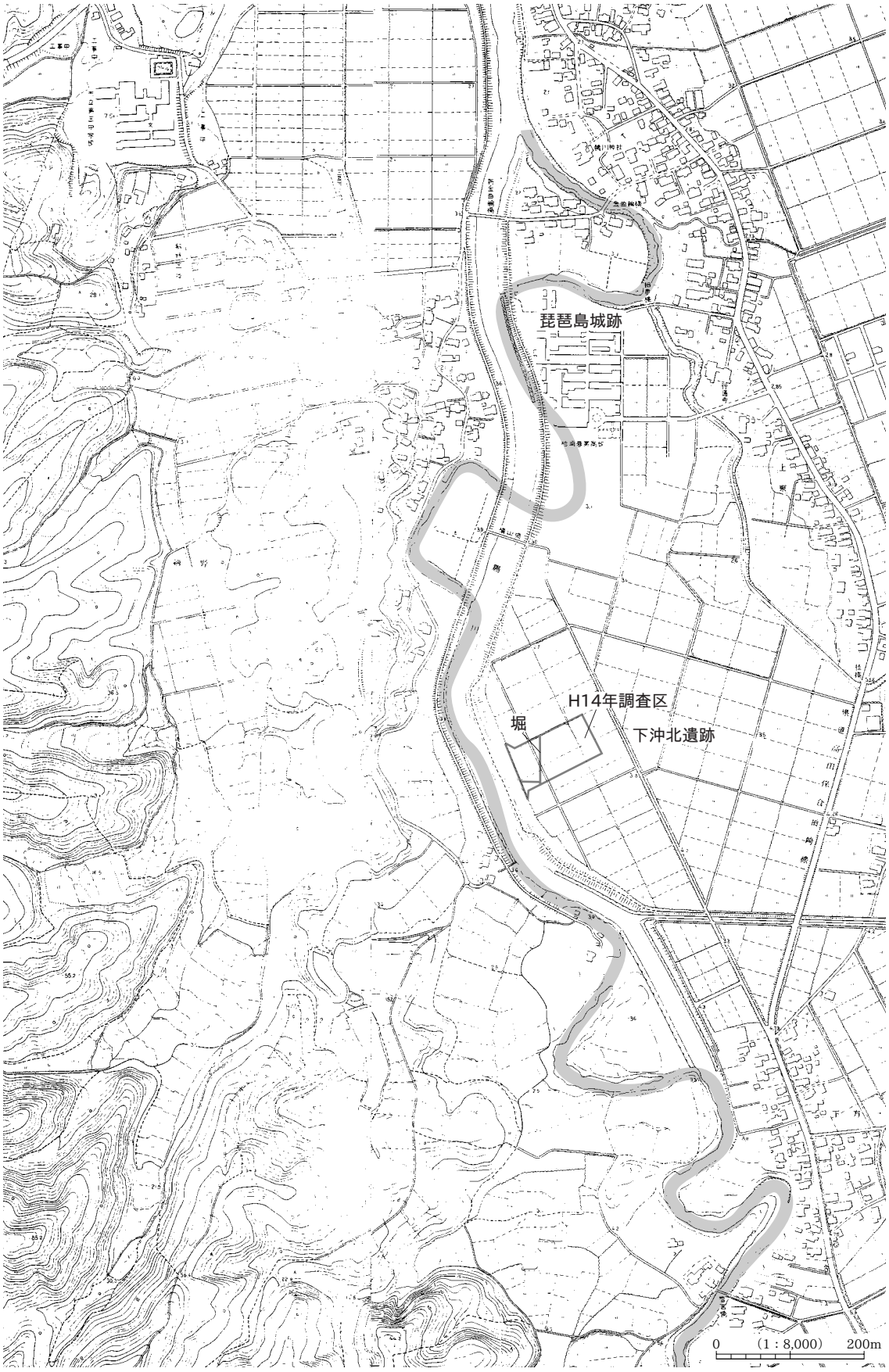
柏崎平野は、新潟県の南西部に位置する幅約7km、長さ約18kmの南南西から北北東方向に延びる小規模な臨海沖積平野である。主要河川である鵜川や鯖石川は、顕著な扇状地を形成せず、平野内を蛇行して流れている。平野部は、刈羽三山と称される米山・黒姫山・八石山を頂点とする山地や丘陵（東頸城丘陵）によって囲まれ、北西部を日本海に開口する。沿岸部は荒浜砂丘が形成され、その後背地をなす沖積地は特に湿地性の低地となっている。砂丘形成の激しい時期には河口部が閉ざされると湛水し、「鏡ヶ沖」などと称される湖沼と化した。丘陵縁辺は、中・高位段丘が分布している。地層の大部分は、軟弱な粘性土層を主体とする沖積層から構成され、新第三紀層の上位に直接堆積している。

鵜川は、その源を尾神岳に発し、阿相島川・折居川を合わせ、清水谷を経て野田地内で田屋川、更に芋井川・軽井川とを合わせてから柏崎市街地を貫流し、日本海へと注ぐ。流域面積112.4km^2、全長24.6kmの２級河川である。かつては複雑な蛇行が見られ、大雨の度に氾濫し、水害の歴史を繰り返してきた。

河口からおおむね3kmほどの範囲を占める鵜川下流域は、東岸域と西岸域とでは対照的な環境にある。東岸は、中位段丘が浸食され島状に沖積地内に浮かぶ地区もあるが、大半は標高が２～4mと低く、湿地性の強い水田地帯となっている。激特（激甚災害対策特別緊急整備事業）以後宅地化も進んでいる。また鵜川沿いには、自然堤防が形成されるが、丘陵や台地の縁辺とともに集落立地の適地を提供している。西岸は、米山山塊、前川などの幾つかの小河川によって分断されるが、奥の深い丘陵が広がる。

第１図は、現在の鵜川の流路と明治期の鵜川の蛇行の様子を示したものである。当遺跡付近における鵜川は、昭和期に行われた河川改修により川幅も広くほぼ直線状に緩やかに流れているが、以前は複雑な蛇行が認められる。流路は、当遺跡を中心に西方向（丘陵側）に緩やかに湾曲しており、北側約500mほどの地点では北西－南東方向に大きな蛇行が認められる。ここには、市指定史跡越後宇佐美氏の居城である琵琶嶋城跡（現柏崎総合高校）がある。西側の鵜川本流と東側から北側へ回り込んで合流する支流の横山川を堀とした合流点に築城された平城である。本丸、二の丸、三の丸の区分けに鵜川の蛇行部が利用されている。当遺跡の西側部分で蛇行の振幅は小さくなるものの、南東方向の上流部分では南西－北東方向に不規則な蛇行が再び繰り返されている。これらの蛇行は、更に中流域に広がっている。

今回の調査から、溝によって方形に区画された遺構群は、調査区の西側及び北側に更に広がっていたことが推察され、鵜川の氾濫や昭和期の河川改修などにより遺跡の一部が削平されたものと考えられる。当時、もし鵜川がより西側を蛇行していたとすれば、遺跡は川に隣接する形で存在したといえる。一方、東側に大きく流路をとっていたとすれば、今回の調査範囲より東側を流れていたといえる。大雨の度に氾濫を繰り返してきた鵜川は、その度に流路が変わり、姿を変えてきたことが十分考えられる。いずれにしても現段階では、当遺跡付近での鵜川の流路の変遷についての詳細は、今後の調査に期待するところが大きく不明である。



第１図　鵜川の旧河道跡

（明治42年の地形図を参考に昭和39年柏崎市都市計画図面に加筆）

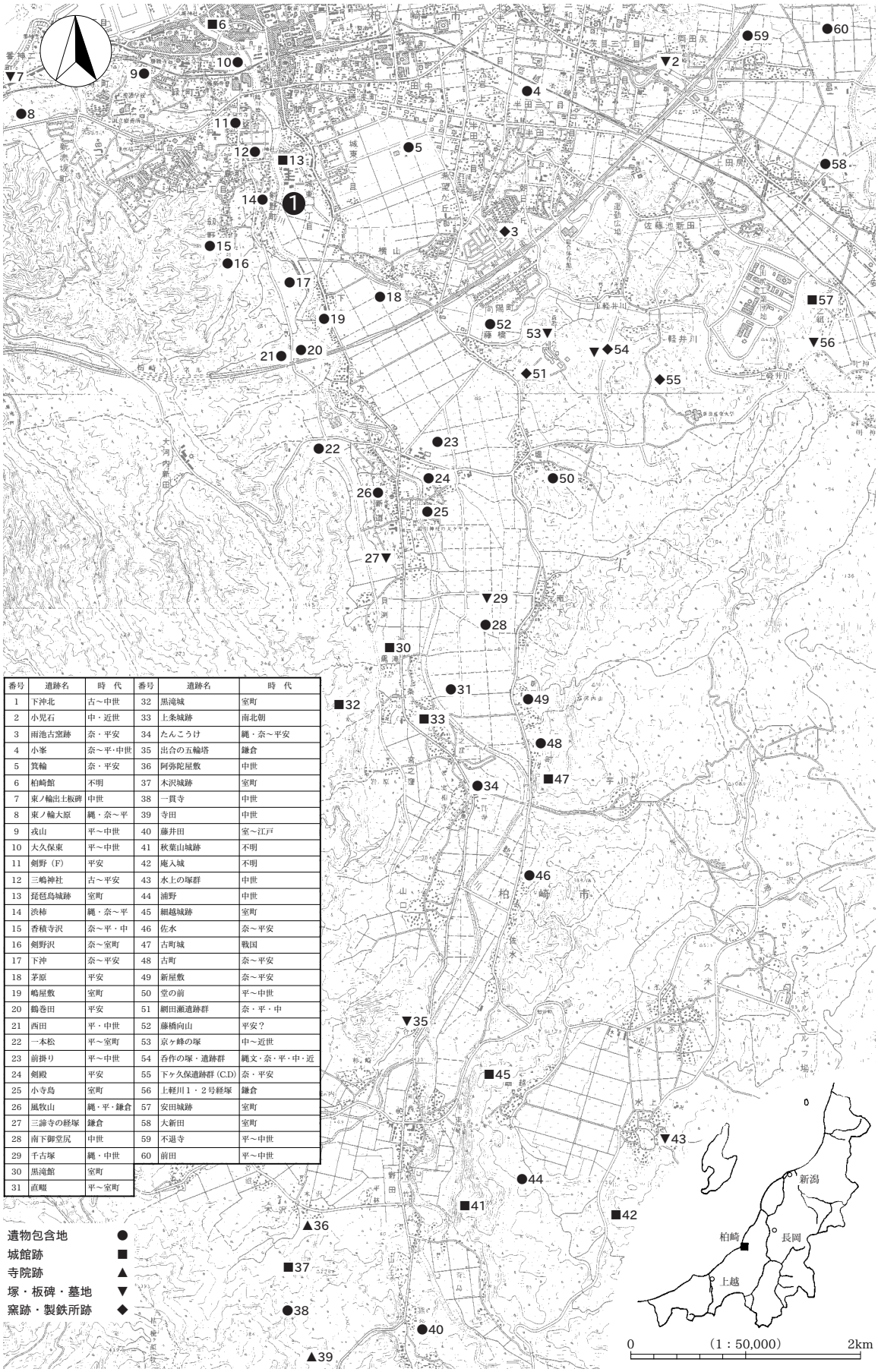
2　遺跡周辺の歴史的環境－鵜川流域の中世遺跡

『吾妻鏡』文治２年（1186年）３月12日条の「三箇国庄々未進注文」には、柏崎平野に比定される荘園として「宇河荘」・「佐橋荘」・「比角荘」の三荘園が記されている。「宇河荘」の「宇河」とは「鵜川」とされていることから、「宇河荘」（以下鵜川荘）は鵜川の流域筋が主な荘域であったと考えられる。［柏崎市史、品田1997a］さらに、鵜川荘の荘内は「安田条」、「上条」、「下条」など、少なくとも３条に分かれていたと想定できる［品田1996a］。しかし、荘内の境界域は不明瞭であり、下沖北遺跡がどの条内に位置していたかを断定することは難しい。

鵜川流域にある中世の遺跡（第２図）を概観すると、上流域には中世の遺跡は少なく（略地図では省略）、兜巾山ふもとに宮原遺跡、高原田遺跡、尾神岳ふもとに宮ノ下遺跡などがある。中流域では、遺跡が多く確認されており、ほとんどが自然堤防上、沢内、丘陵沿いなどの沖積地に集中している。集落跡（館跡も含む）が約７割を占めると推定［品田1997a］され、一貫寺遺跡（38）、直畷遺跡（31）、前掛り遺跡（23）、小寺島遺跡（25）、西田（21）・鶴巻田遺跡群（20）、嶋屋敷（19）、堂の前（50）、香積寺沢遺跡（15）、剣野沢遺跡（16）などがある［柏崎市資料集考古編１ 柏崎市教委1990］。このうち、中世前期の遺跡と推定されるのが西田・鶴巻田遺跡［県教委1988］であり、珠洲焼、青磁及び土師質土器、鉄滓、銭貨などが検出されている。遺構は、鶴巻田遺跡から、素掘りの井戸が検出されている。また、当遺跡から約200メートル上流には、下沖遺跡（17）があり、土師器、須恵器、珠洲焼などが出土している［県埋蔵文化財包蔵地カード柏崎市No.357］。しかし、集落遺跡は未調査遺跡が多く、さらに古代と中世の遺物が採集される例が多いため両者の明確な区分が難しいのが現状である［品田1997a］。集落以外の遺跡としては、鵜川東側丘陵部に網田瀬遺跡群（51）、京ケ峰の塚（53）、呑作の遺跡群（54）、下ケ久保遺跡群（55）など奈良・平安時代の鉄生産関係施設や中世の屋敷跡と推定される建物跡や井戸、墓地、窯跡が調査されている［品田1995・1997a］。

城館については、中流には15世紀前半の上条上杉氏の上条城（33）が存在し、佐橋荘一帯から鵜川荘の一部に勢力を延ばす毛利安田氏に対しての要害となっている［中世越後の歴史 花ヶ前盛明1986］。さらに、下流域には越後守護上杉氏の被官であった宇佐美氏の居城である琵琶島城（13）がある。宇佐美氏は、守護上杉憲顕に従い入国（憲顕越後入国、暦応４年1341）し、文和４年（1355年）には顕法寺（吉川町）で旗上げしている［柏崎市史上 日本城郭体系７］。したがって、琵琶島城は、14世紀中頃以降に宇佐美氏の居城となったと推測される。城は鵜川の蛇行部分の自然堤防上に構築された平城で、鵜川と本陣川（横山川）を堀としている。平成14年の琵琶島城跡発掘調査で三の丸跡の発掘調査が行われ、城の存在した期間が150年から200年に及ぶ可能性があるとの見解がだされている［柏崎市教委2002］。したがって、鵜川周辺の地域一帯は14世紀中頃から16世紀かけて３氏の勢力により分割され、戦国時代を迎えたことになる［品田1990］。

下流域の遺跡は、主に鵜川西側の丘陵地沿いに分布している。東側の氾濫原性低地域にある遺跡は、箕輪遺跡（5）、小峯遺跡（4）と下沖北遺跡（1）である。箕輪遺跡は奈良から平安時代が中心で、「和名抄」に記されている「三島郡」の「三島郷」の有力な候補地であるが、中世の遺物も出土している。小峯遺跡も平安時代の遺物が中心だが、やはり中世の遺物も出土している。［県埋蔵文化財調査事業団年報H8、H11県教委2002］。



番号	遺跡名	時　代	番号	遺跡名	時　代
1	下沖北	古～中世	32	黒滝城	室町
2	小児石	中・近世	33	上条城跡	南北朝
3	雨池古窯跡	奈・平安	34	たんこうけ	縄・奈～平安
4	小峯	奈～平・中世	35	出合の五輪塔	鎌倉
5	箕輪	奈・平安	36	阿弥陀屋敷	中世
6	柏崎館	不明	37	木沢城跡	室町
7	東ノ輪出土板碑	中世	38	一貫寺	中世
8	東ノ輪大原	縄・奈～平	39	寺田	中世
9	戎山	平～中世	40	藤井田	室～江戸
10	大久保東	平～中世	41	秋葉山城跡	不明
11	剣野（F）	平安	42	庵入城	不明
12	三嶋神社	古～平安	43	水上の塚群	中世
13	琵琶島城跡	室町	44	浦野	中世
14	淡柿	縄・奈～平	45	細越城跡	室町
15	香積寺沢	奈～平・中	46	佐水	奈～平安
16	剣野沢	奈～室町	47	古町城	戦国
17	下沖	奈～平安	48	古町	奈～平安
18	茅原	平安	49	新屋敷	奈～平安
19	嶋屋敷	室町	50	堂の前	平～中世
20	鶴巻田	平安	51	網田瀬遺跡群	奈・平・中
21	西田	平・中世	52	藤橋向山	平安？
22	一本松	平～室町	53	京ヶ峰の塚	中～近世
23	前掛り	平～中世	54	呑作の塚・遺跡群	縄文・奈・平・中・近
24	剣殿	平安	55	下ヶ久保遺跡群（C.D）	奈・平安
25	小寺島	室町	56	上軽川１・２号経塚	鎌倉
26	風牧山	縄・平・鎌倉	57	安田城跡	室町
27	三諦寺の経塚	鎌倉	58	大新田	室町
28	南下御堂尻	中世	59	不退寺	平～中世
29	千古塚	縄・中世	60	前田	平～中世
30	黒滝館	室町			
31	直瞬	平～室町			

第２図　鵜川流域の中世遺跡分布図

（国土地理院地形図　柏崎平成10年発行、１：25,000を改変）

第Ⅲ章　調査の概要

1　試 掘 調 査

試掘調査は、平成13年8月21～24日、27日～30日、9月3日～7日の13日間及び平成14年10月3、4日に、県教育委員会が主体となり、埋文事業団が実施した。対象面積は約25,000m^{2}で、60本のトレンチを設け、調査を行った。

A　調 査 方 法

対象地の現況はほとんどが水田であった。調査は、対象地の西側（鵜川側）から、任意の位置にトレンチを設定して行った。作業は、基本的にバックフォーにより、薄く剥ぎながら、遺物の出土、土層の変化に注意し、順次下げ、重機の掘削のたびに遺物の有無を確認した。遺物は層位毎に取り上げ、遺構は検出位置を略測した。

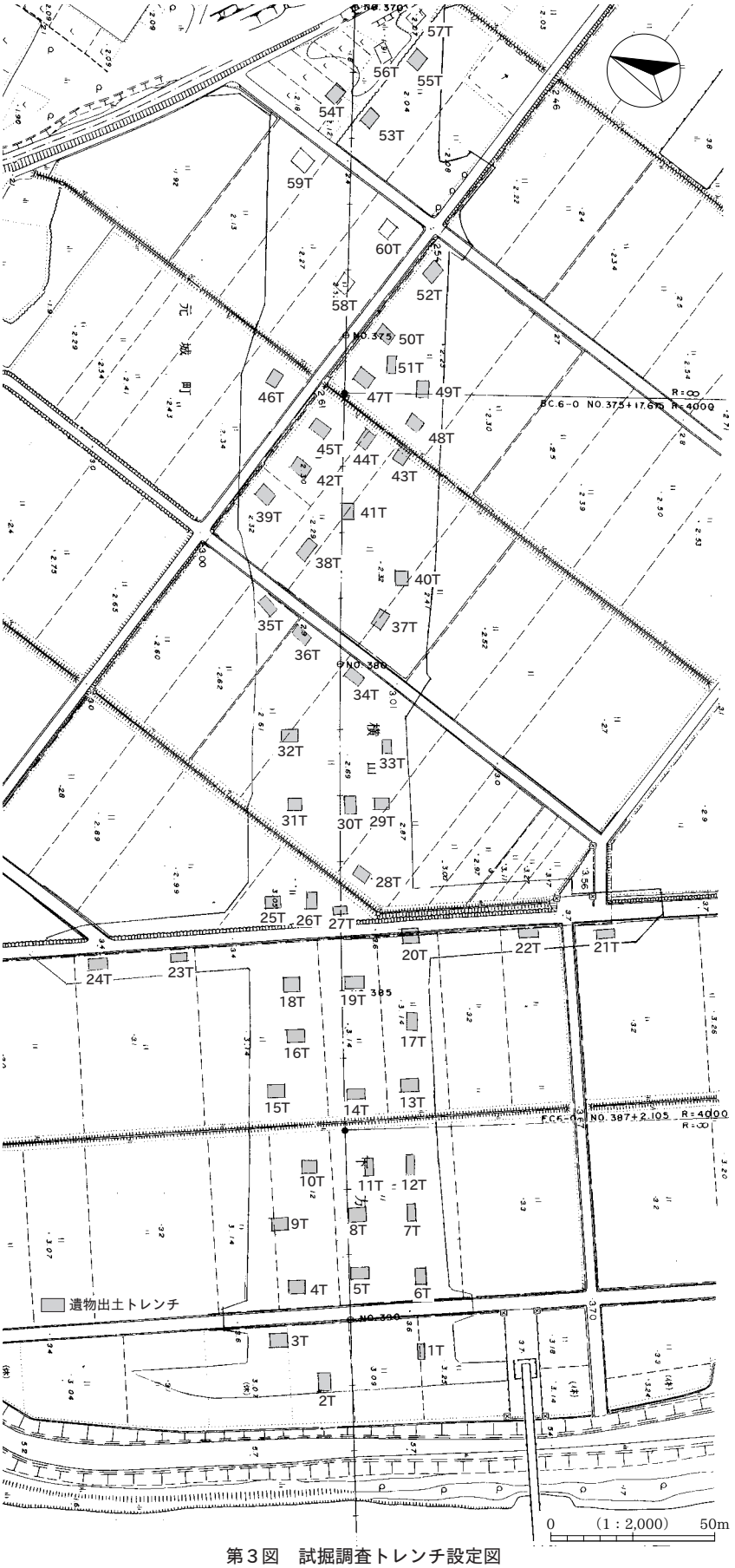
B　調 査 結 果

今回の調査では、ほとんどのトレンチで遺物が検出され、また10か所で遺構が確認された。1～27Tまでは標高約3mで、調査区では一番高い地点である。ここからは、全てのトレンチで数十点の遺物の出土があった。中には100点を超える所もあった。特に1T～20Tまで及び26Tで遺物の出土が目立った。出土はⅠ層からⅣ層まで認められるが、Ⅰ及びⅡ層は表土及び床土にあたるため、Ⅲ、Ⅳ層がいわゆる包含層である。深さは、30～60cmくらいである。遺物の年代は一部近世以降の土器も認められるが、ほとんどが古代から中世のものであった。しかし、層位で時期を分離することは困難であった。遺構は1Tで大きな溝、2T、3Tでピット、4Tで土坑及びピットなど多く確認された。

28T～52Tまでの範囲は、標高が2.8から2.1mと東に向って緩やかに傾斜している。ここでも基本層序は27Tまでと同じであるが、よりグライ化が進んでいる。ここでも全てのトレンチで数十点の遺物の出土が認められたが、27Tまでに比べるとその量は少ない。出土遺物の年代は、古代、中世を中心として、近世まで認められる。出土層位は同じくⅠ～Ⅳ層であるが、Ⅲ、Ⅳ層が包含層で、深さは50～60cmである。この中で49T、50T、52Tでは、1個体の土器がつぶれたような状態で出土した。出土層位は、前述のⅢ、Ⅳ層下のⅤ層であった。遺構は確認できなかったが、Ⅲ、Ⅳ層の土器に比べて古く、古墳時代か古代と考えられ、この周辺では、2層の調査が必要と判断された。ここの区間では、遺構はあまり明確でない。

53T～60T付近は、標高が2.1～1.9mと最も低く、横山川に近い位置になる。土層もグライ化が進み、灰色から青灰色粘土が主体となる。54Tでは、比較的多くの遺物が出土しているものの、総体的に少なく、遺構も確認されなかった。56T～60Tでは、遺構、遺物の出土は全く認められなかった。56T、57Tでは、Ⅱ層が横山川に向って落ち込む様子をうかがうことができた。

このような結果から、52Tまでを本調査必要範囲とし、53T以下は、調査の必要はないと判断された。なお、52Tまでの面積は約20,000m^{2}である。



第３図　試掘調査トレンチ設定図

2　グリッドの設定

グリッドの設定（第４図）は、道路建設予定地内のセンター杭２点を基準に行った。まず、遺跡の一番西側鵜川の土手にあるセンター杭No.392（X:149302.480、Y:4881.111）を起点とし、遺跡の東側のセンター杭No.370（X:149466.303、Y:5289.331）を結んだラインを基線Ｘ軸とした。また、この線とセンター杭No.392で直交するラインをＹ軸とし、10ｍのメッシュを大グリッドとした。グリッド名は、Ｘ軸にアルファベットＡ～、Ｙ軸に数字１～とし、遺跡全体をカバーできるようにした。なお、Ｘ軸は真北に対して68度７分38秒東偏している。大グリッドは、図のように2m毎の小グリッドに分割した。

3　層　　序

基本土層は調査区の中央（9N区）の土層を参考とする。試掘調査の結果と大きな変化はない。地山まで５層が存在する。また地山はⅥ層以下である。遺構が集中し、地形の高い部分（標高２メートル以上の地区）ではやや黄褐色を帯びる色調となる。以下、各層について説明を加える。

基本層序

０層；盛土

Ⅰ層；灰褐色土（現水田耕作土）　粘性が強く、酸化鉄の粒子を含む。

Ⅱ層；灰色粘質土（水田耕作土床土）　色調はⅠ層よりやや明るく下部で酸化鉄が著しく認められる。

Ⅲ層；暗褐色粘質土（遺物包含層）　炭化物粒を少量含む。

Ⅳ層；明褐色粘質土（遺物包含層）

Ⅴ層；暗褐色もしくは暗灰色粘質土（遺物包含層）

Ⅵａ層；青灰色土はⅤ層と同様であるが、水の影響により色調が変化したものと考えられる。

Ⅵｂ層；茶褐色土の粒子が顆粒状に混入する。

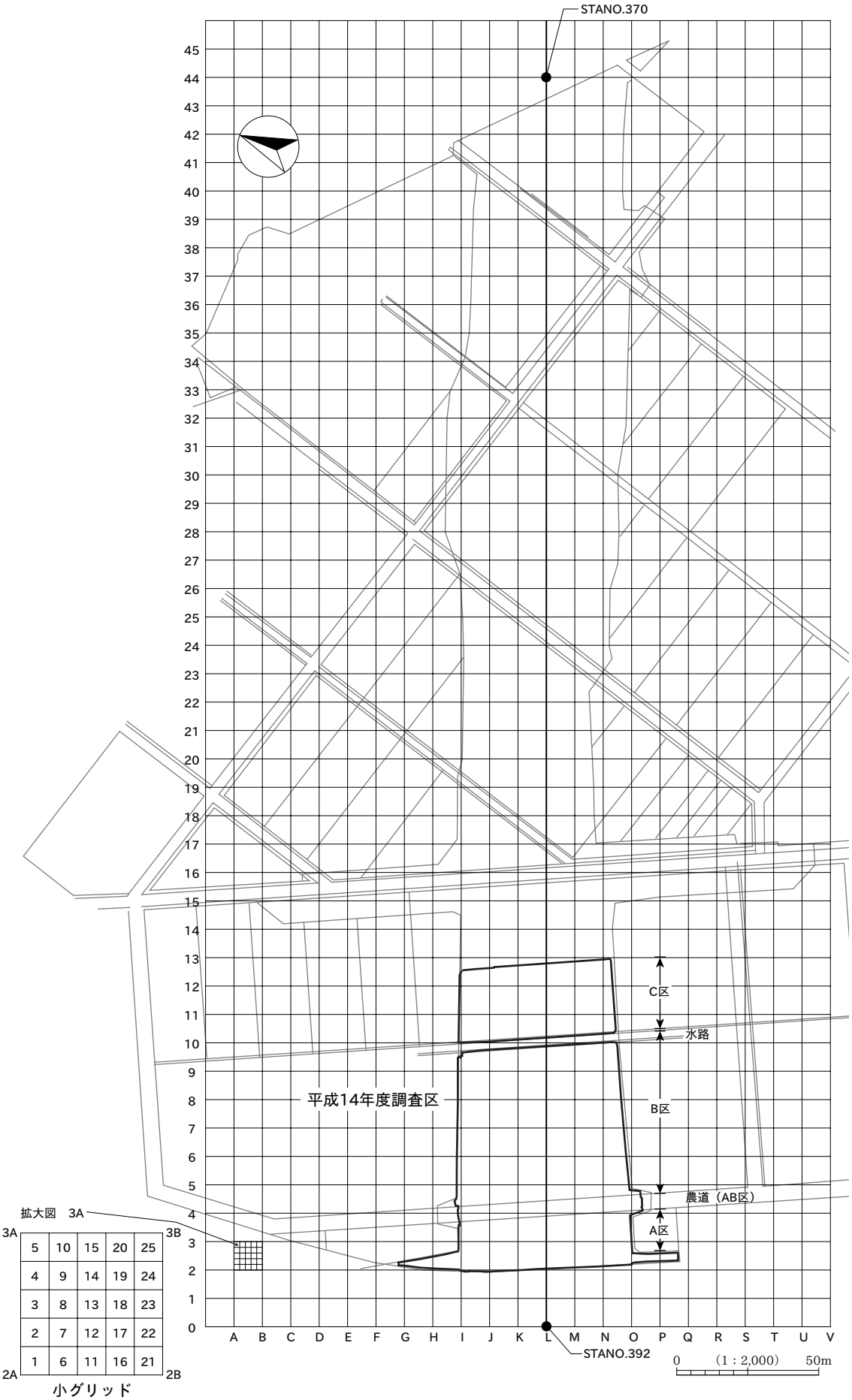
Ⅶ層；明青灰色粘質土　西側は明茶褐色粘質土。

地形との関係　遺跡全体の土層について西側と東側では多少の相違が認められる。西側（2～4ライン）と東側（12～13ライン）の標高は中央部に比較して高く、標高2.8mくらいである。一方調査区中央（6～9ライン）は南側にゆるく傾斜する地形で、中央がくぼ地となり、最深部は標高1.7mと低い。遺構が密集する西側部分の遺物包含層は、多くが撹乱を受け層序に乱れがある。つまり耕作土下はすぐに地山のⅥ層となる。

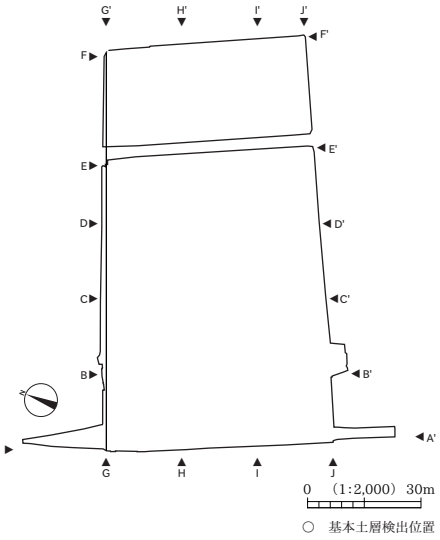
なお６区から東側は、層位的に確認されたため、一層ずつ掘り下げて、遺物、遺構を確認した。なお低地部分のⅥ層は、灰色もしくは明青灰色を呈するが、遺構の確認された西側と東側については酸化により、黄褐色を呈する傾向がある。

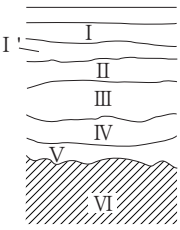
4　調査の経過

試掘調査の結果を受けて、今年度の調査は４月８日から開始した。現地での作業は10月末まで行われた。当面調査区が沖積地であることから、暗渠排水溝を設置したのち、西側からＡ区、Ｂ区、Ｃ区の順で調


STANO.370
STANO.392
C区
水路
平成14年度調査区
B区
農道（AB区）
A区
0　（1：2,000）　50m
拡大図　3A
3A
3B
2A
2B
5 10 15 20 25
4 9 14 19 24
3 8 13 18 23
2 7 12 17 22
1 6 11 16 21
小グリッド

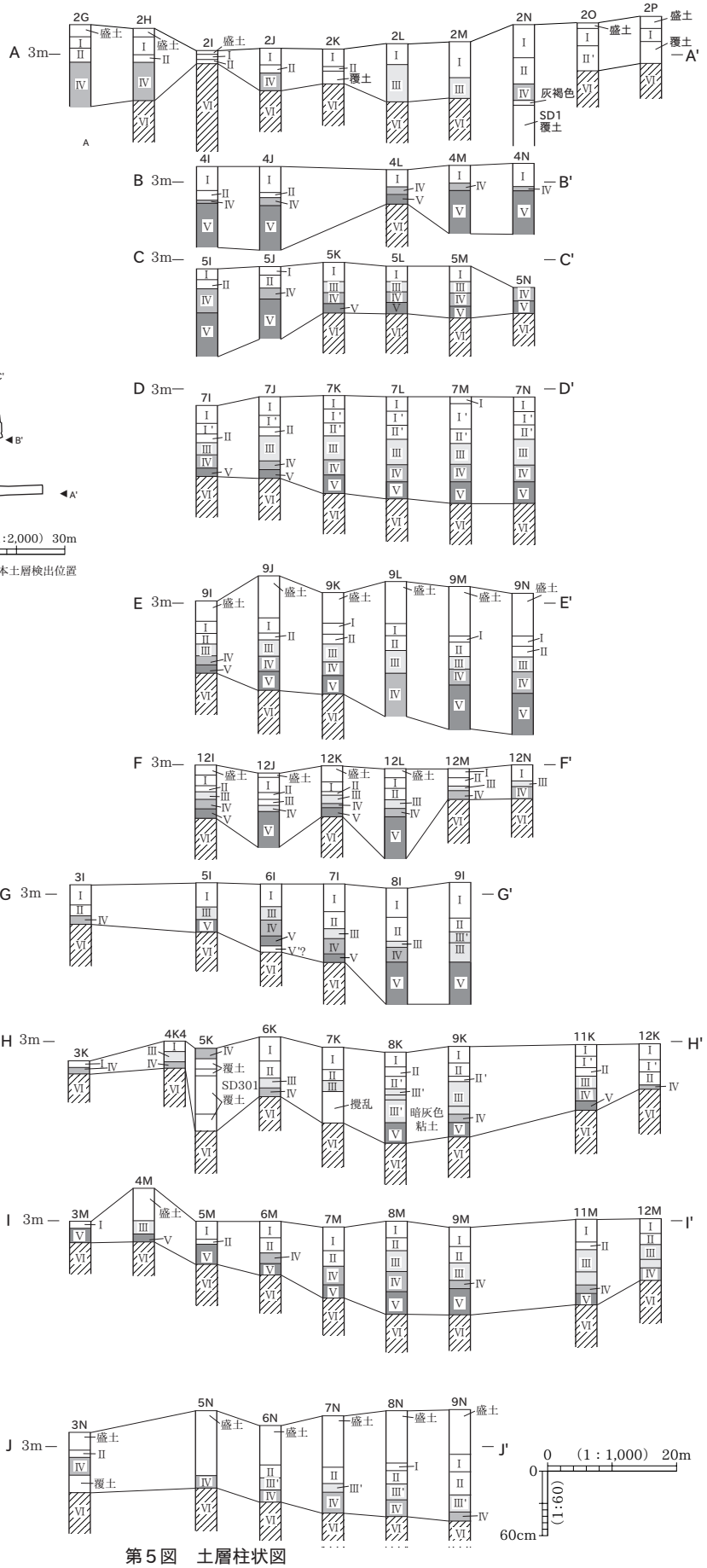
第４図　グリッド設定図





基本土層層序

0層　盛土
Ⅰ層　灰褐色土（現水田耕作土）粘性が強く、酸化鉄の粒子を含む。
Ⅱ層　灰色粘質土（水田耕作土床土）色調はⅠ層よりやや明るく下部で酸化鉄が著しく認められる。
Ⅲ層　暗褐色粘質土（遺物包含層）炭化物粒を少量含む。
Ⅳ層　明褐色粘質土（遺物包含層）
Ⅴ層　暗褐色もしくは、暗灰色粘質土（遺物包含層）
Ⅵa層　青灰色土層
Ⅵb層　茶褐色土層
Ⅶ層　明青灰色粘質土、西側は明茶褐色粘質土。



第5図　土層柱状図

査を進めることとした。なおＡ区とＢ区の間の農道部分については、Ａ区の調査結果を踏まえてその取り扱い（調査必要の有無、農道の切り回し工事などについて）を検討することとした。

暗渠排水の設置　　暗渠排水は、確認調査の結果地表面下約1mに遺物包含層が存在するため、深度2mまで幅50cmの溝を切り、その中にドレン管を敷設し、その後約1mを埋め戻した。Ａ区は南北西にコの字に排水溝を掘削し、北東、南東に桝を設定し、24時間排水とした。またＢ区・Ｃ区も同様にコの字状に設置し、各ポイントに桝を設定した。なお調査を進める中で、各大グリッドラインに沿って浅い素掘りの排水溝を設定し、調査区内での排水を行った。

各調査区の概要

Ａ　区　　暗渠設置後最初に調査した地区である。すでに遺物包含層はなく、表土除去後遺構精査に入った。遺構集中区で、掘立柱建物、井戸、土坑等多くの遺構が検出された。井戸の深堀を除いて６月初旬で終了した。

Ｂ　区　　６月12日から調査に入った。南西側から調査に入った。南北に延びる溝が確認され、この溝を境として、遺構密度に極端な違いがあり、この溝（SD301）が区画溝の性格を持つものと判断された。９ライン南側は最も標高が低くなる地点である。当初人力で掘り下げたが、土層も厚いことから、再度重機で掘り下げた。遺構はほとんどなく、倒木等が確認された。

ＡＢ　区　　農道部分である。当初Ａ区終了後、Ａ区側に農道を切り回し、調査を行う予定であったが、Ａ区が遺構密集区であり、農道下も遺構が多く予想され、Ａ区を切り回し道路で埋めてしまうと調査に支障をきたすことになるため、地元農業委員会と協議し、調査終了まで通行止めさせて頂くこととした。調査は８月から入った。区画溝や方形竪穴状遺構、井戸等が確認された。農道は調査終了後に、現状復旧した。

Ｃ　区　　今年度調査区の最も東側に位置する。８月から表土剥ぎなどの作業に入った。遺構遺物は少なく、約１か月で調査は終了した。

現地説明会の実施　　調査が一応終了した段階で、調査の成果を市民に公表するということで、現地説明会を実施した。９月29日（日曜日）の午前10時、午後１時からの二回実施した。時折雨の降る日であったが、総数260名の参加を得て、午後３時に終了した。なお当日柏崎市で調査した「琵琶島城跡現地説明会」も同時に開催された。

遺構平面図の作成委託　　今回平面実測については、地元の測量業者に委託した。開始時期は６月末日のＡ区の遺構完掘後とした。事前に遺構の形態別に実測図の表現方法を打ち合わせ、現地測量に入った。翌日には素図を提出してもらい、それらの図の校正、遺構名、土層断面作成ポイントなどのチェックを行い、調査工程に合わせ順次作業を進めた。その結果、10月にはほぼ測量を終了することができた。

遺物整理　　今年度から年度内報告書刊行ということとなり、調査現場ではこれまで、注記までの作業であったが、遺物の分類、接合、統計、実測という作業も行うこととした。

６月から遺物水洗と注記を開始したが、遺物の量が思ったより多く、注記に手間取った。また井戸や土坑などの1mを超えて深いものが多く、10月に入り、遺跡全体の遺構平面測量、写真撮影終了後に、これら深度の深い遺構については、バックフォーによる半截と底面の確認を行った。遺構数は25で、６日間を費やした。その段階で井戸底面最深部の黒色土に植物遺体などが確認された。これらについては覆土断面確認後、最深部の土層を取り上げ、水洗によるフローテーションを行い、乾燥後植物遺体の分類を行った。この作業では植物遺体のほか、昆虫の羽などを確認した。今回は植物の種子の同定は行うことがで

きなかった。

遺物実測の委託　　現地での遺物整理の結果、遺物の数量が土器のみで箱数50箱を超えたため、土器類の実測・トレースついては多くを外部に委託した。個体数は200個体とした。なお木製品、石製品、土製品、金属製品は職員と現地の作業員とで行った。

報告書作製　　報告書の作成は、11月から埋蔵文化財センターで行った。全体の作業行程は以下のとおりである。

月日	3月		4月			5月				6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
項目	21-30		1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30		1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30	1-10	11-20	21-30
事前準備	←		→																																			
A区				←						→																													
AB区																←		→																					
B区								←													→																	
C区																←					→																	
遺物整理〔現地〕									←															→														
遺物整理〔室内作業〕																									←				→									
空撮									◎										◎		◎																	
現地説明会																					◎																	
報告会																																				◎		
埋め戻し																							←			→												
農道復旧																									←							→						

第１表　作業工程表

第Ⅳ章　遺　　構

1　遺構の概要と記述の方法

平成14年度下沖北遺跡では、掘立柱建物29棟、土坑129基、井戸25基、方形竪穴状遺構8基、柵列3基、区画溝3条、溝30条、性格不明遺構38基、ピットおよそ1,400基の遺構が検出された。

A　遺構の概要

掘立柱建物　　調査中に建物と判別できたものは少なく、平面図作成後に図上で確認し、さらに現地でその組み合わせを確認した。

掘立柱建物の各柱の呼称について、北西隅の柱を1として、時計回りで1、2、3・・とした。なお総柱建物については、時計回りで外側から「の」を描くように番号を付した。なお、建物と確認する以前に土坑や柱穴として記入されたものについては、掘立柱建物の柱穴No.のほかに当初の遺構No.が付されている（別表1）。

柵　　列　　柵列には、東西棟、南北棟の二種が検出された。一例以外は東西棟であった。掘立柱建物との関係では南側に東西棟の目隠し様の板塀として利用されたと推定されるものがある。

井　　戸　　いずれも素掘の井戸である。地山の粘質土が硬くしまっていることと、崩れやすい砂の層が存在しないことなどによると推定される。約1.5mほど掘り下げると水が染み出すことから、これくらいの深度で水脈を確認したものと想像される。平面形は円形を呈している。ここでは径1m以上、深度1m前後以上の遺構で、出土遺物に木製品などが出土したものを井戸として報告する。なお詳細には断面、底面の形状から大別した。さらに法量により細分も可能である。

また遺物には、土師質土器の皿類、珠洲焼の甕・擂鉢などのほか、木製品各種と川原石を利用した磨石状のものが出土している。これらの遺物は確認面下1mのところからの出土が多い。

方形竪穴状遺構　　8基確認された。一辺の長さが2～4m程度で、平面形が方形もしくは隅丸方形を呈し、壁が急角度で立ち上がる土坑を方形竪穴状遺構とした。

土　　坑　　平面形では円形、楕円形、方形に大別される。長軸、短軸1m以上のものを土坑とした。なおその中で方形の土坑が7基検出された。一辺約2m以上のものである。深度は20cmほどのものと2mを超えるものなど各種が認められる。

道状遺構　　区画溝と溝にはさまれた遺構を道とした。南北に続いている。道部分に特別な施設等は確認されなかったが、南部で砂利・小石を覆土とする深度5cmほどの浅いピットが集中して検出された。これらは道遺構に関するものと考えられるが、性格は不明である。

区画溝・溝　　溝には、区画溝のように方向が南北又は東西を指すものと、調査区周辺の水田の方位を示すものの二種に大別される。

東西又は南北を指すものは、覆土の下層に黒色粘質土が入るものが多い。それに対して周辺の水田と同一の方位を呈するものは灰色の砂質土を覆土とするものが多く、前者より新しいものである。

性格不明遺構　　深度5cm前後の浅いものと1mを超える深いものがある。前者は覆土が灰色の粘質

土で底部は平坦なものが多い。掘り下げると土坑やピットなどが確認できる。後世の撹乱と、遺構が埋没する過程で埋まりきらない状況のくぼ地状のところに堆積したものが多いと想定される。

ピット　総数1,400基以上が確認された。ほとんどが区画溝に囲まれた内部に存在する。また11M区で小ピットが東西方向に連続する場所が確認された。

B 記述の方法

遺構の略号については、掘立柱建物SB、柵列SA、道状遺構SR、区画溝・溝SD、方形竪穴状遺構・土坑SK、井戸SE、性格不明遺構SX、ピット・柱穴Pとして、遺構の種別を表記した。なお、遺構計測値等については別表で示した。

2 遺構各説

A 区画溝

SD145・SD301・SD220（図版1・12～18・20）

調査区西側に検出されたSD145とSD301は、3M・4M地点でL字形に直交している。また、SD301から更に南方向にSD220が延びている。これらの溝は、集落内と外部とを区別するために掘られた方形区画溝の一部と考えられる。

SD145は、2N6から3N20に位置する。方向は、N-98°-Wを測り、西方向へ調査区外に延びる。調査区内での長さは約20m、幅約2m、深さ約40cmを測る。調査区との境付近で南側にクランク状の広がりが見られ、幅が4mほどになっている。橋あるいは門などの構造物があった可能性が推察されるが、今回の調査では断定できなかった。覆土は、黒褐色粘質土を中心に粘質土3層で形成されている。断面形は箱状で、底面は平坦で高低差はほとんどない。

SD301は、4N16から5I5にかけてほぼ南北方向（方向N-5°-W）に直線状に延び、北側は調査区外に延びる。調査区内の長さは約60m、幅約3m、深さ約70cmである。覆土は、大きく灰褐色と黒褐色に分けられる粘質土で6層から形成されている。断面は箱状で壁面は外反し立ち上がる。底面は北方向に緩やかに傾斜する。

SD145とSD301の新旧関係は、SD301の下層部分がSD145に切られていることから、まず南北方向の溝SD301が掘られ、その後下層部分にあたるオリーブ灰色粘質土・黒色粘質土が約10cmほど埋まった後に、SD145がSD301に直交する形で掘られたと考える。この時点でL字形の溝が完成する。更に、SD145の覆土2層（黒褐色粘質土）・SD301の覆土4層（黒褐色粘質土）が堆積し両溝が約30cm程埋まった段階で、SD301の南方向延長線上にSD220が掘られたことが分かる。SD220は、4N21・2O1に位置する。南北方向（方向N-5°-W）に延び、南側は調査区外に延びる。検出された幅は約1mで、SD301と比べると1／3ほどであり、深さも約20cmとかなり浅くなる。SD145とSD220に囲まれた部分は未調査の部分が多いが、SB284や井戸・土坑などが検出されており、SD220の区画溝としての役割とともに集落の広がりが推察される。しかし、溝の幅は狭まり、深さも10～20cmと区画溝SD301形成当初よりかなり小規模化してきている。

出土遺物は、SD145・SD301とも、下層（黒褐色粘質土）を中心に中世・古代の陶磁器類が多量に出土した。特徴的なところは、SD145は、土師質土器が多いもののSD301に比べ、土師器・須恵器など

古代遺物の出土割合が高い。SD301は、土師質土器・珠洲焼など中世の遺物が大部分を占め、青磁や白磁も出土している。SD220の遺物は、２層（灰色粘質土）から越前の甕の破片１点、土師質土器の破片１点、土師器の破片３点のみである。

B　道状遺構

SR1（SD302・SD220）（図版１・14・16・18・20・21）

南北方向に延びる方形区画溝SD301とその東側を並走するSD302で構成される道状遺構である。検出された長さは65m、路面幅3mを測る。方向は、N-5°-Wであり、北方向に緩やかに傾斜する。路面は平坦であるが調査区東側への傾斜が認められる。南北両方向とも調査区外に延びている。南端部は、4N22・23地点からSD301に代わりSD220とSD302で構成される道として調査区外に延びる。SD302は、一部テラス状の膨らみが見られ、幅は40～120cmと不規則である。深さ5cmを測る。断面は皿形で壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。途中で継ぎ足された形跡は見られないことから、SD220が存在する以前より、SD301及びその南延長線とを並走していたものと考えられる。覆土は単層で、褐色粘質土が堆積する。遺物としては、土師質土器や珠洲焼、土師器や須恵器など古代及び中世の陶器が出土している。4N10付近で落ち込みが見られるが、おおむね南から北に向けて緩やかに傾斜している。

C　掘立柱建物・柵列

掘立柱建物

掘立柱建物のほとんどは、調査区の西側、SD301、SD145に区画された内部にある。遺構によっては、調査区外へ続くものもある。建物の主軸方位については、長軸方向を基準として計測した。多くが東西棟である。軸方位は　N-5°-E～N-10°-Wまでで南北を意識した建物となっている。

SB251（図版２・3）

Ａ区2Gに位置し、東西２間以上（2.2m）、南北３間（4.28m）の南北棟と推定される。東側調査区外に延びている。柱穴は56～100cm程の楕円形で深さは30cm前後である。SB252と重複しており、柱穴の切り合い関係から、SB251が古い。

SB252（図版２・3）

Ａ区2Gの東南に位置し、東西１間（1.88m）、南北２間（2.8m）の南北棟と考えられる。柱穴は30～100cmの楕円形で深さは30cm前後である。SB251に比較して、柱穴・建物規模が小さくなっているが主軸方位はほとんど同じである。

SB253（図版２・3）

Ａ区2G・2Hに位置し、東西２間以上（5.48m）、南北２間（4.48m）である。柱穴は60cmの楕円形を主体とし、深さは35cm前後である。南側に約30cmの間隔をもって柱が並んでおり、この建物に関連する可能性がある。

SB254（図版２・4）

Ａ区2G・2Hの東南に位置し、東西２間（4.0m）、南北２間（4.5m）で、東調査区外に続く東西棟であろう。柱穴は80cm前後の楕円形を主体とし、深さは40cm前後と一定している。SB253と重複するが、各柱穴の明確な切り合い関係はなく、新旧関係は不明。柱穴の規模、建物の規模など一回り大きいものである。後述するSB255Aなどの例と同様２×５間程度の可能性があり、前後に同様の建物が並列してい

た可能性がある。

SB255A（図版２・４）

Ａ区 2H に位置し、東西３間以上（6.0m）、南北２間（3.3m）の東西棟である。東西は５間程度になる可能性がある。柱穴は40 ～ 80cm の楕円形で深さは31 ～ 56cm である。SB255B、SB256 と重複する。柱穴の切り合い関係から、Ａが古く、Ｂが新しい。なおＡとSB256 の明瞭な切り合い関係は確認できなかった。

SB255B（図版２・４）

SB255A と重複する。東西３間以上（6.4m）、南北２間（4.4m）の東西棟である。西側に遺構が延びるものと考えられる。柱穴は40 ～ 80cm の楕円形で深さは35 ～ 88cm である。柱間隔はSB255A より大きい。SB256 を切っている事が確認できた。

SB256（図版２・４）

Ａ区 2H の東南に位置し、東西３間以上（5.6m）、南北２間（3.88m）の東西棟である。西側にもう２列が並ぶ可能性があり、２×５間と推定される。柱穴は48 ～ 88cm の楕円形で深さは40cm 前後である。

SB257（図版２・４）

Ａ区 2I、3I の北に位置し、SB256 の東側に妻を並べるように近接する。その距離は約 1m である。東西５間（4.96m）、南北１間（2.0m）の東西棟である。柱穴は28 ～ 64cm の楕円形で深さは30cm 前後である。

SB260（図版５・８）

上記の建物群と距離を隔てて、南側に集中する建物群に含まれる。Ａ区 2I の東南に位置し、東西４間以上（9.0m）、南北１間（4.48m）の東西棟である。西側にもう一列延びて、２×５間の建物になる可能性が高い。柱穴は32 ～ 80cm の楕円形で深さは10 ～ 70cm 程である。南側東隅前面には２×１間の東西棟の建物（SB264）が並列する。主軸方位が一致していることから、付属建物の可能性も考えられる。また井戸 SE407 や方形土坑 SK79 や土器埋納遺構と考えられる土坑 SK80 と重複している。切り合い関係がなく、新旧は不明である。

SB261（図版５）

Ａ区 3J に位置する東西２間（3.0m）、南北２間（3.7m）の南北棟である。SB260 の東側に並列するが、やや東に傾く。SK89 と柱間間隔は桁行きで約 1.9m、梁間で約 1.5m である。柱穴は径 50cm 前後の不整形で、深さは17 ～ 76cm とばらつきがある。SK89 と重なる形で存在することから何らかの関連があるかもしれない。

SB262（図版 14）

AB 区 4J 区の北西に位置し、東西２間（3.1m）、南北３間（4.2m）の南北棟である。各柱の並びは一定せず建物として成立するかは明確でない。柱穴は径 16 ～ 44cm と小規模なものである。各柱の並びは一定しない。

SB264（図版５・７）

Ａ区 2J の北に位置し、東西２間（4.84m）、南北１間（1.6m）の東西棟である。柱穴は径 70cm 前後と大きく一定している。深度は約 50cm。

SB265（図版５・８）

Ａ区 2J の北西に位置し、東西２間（4.08m）以上、南北１間（2.4m）の東西棟である。西側調査区外に

延びるものと考える。束柱は確認することはできない。柱穴は径60cmの円形で深さは35cmである。

SB266（図版５・７）

Ａ区2Jの南に位置し、東西２間（4.08m）、南北１間（1.92m）の東西棟である。柱穴は20～50cmの楕円形で、深さは６～30cmである。性格不明のくぼ地状土坑SX33の覆土を掘り下げて、柱穴が確認されたもので、SX33より古いものと考えられる。

SB267（図版５・16・17）

Ａ区3K、4Kにまたがって検出された。東西４間（10.2m）、南北２間（3.12m）の東西棟である。柱穴は30cm前後の円形で、深さは30cm前後である。主軸方位がSB265とほぼ同じで、東西に並んでいることや柱の規模、深度などの類似性から同時期の可能性が高い。

SB268（図版５）

Ａ区2Kの北西隅に位置し、東西２間以上（4.64m）、南北１間（1.48m）の東西棟である。柱穴は30cmの円形もしくは楕円形で、深さは30cm前後である。西側調査区外に延びる可能性がある。

SB271（図版５）

Ａ区2Kの中央に位置し、東西１間（1.68m）南北１間（1.6m）の方形を呈する建物である。柱穴は24～36cmの楕円形で、深さは20cmほどと一定している。SE432を囲むように並ぶ。南東の柱を取り組むと五角形となる可能性がある。

SB273（図版９・11）

Ａ区2Lの北西に位置し、東西３間（3.84m）、南北２間（3.04m）の東西棟である。柱穴は28～56cmの方形で、深さは17～49cmである。東西の柱間隔は東が幅広くなっている。

SB274A・SB274B（図版９・11）

Ａ区2L、3Lに同形態建物が重複して存在する。SB274Aは東西２間（4.04m）、南北３間（7.0m）の南北棟である。南側、北側に束柱を有し、全体として六角形の平面形を呈している。各柱穴は径100cm以上の楕円形で深さは1mを超えるものである。東南側に小規模の相似形の建物SB274Bが重複する。南北２間（4m）、東西２間（3.4m）である。柱穴の切り合い関係からSB274Bが古い。

SB275（図版９・11）

Ａ区2Lの東に位置し、東西２間（2.92m）、南北１間（2.84m）の東西棟である。ほぼ正方形の平面形である。柱穴は20～52cmの方形で、深さは12～30cmである。

SB276（図版９・11）

Ａ区2Lの東に位置し、東西２間（2.80m）、南北２間（2.0m）の東西棟である。柱穴は32～124cmほどの楕円形で、深さは17～72cmである。SB274A・SB274Bと重複している。柱穴の切り合いはなく、新旧関係は不明である。特にSB274Aとは主軸方位や柱穴覆土が類似しており、SB274Aとの関係が想定される。

SB277（図版９）

Ａ区2Lの西に位置し、東西３間以上（4.32m）、南北２間（3.22m）である。西側は調査区外に延びる。柱穴は24～64cm前後の楕円形で、深さは17～70cmほどである。

SB278（図版９・10）

Ａ区2Lの北西に位置し、東西１間以上（1.56m）、南北２間（1.96m）の東西棟である。西側は調査区域外に延びると考えられる。柱穴は20～58cmの方形で、深さは10～47cmである。

SB280（図版9・10）

A区2L・2Mの西に位置し、東西2間以上（2.4m）、南北3間（3.16m）の東西棟である。柱穴は約30cmの円形で、深さは30cmである。SB281と重複している。柱穴の切り合いはなく、新旧関係は不明である。主軸方位がSB281よりやや西に傾く。

SB281（図版9・10）

A区2L・2Mの西に位置し、東西2間以上（2.2m）、南北2間（3.2m）の東西棟である。柱穴は50cmほどの円形で、深度は30cm前後である。

SB282（図版9・15）

A区3Mの中央に位置し、東西1間（1.84m）、南北2間（4.72m）の南北棟である。柱穴は80cmの円形で、深さは1m以上である。区画溝に囲まれた地区の東南隅に位置している。周辺には柱穴と同規模の井戸が集中する地域である。

SB283（図版9）

A区2Mの西に位置し、東西2間以上（2.20m）、南北2間以上（3.00m）である。西側が調査区外に延びているため全形は不明である。建物北東隅のみの確認である。柱穴は20cm前後の円形で、深さは7～11cmである。

SB284（図版12・13）

A区3Nの南に位置し、SD145の南側に位置する。南側は調査区外となり、建物の全体は不明である。東西3間以上（5.92m）、南北2間以上（3.6m）の東西棟であろう。柱穴は径30cmほどの円形で、深さは30cmである。主軸はほぼ東西を指す。他の遺構との重複関係は認めらない。

SA269（図版5・7）

A区2K9・15、3K11に位置し、東西方向で6基の柱穴が並ぶ柵列である。方向は、N-87°-Wを測る。検出面はすべてⅥ層上面である。すぐ南側にはSA270がほぼ並行して走る。北西方向には、SD74がほぼ東西方向（N-104°-W）に延びている。長軸が40cmほどのSA269－1と長軸30cmほどのSA269－2・5が交互に並んでいる。深さは、約7～33cmである。杭間寸法は、1.4mと等間隔である。

SA270（図版5・7）

A区2K8・9、2K14・15に位置し、東西方向で4基の柱穴が並ぶ柵列である。方向は、N-90°-Wを測る。検出面はすべてⅥ層上面である。SA269と並走している。柱穴の長軸は28～56cm、深さは11～33cm、杭間寸法は88～140cmと規則性は見られない。

SA272（図版5・7）

A区2K12・18・24・25に位置し、東西方向で4基の柱穴が並ぶ柵列である。方向は、N-76°-Wを測る。検出面はすべてⅥ層上面である。SB273の北側に位置し、並走する。柱穴の長軸36cmのSA272－1・3と長軸28cmのSA272－2・4が交互に並んでいる。深さは約25cmでほぼ同じである。杭間寸法は、2m前後と広い。

D　方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構にはSK33、79、89、96、142、331、401、445がある。

SK142（図版9）

A区2L24・25、2M4・5・9・10に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸3.6m、短軸3mである。掘形は箱形で深さ0.45mを測る。覆土は4層に分層される。覆土中から土師質土器皿・珠洲焼壺・擂鉢、須恵器坏・蓋、土師器碗・壺・甕などが出土している。SK111・SX173・P2M78・P2M80を切っている。

SK445（図版16・17）

AB区4J11～14・16～25に位置する。平面形は長方形で、規模は東西8m、南北5mである。掘形は皿形で深さ0.53mを測る。SX445は二つの方形竪穴状遺構が重複している。土層断面より、東側の遺構は、西側の遺構を切っており、西側の遺構が埋まった後に掘り込まれている。西側の遺構は平面形が長方形を呈するもので、覆土は3層に分層される。最下層の3層は多量の炭化物を含み、この層からは土師質土器皿・碗、珠洲焼甕・擂鉢・壺、青磁碗などが完形に近い状態でまとまって出土している。東側の遺構は主軸がやや東に傾くもので、1辺約5mの方形を呈している。覆土は5層に分層される。東側の遺構からの遺物出土量は西側の遺構に比べて少ないが、土師質土器皿、珠洲焼甕・擂鉢、石鍋などが出土している。SX445の北側にはSK347が存在する。平面形は隅丸方形で、1辺が0.8mである。掘形は湾曲形で深さ40cmを測る。覆土は2層に分層される。この2層の覆土とSX445の東側にある遺構の上部2層の覆土が同じであることから、SK347はSX445の張り出し部分にあたり、SX445へ通じる階段状を呈する入り口の可能性もある。

E　井　　戸

井戸は、全部で25基確認されている。検出地区はA区内24基、AB区内1基であり、SE138、139、140以外はSD145、SD301に囲まれた方形区画内において検出されている。

位置は、集落の中心部の東側（GJ～GN）に集中している。特に、G3M内では、10基検出されている。すべて素掘りの井戸であり、井戸枠などは検出されていない。平面形は、楕円形13基、円形7基、方形2基、隅丸方形3基である。断面形は、台形13基、箱形6基、U字形4基、ロート形2基である。覆土は、レンズ状に堆積した状態や数回にわけ埋められた状態と様々である。全体的に黄褐色、暗褐色系の強い粘質土だが、最下層は炭化物を含む黒色の粘性の弱いシルト状となっている場合が多い。

井戸の大きさから、おおよそ以下の4つに分類できる。A類：長軸3m以上、深度約1.0m（1基）、B類：長軸約1.8m前後、深度約2.0m以上（3基、SE9については推定）、C類：長軸1.5m前後、深度1.5m前後（10基）、D類：長軸1.0m前後、深度1.0m前後（11基）。出土遺物については、すべての井戸から土器、磁器、石・木・金属製品などのいずれかが出土している。さらに、直径20～30cmの石や梅種などが検出され、あきらかに廃絶の祭祀が実施されたと推測できる井戸も存在している。

SE9（図版2・3）

調査区西側先端部（2G17～22）にある井戸で、B類に分類される。平面形は、上部は方形と推定（一部調査区外のため）、底部は円形である。断面形は箱形を呈している。覆土は8層からなり、3層までは、黒色土、暗黒色土が水平に堆積しているが、4層からは、西側から東側に傾斜した状態で堆積している。

SX10との切り合いがあり、西側に深く掘り込まれている。

遺物は各層位から出土しているが、土師質土器、白磁が多い。最下層からは、漆椀などの木製品、炭化米などが検出されている。

SE101（図版9・10）

方形区画南端（2M8）に位置する井戸で、C類に分類される。平面形は、上部は楕円形、底部は方形である。断面形はU字形を呈する。覆土は10層であり、1層灰黄褐色土、2層黒色土の両端はP2M4、5、7との切り合いにより4層のにぶい黄褐色土が混入したと推定される。5、6層の黒色土、黒褐色土片端には黄色土が混入している。9層は、燃やされた木が腐りゲル状化した黒色土、10層は水分の多い灰色土である。

出土遺物は、各層位から出土しているが、特に6層から土師質土器の出土が多い。最下層からは、腐蝕化した杭、自然木、炭化米、種（不明）が検出されている。

SE104（図版9・10）

方形区画南端（2M10）に位置する井戸で、C類に分類される。平面は、上部は楕円形、底部は方形を呈し、東側の深度約50cmの部分がテラス状になっている。断面は、U字形と推定される。覆土は10層であり、下部の8層は黒色のゲル状、7層は黒褐色シルトであり、一度に埋められたと推定される。中部から上部にかけては、褐灰色シルト、灰黄色シルトがレンズ状に堆積している。遺物は各層位から主に土師質土器、土師器、須恵器、鉄滓が、7層から珠洲焼甕が検出された。最下層からは、炭化米が検出されている。

SE125（図版9・10）

調査区南側の遺構密集区域（3M22）南側に位置する井戸で、D類に分類される。平面形は、上部、底部とも楕円形を呈している。断面形は、U字形である。覆土は3層からなり、ほぼ水平に堆積している。1層は、灰褐色と黒褐色のしまりの強い混合土、2層は、全体的に黒色が強まる黒褐色土、3層はしまりの弱い黒色土である。出土遺物は、1層～2層にかけ砥石、軽石、土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼が検出されている。土器では、完形を含む土師質土器が7割を占める。泥化した最下層からは、漆椀、竹札などの木製品が多数出土している。

SE180（図版9・10）

方形区画南端中央部（2M17）に位置する井戸で、C類に分類される。平面形は、上部は方形、底部は隅丸方形を呈する。断面形は、台形と推定される。小判形のSX183と切り合ったSX187の不整形の浅い遺構内であることもあり、最初は、P2M57として検出された。覆土は、9層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。1層は灰褐色土、2層は暗褐色土、2～4層は赤褐色土であり、しまりが強い。5層は、黒色の泥化土であり、最下層は、黒色土を少し含有する灰色土である。遺物の出土が少なく、3層から土師質土器1点、5層から石皿1点、最下層から曲げ物側板など木製品3点出土したのみである。

SE205（図版9・10）

調査区南側の遺構密集区域（3L12）北側に位置する井戸で、C類に分類される。平面形は上部が楕円形、底部は円形を呈する。断面形はロート形であり、上部約0.8mは台形、下部約0.7mはU字形に掘り込まれている。覆土は6層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。1層は墨粒が少し混入したしまりの強い灰褐色土、2～3層にかけて褐色が薄れ、4層はシルト化した薄い褐灰色土である。5層は褐灰色粘質土、最下層は、黒褐色粘質土である。1～4層からは、土師器、土師質土器、5層からは、珠洲焼、最下層か

らは、漆椀、折敷、木札などの木製品が多数検出されている。

SE236（図版18・19）

区画溝東端（4L12・17）に位置する楕円形を呈する井戸で、A類に分類される。平面形は、上部が長軸3.36m、短軸2.99mの楕円形、底部は長軸1.6m、短軸0.7mの方形であり、検出された井戸のなかでは最大であるが、深さは1.4mである。断面形は上部の広いU字形を呈している。南側深さ約0.5mの底部が三日月形テラス状になっている。覆土は6層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。南側が浅く、北側が深く掘られている。1～3層から土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、越前、灰釉陶器、鉄滓が検出されている。最下層からは、漆椀、折敷などの木製品が多く検出されている。

SE407（図版5・6）

建物群の中心部と推定される調査区西側（2I12）にある井戸で、B類に分類される。平面形の上部は隅丸方形、底部は楕円形である。断面形はU字形を呈するが、8層から一回り狭く掘り込まれ、最深部12層は乳首状となっている。覆土は12層からなり、ほぼレンズ状に堆積している。1層～5層は、しまりの強い赤褐色土と暗褐色土である。6層（炭化物を多く含んだ黒色シルト）と8層（灰褐色粘質土）に7層の褐灰色砂質土が混入している。この層からは、土師質土器が多く出土している。9層、10層は、墨などが混入したしまりの弱い黒色土であり、木製品が多く出土している。11層はしまりの弱い灰色粘土、最下層は、泥状の黒色土であり、胡桃種、桐種などが検出されている。SK55、403、P2I15、51と切り合っている。

SE432（図版5・10）

調査区中央部（3K17）ある井戸でC類に分類される。平面形は、上部は楕円形、底部は円形である。断面形は、箱形である。覆土は5層からなり、1層は、炭化物を多く含むしまりの強い灰褐色シルト、2層は、ややしまりのある黒褐色シルトである。3層は、ややしまりのある暗オリーブ灰色シルトである。4層は、炭化物が混入した黒褐色シルトが約6cm堆積している。5層は、暗オリーブ灰色である。出土物は、1～3層にわたり、砥石、土師器、土師質土器、珠洲焼、4層から曲げ物底板が検出されている。

SE435（図版9・17）

調査区中央部（3K24）にある井戸で、B 類に分類される。平面形は、上部は楕円形、底部は方形を呈する。断面形は台形であり、深さ約2.4mの一番深い井戸である。覆土は8層からなり、上部はほぼ水平に堆積しているが、中位の4層と5層に地山と推定される青灰色土がブロック状に混入している。底部の7層は黒色土が混入した灰色粘質土、8層は黒灰色砂質土であり、最下部には約2cmの粗砂の堆積が検出された。1～4層にわたり土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、灰釉陶器、4層及び最下層からは漆椀などの木製品が検出されている。

F　土　　坑

土坑として確認したものは全体で129基ある。

SK33（図版5・6）

2J24・25、2K4・5に位置する。平面形は楕円形で長軸3.8m、短軸2.92mである。掘形は台形で、深さ0.66mを測る。覆土は4層に分層される。覆土中から土師質土器（小）・珠洲焼鉢などが出土している。

SK42（図版2・3）

2H18・22・23に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.39m、短軸1.14mである。掘形は台形で、

深さ1.33mを測る。覆土は12層に分層される。覆土中から越前擂鉢（図版23　56）や土師質土器皿・青磁碗・須恵器坏、茶臼（図版32　308）・砥石などが出土している。SK43を切り、SK41に切られている。

SK71（図版5・6）

2J10、3J1・6に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.18m、短軸1.15mである。掘形は台形で、深さ0.93mを測る。覆土は9層に分層される。覆土中から土師質土器皿が出土している。SK417を切り、SK418に切られている。

SK79（図版5・6）

2I13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、長軸2.73m、短軸2.12mである。掘形は皿形で、深さ0.49mを測る。覆土は6層に分層される。覆土中から土師質土器皿（図版25　138）が出土している他、石鍋も1点出土している。Pit2I52・53・54・55・56を切っている。

SK80（図版5・6）

2I17・18・22・23に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.55m、短軸1.27mである。掘形は漏斗形で深さ0.48mを測る。覆土は3層に分層される。覆土中から土師質土器皿（図版23　57～64）が出土している。P2I75を切り、P2I74に切られている。土師質土器皿がまとまって出土していることから祭祀に関連した土坑の可能性がある。

SK81（図版2・3）

2F22・2G2に位置する。遺構の本体は調査区域外に延びる。平面形は方形と推定される。長軸約2.48m、短軸約2.76mである。掘形は箱形で深さ96cmを測る。覆土は8層に分層される。覆土中から土師質土器皿・白磁皿（図版23　65～70）などが出土している。SK81内に5基のピットが確認されている。

SK86（図版2・3）

2G7・12に位置する。平面形は三角に近い不整形で、長軸1.35m、短軸1.17mである。掘形は台形で深さ1.24mを測る。覆土は6層に分層される。覆土中から土師質土器皿（図版23　72～96）・珠洲焼甕（71）・白磁皿（97）などが出土している。

SK89（図版5・6）

3I17～19・21～24、3J1～3・6～8に位置する。平面形は楕円形で、長軸5.77m、短軸3.81mである。掘形は台形で深さ0.87mを測る。覆土は8層に分層される。覆土中から土師質土器・珠洲焼鉢・美濃焼・白磁甕・須恵器坏などが出土している。

SK93（図版5・6）

3J8・13に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.64m、短軸0.99mである。掘形は台形で深さ37cmを測る。覆土は3層に分層される。覆土中から土師質土器皿・須恵器坏・甕などが出土している。Pit3J95に切られている。

SK94（図版5・6）

3J22に位置する。平面形は隅丸方形で、1辺が約0.96mである。掘形は台形で深さ1.04mを測る。覆土は5層に分層される。覆土中から土師質土器皿が出土している。

SK95（図版5・6）

2J20に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.11m、短軸0.98mである。掘形は台形で深さ0.87mを測る。覆土は4層に分層される。覆土中から土師質土器皿が出土している。

SK96（図版５・21）

2J20・25、3J16・21・22、3K1・２に位置する。平面形は不整形で、長軸4.6m、短軸2.4mである。掘形は皿形で深さ0.18mを測る。覆土は２層に分層される。覆土中から土師質土器皿・碗、珠洲焼鉢などが出土している。

SK207（図版18・19）

3L13・14・18・19に位置する。平面形は楕円形で、長軸2.68m、短軸2mである。掘形は漏斗形で深さ0.88mを測る。覆土は７層に分層される。出土遺物はない。SK207は、１つの遺構として検出されているが、土層断面図より２つの遺構が切り合っている可能性が高い。

SK221（図版20・21）

4O1・６に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.6m、短軸0.54mである。掘形は台形で深さ0.35mを測る。覆土は２層に分層される。覆土に少量の炭化物を含む。

SK222（図版20・21）

4O6・７に位置する。遺構の本体は調査区域外に延びる。平面形は楕円形と推定され、長軸約1.36m、短軸約1.1mである。掘形は台形で深さ0.9mを測る。覆土は５層に分層される。出土遺物はない。

SK223（図版18・19）

3L15・20に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.72m、短軸0.52mである。掘形は台形で深さ1mを測る。覆土は２層に分層される。覆土中から土師質土器皿・土師器壺が出土している。

SK232（図版９・10）

3L22に位置する。平面形は楕円形で、長軸1m、短軸0.72mである。掘形はＵ字形で深さ1.02mを測る。覆土は６層に分層される。覆土中から土師質土器皿、木製品部材、軽石などが出土している。１層に炭化物を少量含む。

SK234（図版18・19）

4L18・23に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.7m、短軸0.6mである。掘形は皿形で深さ0.16mを測る。覆土は２層に分層される。出土遺物はない。２層に炭化物を少量含む。

SK235（図版18・19）

4L6・７に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.68m、短軸0.52mである。掘形は台形で深さ0.5mを測る。覆土は３層に分層される。出土遺物はない。２層に炭化物を少量含む。

SK371（図版20・21）

6M5に位置する。平面形は楕円形で、長軸1.5m、短軸1.1mである。掘形は台形で深さ0.22mである。覆土は３層に分層される。出土遺物はない。

SK401（図版５・６）

2J7・８・12・13に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.98m、短軸1.94mである。掘形は皿形で深さ0.38mを測る。覆土は４層に分層される。覆土中から石鍋が出土している。

SK440（図版18・19）

3K24・25、3L4・５に位置する。平面形は楕円形で長軸1.52m、短軸1.16mである。掘形は台形で深さ1.58mを測る。覆土は８層に分層される。出土遺物はない。２・３層に炭化物を少量含む。

SK444（図版14・15）

3J4に位置する。平面形は楕円形で、長軸0.48m、短軸0.4mである。掘形は皿形で深さ0.1mを測る。

覆土は単層である。出土遺物はない。

SK452（図版18・19）

3J9・10に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸0.88m、短軸0.48mである。掘形は台形で深さ0.93mを測る。覆土は3層に分層される。覆土中から土師質土器皿などが出土している。

G 溝

SD303（図版20・15）

5N16～5M7にかけて南北方向（N-14°-W）に蛇行し、南側は調査区外に延びる。長さは約14m、幅80cm、深さ10～15cmを測る。断面形は皿形である。5N1・6地点の窪みが激しい。覆土は3層からなり、1・2層は灰褐色・灰色粘質土で3層は黒褐色粘質土で形成されている。

SD313（図版20・21）

5N9・10に位置する。方向は、N-95°-Wを測る。東側に緩く傾斜している。西側は、SK308に、東側は、SK345・346によって切られている。深さは10cmほどである。遺物は、須恵器の坏、白磁の碗、土師質土器皿や古銭・鉄滓などが出土している。

SD372（図版20・21）

6M22～25に位置する。方向は、N-112°-Wを測り、南側をSD337が並走する。長さ60cm、幅は9～120cmと東方向に向かって広がる。深さ7cmを測る。東方向の延びは試掘のため不明。SD337同様東方向に緩やかに傾斜している。覆土は、2層からなり上層が灰褐色粘質土、下層が灰色粘質土から形成されている。

SD447（図版16・18・19）

SD447は、4K17・22・4L2に位置しSD448・SD449の東側を並走する。方向は、N-22°-Wを測る。平面形は、壜状の不整形である。長さ約55cm、幅は20～72cmと北方向に向かって狭くなる。深さは10cmほどである。覆土は単層で灰褐色粘質土である。遺物は、土師質土器皿、伊万里焼の碗が出土している。P4K19・P4K27に切られている。

第Ⅴ章　遺　　物

1　遺物の概要

種類と遺物量

今回の調査で平箱110箱の遺物が出土した。その内訳は、土器・陶磁器56箱、木製品13箱、石製品26箱、金属製品・土製品3箱、その他井戸の最終堆積土の水洗作業によって確認された植物遺体、昆虫など5箱である。土器・陶磁器類では、多くが中世（土師質土器、珠洲焼、青磁、白磁）である。その中でも土師質土器が73%を占める。残りは珠洲焼23%、青磁・白磁などの陶磁器類が4%であった。

出 土 状 況

遺物は表土からⅤ層まで出土している。Ⅲ層までは各時代のものが混然と出土している。反面低地側のⅣ層、Ⅴ層からは中世の遺物がまとまって出土している。しかし遺物包含層の遺物量は遺構出土のものに比較して量は少ない。本報告では、遺構出土の遺物を中心に図化した。遺物包含層については、土器総量の個体数検討で確認した。鉄製品や製鉄関連遺物は包含層からの出土が主体である。

各時代の遺物の概要

縄文時代の遺物

縄文時代の遺物には、土器細片と石斧がある。B区のⅢ層掘り下げの時に検出された。ここでは図示していない。遺跡の西側に剣野遺跡群が近接しており、これらの遺跡からの搬入物と考えられる。

古墳時代の遺物

古墳時代の土師器がある。壺類が主体でA地区の溝などから数点出土している。本遺跡の確認調査では東側に古墳時代の遺物が多く出土する地点があり、今後の調査では古墳時代の遺構確認が推定される。

古代の遺物

古代の土器には、須恵器、土師器がある。古代の土器類はSD301や SD145などの覆土上層や、性格不明の低地やくぼ地の覆土上層から出土しており、後世の流れ込みと考えられる。今回の調査地区以外の周辺に古代の遺跡が存在する可能性がある。

中世・近世の遺物

中世の遺物は、陶磁器、木製品、石製品、鉄製品、土製品がある。そのほかに井戸の最下層の土からは種子などの植物遺体や昆虫の羽などが確認された。

土器・陶磁器類　土器・陶磁器類には、珠洲焼、土師質土器、青磁、白磁、染付、瀬戸美濃、越前、唐津などがある。多くは土師質土器や珠洲焼であり、出土土器類の9割である。

木　製　品　木製品は主として、井戸などの深度の深い遺構から検出された。他に、A区とB区の間

の農道の下の水分の多い地点からも木片が検出されている。また調査区中央の低地からは、倒木なども確認されている。検出された木製品には漆椀や箸などの食器類、工具類、木札類、建築部材がある。また井戸内からの遺物には一部が炭化したものがある。

石　製　品　　石製品には、石臼、茶臼、石鍋などのほか川原石を砥石や凹石に利用したものがある。これらの遺物は井戸や土坑などの底部に近い層位から出ている。凹石等は火を受けて炭化物が付着しているものが多い。

金属製品他　　金属製品には、製品と製鉄関連遺物の鉄滓、羽口などが出土している。全体の80%は製鉄関連遺物出ある。出土は遺物包含層からのものがほとんどである。

では各遺物の種別ごとに詳細を記述する。

2　遺物各説

A　土器・陶磁器

1）土器・陶磁器類の分類

土師質土器の皿は、製作技法や法量、器形に基づいて分類した（第2表）。口径は、ＢⅠ類が12～13cm、ＢⅡ類が9cm、ＣⅠ類が12～14cm、ＣⅡ類が7～9cm、ＤⅠ類が8～11cm、ＤⅡ類が5cmに主体がある。その他の土器・陶磁器類の分類・編年などは、以下の各氏の論考に準拠した。須恵器…品田高志氏［品田1993］、珠洲焼…吉岡康暢氏［吉岡1994］、瀬戸美濃…藤澤良祐氏［藤澤1995］、青磁碗…上田秀夫氏［上田1982］、白磁皿…横田賢次郎氏・森田　勉氏［横田・森田1978］である。

製作技法	法量	器形など	
A類 柱状高台			
B類 手づくね	Ⅰ：口径大	a：口縁端部面取り	
		b：口縁が大きく開き、身がやや浅い	
	Ⅱ：口径小	b：口縁が大きく開き、身がやや浅い	
C類 手づくね	Ⅰ：口径大	a：稜鮮明	①：器壁厚い・丸みあり
			②：器壁薄い・やや浅い
		b：稜不鮮明	①：外底面凹みあり
			②：外底面凹みなし
	Ⅱ：口径小	a：稜鮮明	
		b：稜不鮮明	
D類 糸切り	Ⅰ：口径大		
	Ⅱ：口径小		

第２表　土師質土器皿の分類表

2）遺構出土の土器・陶磁器（図版22～27　1～211）

SD145（1～10）

須恵器は壺（1・2）や甕（3）の破片が確認できる。土師質土器皿はＡ類（4・5）、ＣⅠｂ類（6）、ＣⅡａ類（7・8）が確認できるが、Ａ類は底部のみ遺存する。9はⅡ期頃の珠洲焼の甕である。このほか、珠洲焼の擂鉢、須恵器の坏・坏蓋なども出土した。

SD301（11～39）

須恵器は有台坏（11）と甕（12）を図示する。11は体部下半に丸みを帯びる。8世紀後半頃の所産であろう。珠洲焼では壺（13）、甕（14・15）、片口鉢（16～25）の器種が揃う。13は壺Ｔ種で、口縁端部内面はつまみ上げられる。Ⅱ期頃の所産であろう。甕はⅡ期（15）とⅤ期（14）所産である。擂鉢は16がⅡ期、17・18がⅢ期、19がⅢ～Ⅳ期に位置づけられる。26は瀬戸美濃の袴腰形香炉で、古瀬戸中期様式Ⅳ期の所産である。土師質土器皿はＢⅠａ類（27・29）、ＣⅠｂ①類（28）、ＣⅠａ②類（30～33）、ＣⅡｂ類（34・37・38）、ＣⅡａ類（35・36）が確認できる。ＢⅠａ類（27・29）はSD301・SK11以外の遺構では確認しにくい。39は白磁の端反碗で、Ⅴ類に分類できようか。このほか須恵器の壺、青磁の碗皿類なども出土した。

SD302（40～43）

土師質土器皿はＣＩａ①類（40・41）、ＣＩａ②類（42）で、稜の明確な皿が多い。43は鏑蓮弁文が認められる青磁の碗で、Ｂ類に相当する。高台は打ち欠かれる。13世紀末～14世紀初頭の所産である。このほか珠洲焼の擂鉢なども出土した。

SE9（44～46）

土師質土器皿はＣＩｂ類（44）、ＣⅡｂ類（45）である。口径も大小２法量で、稜の不明確な皿が多い。46は灰釉陶器の碗で、高台の断面は方形を呈する。10世紀の所産であろう。このほか須恵器の坏なども出土した。

SE125（47）

47は土師質土器皿のＣＩａ①類である。このほか珠洲焼の擂鉢なども出土した。

SK134（48）

48は土師質土器皿のＣＩｂ①類である。

SK2（49）

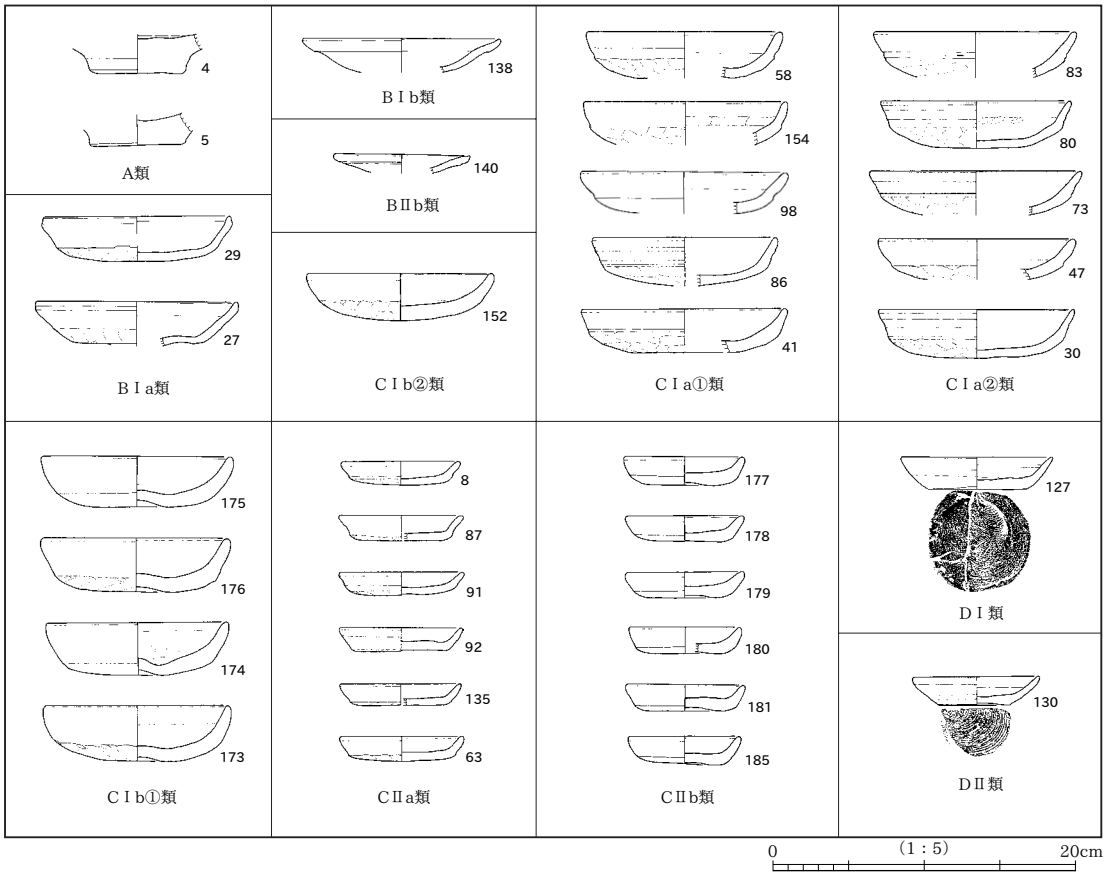
49は土師質土器皿のＣⅡａ類である。このほかＣＩ類も出土した。大小２法量が確認できる。

SK11（50）

50は土師質土器皿のＢＩａ類である。このほか土師器の碗（古代）なども出土した。

SK20（51）

須恵器の坏蓋を１点図示した（51）。このほか土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。



第６図　土師質土器皿分類図

SK28（52～54）

珠洲焼は擂鉢（52）と甕（53）を図示した。52の口縁端部外側は面取りされる。52・53はともにⅡ期の所産である。土師質土器皿はＣⅡｂ類を１点図示した（54）。このほか珠洲焼の壺、須恵器の坏なども出土した。

SK35（55）

55は土師質土器皿のＣⅠａ①類である。このほかＣⅡ類なども出土した。大小２法量が確認できる。

SK42（56）

越前焼の擂鉢を１点図示した（56）。16世紀の所産であろうか。このほか須恵器の坏、土師質土器皿のＣⅡ類、青磁の碗なども出土した。

SK80（57～64）

土師質土器皿はＣⅠａ②類（57・59）、ＣⅠａ①類（58）、ＣⅡｂ類（60）、ＣⅡａ類（61～64）である。このうち57の口縁部には２段ナデが施される。口径も大小２法量確認でき、稜の明確な皿が多い。

SK81（65～70）

土師質土器皿はＣⅠｂ①類（65・66）、ＣⅠａ①類（67）、ＣⅡｂ類（68）、ＣⅡａ類（69）で、稜の不明確な皿が目立つ。70は口禿の白磁皿で、Ⅸ類に分類できる。13世紀中葉～14世紀初頭の所産である。

SK86（71～97）

珠洲焼はⅡ期の甕を図示した（71）。土師質土器皿はＣⅠａ②類（72～86）、ＣⅡａ類（87～92）、ＣⅡｂ類（93～96）が確認できる。ＣⅠ類は稜の明確な皿がほとんどで、ＣⅡ類も稜の明確な皿が多い。79・81・84の口縁部には２段ナデが施される。97は口縁部が内湾する白磁の皿で、15世紀前半に比定する。なお97は混入の可能性もある。このほか珠洲焼の擂鉢なども出土した。

SK90（98・99）

土師質土器皿を２点図示した。ＣⅠａ①類（98）とＣⅡｂ類（99）が確認できる。

SK95（100）

100は底面に糸切り痕の残る土師質土器皿で、Ａ類に分類する。このほかＣⅡ類なども出土した。

SE101（101）

土師質土器皿を１点図示した（101）。ＣⅠｂ類に分類できる。このほか土師質土器皿のＣⅠ類・ＣⅡ類なども出土し、大小２法量が確認できる。

SE113（102）

102は小泊産須恵器の壺で、口径12cmを測る。９世紀後半頃の所産であろう。このほか土師器の碗（古代）、須恵器の甕類も出土した。

SE115（103～105）

珠洲を３点図示した。103・104は片口鉢で、それぞれⅡ期、Ⅳ期の所産である。このほか土師質土器皿のＣⅠ類・ＣⅡ類なども出土し、大小２法量が確認できる。

SE116（106）

珠洲焼の壺を１点図示した（106）。このほか土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。

SK122（107）

107は須恵器の坏で、器壁は薄い。９世紀前葉～中葉の所産である。このほか土師質土器皿のＣⅠ類・ＣⅡ類なども出土しており、大小２法量が確認できる。

SX123（108～110）

珠洲焼は2点図示した（108・109）。108はⅢ期の甕、109は体部に把手の痕跡が確認できることから、双耳壺ないし四耳壺と思われる。Ⅴ期頃の所産であろう。110は古墳前期の壺である。このほか土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。

SK130（111）

111は土師器の長胴甕である。口径は20cmを測る。

SE131（112・113）

112は土師質土器皿のＣⅠａ①類、113は珠洲焼の甕である。

SX143（114・115）

114は珠洲焼の壺、115は土師質土器皿のＤⅡ類である。

SK185（116）

116は須恵器の有台坏で、高台の断面は丸みを帯び、器形はやや開く。8世紀末頃の所産であろう。

SK200（117）

土師質土器皿を1点図示した（117）。ＤⅠ類に分類できる。このほか土師質土器皿のＣⅠ類・ＣⅡ類なども出土した。大小2法量が確認できる。

SE205（118・119）

118は珠洲焼の壺、119は土師質土器皿のＣⅠｂ①類である。このほかに土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。

SK206（120～123）

120は珠洲焼の擂鉢で、Ⅳ期の所産である。122・123は土師質土器皿で、ともにＣⅠａ①類に分類できる。このほか土師質土器皿のＣⅡ類、青磁の碗皿類なども出土した。

SK207（124）

124は須恵器の甕で、外面に叩き目、内面に当て具痕が残る。

SK355（125・126）

125は弥生後期～古墳前期の甕で、有段口縁を持つ。126は125と同一個体の可能性のある甕である。このほか土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。

SK431（127）

土師質土器皿を1点図示した（127）。ＤⅠ類に分類できる。このほかＣⅡ類なども出土した。

SE432（128・129）

128は土師質土器皿のＣⅡｂ類、129は珠洲焼の甕である。このほかに土師質土器皿のＣⅠ類なども出土した。

SE435（130・131）

130は土師質土器皿のＤⅠ類である。131は珠洲焼の擂鉢で、口縁内端面は面取りされる。Ⅵ期の所産である。このほか須恵器の坏、珠洲焼の壺、土師質土器皿のＣⅠ類なども出土した。

SK437（132）

132は珠洲焼の壺で、外面に格子目の叩打文が施される。Ⅱ～Ⅲ期頃の所産である。

SX1（133・134）

133は珠洲焼の擂鉢である。134は土師器の甕で、時期は古代に属する以外明確ではない。このほか

土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。

SE8（135・136）

135・136は土師質土器皿で、ＣⅡａ類（135）とＣⅠｂ類（136）に分類できる。大小２法量が確認できる。このほか珠洲焼の擂鉢なども出土した。

SX31（137）

土師質土器皿を１点図示した（137）。ＣⅠａ②類に分類できる。このほか須恵器の坏、土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。土師質土器皿は大小２法量が確認できる。

SK79（138）

土師質土器皿を１点図示した（138）。ＢⅠｂ類に分類できる。このほかＣⅠ類・ＣⅡ類なども出土した。

SK89（139～142）

139・140は土師質土器皿で、ＣⅠａ①類（139）とＢⅡｂ類（140）に分類できる。141は白磁の碗Ⅱ類であろうか。142は瀬戸美濃の天目碗で、15世紀後半の所産である。このほか須恵器の坏、珠洲焼の甕・擂鉢、土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。

SX117（143）

143は鎬蓮弁文が認められる青磁碗でＢⅠ類に分類できる。13世紀末～14世紀初頭の所産である。高台は打ち欠かれる。

SX135（144）

土師質土器皿を１点図示した（144）。ＣⅠａ①類に分類できる。このほか須恵器の坏蓋、土師質土器皿のＣⅡ類なども出土した。

SK142（145～148）

須恵器は２点図示した（145・146）。145は有台坏である。高台は内端で接地し、体部下半にやや丸みを帯びる。８世紀後半頃の所産であろう。147・148は珠洲焼の擂鉢である。147の口縁内端面には櫛目波状文がめぐらされる。Ⅵ期の所産である。このほか土師質土器皿のＣⅠ類、青磁の碗なども出土した。

SX171（149～154）

土師質土器皿はＣⅠａ①類（149～151・153・154）とＣⅠｂ②類（152）で、ＣⅠａ①類が多い。このほか土師質土器皿のＣⅡ類、白磁の碗Ⅸ類なども出土した。土師質土器皿は大小２法量が確認できる。

SX187（155～157）

155は土師質土器皿のＤⅠ類である。156・157は珠洲焼の擂鉢で、ともに口縁内端面が面取りされ、156は稜を有する。156はⅤ期、157はⅥ期の所産である。このほか土師質土器皿ＣⅡ類なども出土した。

SX188（158）

158は越前焼の壺だろうか。このほか珠洲焼の甕なども出土した。

SX214（159）

159は弥生後期～古墳前期の甕で有段の口縁には擬凹線がめぐる。このほか須恵器の坏なども出土した。

SE236（160）

珠洲焼の擂鉢を１点図示した（160）。

SX321（161・162）

161・162はともに土師質土器皿で、ＣⅡａ類（161）、ＣⅡｂ類（162）に分類される。このほかＣⅠ類も出土した。土師質土器皿は大小２法量が確認できる。

SX322（163・164）

163は鎬蓮弁文が施される青磁盤で、口縁部は外反する。13世紀末～14世紀初頭に比定しておく。164は土師質土器皿のＣⅡａ類である。このほか土師質土器皿のＣⅠ類も出土した。

SX326（165）

土師質土器皿を1点図示した（165）。ＣⅡｂ類に分類できる。

SX408（166）

土師質土器皿を1点図示した（166）。ＣⅡｂ類に分類できる。

SK445（167～194）

167～169は珠洲焼で、167はⅢ期の甕、168はⅣ期の擂鉢である。170は蓮弁文が施される青磁の碗である。内底面に双魚文が確認でき、高台断面は三角形を呈する。ＢⅠ'類に分類する。14世紀中葉の所産である。土師質土器皿はＣⅠａ①類（171）、ＣⅠｂ①類（172～176）、ＣⅡｂ類（177～194）が確認でき、稜が不明瞭な皿が目立つ。このほか土師器の碗（古代）、須恵器の坏、珠洲焼の甕なども出土した。

SX462（195）

青磁の碗を1点図示した（195）。Ｂ類に分類できようか。14世紀代に比定しておく。このほか土師質土器皿のＣⅠ類なども出土した。

ピット出土の土器・陶磁器類（196～211）

ピット出土の土器・陶磁器類を一括して記述する。201は古墳前期の高坏である。196は10世紀の土師器の碗で、外底面に糸切り痕が残る。198はⅢ期頃の珠洲焼の甕であろうか。土師質土器皿はＣⅡａ類（197）、ＣⅠａ①類（199）、ＣⅠａ②類（208）、ＣⅡａ類（211）の4点を図示した。

204・209は鎬蓮弁文が施される青磁の碗で、ＢⅠ類に分類される。13世紀末～14世紀初頭の所産である。200は青磁の端反碗で、Ｄ類に分類できる。14世紀の所産である。207は口縁部が内湾する青磁碗Ｅ類で、口縁端部は肥厚する。15世紀前半に位置づけておく。206は白磁の皿で、口縁端部は面取りされ、平坦になる。203は白磁の合子蓋で、内面には施釉されない。

3）包含層出土の土器・陶磁器類（図版27　212～220）

包含層出土の土器・陶磁器類は種類ごとに記述する。

土師器（213）

213は土師器の碗で、外底面には糸切り痕が確認できる。10世紀初頭の所産である。

須恵器（212）

須恵器は甕を1点図示した（212）。

青磁（214～216）

214の器種は盤で、163と同じ器形となる。215は碗で、ＢⅠ類に分類できる。214・215ともに鎬蓮弁文が認められ、年代は13世紀末～14世紀初頭に比定する。216もＢ類に分類しておく。

白磁（217～220）

217は口禿の口縁を持つ皿Ⅸ類で、13世紀中葉～14世紀初頭の所産である。218は内底面が蛇ノ目状に釉剥ぎされる皿Ⅲ類で、12世紀中葉～後半の所産である。外底面に炭化物が付着する。219は白磁の碗で、高台内は施釉されない。外面は体部と高台の境付近まで施釉され、一部高台まで釉がかかる。220は白磁の皿であろうか。口縁部にのみ施釉される。

B 木 製 品（図版28～31 237～306）

木製品は井戸や土坑からの出土がほとんどである。杭類を除けば、漆器椀や皿、箸などの食膳具や折敷や柄杓、曲物などの容器類が大半を占める。漆器類では、完形のものは少ないものの、中世漆器の特色となる赤漆で文様が描かれた漆絵漆器の割合が高い。文様は、藤模様や唐傘模様のように繊細なものからダイナミックな植物模様まで様々である。以下、主な遺構ごとに報告する。

SE9（237～242）

237は漆器椀である。身が深く強く内湾しており口径は14cmと大きめである。高台は低い。内外面黒色漆地に赤色漆で植物文が描かれている。238は漆器皿である。丸底で口縁部は欠失している。内外面黒色漆地に赤色漆で植物文が描かれている。239・240は曲物側板である。239は内面は約1cm間隔でケビキが認められる。外面は斜めに線状痕が数本認められる。240は釘結合曲物の側板である。木釘穴が3か所見られる。241は俵編み機である。周囲を面取してある。片側半分が欠損している。242はV字状の切り込みが2か所ある。厚さはほぼ均一である。全面がこげており両端が欠損している。使途不明であるが部材の一部と思われる。

SE111（243～244）

243は御膳の脚部である。精巧な作りであり、全面黒色漆塗りである。上端部表面に赤漆が残っていることから膳の表面の部分は赤色漆が塗られていたと思われる。244は箸。長さ20.9cmで周囲に面取を施し断面は隅丸長方形を呈する。両端を尖らせてある。

SE125（245～247）

245～247は漆器椀である。245は身が深く強く内湾しており、口径は13cmである。内外面とも黒色漆地に赤色漆で唐傘文が描かれている。文様は精巧に描かれており赤色漆の色も鮮やかである。高台ははがれており高さは不明である。246は高台の一部が残存するがすり減っている。口縁部も欠失している。内外面とも黒色漆塗りで見込みに赤色漆で舟（？）の文様が描かれている。247は口径は、大きく19.4cmを測り、身は緩やかに斜上方に開いている。高台はなく丸底と思われる。内外面とも黒色漆地に赤色漆で藤の文様が描かれている。245と同様精巧に描かれており赤色漆が色鮮やかである。

SK143（248・249）

248と249は同様の部材と思われる。断面約4cmの方形を呈する角材で、一辺約2.5cmほどの方形の穴が8cm間隔で2か所見られる。

SE205（250～256）

250～253は折敷である。250は周縁に木釘穴が4か所見られる。内2つは2列に並んでいる。表面は、多数の線状痕が見られ俎板に転用されたものと考えられる。251は周縁に木釘穴が2か所見られる。留め皮が残存している。線状痕も見られる。252は周縁に4か所、側面に1か所、計5か所の木釘穴が見られる。多数の線状痕が見られ俎板に転用されたと考えられる。数か所にこげ跡も見られる。253は木釘穴が1か所、周縁部には止め皮の穴が2か所見られる。止め皮も一部残存している。線状痕が見られ他の折敷同様俎板に転用されたものと考えられる。254～256は椀である。254は内面、黒色漆地に赤色漆塗りで、外面は黒色漆地に赤色漆で文様が描かれている。総高台で底面部まで黒漆がしっかり塗られているが、かなりすり減っている。口縁は欠失している。255は丸底椀で轆轤痕が見られる。唯一漆が塗られていない。256は内外面黒色漆塗りで、見込みに赤色漆で文様が描かれている。245や247の漆椀

の文様と違い、大胆なタッチの文様である。丸底高台であり、高さはすり減っており不明であるが、幅は厚くしっかりしている。

SK206（257・258）

257は釘結合曲物の底板である。木釘穴が周縁に1か所、側面に3か所、計4か所見られる。258は箸。周囲を面取りし、断面形は円形に近い。片端が欠損しているため実際の長さは不明である。先は尖らせてある。

SK223（259）

259は箸。周囲を面取りしてあり、断面形は隅丸方形に近い。長さは23.3cmを測り、両端を尖らせてある。

SK224（260・261）

260・261は漆器皿である。ともに内外面とも黒色漆塗りである。261は口縁部が欠失しており高さは不明。見込みに赤色漆で文様が描かれている。

SK227（262～264）

262～264は箸。長さ19～20cm。周囲面取りし断面は方形（263）または長方形（262・264）を呈する。すべて完形に近く両端は尖らせてある。

SK232（265）

265は部材と思われる。断面の一辺が4cmの角材に約3.5cmの方形の切り込みが2か所見られる。先端部にこげ跡あり。

SE236（266）

266は部材と思われる。表面に5cm×3cm、深さ1.5cmほどの隅丸長方形の凹が見られる（突き抜けてはいない）。また、加工痕の形状から同様の穴が左端にもあったものと推察される。

SK239（267）

267は曲物の柄杓である。身のみとどめる。側板の綴じ合わせは1か所。1列内2段綴じ。側板の対応位置に柄孔を開けるが、綴じ合わせ部分の孔が大きく上寄りにあり、対応する中位の孔は小さい。底板との結合は、木釘穴がないことから木釘は使われていなかったと思われる。

SD301（268）

268は底板である。側面には底板同士を継ぎ合わせるための隅丸形を呈する木釘穴が2か所あり、木釘の一部が遺存する。厚さはほぼ1cmほどある。

SK402（269～271）

269は底板である。周縁部側面は裏面に対して斜めに削られている。また、側面に木釘穴がないことから側板との結合には木釘は使われていなかったと思われる。表面に漆が付着している。270は板材の一部と思われる。両端とも切断と思われる切り跡痕が多数見られる。厚さが4.2cmもあることから礎板の可能性もある。271は木杭の先端部分である。6面にカットされている。

SE407（272～274）

272は漆器椀である。歪みはあるがほぼ完形に近い。内外面とも黒色漆塗りである。文様は認められない。高台は欠失しており、外面底部の漆も剥離されている。273は曲物の側板である。径は30cmを超える大型の曲物である。底板は遺存しない。側板の綴じ合わせは1か所。2列内4段綴じである。側板下部に木釘穴と思われる穴の一部が数か所に見られる。274は断面ほぼ方形の板材である。先端部にこげ跡が認められる。

SE432（275・276）

275・276は曲物の底板である。275は一端が欠損しており、剥離が進んだのか表面の凹凸が激しい。周縁部に1か所こげ跡が見られる。276は釘結合曲物の底板である。一端が欠損しており表面の凹凸も激しい。側面に木釘痕が1か所見られる。

SK434（277～280）

277～279は曲物の底板である。277は側面に木釘痕が1か所見られる。表面の一部と裏面全体にこげ跡が見られる。278は底板両側面に底板同士を繋ぎ合わせるための方形の木釘痕が計5か所見られる。周縁部側面にも方形の木釘痕が4か所見られる。表面に線状痕が数本認められる。裏面は全面こげ跡を残す。279は表面の中央付近に孔1つ、側面に木釘穴が1か所見られる。280は曲物の柄杓である。身のみとどめる。側板の綴じ合わせは1か所。1列内2段綴じと思われる。綴じ合わせ部分の反対側中央やや下寄りに小さな孔が認められる。この孔を補強するために樺皮が利用されている。欠損しているが、側板の対応位置上寄りに柄孔があったものと思われる。底板との結合は、木釘穴が認められないことから木釘は使われていなかったと思われる。

SE435（281～294）

281は木札である。上端が圭頭状に加工されており、上部中央に小さな孔が1つある。厚さは0.1cmとごく薄く作られている。下部が欠損しており文字などは認められない。282・283は漆器椀である。282は変形が激しい。内外面とも黒色漆塗地に赤色漆で植物文が描かれている。轆轤整形痕を残す。身は緩やかに斜上方に開いている。高台は低い。283はほぼ完形である。282同様外面黒色漆地に赤色漆でダイナミックに植物文が描かれている。内面は、赤色漆塗り。身は内湾し高台は低い。底外面の高台縁から中心部に向かって1cmほど＝線が彫り込まれている。284～286は曲物の底板である。284は周縁部にほぼ等間隔で断面方形の孔が3つ穿たれている。裏面にこげ跡を残す。表面に線状痕がある。285は周縁部側面に底板と結合するための木釘穴が2か所、底板同士を結合するための木釘穴が3か所見られる。表面には周縁部に沿って4つの孔が見られる。286は表面に大きさ、断面形とも不揃いの孔が5つ見られる。287・288は下駄である。287は台部が長円形の露卯下駄である。すべての緒穴は丸く、前緒穴はほぼ中央に、横緒穴は後歯より前方に開けられた前穴式である。歯を装着するための穴は前後2穴ずつある。歯は穴部分のみ残存している。288は連歯下駄である。前緒穴は前歯の直前中央に、横緒穴は後歯より前方に開けられた前穴式である。表面はすれて滑らかである。289は柱根である。芯持丸材で断面形は楕円形である。下端木口は手斧痕を残す。その木口はほぼ平坦である。上端は意図的に切断されたものと思われる。290～292は杭である。ともに芯持丸材で断面形は丸形である。特に291は鋭く先端が尖っている。290は、先端部が切断され尖っていない。293は上部のＹ字形部分を利用したものと思われる。両先端部はほぼ同じ長さで丁寧に切断されている。下部欠損のため長さは不明である。294は木札である。両端からそれぞれ5cmほどの所の左右両端に切り込み痕が見られる。幅は、2～3cmと細長台形状に広くなっている。厚さは0.6cmでほぼ均一である。使途は不明である。

P2I99（295～297）

295は上部に五輪塔をかたどったと思われる切り込みが認められる。魔除けの言葉である「蘇民将来」と推察される墨書が認められるが、表面が平らに削られておりはっきり判読できない。上部中央部に孔が1個見られる。下部は欠損している。296は柱根である。芯持丸材で断面形は丸形、下端木口は平坦である。上部は炭化している。297は芯持丸材の杭の先端部である。

包含層出土（298～306）

298はへら状の板材である。上部を大きく面取してある。先端部にこげ跡を残す。299・300は杭である。299は先端部を鋭く3面に削り取ってある。上部は自然木のまま利用してある。300は杭である。両端は荒い手斧痕があり、尖っている。表面には斜めの線状痕が多数見られる。301はこまである。全体の2／3ほどにこげ跡を残す。表面全体滑らかに削られている。下部の先端部（回転軸）は欠失している。302は板材の一部と思われる。303は杭である。先端部は、大胆に切断され、鋭く尖っている。304はほぼ中央に径2.5cmほどの孔を有する部材の一部と思われる。半分ほどが欠損している。305・306はともに木札の一部と思われる。表面は滑らかであるが裏面は凹凸が激しい。厚さは0.4cmと薄い。

C　石　製　品（図版32～34　307～333）

SK21（307）

石錘である。平面が楕円形の偏平礫で、石材は安山岩である。礫長軸の両端を剥離した打欠きの石錘である。

SK42（308）

1組をなす茶臼である。上臼、下臼とも遺存状態は不良である。上臼の下面の目は、不明瞭ではあるが六分画のパターンと思われる。側面には挽き木を差し込んだと思われる留穴が認められる。石材は細礫岩である。下臼は受皿の端部のみで、石材は細礫岩である。

SK89（309）

粉挽き臼の上臼である。使用により下面がかなり摩り減っており、目は不明瞭になっているが、六分画のパターンと思われる。側面には挽き木を差し込んだ留穴が認められる。石材は安山岩である。

SK90（310）

砥石である。角柱状を成し、砥面は主に3面で、それぞれに刃砥ぎの線状痕が付く。上端の欠損面にも線状痕が見られることから欠損後も機能したものと思われる。石材は凝灰岩である。

SK108（311）

凹石である。円形の偏平礫を素材とする。正・裏面中央に浅い凹を持つ。正面には煤が付着している。

SD301（312）

栓状を呈する石製品である。用途不明。金属器と考えられる刃で全面を細かく削り取っている。その後に一部研磨が施されていることから、石製品の製作途中品と考えられる。石材は凝灰岩である。

SK423（313）

砥石の欠損品である。砥面は主に正裏の2面である。上端面は内湾状の切り出し面で、その後若干の砥面としても利用している。石材は凝灰岩である。

SE432（314）

下端を欠損する砥石である。砥面は4面である。正面と両側面には、幅7mm前後、深さ3mm前後の断面U字形の溝状の砥面がみられる。席題は凝灰岩である。

SK445（315）

鍔付きの石鍋で滑石製である。口縁部約75％、体部約20％、底部約30％残存する。法量は口径18cm、底径10.6cm、器高7.6cm、重量545gである。厚さは、底部、体部ともほぼ同じで1cm、口縁部のみやや薄く0.7cmくらいである。外面はタテケズリが施され、ケズリ面は2段に分かれる。ケズリ

幅は約0.5cmである。内面はタテケズリの後、滑らかに磨かれている。鍔は断面台形で口縁から1.3cm下に付いている。鍔の厚さ0.6cm、付け根幅1cm、先端幅0.6cmである。

Pit2M64（316）

板状の砥石である。砥面は主に正裏面と両側面に存在するが、上下端部と右側面下半には、刃砥ぎの線状痕が深く付いている。石材は凝灰岩である。

Pit3J75（317）

方形柱状の砥石である。砥面は主に4面。正面下半の破砕面も部分的に使用している。石材は凝灰岩である。

Pit3M9（318）

厚手扁平の礫を素材とした砥石である。半分以上欠損し被熱している。片面の一部に磨痕が見られる。石材は安山岩である。

遺構外出土

石鍋（319～321）

319は体部である。厚さは約1cmである。外面はタテケズリが施され、ケズリ面の幅は約5mm程度である。内面はタテケズリが施された後に滑らかに磨かれている。滑石製である。320は口縁部である。厚さは約1cmである。内外面ともにヨコケズリが施された後に滑らかに磨かれている。正面右側の口縁部の端にケズリが施されていることから、方形の孔があけられていたものと推定される。滑石製である。321は口縁部である。外面はタテケズリが施される。口縁部はヨコケズリが施される。正面左側の口縁部に径約1cmの孔があけられている。滑石製である。

岩偶（322）

偏平礫を素材とする。片面の一部に磨痕がみられる。上部に2本一組の沈刻が2組並走する。右側面と扇状の下端には敲打痕がみられる。石材は輝緑岩である。

砥石（323～325）

323は角柱状で、砥面は4面である。324・325は角柱状で、研磨面は3面である。324は側面に細い刃研ぎの線状痕が付き、上端面は切り出し痕が残る。325の左側面と裏面は部分的な使用に留まり、上端面には、切り出し痕が見られる。石材はすべて凝灰岩である。

用途不明品（326）

未加工の自然礫片面に一条の溝が見られる。石材は安山岩である。

磨石類（327・328）

327は長さ16.3cm、幅13.4cm、厚さ6.6cmである。裏面中央部に敲打痕が見られる。全面に煤が付着している。328は長さ11.1cm、幅7.6cm、厚さ4.1cmである。正裏面の一部に磨面を持つ。

薬研（329）

1／2を欠損する。孔径2cm×2cm、厚さ3.2cm、重量は209gである。周縁部に磨痕がみられる。石材は安山岩である。

磨製石斧（330）

縄文時代の定角式両刃の磨製石斧刃部片である。両側面には敲打痕が明瞭に残る。石材は輝緑岩である。

その他（331～333）

331は有孔石製品である。正裏面剥落により一部を欠損する。孔径は正面で0.5cm、裏面に向かってやや広がる。正面と側面は滑らかに磨かれている。正面上部に約0.2cm幅で横方向に穿孔された痕跡が認められる。石材は泥岩・凝灰岩である。332は側面に刻み文様のある滑石製の石製品。一部を欠損する。表面、側面とも滑らかに磨かれ、破片を横断するように擦り切り状の線刻が施される。333は石鏃未成品と考えられる。正裏面に礫面を残すことから、扁平礫を素材とし、正裏面の周辺から二次加工が施される。

D　土　製　品（図版34　334～340）

土製品は、土人形1点、土錘12点が出土している。出土分布は、土錘1点を除き、5～9Iラインから9I～Nライン（50m×60m）の包含層（Ⅲ～Ⅴ層）である。この範囲内は、方形居館を囲むSD301の外側に位置し、居館に関連する遺構密集地区ではない。しかし、性格不明の溝状遺構が検出されている調査地区である。特に、土製品が出土した9Mグリッドでは、遺構検出面で風倒木と推定される松の大木が検出されている。

土人形（340）

9M13グリッドの包含層（Ⅲ層）から出土している。型押し成形によるもので、頭部が欠損し、左肩口から中央部にかけて人為的に分割したと思える状態で検出されている。笏を持った束帯姿の文官人形と思われるが、表右腕下部に削り落とした痕跡、左側部分には剥離した痕跡が確認される。大きさは、高さ3.5cm、幅（左腕～右腕）4.3cm、厚さ1.5cmである。底部は3.0cmであり、中央部に直径0.4cm、奥行き1.6cmの有穴が確認されている。胎土は灰白色であり、内側は、灰黒色の焼ムラが残る。

土錘（334～339）

土錘は、方形区画内西側先端部の土坑から出土した1点以外は、方形区画溝西側（方形区画外側）の6I～7Nの包含層（Ⅲ～Ⅴ層）から出土している。形態は大部分が卵形であり、中心に孔（直径1.5cm、1.1cm、0.7cmの3種類）がある管状土錘［和田1985］である。焼成は良好であり、かたくしっかりとしている。胎土は、褐色などの土粒を多く含んでおり、橙色を呈しているものが多い。大きさにより3種類に分類される。

大型（334）は、長さ8cm、最大径4.5cm、穴径1.5cm、重さ127.0kgである。卵形であり、かたくしっかりとしている。胎土は褐色などの土粒を多く含み、橙色ないし、薄い橙色である。

中型（335～338）は、長さ5.0cm前後、最大径3.5cm、重さ60g前後である。穴径は、1.1cmと1.5cmの2種類が検出されている。形は、球形、卵形、管状形であり、かたくしっかりとしている。胎土は、褐色などの土粒を多く含み、薄い橙色である。

小型（339）は、長さ4.5cm前後、最大径2.5cm前後、穴径0.7cm、重さ30g前後である。卵形であり、かたくしっかりしている。胎土は褐色などの土粒を多く含み、薄い橙色を呈している。

E　金 属 製 品（図版35　341～362）

武具（341～343）

小刀2、刀の鍔1、がある。小刀は腐食が激しく、全体の様子はわかりづらい。断面は二等辺三角形を呈している。鍔は4M区の道状遺構周辺のⅢ層からの出土である。切り込みも鮮やかなものである。戦国期のものか。

装飾品（344・346・347）

帯金具と飾り金具がある。344は帯金具の先端部である。裏に擦り傷があり、赤銅の原色が認められ

る。飾り金具は、円形の断面半球形を呈するもので、中央に孔が開けられ、ここに釘を打ち付けたものと考えられる。銅さびが認められる。

工具（351）

ゲンノウ状の角柱の中央に穴が開けられたものである。左右端面には叩かれたような痕跡は認められず、何に使用されたかは不明である。

楔（354～355）

長軸5cmで台形状を呈する。断面は下端先端部が薄くなるもので、楔と判断した。上端には叩かれて、まがった部分が認められる。

針状金具（345）

U字形に湾曲したもので右側先端は細くなる。断面は隅丸方形を呈し、角柱状の棒を折り曲げ、両先端を磨いて尖らせたものと思われる。糸尻は欠損している。

釘状（358～361）

角柱状の長さ10cm前後のものの上端を折り曲げて肥厚させ頭部としたものである。

棒状金具（352・353）

幅0.7cm、厚さ0.6cm、長さ13.4cmの棒状のものの両端を折り曲げたもので、両端の輪の部分に何かを引っ掛けた釣手と考えられる。もう一点幅1.1cm、厚さ0.9cm、長さ17.9cmの鉄の棒で上端が肥厚し、下端の先端が細くなるもので、重量感があり、硬質である。馬鍬の先歯とも考えられる。

板状金具（356・357・362）

厚さ5mm前後の板で長さ3cm以上のものがある。楔もしくは釘である。

嗜好品（349・350）

キセルが3点出土している。そのうち2点を図示する。いずれもⅡ層からのものである。キセルの形式から16世紀代のものと推定される。いずれも青銅製品で、外面に錆が付着している。

F　製鉄関連遺物（図版35　363～376）

製鉄関連遺物には鉄滓と羽口がある。調査区西側のⅢ・Ⅳ層を中心として、5ラインまでの広い範囲から出土している。数量は約360点であり。ほとんどは鉄滓である。製鉄に関する遺構は検出されなかった。近接する地区に製鉄関連遺構が存在していたかも知れない。

羽口（363・364・366）

3点図示する。いずれも細片となっており、全体がわかるものは少ない。口径や厚さから、径12cm前後の小形のものと考えられる。いずれも砂の混入が多いものである。366は外部上面に光沢のある鉄分が付着する。

鉄滓（365・367～375）

椀形滓と流出滓がある。365・367～370が椀形滓、371～376が流出滓である。

G　銭　　貨（図版27　221～236）

合計23枚が検出された。そのうち各年号の種類の異なるものを図示する。天聖元寶から寛永通宝まで12種16枚である。初鋳造年代から11世紀以前と15世紀以後であることが分かる。

第Ⅵ章　自然科学分析

下沖北遺跡から出土した木製品などの樹種

はじめに

下沖北遺跡は、鵜川右岸の沖積地に位置する。今回の発掘調査により、中世（13～14世紀）の堀に囲まれた掘立柱建物跡、井戸、柵などの遺構が検出されている。これらの遺構からは、土器類のほか、鉄滓、羽口、銭貨、砥石、木製品などの遺物が出土している。また、掘立柱建物跡の柱穴の一部では、柱根が残存している。

今回は、出土した木製品や柱根の樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得る。

1　試　　料

試料は、木製品や柱根40点である。このうち、287は、差歯下駄で台と歯から試料を採取した。したがって、合計点数は41点である。試料の時代は、すべて中世である。

各試料から5mm角程度のブロックを採取して試料としたが、完形品などでは遺物の破壊を最小限にするため、直接切片を採取した。また、247と296の2点は、炭化部分から試料を採取した。

2　方　　法

ブロック試料は、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製する。作製した切片及び製品から直接採取した切片を試料別にガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察し、木材組織の特徴から種類を同定する。

炭化部分から採取した2点については、常温で乾燥させた後、実体顕微鏡で観察し、木材組織の特徴から種類を同定する。

3　結　　果

樹種同定結果を別表5に示す。木製品は、針葉樹3種類（マツ属複維管束亜属・スギ・ヒノキ）と広葉樹9種類（ブナ属・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ケヤキ・ヤマグワ・モクレン属・ヤブツバキ・トチノキ・タラノキ）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　マツ科

軸方向組織は仮道管と樹脂道で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。放射組織は仮道管、柔細胞、樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。柔細胞の分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞が晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑ら

か。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher） ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ブナ属（*Fagus*） ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2～3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔及び階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性～異性Ⅲ型、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*） ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.） ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3～6列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino） ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret） クワ科

環孔材であるが、春材部の組織がほとんど観察できなかったため、孔圏部の状況は不明。小道管は、塊状に複合して接線・斜方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・モクレン属（*Magnolia*） モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独及び2～4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～2細胞幅、1～40細胞高。

・ヤブツバキ（*Camellia japonica* L.） ツバキ科ツバキ属

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独及び2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性Ⅱ～Ⅰ型、1～2細胞幅、1～20細胞高で、時に上下に連結する。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume） トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高で階層状に配列する。

・タラノキ（*Aralia elata*（Miq.）Seemann） ウコギ科タラノキ属

環孔材で、孔圏部は2～4列、孔圏外小道管は、2～3列が接線状に紋様を描きながら長く連なる。道

管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、道管内腔にはチロースが存在する。放射組織は異性、1～6細胞幅、5～60細胞高で鞘細胞が認められる。

4 考　　察

今回調査対象とした木製品は、建築・土木材（柱根・杭）、生活用具（漆椀、木皿、曲げ物、はし）、履物（下駄）など多岐に渡る。折敷、板、曲物、木札など、板状の加工を施す製品には針葉樹が多く見られ、とくにスギの利用が目立つ。これらの木製品では、一部の試料を除いて、ほとんどが柾目板を利用している。スギは、木理が通直であり、割裂性が高いために板の作製が容易である。また、耐水性も比較的高いことから、これらの材質が利用された背景に考えられる。新潟県内では、浦廻遺跡や蔵ノ坪遺跡でもスギの多い結果が得られており［パリノ・サーヴェイ株式会社2002 未公表資料］、同様の木材利用が県内の沖積平野を中心に広い範囲で見られた可能性がある。スギは、滴湿地を好むことから、遺跡周辺の沖積地などに生育しており、木材の入手が容易であった可能性が考えられる。

容器類（漆椀、椀、皿、木皿）は、観察した範囲では全て横木取りの加工である。樹種は、クリ、モクレン属、ケヤキ、タラノキ、ブナ属が認められ、ケヤキやブナ属が多い傾向がある。ケヤキやブナ属は、近現代の民俗事例でも椀や皿に利用される種類である［農商務省山林局1912；橋本1979］。浦廻遺跡でも同様の結果が得られており、容器類にはケヤキやブナ属を主とした木材利用が行われていたことが推定される。曽根遺跡、岩田遺跡、蔵ノ坪遺跡の古代の容器類でも同様の結果が得られていることから［川村1983、越路町教育委員会・パリノ・サーヴェイ株式会社1992、パリノ・サーヴェイ株式会社2002］、同様の木材利用が古代まで遡ることが推定される。

下駄は、台と歯を一木で作る連歯下駄と、別材で作る差歯下駄とがある。連歯下駄は台表が板目となる木取りであった。差歯下駄は、歯をはめるホゾが台表まで貫通している露卯の差歯下駄で、台表が柾目であった。連歯下駄はヤマグワ、差歯下駄は台と歯共にモクレン属に同定された。新潟県内における下駄の木材利用については、浦廻遺跡での調査例があり、連歯下駄と差歯下駄にスギとモクレン属が認められている。モクレン属については、中世の下駄が多数出土した草戸千軒町遺跡でも確認されている［パリノ・サーヴェイ株式会社1997a・2001］。草戸千軒町遺跡では、差歯下駄の台と歯の組合せについても調査されているが、台がモクレン属の場合には歯も全てモクレン属であり、今回の結果とも一致している。

柱根は、アカガシ亜属とクリであった。いずれも重硬で強度の高い材質を有し、クリでは耐朽性も高い。県内で行われた調査例では、古代の柱材などにクリが多数確認されている［パリノ・サーヴェイ株式会社1997b・2000・2002］。この結果は今回の結果とも一致しており、強度や耐朽性を考慮した木材利用が推定される。アカガシ亜属は、暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、県内の調査例ではこれまでほとんど出土した例が無い。しかし、柏崎市も含めて新潟県南部の日本海沿岸地域には、アカガシ亜属などの常緑広葉樹の生育が確認されている［宮脇1985］。本遺跡では、同じく暖温帯常緑広葉樹林に生育するヤブツバキも杭に確認されている。これらのことを考慮すれば、周囲に常緑広葉樹が生育していたことが推定され、その木材を柱材などに利用したことが推定される。

柏崎市では、刈羽大平・小丸山遺跡で弥生時代～古墳時代の花粉分析が行われており、海岸沿いの平野部に常緑広葉樹のアカガシ亜属とコナラ亜属、ケヤキなどの落葉広葉樹が混交し、山地にはブナ属を主とした植生が見られたことが推定されている［パリノ・サーヴェイ株式会社1985］。この植生は、今回の樹種同定結果とも矛盾しない。しかし、中世における古植生の実態については詳細が不明である。また、

中世であれば、周囲に生育していた樹木の他に、他地域から木材が搬入されている可能性もある。そのため、今後古植生調査や文献史料による調査を行い、古植生や流通状況なども含めて総合的に木材利用を検討する必要がある。

引用文献

橋本鉄男　1979　ものと人間の文化史31　ろくろ．444p.，法政大学出版局．

川村恵洋　1983　曽根遺跡出土木材の識別．新潟大学農学部演習林報告，16，p.75-82．

越路町教育委員会・パリノ・サーヴェイ株式会社　1992　越路町文化財報告書第19輯　岩田遺跡出土遺物　自然科学分析報告書．33p.

宮脇　昭編　1985　日本植生誌　中部．604p.，至文堂．

農商務省山林局編　1912　木材ノ工藝的利用．1308p.，大日本山林會．

パリノ・サーヴェイ株式会社　1985　柏崎市小丸山遺跡試料花粉分析及び樹種同定報告．「柏崎市埋蔵文化財調査報告書５　刈羽大平・小丸山　東京電力新潟原子力発電所建設地内埋蔵文化財発掘調査報告」，p.313-316，柏崎市教育委員会．

パリノ・サーヴェイ株式会社　1997a　草戸千軒町遺跡から出土した下駄の樹種．「草戸千軒町遺跡調査研究報告１草戸千軒町遺跡出土の下駄」，p.70-86，広島県立歴史博物館．

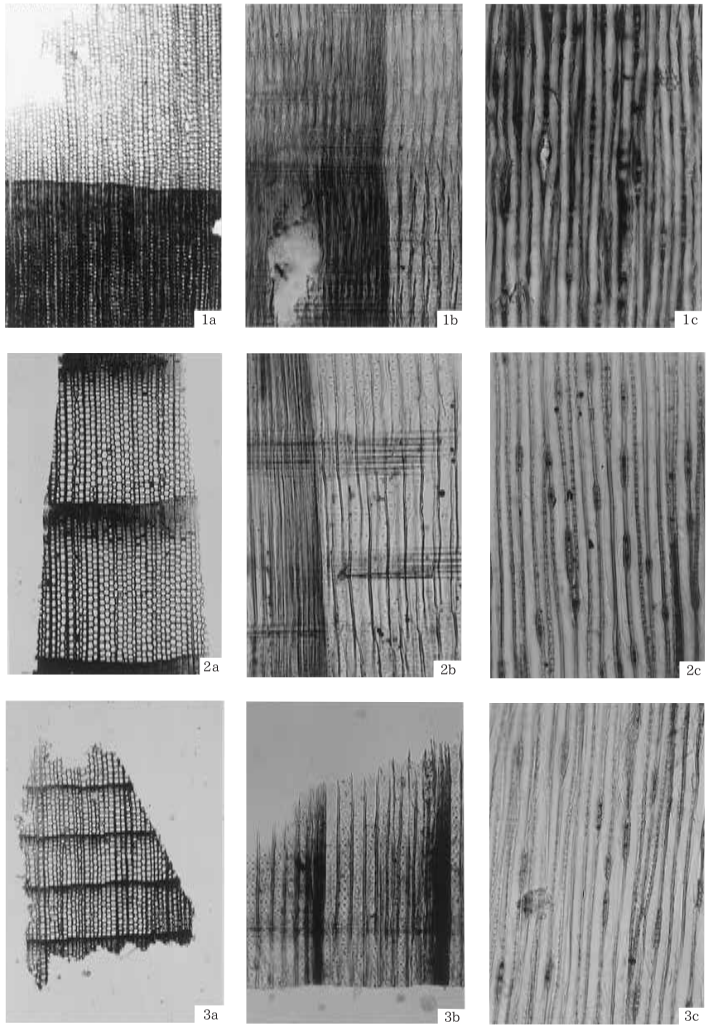
パリノ・サーヴェイ株式会社　1997b　岩田遺跡第２次調査における自然科学分析調査報告．「越路町文化財報告書 第21輯岩田遺跡 第２次発掘調査報告書」，p.18-24，越路町教育委員会．

パリノ・サーヴェイ株式会社　2000　自然科学分析．「吉田町文化財調査報告書 第５集　新潟県西蒲原郡吉田町江添Ｃ遺跡－吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」，p.206-213，吉田町教育委員会・山武考古学研究所．

パリノ・サーヴェイ株式会社　2001　草戸千軒町遺跡から出土した下駄の樹種．「草戸千軒町遺跡調査研究報告５　草戸千軒町遺跡出土の下駄２」，p.15-34，広島県立歴史博物館．

パリノ・サーヴェイ株式会社　2002　蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種．「新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集　一般国道７号　中条バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡」，p.45-59，新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団．

図版1　木材（1）

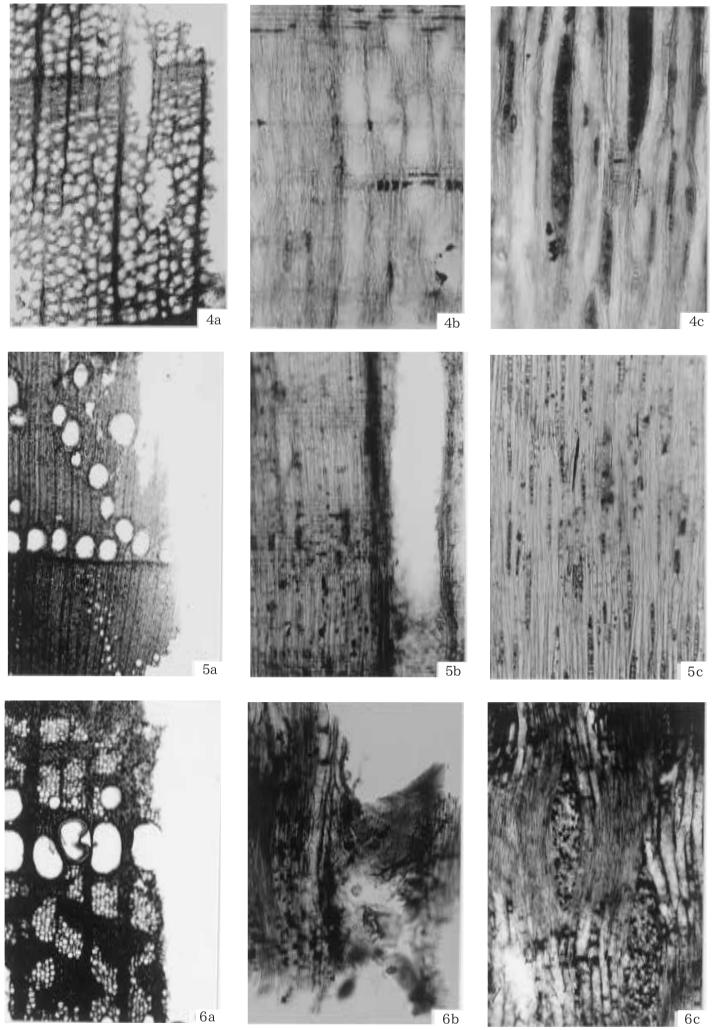


1．マツ属複維管束亜属（実測番号65-31, No.175）
2．スギ（実測番号12-62, No.273）
3．ヒノキ（実測番号5-42, No.228）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm:a
200μm:b,c

第７図　出土木材の顕微鏡写真（1）

図版2　木材（2）

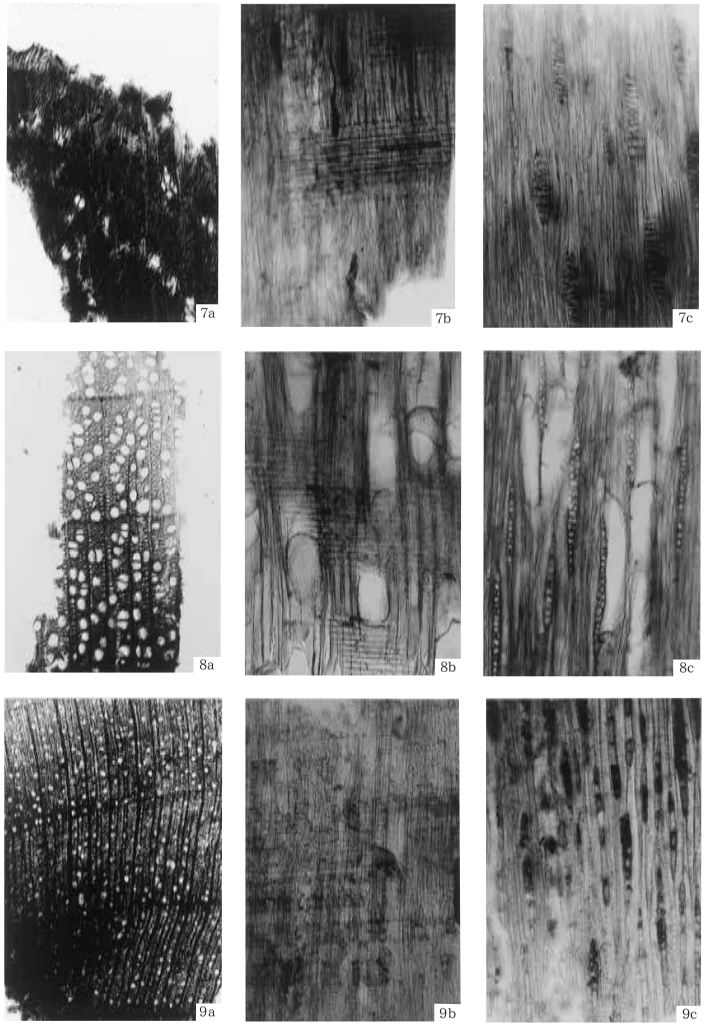


4．ブナ属（実測番号33-67，No.226）
5．クリ（実測番号50-46，No.80）
6．ケヤキ（実測番号28-11）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm:a
200μm:b,c

第８図　出土木材の顕微鏡写真（2）

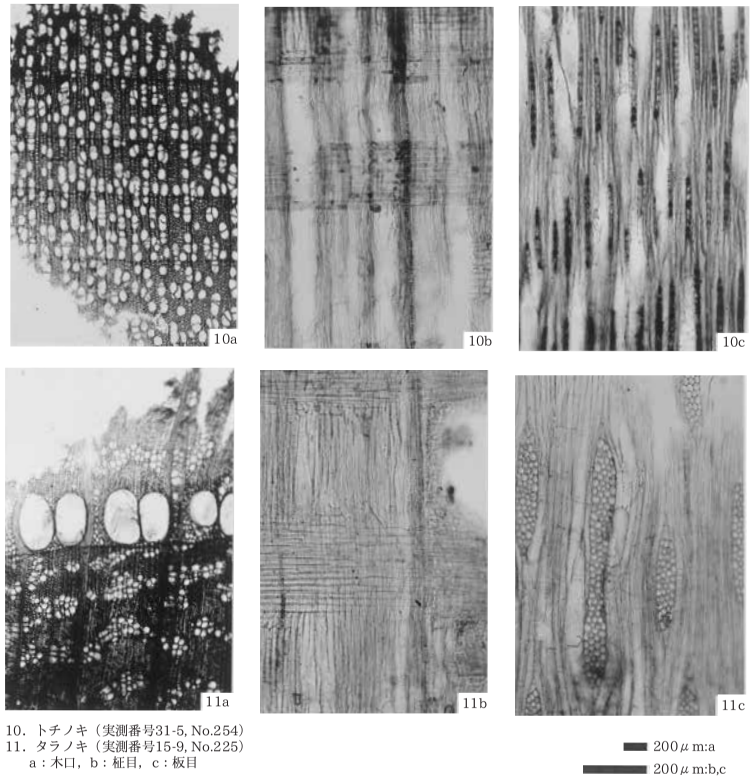
図版3　木材（3）



7．ヤマグワ（実測番号32-57）
8．モクレン属（実測番号34-7，No.242）
9．ヤブツバキ（実測番号47-36，No.261）
　a：木口，b：柾目，c：板目

第９図　出土木材の顕微鏡写真（3）

図版4　木材（4）



10．トチノキ（実測番号31-5, No.254）
11．タラノキ（実測番号15-9, No.225）
　a：木口，b：柾目，c：板目

第10図　出土木材の顕微鏡写真（4）

第Ⅶ章　ま　と　め

1　遺　　構

調査の結果、遺構集中区は、調査区の西側に偏っているが、遺構全体を調査できなかったため、遺構群の構成等不明な部分が多い。遺構の分布では、調査区２～４・Ｆ～Ｎ区のほぼ全域に認められるが、主として2F～2I区2K～3M区周辺に集中する傾向が認められる。

第 1 群　　調査区の北西側　2G区から2I区にかけて地域であり、ここには規模の大きい建物が重複している。また多くの土師質土器を廃棄した方形土坑（SK80）などがある。建物の方向はほぼ東西南北を指す。これらの建物が中心に位置するとすれば、溝に囲まれる範囲は、南北100m、東西60mほどであり、鵜川右岸の範囲に納まることになる。

第 2 群　　中央部2I・3I区　東西棟建物SB267などの大きな建物が存在する。また方形竪穴状遺構SK445などがある地区である。比較的大形の遺構が存在する。また各建物遺構の南側には長軸が同じ方位となる柵列があり、この地区の建物は南側に目隠し板塀などがあった可能性が高い。

第 3 群　　南東部2L・2M・2N・3M区　棟持柱をもつ亀甲状の建物や井戸に匹敵する柱穴を持つ六本柱の建物が存在する。また井戸なども集中する傾向がある。建物遺構は柱穴の状況から、柱穴の深いものは東側に柱穴が20cmほどの径の小さい、深度の浅い建物は西側に分布する傾向がある。特に東側には南北棟の建物規模の大きな遺構が重複して存在する傾向が認められる。

第 4 群　　南部3N区　区画溝SD145の南側である。調査面積が小さく、Ｌ字状の調査区であるため全体については不明であるが、遺構・遺物の出方が他の地域に比べて少ない。

第11図　遺構模式図〔縮尺1/800〕

以上のことから、遺構集中区の中でも、各遺構群の内容について、違いが認められ、それぞれの群によって性格が異なることが看取される。つまり１群には中心的建物の存在する可能性が高い。また２群、３群にはそれらに付随する建物が置かれた可能性がある。特に南東隅には背の高い建物があったことも推測される。集落の中でのある程度の地区割りについては、確認は難しい。

掘立柱建物

掘立柱建物はそのほとんどが東西に長軸を持つ東西棟で、南北棟はほとんど存在しない。ここでは建物遺構の規模と長軸方向の方位を資料から検討した。その結果長軸方向と建物の規模は別表１のとおりである。主軸方向では三種に大別される。Ａ類：主軸を真北にとるもの　傾き角度はN-5°-E～N-5°-W　Ｂ類：主軸がやや西に傾くもの　傾き角度はN-5°-W～N-15°-Wを主として、それ以上西に傾くものも入れる。　Ｃ類：主軸が東に傾くもの　傾き角度はN-5°-E以上東に傾きものとする。

また規模については一間を1.8mとするとａ類二間以下（3.6m未満）　ｂ類二間から四間（3.6～7.2m）ｃ類五間以上（9m以上）の三種に分類できる。

Ａ類a:SB252 SB283 Ａ類b: SB251 SB253 SB254 SB255A SB255B SB256 SB257 SB262 SB264 SB265 SB266 SB282 SB284 SB260 Ａ類c: SB267　17棟

Ｂ類a:SB271 SB276　Ｂ類b: SB268 SB277　4棟

Ｃ類a:SB275 SB278 SB280 SB281 Ｃ類b: SB261 SB273 SB274A SB274B　8棟

以上から、主軸を真北に向けるＡ類が主体であり、その中で２間から４間の間のものが多いことがわかる。これらの地域が区画溝に囲まれた地域で中心的建物が存在していた可能性が高い。これらの地区の北側に祭祀関係の遺構が所在することも中心的建物の性格を反映したものと推定している。

区画溝と道状遺構

区画溝は当初Ｌ字形に遺構を囲むものと推定された。しかし溝の形状の違いと土層断面の観察から、別々の溝であったことが確認された。SD301の南北に直線的に延びる溝は、幅も約3mと一定しており、断面形も箱型で深度約0.7mと一定しているものであるのに対して、東西方向に続く溝SD145は幅も1.7～2.3mと一定せず、SD301に比較してやや小規模である。また西側調査区では南に屈曲して曲がっていることが確認された。断面の形状はSD301と同様な箱形である。しかし覆土はどちらも大きく３層に大別されることと土質が同様であることは同一期に機能していたことを伺わせる。

これらのことから各溝の出来方についてその概略を述べる。まずＬ字に２条の溝がそれぞれ掘削される。このことはその接点で多少の段差が存在することと、幅などについてのそれぞれの規格性の違いから、本来別に掘削されたものと推定した。その後底面に約5cmほどの黒色土が堆積した後、さらに堆積が続く。この段階で周辺にあった遺物などが自然堆積する。その後、南北方向の溝は幅2mほどと深度差30cmほどに整備され、Ｌ字に屈曲せずにさらに南側に延長されて掘られる。この溝がSD220である。この段階では溝はＬ字ではなく、Ｔ字形になっていたと推測する。

このように区画溝と道状遺構が南に延びていることから、周辺にもいくつかの集落が存在しており、それらを道がつないでいたことが伺われる。

井　　戸

井戸は素掘である。平面形態では円形、楕円、隅丸方形など種類は細分されるが、円形のものが主体を占める。井戸の集中する地区における掘立柱建物は比較的大形のものがある傾向が認められる。

出土遺物には土器などのほかに、漆椀や工具などの木製品や磨石などの石製品が出土している。遺物がある土層には炭化物の細粒が混入し、また磨石などは火を受けて煤が付着しているものが多い。井戸への遺物などの廃棄の際の祭祀があった可能性が強い。

2　土器・陶磁器について

A　土師質土器皿について

1）形態と法量

A類はいわゆる柱状高台を有するものを一括した。器形の判明する個体が確認できない。B類は手づくね成形で、口径の大きなⅠ類と小さなⅡ類、口縁端部が面取りされるa類と口縁部が大きく開き、身のやや浅いb類に分類できる。D類はロクロ成形で切り離しが糸切りのものである。口径の大きなⅠ類と小さなⅡ類が確認できる。A・B・D類は個体数が少なく、法量の傾向は明確にできない。

C類は手づくね成形の土師質土器皿のうち、刈羽三島型［品田1997c］と称されるものである。口縁部の形態は、端部が丸く仕上げられ、やや厚ぼったい。口縁部の調整では2段ナデが施されるものが確認できる（57・79・81・84）。2段ナデが施されるものは口径が大きく、稜が明瞭なもの（CⅠa類）がほとんどである。口縁部と底部の境には明瞭な稜が確認できるa類と稜が不明瞭なb類がある。a類とb類の差異は口縁部に施されるナデの強弱に起因する。

法量は口径が大きいⅠ類と小さいⅡ類があり、遺構からの出土状況を考慮すると、Ⅰ類とⅡ類はセットで使用されたものと考えられる。CⅠa類の口径は12～14cm、器高は2.5～4cmが主体となる。CⅠb類の口径は12～13cm、器高は3～3.5cmに主体がある。CⅡa類の口径は7.5～9cm、器高は1.5cm前後、CⅡb類は口径が7～8.5cm、器高が1.5～2cmとなる。大型のもの（CⅠa類・CⅠb類）と小型のもの（CⅡa類・CⅡb類）分布範囲は、それぞれ重複する。ただし出土数にも影響されることだが、CⅠa類とCⅠb類ではCⅠa類の方がより口径は大きい。CⅡa類とCⅡb類では、CⅡa類の方がより口径は大きく、器高はやや低い傾向にある。

CⅠb類には、外底面に凹みのある①類と凹みのない②類が確認できる。CⅠa類で外底面に凹みがあるものは認められない。一方CⅡ類の外底面には、凹みのあるもの、上げ底状を呈するもの、平坦なものが確認できる。今回は、凹みのあるものと上げ底状を呈するものの識別が困難な個体もあることから、分類は行っていない。数量的には両者ともCⅡb類に偏る。これら外底面に凹みのあるものや上げ底状のものは、柿崎町・吉川町・頸城村などの遺跡でも確認できる。それらは身の浅い小皿が主体であるが、凹みの度合いが強く、CⅡb類とは形態を異にする。

2）遺構出土の土師質土器皿C類と共伴する土器・陶磁器類

ここでは、比較的出土量がまとまっているSD145・301、SK80・86、SX171・SK445出土の土師

質土器皿を扱う。SD145とSD301は区画溝となる同一の溝であるため、まとめて記述する。SD145・301からはＢⅠａ類（27～29）、ＣⅠｂ②類（6）、ＣⅡａ類（7・8・35・36）、ＣⅠａ②類（30～33）、ＣⅡｂ類（34・37・38）が確認できる。共伴する土器・陶磁器類には珠洲（9・12～26）や越前（10）、白磁（39）などがある。珠洲はⅡ期からⅤ期にかけて確認できる。越前は15世紀に比定できる。

SK80・86からは、ＣⅠａ類・ＣⅡａ類が比較的まとまって出土した。そのうち2段ナデが施される57・79・81・84はＣⅠａ②類である。SK86出土の土師質土器皿に共伴する土器・陶磁器類は白磁（97）と珠洲で、白磁は15世紀前半の所産であるが、混入の可能性もあるので保留する。珠洲はⅡ期の甕（71）とⅢ期の片口鉢である。SX171からはＣⅠａ類がまとまって出土した。白磁の碗Ⅸ類が共伴する。SK445は中世の竪穴状遺構で、一度廃棄された後構築し直されている。土師質土器皿はＣⅠｂ類・ＣⅡｂ類がまとまっている。共伴する土器・陶磁器類は珠洲と青磁で、珠洲はⅠ・Ⅱ・Ⅲ期の甕（167）、Ⅱ・Ⅳ期の片口鉢（168）である。青磁の器種は碗で、ＢⅠ'類（170）とＤ類に分類できる。また13世紀後半の石鍋（図版33　318）も出土している。

3）変遷と年代

まず越後の土師質土器皿の変遷を確認しておくと、以下のようになる［品田1997c］。

第Ⅰ期…北陸系、ロクロ成形・糸切り、古代から中世の過渡期。

第Ⅱ期…京都系、手づくね成形、12世紀中葉～13世紀中葉。

第Ⅲ期…第Ⅱ期の土師質土器皿を母体とし、在地化が顕著になる。13～14世紀。

第Ⅳ期…関東系、ロクロ成形・糸切り、15世紀代全般

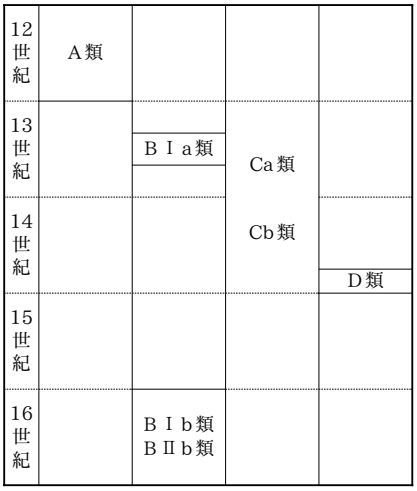
第Ⅴ期…京都系、手づくね成形、16世紀代以降。

柱状高台を有するＡ類は第Ⅰ期12世紀代に位置づける。手づくね成形で、口縁端部が面取りされるＢⅠａ類は京都系の土師質土器皿で、13世紀中葉頃に比定できる。Ｃ類は第Ⅲ期、Ｄ類は14世紀末（第Ⅳ期）、ＢⅠｂ類・ＢⅡｂ類は16世紀代に位置づける。ＢⅠｂ類・ＢⅡｂ類も京都系である。

数量的に多いＣ類の変遷については、稜が明瞭なａ類から稜が不明瞭なｂ類への変遷を想定する。口径の大きいⅠ類と小さなⅡ類は、Ⅰ類・Ⅱ類とも底部が凹む個体はほぼｂ類に限定できること、遺構からも両者が出土することから、セットであると判断する。すなわち、ＣⅠａ・ＣⅡａ類からＣⅠｂ・ＣⅡｂ類への変遷が考えられる。共伴する遺物は、ａ類はSK86では珠洲Ⅱ期・Ⅲ期の片口鉢と共伴し、SX171では白磁の碗Ⅸ類と共伴する。ｂ類はSK445で青磁碗ＢⅠ'類とＤ類、珠洲Ⅱ・Ⅳ期の片口鉢と共伴する。相対的にａ類の方が古い遺物と共伴することからも、ａ類はｂ類より古い様相を呈すると考えたい。同様の指摘は出雲崎町の番場遺跡［坂井1987］、柏崎市の角田遺跡［品田1999］でもなされている。また、Ca類・Cb類はSD301でＢⅠａ類と共伴するが、これはSD301の時期幅と考えたい。SD301は、SD145とともに居住域を区画する溝で、一定の時期幅を有すると考えられるからである。SD301出土の珠洲に時期幅があるのは、その反映と理解できる。Ｃ類の年代に関しては、ａ類は13世紀中葉～14世紀初頭の白磁碗Ⅸ類、珠洲Ⅲ期（13世紀後半）の片口鉢と共伴する。珠洲Ⅱ期（13世紀前半）の甕も共伴するが、甕の耐用性を考えると、ａ類の年代の参考にするのは妥当性を欠く。そのため、ｂ類に共伴する珠洲の甕についても保留する。それ以外では、珠洲Ⅱ・Ⅳ期（13世紀前半・14世紀前半）の片口鉢や青磁碗ＢⅠ'類（14世紀中葉）・Ｄ類（14世紀中葉～15世紀初頭）と共伴する。主に珠洲の年代を考慮し、ａ類は13世紀後半、ｂ類は14世紀前半の年代を考えたいが、共伴遺物に乏しく、またｂ類の年代に関して角田遺

跡［品田前掲］の年代観と若干の齟齬があり、躊躇する。さらに、１つの個体でも稜が明瞭な部分と不明瞭な部分があることからも、ａ類・ｂ類を年代的に分離することはやや無理があるのかもしれない。いずれにしても、ａ類・ｂ類は13世紀後半～14世紀前半の時期幅におさまるものと考えられ、ａ類・ｂ類の差異はその枠内での様相差と理解するにとどめる。

以上、土師質土器皿の変遷をまとめると、Ａ類（12世紀代）、ＢⅠａ類（13世紀中葉頃）、Ｃ類（ａ類～ｂ類・13世紀後半～14世紀前半）、Ｄ類（14世紀末）、ＢⅠｂ類・ＢⅡｂ類（16世紀）となる（第12図）。Ca類・Cb類に関しては、様相差と理解したが、時期差を示す可能性を含んでいる。



第12図　土師質土器皿の変遷

B　下沖北遺跡出土の中世陶磁器類の傾向（別表10）

ここでは中世陶磁器類の傾向をまとめておく。対象は珠洲焼・越前焼・瀬戸美濃・輸入陶磁器（青磁・白磁）に限定する。組成は珠洲焼46.4％、越前焼1.3％、瀬戸美濃7.1％、輸入陶磁器45.2％となる。珠洲焼と輸入陶磁器が高い割合で拮抗し、両者を合わせると90％を超える。珠洲焼の器種は甕・壺・擂鉢の３種が揃う。擂鉢の割合が60％超えるが、甕・壺の体部片も多いことには注意したい。越前焼は壺（ないし甕）・擂鉢が少量確認でき、擂鉢の割合がやや高い。瀬戸美濃は碗皿類が85％を超える。輸入陶磁器も同様に碗皿類の割合が高く、約82％を占める。青磁は蓮弁文が施されるＢ類の碗（43・143・163・170・204・209・214・215）が多い傾向にある。白磁は皿Ⅸ類（70・217）や皿Ⅲ類（218）、碗Ⅴ類（39）などが確認できる。食膳具（碗・皿など）は瀬戸美濃・輸入陶磁器に、調理具（擂鉢など）は珠洲焼・越前焼に偏る。貯蔵具（甕など）はほぼ珠洲焼に限定される。このほか食膳具では漆器が組成に加わる。

次に年代的なことに触れる。まず珠洲焼に関しては、甕はⅡ・Ⅲ・Ⅴ期のもの（9・14・15・53・71・108・167・198）が確認でき、そのうちⅡ・Ⅲ期の甕が目立つ。壺はⅡ～Ⅲ・Ⅴ期のもの（13・109・132）が断片的に確認できる。擂鉢はⅡ～Ⅳ期のもの（16～19・52・103・120・168）が主体となる一方、Ⅵ期に比定できる131は復元率も高く、注意を要する。珠洲焼の主体となるⅡ～Ⅳ期は13～14世紀に比定できる。青磁・白磁は13～14世紀の年代を与えられるものが多い。土師質土器皿のうち数量の多いＣ類は、13世紀後半～14世紀前半に比定でき、珠洲焼などの年代と符合する。遺跡の主体になる時期と判断できる。一方、15～16世紀の様相は把握しにくい。この時期の陶磁器類は、珠洲焼（14・109・131・147・156・157）や越前焼（10・56）、瀬戸美濃（142）、青磁（207）、白磁（97）などが確認できるが、数量的にはあまり多くはない。また瀬戸美濃の多くはこの時期に比定できそうだが、明確ではない。珠洲焼や瀬戸美濃が定量出土していること、青磁・白磁がそれ以前に比べ少ないことなどから、この時期には遺跡の規模が縮小して存続していたものと理解する。

遺跡の主要な時期である13～14世紀では、食膳具は輸入陶磁器（漆器）、調理具と貯蔵具は珠洲焼が主体となる。また15～16世紀は様相が確認しにくいが、食膳具は瀬戸美濃と少量の輸入陶磁器で構成される可能性がある。調理具は珠洲焼と少量の越前焼で占められ、貯蔵具は認めにくい傾向にある。

3　遺跡の性格

下沖北遺跡の平成14年度調査では、溝に区画された内部に30棟近いの建物が確認され、それとともに井戸や土坑の他、方形竪穴状土坑なども検出された。これらの年代は、出土遺物から13世紀から17世紀までの年代幅があるが、前項にあるように、13世紀から14世紀と16世紀以降の2時期が中心となる。なお、周辺には戦国時代のものと推定される琵琶島城跡があるのみで、他の遺跡は調査されていない。また遺跡より南部に位置する鵜川上流の遺跡の内容は、未調査で不明な点が多い。

遺跡は、現状では鵜川の河口から約2km内陸に入った地点で、周辺は沖積地である。鵜川に近接していることから、川の周辺に立地していたことがわかる。鵜川は遺跡周辺で蛇行が顕著に認められる。明治時代の地図や更正図から蛇行の様子を復元したが、遺跡周辺に河道が存在していたと考えられる。

この地区では下方地区小字下沖には、鵜川を挟んで、北に下沖北遺跡、南に下沖遺跡が存在する。どちらも中世の遺跡と考えられている。下沖遺跡の南側には、鵜川右岸に「嶋屋敷」「田屋敷」「上屋敷」などの小字が存在し、その地割をみると、一辺1町以上の広い範囲での方形に類した地割が観察される。また字「嶋屋敷」には遺物も確認されており、中世の遺跡である。更正図でも各遺跡付近の地割には、南北に直線的に地割が確認される。これらの地割の中で今回検出した南北に延びる区画溝とその東側の道状遺構は、大字下方と大字横山の南北方向に延びる境界ラインと重なる可能性を指摘できる。遺構の検出状況からこれらの大字境が遺構密集地と湿地との境界であった可能性などから、地形と更正図の地割が相関関係にあったことが伺い知ることができる。

中世の古文書から、柏崎平野には、11世紀から12世紀にかけて、比角荘・鵜河荘が存在していたことが確認されるが、それらの位置については確定しておらず、その細部は不明な点がある。今回の下沖北遺跡からは、荘園に関することを伺わせる木簡などの資料は検出できなかった。しかし鵜川流域に13世紀代の遺跡が存在することと、「かしわざき」という地名が文献上で確認される日蓮に関する記述から、下沖北遺跡を含む地域に「鵜河荘」の存在していた可能性は高くなっていると考えられる。

それらから更正図などに描かれた屋敷などには、すでに指摘されているように、前述の「屋敷」関連の小字のほかに柏崎市で行った確認調査で茅原遺跡や蓮田などでも1町区画の地割が確認されている［柏崎市1997b］。今回の調査で確認された集落とそれらをつなぐであろう道状遺構の存在から、下沖北遺跡は、下方、上方地区では最も北に位置しており、その南側には下沖遺跡、嶋屋敷遺跡、西田・鶴巻田遺跡や茅原遺跡などの中世遺跡が存在している。今後これらの遺跡との関係を調査・検討していく中で、具体的な遺構・遺物の確認で当時存在していた鵜河荘などの解明がなされると思われる。

要　　約

1　下沖北遺跡は柏崎市大字下方字下沖38-1番地ほかに所在する。鵜川右岸の沖積地、現況は水田で、標高約3mを測る。本書は下沖北遺跡の平成14年度の発掘調査報告である。

2　調査は、一般国道8号柏崎バイパス建設工事に係って実施した。平成14年度の調査面積は、全体面積約21,000m^{2}のうちの西側部分6,500m^{2}である。調査期間は平成14年4月15日から10月31日である。

3　検出された遺構は、溝に区画された内部に、掘立柱建物、方形竪穴状土坑、土坑、井戸、溝などである。遺物は土器・陶磁器、木製品、石製品、金属製品、土製品である。量的には、土師質土器が主体である。木製品、石製品も多い。

4　区画溝は、南北方向と東西方向に交差して、検出された。南北の溝は、さらに南に延長されており、遺跡範囲は、北側、南側に続いている。

5　掘立柱建物・柵列は計32棟が検出された。区画溝の西側に分布する。

6　方形竪穴状土坑は8基が検出された。SK445は一辺4mほどの規模で、東西に並んで検出された。東側が新しいものである。また北側には入り口状の遺構が確認された。

7　井戸は25基確認された。溝に区画された地区の南東部に多く検出された。覆土から、土器のほか木製品などが出土した。

8　土器を多く廃棄したと考えられる土坑や、土器を埋納したピットなど、祭祀に係わる遺構も検出された。

9　遺物は平箱で105箱の出土量であった。その中で、土器、陶磁器類は出土遺物の約6割である。

10　石製品は、砥石などを主として、25箱の出土量である。その中で石鍋、石臼、茶臼が特筆される。

11　木製品は食器類、工具、木札など多種多様である。全体では26箱である。

12　その他の遺物として、井戸の覆土最下層からはウォーター・フローテーションにより、植物の種子や炭化米などが確認された。

13　遺跡は、鵜川に近接する沖積地に位置し、遺物の年代から13世紀から14世紀にかけての時期を中心とする集落の一部と考えられる。

引 用 文 献

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No2　日本貿易陶磁研究会

尾崎高宏ほか1999　「小峯遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』

柏崎市教育委員会　2002　『琵琶島城跡現地説明会資料』

柏崎市史編さん委員会編　1987　「柏崎市史資料集 考古篇 Ⅰ」

柏崎市史編さん委員会編　1990　「中世」『「柏崎市史 上』

金子拓男ほか 1980　「新潟県」『日本城郭体系』7　新潟・富山・石川 新人物往来社

坂井秀弥ほか 1987　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第48集　三島郡出雲崎町番場遺跡』新潟県教育委員会

品田高志　1990　「2 歴史的環境」『新潟県柏崎市南下・千古塚遺跡発掘調査報告（千古塚遺跡)』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第11集）柏崎市教育委員会

品田高志　1993　「古代三嶋郡と古代土器の様相～柏崎平野における古代史理解に向けて～」『柏崎市立博物館館報』No8　柏崎市立博物館

品田高志　1995　「総括」『柏崎市内遺跡発掘調査報告書（柏崎市の遺跡Ⅳ)』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第20集）柏崎市教育委員会

品田高志　1996a　「田塚山の中世仏堂と墳墓」『田塚山遺跡古墳群』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第21集）柏崎教育委員会

品田高志　1996b　「音無瀬遺跡」『柏崎市内遺跡発掘調査報告書（柏崎市の遺跡Ⅴ)』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第22集）柏崎市教育委員会

品田高志　1997a　「2 前掛り遺跡をめぐる歴史的な環境」『新潟県柏崎市・前掛り遺跡発掘調査報告書（前掛り)』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第26集）

品田高志　1997b　「総括」『柏崎市内遺跡第Ⅳ期発掘調査報告書（柏崎市の遺跡Ⅳ)』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第27集）柏崎市教育委員会

品田高志　1997c　「越後国における土師器の変遷と諸相」北陸中世土器研究会編『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房

品田高志・伊藤啓雄　1999　『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第32集　角田』柏崎市教育委員会

中沢毅ほか　1996　「箕輪遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』(財）新潟県埋蔵文化財事業団

新潟県教育委員会　1988　『北陸自動車埋蔵文化財発掘調査報告書（西田・鶴巻田遺跡群)』(新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集）

新潟県教育委員会　2002　『一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ（箕輪遺跡)』(新潟県埋蔵文化財調査報告書 第109集）

花ヶ前盛明　1986　「越後中世史概観、越後の古城」『中世越後の古城－武将と古城をさぐる』新人物往来社

藤澤良祐　1995　「古瀬戸」　中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－型式分類と編年を中心として－」『九州歴史資料館研究論集』4　九州歴史資料館

吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』吉川弘文館

和田晴吾　1985　「7 漁猟具 1.土錘・石錘」『弥生文化の研究』5 道具と技術Ⅰ　雄山閣

別表１　掘立柱建物構成柱穴一覧表

SB251（図版２・３）　※方位は建物の長軸に対するもの

	位置	2G	桁行4.28m，梁間(2.2)m			床面積（9.4）㎡	
	年代		構造	2間×3間		方位：N-5°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK82	楕円形	64	56	30		
2	SK84	隅丸方形	58	47	57	SK84-SK82	1.20
3	SK2	楕円形	56	40	37	SK2-SK84	1.08
4	P2G1	楕円形	100	76	29	P2G1-SK2	2.00
5	SK4	隅丸方形	68	67	25	SK4-P2G1	2.20

SB252（図版２・３）

	位置	2G	桁行2.8m，梁間1.88m			床面積5.26㎡	
	年代		構造	1間×2間		方位：N-0°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2G9	楕円形	44	40	43	P2G9-P2G11	1.00
3	P2G21	楕円形	60	48	32	P2G21-P2G23	1.20
4	P2G23	不整形	40	24	30	P2G23-P2G1	1.70
5	P2G1	隅丸方形	100	(70)	29	P2G1-P2G20	1.20
6	P2G20	楕円形	30	20	16	P2G20-P2G21	1.30

SB253（図版２・３）

	位置	2G2H	桁行5.48m，梁間4.48m			床面積24.55㎡	
	年代		構造	3間×2間		方位：N-88°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2G27	不整形	(70)	(40)	33		
2							
5	P2H11	隅丸方形	60	50	38	2H11-SK18	1.80
11	SK18	楕円形	60	50	35	SK18-P2H41	2.10
9	P2H41	楕円形	30	(40)	35	P2H41-P2H30	1.60
10	P2H30	楕円形	36	28	32	P2H30-P2G27	2.28

SB254（図版２・４）

	位置	2G2H	桁行4.0m，梁間4.5m			床面積18.00㎡	
	年代		構造	2間×2間		方位：N-92°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2G24	不整形	70	(100)	45		
2	P2H1	楕円形	76	72	41	P2H1-SE8	3.00
3	P2H2	楕円形	(100)	(64)	38	P2H2-P2H1	1.36
4	SK19	楕円形	83	65	49	SK19-P2H2	1.96
5	SK20	楕円形	84	82	46	SK20-SK19	1.84

SB255A（図版２）

	位置	2H・2I	桁行(6.00)m，梁間(3.8)m			床面積22.8㎡	
	年代		構造	3間×2間		方位：N-90°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK22	楕円形	(50)	90	33	SK22-SX28	2.40
2	SX28	隅丸方形	120	95	56	SX28-SK427	2.30
3	SK421	隅丸方形	100	(100)	45	P2H2-SK19	
6	P2I78	不整形	(110)	(50)	35	P2I72-P2I188	1.80
7	P2I88	隅丸方形	100	100	35		
9	P2H44	楕円形	100	(40)	20	P2H44-SK424	1.50
10	SK424	隅丸方形	(70)	(60)	35		
11	SK36	隅丸方形	160	110	38		
12	SK43	隅丸方形	(110)	(60)	66		

SB255B（図版２・４）

	位置	2H2I	桁行5.7m，梁間4.0m			床面積22.8㎡	
	年代		構造	3間×2間		方位：N-90°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK23	隅丸方形	(53)	90	77	SK23-P2H18	2.30
2	P2H18	隅丸方形	(55)	(40)	31	P2H18-SK421	1.80
3	SK421	隅丸方形	100	(100)	45		
4							
5	P2I78	不整形	(110)	(50)	35	P2I78-P2I188	1.80
6	P2I88	隅丸方形	100	100	35		
7							
8	SK425						
9	P2H44	楕円形	100	(40)	20	P2H44-SK424	1.50
10	SK424	隅丸方形	(70)	(60)	35		
11	SK36	隅丸方形	160	110	38		
12	SK43	隅丸方形	(110)	(60)	66		
							2.4

SB256（図版２・４）

	位置	2H2I	桁行5.6m，梁間3.88m			床面積21.73㎡	
	年代		構造	3間×2間		方位：N-91°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SX25	楕円形	(112)	(68)	36	SX25-SX29	2.04
2	SX29	楕円形	88	80	38	SX29-P2H27	1.92
3	P2H27	楕円形	72	60	55		
4							
5							
6	SK45	楕円形	150	86	50	SK45-SK410	1.68
7	SK410	隅丸方形	(80)	(80)	47	SK410-SK402	1.92
8	SK402	楕円形	48	36	38		
9							
10	SK34	隅丸方形	74	58	47	SK34-SX25	2.08

SB257（図版２・４）

	位置	2I3I	桁行4.96m，梁間2.0m			床面積9，92㎡	
	年代		構造	5間×1間		方位：N-87°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1							
2							
3							
4	SK420	楕円形	64	48	53	SK420-P3I19	1.04
5	P3I19	楕円形	28	24	7	P3I19-P3I13	2.00
6	P3I13	楕円形	40	36	33	P3I13-SK92	1.04
7	SK92	円形	60	59	54	SK92-P3I12	0.80
8	P3I12	円形	44	44	23	P3I12-P2I64	1.08
9	P2I64	隅丸方形	44	52	24	P2I64-P2I65	1.00
10	P2I65	楕円形	32	28	20	P2I65-P2I67	1.08
11	P2I67	隅丸方形	48	48	27		

SB260（図版５・７）

	位置	2I	桁行10.8m，梁間4.48m			床面積48.38㎡	
	年代		構造	4間×1間		方位：N-93°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK403	楕円形	32	30	44		
2							
3	SK53	楕円形	78	65	43	SK53-SK57	2.24
4	SK57	楕円形	67	56	44		
5							
6	SK417	楕円形	(76)	60	72	SK417-P2J9	2.28
7	P2J9	楕円形	80	60	10	P2J9-SK65	2.32
8	SK65	楕円形	62	56	49	SK65-SK62	2.24
9	SK62	楕円形	74	61	52	SK62-SK58	2.28
10	SK58	楕円形	79	67	45		

SB261（図版５・８）

	位置	3J	桁行3.76m，梁間3.04m			床面積11.43㎡	
	年代		構造	2間×2間		方位：N-7°-E	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P3I33	隅丸方形	56	48	17		
2							
3	P3J83	楕円形	68	48	26	P3J83-P3J82	1.96
4	P3J82	楕円形	56	36	40	P3J82-P3J81	1.84
5	P3J81	不整形	72	44	24	P3J81-P3J78	1.56
6	P3J78	不整形	72	56	76		
7							
8	P3J75	隅丸方形	56	52	63	P3J75-P3I33	1.96

SB262（図版14）

	位置	3J4J	桁行4.2m，梁間3.16m			床面積13.27㎡	
	年代		構造	2間×3間		方位：N-1°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P3J29	楕円形	20	16	22	P3J29-P4J4	1.60
2	P4J4	円形	24	24	15	P4J4-P4J3	1.60
3	P4J3	円形	24	24	16		
4							
5							
6							
7							
8	P3J41	円形	16	16	17	P3J41-P3J37	1.60
9	P3J37	楕円形	44	16	8	P3J37-P3J30	1.60
10	P3J30	円形	16	16	12	P3J30-P3J29	1.00

SB264（図版5・7）

	位置	2J	桁行4.84m，梁間1.6m			床面積7.74㎡	
	年代		構造	2間×1間		方位：N-93°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK66	楕円形	70	64	70	SK66-SK67	2.48
2	SK67	楕円形	62	60	74	SK67-SK418	2.36
3	SK418	楕円形	160	120	49	SK418-SK72	1.60
4	SK72	楕円形	64	50	49	SK72-SK70	2.36
5	SK70	楕円形	64	63	42	SK70-SK68	2.48
6	SK68	楕円形	78	69	53	SK68-SK66	1.60

SB265（図版5・8）

	位置	2J	桁行4.00m，梁間2.4m			床面積9.6㎡	
	年代		構造	2間×1間		方位：N-89°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK414	楕円形	(68)	(38)	23	SK414-P2J62	1.64
2	P2J61	隅丸方形	56	48	39	P2J61-P2J60	2.40
3	P2J60	楕円形	64	48	35	P2J60-SK73	4.00
4	SK73	楕円形	48	40	35		
5							

SB266（図版5・8）

	位置	2J	桁行4.08m，梁間1.92m			床面積7.83㎡	
	年代		構造	3間×1間		方位：N-85°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2J23	楕円形	52	40	33	P2J23-P2J42	1.56
2	P2J42	楕円形	40	32	24	P2J42-P2J47	1.48
3	P2J76	楕円形	32	28	25	P2J76-P2J66	1.92
4	P2J66	楕円形	40	32	32	P2J66-P2J78	1.04
5	P2J82	楕円形	28	24	12	P2J82-P2J39	1.52
6	P2J39	円形	24	24	10	P2J39-P2J23	1.92

SB267（図版16・17）

	位置	3J3K4K	桁行10.2m，梁間3.12m			床面積31.82㎡	
	年代		構造	5間×2間		方位：N-89°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P3J11	楕円形	32	28	32	P3J11-P3J57	1.96
2	P3J57	円形	30	28	35	P3J57-P3J59	1.92
3	P3J59	円形	20	20	14		
4							
5	P4K2	楕円形	28	24	18		
6							
7	P4K5	楕円形	36	28	24	P4K5-P4K9	2.04
8	P4K9	楕円形	40	32	23	P4K9-P4K13	2.36
9	P4K13	円形	34	36	22	P4K13-P3K11	1.96
10	P3K11	楕円形	36	28	23	P3K11-P3K3	2.04
11	P3K3	楕円形	44	36	46	P3K3-P3K2	1.92
12	P3K2	円形	32	32	35	P3K2-P3K1	1.96
13	P3K1	楕円形	32	26	20	P3K1-P3J53	1.80
14	P3J53	円形	32	32	32	P3J53-P3J11	1.40

SB268（図版5）

	位置	2K	桁行(4.64)m，梁間(1.48)m			床面積（6.87）㎡	
	年代		構造	3間×1間		方位：N-81°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1							
2							
3	P2K66	円形	36	32	15	P2K66-P2K64	1.84
4	P2K2	円形	30	(30)	33	P2K2-P2K11	1.48
5	P2K11	楕円形	40	36	36	P2K11-P2K52	0.88
6	2K52	楕円形	36	24	19	P2K52-P2K49	1.08
7	P2K49	楕円形	30	30	20		

SB271（図版5）

	位置	3K	桁行1.68m，梁間1.6m			床面積2.69㎡	
	年代		構造	1間×1間		方位：N-62°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P3K54	楕円形	24	20	15	P3K54-P3K27	2.00
2	P3K27	楕円形	24	20	27	P3K27-P3K37	2.12
3	P3K37	楕円形	36	32	18	P3K37-P3K45	1.60
4	P3K45	楕円形	32	24	14	P3K45-P3K54	1.64

SB273（図版9・11）

	位置	2K2L	桁行3.84m，梁間3.04m			床面積11.67㎡	
	年代		構造	3間×2間		方位：N-7°-E	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2K57	円形	28	28	49	P2K57-P2K30	1.00
2	P2K30	楕円形	56	36	27	P2K30-P2K76	1.28
3	P2K76	楕円形	36	28	17	P2K76-P2K37	1.44
4	P2K37	楕円形	36	28	24	P2K37-P2L20	1.36
5	P2L20	円形	52	48	37	P2L20-SK150B	1.72
6	SK150B	楕円形	46	36	41	SK150B-P2L127	1.44
7	P2L127	長方形	48	36	40	P2L127-P2L60	1.44
8	P2L60	隅丸方形	56	36	47	P2L60-P2L62	1.08
9	P2L62	楕円形	40	32	26	P2L62-P2K58	1.64
10	P2K58	楕円形	44	36	23	P2K58-P2K57	1.40

SB274A（図版9・11）

	位置	2L3L	桁行7m，梁間4.04m			床面積28.28㎡	
	年代		構造	2間×3間		方位：N-12°-E	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SX149	楕円形	160	100	57	SX149-SK200	2.12
2	SK200	楕円形	128	116	110	SK200-SK216	2.00
3	SK216	楕円形	100	92	79	SK216-SE205	2.00
4	SK202	楕円形	52	28	135	SK202-SX171	3.40
5	SX171	円形	120	112	134	SX171-SX172	1.96
6	SX172	楕円形	60	44	55	SX172-SX168	1.08
7	SX168	楕円形	144	105	61	SX168-SK179	3.40
8	SK179	楕円形	179	107	61	SK179-SX149	3.52

SB274B（図版9・11）

	位置	2L3L	桁行4m，梁間3.4m			床面積13.6㎡	
	年代		構造	2間×2間		方位：N-12°-E	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SX152	隅丸方形	(70)	90	39	SX152-SK201	1.90
2	SK201	楕円形	90	80	87	SK201-SK204	2.00
3	SK204	楕円形	110	80	86	SK204-SK237	2.30
4	SK237	楕円形	40	30	32	SK237-SK225	1.70
5	SK225	不整形	110	100	76	SK225-SX176	1.70
6	SX176	楕円形	(40)	70	51	SX176-SX167	1.60
7	SX167	不整形	140	110	52	SX167-SK165	1.90
8	SK165	楕円形	70	50	36	SK165-SX152	2.10

SB275（図版9・11）

	位置	2L	桁行2.92m，梁間2.84m			床面積8.29㎡	
	年代		構造	2間×1間		方位：N-16°-E	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2L107	円形	36	32	14	P2L107-SK151B	1.60
2	P2L6	円形	44	44	19	P2L6-P2L134	2.80
3	P2L134	楕円形	20	16	12	P2L134-P2L110	1.20
4	P2L131	楕円形	52	32	30	P2L130-P2L107	2.80

SB276（図版9・11）

	位置	2L	桁行2.80m，梁間2.0m			床面積5.6㎡	
	年代		構造	2間×2間		方位：N-81°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SX177	隅丸方形	124	108	72	SX177-P2L128	1.40
2	P2L128	楕円形	32	24	19	P2L128-P3L72	1.40
3	P3L72	長方形	52	36	24	P3L72-P3L71	1.00
4	P3L71	楕円形	44	32	43	P3L71-SK169	1.00
5	SK169	楕円形	52	36	17	SK169-SK166	1.40
6	SK166	楕円形	64	40	24	SK166-P2L90	1.40
7	P2L90	隅丸方形	44	36	21	P2L90-SX177	2.00

SB277（図版9）

	位置	2L	桁行4.32m，梁間3.22m			床面積13.91㎡	
	年代		構造	3間×2間		方位：N-80°-W	
	柱穴	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2L65	楕円形	36	32	23	P2L65-P2L35	1.88
2	P2L35	円形	24	24	26	P2L35-P2L38	1.04
3	P2L38	円形	20	20	17	P2L38-P2L17	1.40
4	P2L17	楕円形	36	32	18	P2L17-P2L114	1.60
5	P2L114	楕円形	40	32	26	P2L114-P2L139	1.62
6	P2L139	楕円形	56	36	55	P2L139-SK160	1.44
7	SK160	楕円形	64	59	72	SK160-P2L54	0.92
8	P2L54	楕円形	48	44	60		
9							
10							

SB278（図版9・10）

	位 置	2L	桁行1.96m，梁間1.56m			床面積3.06㎡	
	年 代		構 造	1間×2間		方位：N-13°-E	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK162	楕円形	58	43	47	SK162-P2L36	1.56
2	P2L36	不整円形	52	52	36	P2L36-P2L46	0.76
3	P2L46	円形	20	16	10	P2L46-P2L51	1.20
4	P2L51	隅丸方形	36	32	36		
5							
6							

SB280（図版9・10）

	位 置	2L	桁行3，16m，梁間2.4m			床面積7.584㎡	
	年 代		構 造	2間×3間		方位：N-10°-E	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1							
2	SK159	楕円形	60	52	50	SK159-P2L121	1.20
3	P2L121	円形	32	22.2	28	P2L121-P2L73	1.20
4	P2L73	隅丸方形	64	46	47	P2L73-P2L117	0.80
5	P2L117	楕円形	36	28	27	P2L117-P2M1	1.16
6	P2M1	隅丸方形	48	36	35		
7							
8							

SB281（図版9・10）

	位 置	2L	桁行3.2m，梁間2.2m			床面積7.04㎡	
	年 代		構 造	2間×2間		方位：N-10°-E	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2L57	円形	24	24	24	P2L57-P2L76	1.08
2	P2L76	楕円形	64	30	31	P2L76-SX148	1.12
3	SX148	楕円形	60	32	20	SX148-SX196	1.60
4	SX196	楕円形	88	80	14	SX196-P2M2	1.60
5	P2M2	円形	28	28	44		
6							
7							
8							

SB282（図版9・14）

	位 置	3M	桁行4.72m，梁間1.84m			床面積8.68㎡	
	年 代		構 造	1間×2間		方位：N-2°-E	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	SK191	楕円形	88	84	102	SK191-SK112	1.84
2	SK112	楕円形	94	84	74	SK112-SK130	2.00
3	SK130	円形	82	77	62	SK130-SX197	2.72
4	SX197	隅丸方形	80	80	16	SX197-SK127	1.84
5	SK127	円形	91	86	120	SK127-SK114	2.80
6	SK114	円形	75	72	50	SK114-SK191	1.92

SB283（図版9）

	位 置	2M	桁行3.00m，梁間2.20m			床面積6.6㎡	
	年 代		構 造	2間×2間		方位：N-3°-E	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1							
2	P2M52	円形	24	24	11	P2M52-P2M54	1.12
3	P2M54	円形	28	28	7	P2M54-P2M65	1.48
4	P2M65	円形	28	24	7		
5							
6							

SB284（図版12・13）

	位 置	3N	桁行5.92m，梁間3.6m			床面積21.31㎡	
	年 代		構 造	4間×2間		方位：N-87°-W	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P3N40	円形	36	32	18	P3N40-P3N36	1.08
2	P3N36	円形	32	30	25	P3N36-P3N35	1.64
3	P3N35	円形	34	30	33		
4	P3N43	円形	36	32	30	P3N43-P3N40	1.80
5							
6							
7							
8							
9							
10							

SA269（図版5）

	位 置	2K	桁行m，梁間m				
	年 代		構 造			方位：N-87°-W	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2K12	不整形	40	40	33	P2K12-P2K14	1.40
2	P2K13	円形	30	30	17	P2K13-P2K22	
3							
4	P2K22	隅丸方形	44	36	15	P2K22-SK433	1.40
5	SK433	円形	28	28	33	SK433-P3K50	0.80
6	P3K50	楕円形	20	15	7	P3K50-P3K51	1.10
7	P3K51	楕円形	20	22	12		

SA270（図版5・7）

	位 置	2K	桁行m，梁間m				
	年 代		構 造			方位：N-90°-W	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2K7	楕円形	32	28	29	P2K7-SK77	1.40
2	SK77	楕円形	56	40	11	SK77-P2K21	0.88
3	P2K21	楕円形	40	36	23	P2K21-P2K84	1.40
4	P2K84	楕円形	28	(24)	19		

SA272（図版5・7）

	位 置	2K	桁行m，梁間m				
	年 代		構 造			方位：N-76°-W	
	柱 穴	形 状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	柱穴間隔（m）	
1	P2K55	楕円形	36	28	29	P2K55-P2K28	2.40
2	P2K28	円形	28	28	25	P2K28-P2K34	2.12
3	P2K34	隅丸方形	36	28	24	P2K34-P2K46	1.84
4	P2K46	楕円形	28	24	24		

別表２　井戸観察表

遺構番号	分割図	個別図	調査地区	形態			分類	上端（cm）		下端（cm）		深度（cm）	出土遺物
				平面	断面	底面		長軸	短軸	長軸	短軸		
SE 8			2G16～17	隅丸方形	箱形	円形	C	(132)	(122)	66	62	(112)	土師質皿小19、土師質皿大9、珠洲鉢1、土師甕1、柱下部1
SE 9	2	3	2G17～22	方形	箱形	方形	B	(206)	(180)	(150)	(142)	(154)	土師質皿小28、土師質皿大17、須恵坏2、土師碗1、土師壷5、不明5、俵編み機1、漆椀1、漆皿1、曲げ物側板2、箸、部材等、板状金属2、黄銅鉱片1、炭化米
SE101	9	10	2M 8	楕円形	U字形	方形	C	141	122	54	42	164	土師質皿小4、土師質皿大2、杭3、自然木2、木片等、鉄滓6、炉壁2、炭化米、種子（不明）
SE104	9	10	2M10	円形	U字形	方形	C	144	124	50	44	130	土師質皿小1、土師質皿大1、石製品不明1、鉄滓3、炭化米
SE111			3M13	円形	台形	楕円形	C	125	122	80	72	136	土師質皿大1、土師鉢1、箸、脚部、杭4、木札1、板材1、部材4等、鉄滓3、梅種、桃種
SE113			3M1415	円形	台形	円形	D	113	108	68	66	78	須恵器壷1、石製品（不明）1、鉄滓1
SE115			3M18	楕円形	箱形	円形	D	95	81	66	64	116	土師質皿小5、土師質皿大3、不明1、木片1
SE116			3M17	楕円形	台形	楕円形	D	67	65	40	36	60	土師質皿小1、自然木(炭化)1、鉄滓1、骨(不明)・炭化米
SE125	9	10	3M22	楕円形	U字形	楕円形	D	73	69	54	22	120	土師質皿小1、土師質皿大3、珠洲鉢2、砥石1、軽石1、漆椀3、竹札、部材・板材4、木札3、桶底板1、底板1、杭7等、鉄滓4、炭化米
SE129			3M18～23	楕円形	台形	楕円形	D	80	74	54	44	78	
SE131			3M24	円形	台形	楕円形	D	100	100	64	52	65	土師質皿大2
SE136			3N16	円形	台形	円形	D	75	74	35	33	90	土師質皿小5、土師質皿大1、炭化米
SE137			3N19～20	円形	箱形	円形	D	77	75	50	48	100	土師質皿小23、土師質皿大1、石製品不明1
SE138			2O3	楕円形	台形	楕円形	D	109	81	62	56	(92)	
SE139			2O13	円形	台形	方形	D	83	76	50	42	(90)	土師質皿小4、土師質皿大2、白磁甕1、石皿1、炉壁1
SE140			2P13	楕円形	箱形	楕円形	C	140	100	110	56	(113)	土師質皿小4、土師質皿大1、土師質不明1、珠洲鉢3、須恵器蓋1、石製品不明1、鉄滓3、棒状金属2
SE144			3M2～3	楕円形	ロート形	円形	C	156	130	73	70	167	土師質皿小6、土師質皿大10、瀬戸美濃碗1、青磁鉢1、青磁椀2、須恵坏1、石製品不明1、底板1、曲げ物側板1、板材1、自然木4、鉄滓1
SE178			3M1	楕円形	台形	楕円形	D	109	102	56	54	104	
SE180	9	10	2M13	方形	台形	隅丸方形	C	154	148	70	48	150	石皿1、曲げ物側板2、木片3
SE190			3M12	隅丸方形	U字形	楕円形	C	130	110	54	50	100	土師質皿小1、瀬戸美濃鉢1、木片1、鉄滓2
SE205	9	10	3L12	楕円形	ロート形	円形	C	155	139	78	77	154	土師質皿小4、石製品不明1、折敷4、漆椀3、木札2、曲げ物側板2、杭、丸棒3、杭2
SE236	18	19	4L12～17	楕円形	台形	方形	A	336	299	161	77	104	土師質皿大2、珠洲鉢1、擂り石5、石製品不明4、漆椀2、部材、杭片5、鉄滓1、骨(不明)、炭化米
SE407	5	6	2I12	隅丸方形	ロート形	楕円形	B	181	167	136	128	230	土師質皿小19、土師質皿大9、石製品不明1、曲げ物側板2、箸、柱2、木杭14、竹べら2、木片6、自然木、木の皮等、釘1、桐種2、胡桃種2、栗表皮、炭化米、
SE432	5	10	3K17	楕円形	箱形	円形	C	126	103	72	74	80	土師質皿小9、土師質皿大3、砥石1、曲げ物底板2
SE435	18		3K24	楕円形	台形	方形	B	190	160	110	94	238	土師質皿大2、珠洲鉢12、珠洲壷2、須恵器坏1、漆椀2、底板3、柱2、下駄2、木札2、柱根1、杭21、棒3、板材、自然木等、種子（不明）

別表３　土坑観察表

遺構番号	分割図	個別図	調査地区	形態			上端（cm）		下端（cm）		深度（cm）	出土遺物		
				平面	断面	底面	長軸	短軸	長軸	短軸		残存	土器・陶磁器種別	木・石・金属製品
SK2	2		2G6・7	楕円形	U字形	楕円形	56	40	28	16	37	8	土師質皿小5・大3	
SK11	2		2G21,2H1	隅丸方形	彎曲形	隅丸方形	107	85	68	68	51	7	土師質皿大2、土師碗3・壷2	鉄滓
SK20	2		2H8・13	楕円形	台形	楕円形	84	82	72	60	46	2	土師質皿小1、須恵器蓋1	
SK21	2		2H8・13	楕円形	台形	楕円形	59	49	40	28	44	4	土師質皿小3、青磁碗1	石錘
SK33	5	6	2J24・25,2K4・5	楕円形	台形	楕円形	380	292	340	180	66	4	土師質皿小3、珠洲焼鉢1	鉄滓
SK35	2		2H16・17・21・22	楕円形	台形	円形	158	110	80	80	82	31	土師質皿小4・大26、瀬戸碗1	鉄滓、古銭
SK42	2	3	2H23	楕円形	台形	楕円形	139	114	84	68	133	12	土師質皿小9・大1、青磁碗1、須恵器坏1	茶臼、砥石
SK71	5	6	3J1・6	楕円形	台形	方形	118	115	80	60	93	8	土師質皿小6・大2	鉄滓
SK76	5		2K8	隅丸方形	台形	楕円形	85	82	64	52	55	1	土師甕1	鉄滓
SK79	5	6	2I13・14・18・19	楕円形	皿形	楕円形	273	212	208	164	49	18	土師質皿小11・大7	石鍋
SK80	5	6	2I17・18・22・23	楕円形	漏斗形	楕円形	155	127	132	112	15	148	土師質皿小122・大26	
SK81	2	3	2F22・2G2	方形	箱形	方形	(284)	(276)	(152)	(144)	89	60	土師質皿小31・大27、青磁皿2	
SK86	2	3	2G12	不整形	台形	不整形	135	117	96	76	124	429	土師質皿小272・大153、珠洲焼鉢1、白磁碗2・甕1	
SK89	5	6	3I17～19・21～24・3J1～3・6～8	楕円形	台形	楕円形	577	381	344	128	87	26	土師質皿小6・大12、珠洲焼鉢2、瀬戸美濃1、白磁甕4、須恵器坏1	木杭、石臼、鉄滓、古銭
SK90	5		3J19	隅丸方形	台形	円形	78	74	60	56	53	19	土師質皿小14・大5、	
SK91	2		2G7	楕円形	台形	楕円形	94	66	68	60	87	12	土師質皿小11・大1	
SK93A	5	6	3J8・13	楕円形	皿形	不整形	164	99	68	60	37	12	土師質皿小11・大1	鉄滓
SK93B	5		3J13	楕円形	皿形	不整形	160	(100)	150	90	10			
SK94	5	6	3J22	隅丸方形	台形	方形	96	96	40	40	104	2	土師質皿小2	鉄滓
SK95	5	6	2J20	楕円形	台形	不整形	111	98	48	44	87	1	土師質皿小1	鉄滓
SK96	20	21	2J20・25,3J16・21,3K1・2	不整形	皿形	不整形	460	240	440	160	18	12	土師質皿小6・大4、珠洲焼鉢1、不明碗1	鉄滓

遺構番号	分割図	個別図	調査地区	形態			上端（cm）		下端（cm）		深度（cm）	出土遺物		
				平面	断面	底面	長軸	短軸	長軸	短軸		残存	土器・陶磁器種別	木・石・金属製品
SK108	9		3M6	楕円形	台形		120	103	88	44	81	7	土師質皿小２・大５	木杭、板
SK122	9		2N2・3	楕円形	台形	楕円形	29	26	18	16	17	24	土師質皿小15・大２、須恵器坏７	
SK124	9		3M21	円形	台形	楕円形	92	90	52	44	104	1	土師質皿大１	炉壁、鉄滓
SK126	9		3M22	楕円形	台形	円形	54	50	36	32	16			
SK127	9	10	3M23	円形	台形	円形	91	86	48	48	120	3	土師質皿小２、不明鉢１	木片
SK128	9		3M23	円形	箱形	円形	77	76	48	44	126			板
SK130	9		3M19	円形	台形	円形	82	77	48	44	62	1	土師甕１	鉄滓
SK134	9		3N3・8	楕円形	台形	円形	82	76	48	48	74	16	土師質皿大16	
SK142	9		2L24・25, 2M4・5・9・10	隅丸方形	箱形	隅丸方形	360	300	272	240	45	18	土師質皿大４、青磁碗１、須恵器蓋２・坏７、土師碗１・壷２・甕１	炉壁、鉄滓
SK177	9		2L15	隅丸方形	半円形	隅丸方形	124	108	72	68	72	5	土師質皿小１・大３、土師碗１	炉壁、鉄滓
SK185	9		2M21	隅丸方形	台形	方形	(148)	(138)			50	1	須恵器坏１	鉄滓
SK200	9		3L2・6・7	楕円形	U字形	楕円形	128	116	44	40	110	19	土師質皿小16・大３	鉄滓
SK204	9		3L17	楕円形	台形	楕円形	108	76	64	48	86	2	土師質皿小２	木杭
SK206	9		3L13	楕円形	台形	楕円形	108	100	56	48	154	27	土師質皿小２・大16 珠洲焼鉢７、青磁不明２	曲物底板、箸、漆椀破片
SK207	18	19	3L14	楕円形	漏斗形	不整形	268	200	216	120	88			
SK209	9		3L2	楕円形	U字形	楕円形	100	94	60	52	80	3	土師質皿小３	鉄滓
SK221	20	21	4O1・6	楕円形	台形	楕円形	60	54	44	36	35			
SK222	20	21	4O6	(楕円形)	台形	(楕円形)	(136)	(110)	(76)	(64)	(90)			
SK223	18	19	3L15・20	楕円形	台形	楕円形	72	52	52	32	100	9	土師質皿大６、土師壷３	
SK224	9		3L22	楕円形	U字形	楕円形	110	94	52	44	112	1	土師壷１	漆皿、深木鉢、底板
SK225	9		3L21,3M1	楕円形	台形	楕円形	120	100	88	68	76	3	土師質皿小２、珠洲焼鉢１	鉄滓
SK227	9		3L16・21	楕円形	漏斗形	不整形	108	60	88	56	96			木札、杭、棒、曲物側板、箸
SK232	9	10	3L22	楕円形	U字形	楕円形	100	72	96	48	102	3	土師質皿小１・大２	木製品部材、軽石
SK234	18	19	4L18・23	楕円形	皿形	楕円形	70	60	32	28	16			
SK235	18	19	4L6・7	楕円形	台形	楕円形	68	52	40	28	50			
SK238	9		3L16	隅丸方形	U字形	楕円形	116	110	72	52	111			
SK239	9		3M2	隅丸方形	U字形	楕円形	72	64	48	40	88	1	土師甕１	曲物側板、底板
SK331	20	21	3M25,3N5, 4M21,4N1	隅丸方形	彎曲形	隅丸方形	290	230	190	160	55			
SK347	16	17	4J13	隅丸方形	彎曲形	楕円形	80	80	96	92	40			
SK348	14		4I23・24, 4J3・4	隅丸方形	不明	隅丸方形	92	88	56	44	88			
SK355	14		4I13・14	楕円形		楕円形	48	40	24	20	88	20	土師質皿小１	
SK371	20	21	6M5	楕円形	台形	不整形	150	110	152	84	22			
SK401	5	6	2J7・12	隅丸方形	皿形	円形	198	194	144	140	38			鉄滓
SK402	2		2I2	楕円形	皿形	楕円形	48	36	68	48	38	2	土師質皿大２	底板、板材、木杭、丸棒、木札、曲物側板
SK423	5		2I16	楕円形		楕円形	(180)	(148)	(160)	(132)	9	1	土師質皿大１	砥石
SK431			3J10	楕円形	台形	楕円形	32	28	24	20	18	3	土師質皿小３	
SK434	5		3K6・7	隅丸方形	台形	楕円形	128	108	92	84	145			曲物底板、柄杓
SK437	16		4K6	円形	台形	楕円形	100	100	68	52	137			折敷、板、板材、木札
SK440	18	19	3K24・25, 3L4・5	楕円形	台形	方形	152	116	88	52	158			
SK444	14	15	3J4	楕円形	皿形	楕円形	48	40	32	24	10			
SK445	16	17	4J11～14・16～25	長方形	皿形	長方形	848	408	780	340	53	551	土師質皿小407・大126・不明１、珠洲焼鉢７・壷１、青磁碗４、白磁甕２、須恵器坏２、土師碗１	石鍋、砥石
SK446	14		3I4・5・9・10	楕円形	台形	楕円形	104	80	72	60	28			
SK452	18	19	3J9	隅丸方形	台形	楕円形	88	48	68	48	93	4	土師質皿小１、土師碗３	板材

別表４　土器・陶磁器類の観察表

報告番号	種別	器種	分類	時期	出土グリッド	出土遺構	覆土層位	法　量（cm）			遺存率（/16）	備　　考
								口径	高さ	底径		
1	須恵器	壺			3N11～13	SD145	1	—	（3.90）	—		頸部径（9.00）
2	須恵器	壺			2N7	SD145	1	—	（10.06）	—		
3	須恵器	甕			3N	SD145	1	—	（7.30）	—		頸部径（24.50）
4	土師質土器	皿	A		2N7	SD145	表	—	（2.55）	6.40		回転糸切、内面炭化物
5	土師質土器	皿	A		2N17、3N18～20	SD145	1	—	（2.10）	6.30		回転糸切
6	土師質土器	皿	ＣＩｂ		2N16、3N11～13	SD145	1	（12.10）	（3.30）	—	6	
7	土師質土器	皿	ＣⅡａ		2N7～8	SD145	3	（7.60）	（1.50）	（6.70）	4	外底面滑らか
8	土師質土器	皿	ＣⅡａ		3N18～20	SD145	1	7.70	1.58	（7.70）	9	外底面滑らか
9	珠洲焼	甕		Ⅱ期		SD145		（40.50）	（7.30）	—	1	
10	越前焼	壺or甕		15C	2N7	SD145	1	—	—	—		外タタキ
11	須恵器	有台坏		8C後	5J8	SD301	最下	—	（2.95）	—		高台径（9.20）、ヘラ切
12	須恵器	甕			4L19	SD301	4	（29.70）	（4.70）	—	2	
13	珠州焼	壺		Ⅱ期	5J13	SD301	最下	（22.80）	（5.55）	—	3	
14	珠洲焼	甕		Ⅴ期		SD301	2	—	—	—	1	外タタキ
15	珠洲焼	甕		Ⅱ期		SD301	最下	—	—	—	1	外タタキ
16	珠洲焼	擂鉢		Ⅱ期		SD301		—	—	—	1	
17	珠洲焼	擂鉢		Ⅲ期		SD301	1	—	—	—	1	
18	珠洲焼	擂鉢		Ⅲ期		SD301	1	—	—	—	1	
19	珠洲焼	擂鉢		Ⅲ～Ⅳ期		SD301	4	—	—	—	1	
20	珠洲焼	擂鉢				SD301		—	—	—		
21	珠洲焼	擂鉢				SD301	上4012	—	—	11.50		卸目７本、静止糸切
22	珠洲焼	擂鉢				SD301	2	—	—	13.00		静止糸切
23	珠洲焼	擂鉢				SD301	上4012	—	—	9.80		卸目９本、静止糸切
24	珠洲焼	擂鉢				SD301	最下	—	—	11.20		内面炭化物
25	珠洲焼	擂鉢				SD301	上4012	—	—	8.60		
26	瀬戸美濃	袴腰形香炉		古瀬戸中期様式Ⅳ期		SD301		（8.60）	—	—	2	
27	土師質土器	皿	ＢＩａ		5J3	SD301	最下	（13.20）	（3.10）	—	6	口縁端部面取り
28	土師質土器	皿	ＣＩｂ①			SD301		（12.80）	（3.10）	—	3	
29	土師質土器	皿	ＢＩａ		4L19	SD301	4	12.20	2.85	—	8	口縁端部面取り
30	土師質土器	皿	ＣＩａ②		5K6	SD301	最下	（12.80）	（3.16）	—	7	2段ナデ
31	土師質土器	皿	ＣＩａ②		5J13	SD301	最下	（12.50）	（3.00）	—	4	
32	土師質土器	皿	ＣＩａ②		5J2	SD301		（12.40）	（2.75）	—	4	内外面炭化物
33	土師質土器	皿	ＣＩａ②		5J10	SD301	1	12.20	3.22	—	14	
34	土師質土器	皿	ＣⅡｂ		4L15	SD301	4	7.30	1.60	—	12	底部凹み
35	土師質土器	皿	ＣⅡａ			SD301		（8.40）	（1.78）	—	5	
36	土師質土器	皿	ＣⅡａ		5J13	SD301	最下	8.80	1.70	—	11	
37	土師質土器	皿	ＣⅡｂ		5I10	SD301	最下	8.40	1.72	—	13	
38	土師質土器	皿	ＣⅡｂ		5J13	SD301	最下	（7.80）	（1.60）	—	5	
39	白磁	碗	Ⅴ			SD301		（16.90）	（2.40）		2	端反
40	土師質土器	皿	ＣＩａ①		5J5	SD302	5	（12.60）	（3.25）	—	1	
41	土師質土器	皿	ＣＩａ①			SD302		（13.60）	（2.80）	—	3	
42	土師質土器	皿	ＣＩａ②		5J15	SD302	5	（13.60）	（2.40）	—	3	
43	青磁	碗	B	13C末～14C初	5J15	SD302	5	—	2.22	5.60		高台打欠く、鎬蓮弁文
44	土師質土器	皿	ＣＩｂ		2G17・18・22・23	SE9	1	（12.50）	（2.95）	—	7	内外面炭化物
45	土師質土器	皿	ＣⅡｂ		2G17・18・22・23	SE9	1	（8.20）	（1.75）	—	7	
46	灰釉陶器	碗		10C		SE9		—	（1.40）	（7.00）		貼付高台
47	土師質土器	皿	ＣＩａ①		3M22	SE125	最下	（13.00）	（2.65）	—	2	
48	土師質土器	皿	ＣＩｂ①		3N3	SE134	Ⅰ	12.60	3.33	—	13	内外面炭化物
49	土師質土器	皿	ＣⅡａ			SK2（SB251-3）	1	（8.00）	（1.56）	—	3	
50	土師質土器	皿	ＢＩａ			SK11	1	（13.00）	（2.75）	—	3	口縁端部面取り
51	須恵器	坏蓋				SK20		（16.00）	（1.56）	—	1	
52	珠洲焼	擂鉢		Ⅱ期	2H17	SK28	1	（27.80）	（7.10）	—	2	卸目８本
53	珠洲焼	甕		Ⅱ期	2H17	SK28	1	（42.00）	（2.65）	—	1	
54	土師質土器	皿	ＣⅡｂ		2H17	SK28	1	（7.00）	（1.40）	—	4	
55	土師質土器	皿	ＣＩａ①			SK35	1	14.00	3.10	—	10	
56	越前焼	擂鉢		16C		SK42		—	（9.20）	（18.00）		卸目９本、内面炭化物
57	土師質土器	皿	ＣＩａ②			SK80	21・18	（13.00）	（3.40）	—	5	2段ナデ
58	土師質土器	皿	ＣＩａ①			SK80	1	（13.00）	（3.05）	—	4	
59	土師質土器	皿	ＣＩａ②			SK80	1	（13.20）	（3.45）	—	3	
60	土師質土器	皿	ＣⅡｂ			SK80		8.20	1.60	—	8	
61	土師質土器	皿	ＣⅡａ			SK80	5	8.30	1.65	—	13	外面炭化物
62	土師質土器	皿	ＣⅡａ			SK80	12	8.20	1.79	—	15	内面炭化物
63	土師質土器	皿	ＣⅡａ			SK80	13	8.00	1.62	—	13	
64	土師質土器	皿	ＣⅡａ			SK80	11	8.30	1.80	—	16	
65	土師質土器	皿	ＣＩｂ①		2F22、2G2	SK81	上	（12.20）	（3.65）	—	5	
66	土師質土器	皿	ＣＩｂ①		2F22、2G2	SK81	上	（12.00）	（3.40）	—	2	

報告番号	種別	器種	分類	時期	出土グリッド	出土遺構	覆土層位	法量（cm）			遺存率（/16）	備考
								口径	高さ	底径		
67	土師質土器	Ⅲ	CⅠa①		2F22、2G2	SK81	上	12.40	3.65	—	14	内面炭化物
68	土師質土器	Ⅲ	CⅡb		2F22、2G	SK81	上	7.80	1.85	—	16	底部滑らか
69	土師質土器	Ⅲ	CⅡa		2F22、2G2	SK81	上	8.00	1.45	—	8	
70	白磁	Ⅲ	Ⅸ	13C中～14C初	2F22	SK81	上	(11.60)	(3.00)	—	3	口禿げ
71	珠洲焼	甕		Ⅱ期	2G7・12	SK86		(51.80)	(7.20)	—	1	外タタキ
72	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7・12	SK86	1	(14.00)	(3.10)	—	3	
73	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7・12	SK86	1	(14.00)	(2.85)	—	3	外面炭化物
74	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②			SK86	下	(13.00)	(2.85)	—	3	
75	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7・12	SK86	上	(12.20)	(2.70)	—	5	内面炭化物
76	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G12	SK86	上	(13.00)	(2.80)	—	3	外面炭化物
77	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		A	SK86	Ⅱ	13.40	3.20	—	16	内外面炭化物
78	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G12?	SK86	上	(12.80)	(2.80)	—	2	外面炭化物
79	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7・12	SK86	上	(12.40)	(2.95)	—	5	2段ナデ、内外面炭化物
80	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G12	SK86	上	(12.30)	(3.10)	—	6	
81	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G12	SK86	上	12.20	3.20	—	10	2段ナデ
82	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7・12	SK86	上	(12.50)	(2.55)	—	4	内外面炭化物
83	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7	SK86		(13.20)	(3.00)	—	5	
84	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②			SK86	下	(10.17)	(2.65)	—	3	2段ナデ
85	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7・12	SK86	上	(11.80)	(2.45)	—	3	外面炭化物
86	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②		2G7・12	SK86	上	(12.00)	(3.20)	—	6	内外面炭化物
87	土師質土器	Ⅲ	CⅡa			SK86	下	(8.00)	(1.63)	—	7	外面炭化物
88	土師質土器	Ⅲ	CⅡa		2G7	SK86	上	7.70	1.65	—	13	
89	土師質土器	Ⅲ	CⅡa			SK86	1	(7.60)	(1.60)	—	4	内外面炭化物、上げ底
90	土師質土器	Ⅲ	CⅡa		2G7・12	SK86	上	8.20	1.65	—	9	内外面炭化物、灯明皿
91	土師質土器	Ⅲ	CⅡa			SK86		9.10	1.50	—	16	上げ底
92	土師質土器	Ⅲ	CⅡa		2G7	SK86	上	8.00	1.56	—	15	
93	土師質土器	Ⅲ	CⅡb		A	SK86	下	(8.00)	(1.68)	—	7	内面炭化物
94	土師質土器	Ⅲ	CⅡb			SK86	下	8.00	1.68	—	15	内面炭化物
95	土師質土器	Ⅲ	CⅡb			SK86	3	8.00	1.70	—	16	上げ底
96	土師質土器	Ⅲ	CⅡb		2G7・12	SK86	上	7.80	1.52	—	10	内面炭化物
97	白磁	Ⅲ		15C前半		SK86		(10.00)	(1.60)	—	1	
98	土師質土器	Ⅲ	CⅠa①			SK90	3	(13.60)	(2.76)	—	4	
99	土師質土器	Ⅲ	CⅡb			SK90	3	(8.60)	(1.75)	—	6	
100	土師質土器	Ⅲ	A			SK95	最下	—	(3.30)	6.70		回転糸切、外面炭化物
101	土師質土器	Ⅲ	CⅠb		2M8	SE101	上	(13.00)	(2.50)	—	4	
102	須恵器	壺		9C後	3M17	SE113		(12.00)	(3.40)	—	2	小泊産
103	珠洲焼	擂鉢		Ⅱ期	3M18	SE115		(13.60)	(4.00)	—	1	
104	珠洲焼	擂鉢		Ⅳ期	3M18	SE115	2	(34.00)	(11.55)	—	1	内面炭化物
105	珠洲焼	甕			3M18	SE115	最下	—	(10.30)	(18.00)		内面炭化物
106	珠洲焼	壺			3M17	SE116		—	(10.60)	—		内面炭化物
107	須恵器	無台坏		9C前～中		SK122		12.20	8.00	3.20	8	ヘラ切
108	珠洲焼	甕		Ⅲ期	2N11	SX123		(52.70)	(9.30)	—	1	
109	珠洲焼	壺		Ⅴ期	2N11	SX123	Ⅲ	(19.20)	(6.70)	—	2	把手剥落痕あり
110	土器	壺		古墳前期	2N3	SX123	1	(18.00)	(4.80)	—	3	外面炭化物
111	土師器	長胴甕			3M19	SK130	1	(20.00)	(2.35)	—	1	
112	土師質土器	Ⅲ	CⅠa①		3M24	SE131	1	(15.80)	(2.42)	—	3	
113	珠洲焼	甕			3M24	SE131		—	—	—		
114	珠洲焼	壺			3M1	SX143	4	—	(8.02)	—		
115	土師質土器	Ⅲ	DⅡ		3M1	SX143	最下	5.00	1.93	—	16	回転糸切、上げ底
116	須恵器	有台杯		8C末	2M21	SK185	6	(13.40)	(3.85)	(7.00)	2	
117	土師質土器	Ⅲ	DⅠ			SK200	4	9.00	2.00	5.25	14	回転糸切
118	珠洲焼	壺				SE205	最下	—	7.05	9.60		静止糸切、内外面炭化物
119	土師質土器	Ⅲ	CⅠb①			SE205	3	(13.80)	(2.60)	—	4	外底面籾痕、外面炭化物
120	珠洲焼	擂鉢		Ⅳ期		SK206	4	(34.40)	(11.15)	(12.50)	7	卸目12本　外面剥落
121	珠洲焼	壺				SK206	4	—	(4.85)	—		頸部径（21.80）
122	土師質土器	Ⅲ	CⅠa①			SK206	4	(13.10)	(2.83)	—	4	2段ナデ、外面炭化物
123	土師質土器	Ⅲ	CⅠa①			SK206	2	(12.10)	(3.45)	—	4	内外面炭化物
124	須恵器	甕				SK207		—	(3.70)	—		頸部径（19.00）、外面タタキ、内面当て具痕
125	土器	甕		弥生後期～古墳前期		SK355	1	(20.00)	(5.20)	—	2	有段口縁、126と同一個体か
126	土器	甕		弥生後期～古墳前期		SK355	1	—	13.60	4.20		ケズリ、内外面炭化物、125と同一個体か
127	土師質土器	Ⅲ	DⅠ			SK431	1	10.00	2.15	6.80	10	回転糸切
128	土師質土器	Ⅲ	CⅡb			SE432	1	7.80	1.65	—	9	口縁水平でない
129	珠洲焼	甕				SE432	4	(13.10)	(6.70)	—		外タタキ、底部やや摩耗、内面炭化物
130	土師質土器	Ⅲ	DⅠ			SE435	4	8.30	1.90	—	8	回転糸切、外面炭化物
131	珠洲焼	擂鉢		Ⅵ期		SE435	a	30.60	11.70	13.00	12	器形歪む、卸目9本、静止糸切、内外面炭化物
132	珠洲焼	壺		Ⅱ～Ⅲ期		SK437	1	—	—	—		外面格子目タタキ
133	珠洲焼	擂鉢			2G2～7	SX1	Ⅰ	—	—	—	1	片口部
134	土師器	甕			2G2～7	SX1	Ⅰ	—	(4.75)	(7.00)		回転糸切、外面炭化物

報告番号	種別	器種	分類	時期	出土グリッド	出土遺構	覆土層位	法量（cm）			遺存率（/16）	備考
								口径	高さ	底径		
135	土師質土器	皿	CⅡa			SE8		(8.00)	(1.40)	—	4	外底面滑らか
136	土師質土器	皿	CⅠb			SE8		(13.20)	(2.70)	—	2	内外面炭化物
137	土師質土器	皿	CⅠa②			SX31	1	(13.00)	(2.55)	—	2	内面炭化物
138	土師質土器	皿	BⅠb			SK79	3	(13.00)	(2.20)	—	6	京都系、内外面炭化物
139	土師質土器	皿	CⅠa①			SK89	1	(14.00)	(3.00)	—	3	
140	土師質土器	皿	BⅡb		3I22、3J23・38	SK89	上	(9.00)	(1.15)	—	2	京都系、口縁端部炭化物
141	白磁	碗	Ⅱ？			SK89	上	—	1.50	—		高台径（3.20）、高台内墨痕
142	瀬戸美濃	碗		15C後	3I22・23、3J2・3・7・8、5I	SK89	上	(10.00)	(4.20)	—	3	鉄釉
143	青磁	碗	B－Ⅰ	13C末～14C初		SX117	1	—	(3.15)	(5.00)		高台欠く、鎬蓮弁文
144	土師質土器	皿	CⅠa①		2M16・21	SX135	1	(13.00)	(3.40)	—	7	
145	須恵器	有台坏		8C後	2M4	SK142	1	(12.20)	(3.35)	—	4	高台径（8.70）、ヘラ切り
146	須恵器	坏蓋			2M4	SK142	1	—	(2.00)	—	2	裾部径（14.00）、天井部ケズリ
147	珠洲焼	擂鉢		Ⅵ期	2M4	SK142		(40.00)	(6.00)	—	2	口縁内端面に波状文
148	珠洲焼	擂鉢			2M4	SK142	2	—	(3.65)	—		
149	土師質土器	皿	CⅠa①		2L25	SX171	3	13.00	3.50	—	12	外面炭化物
150	土師質土器	皿	CⅠa①		2L25	SX171	2・3	(12.80)	(3.00)	—	4	
151	土師質土器	皿	CⅠa①		2L25	SX171	1・2・3	(13.20)	(3.15)	—	6	外面炭化物
152	土師質土器	皿	CⅠb②			SX171	3	(12.20)	(3.10)	—	6	
153	土師質土器	皿	CⅠa①		2L25	SX171	2・3	(12.60)	(3.00)	—	3	内面炭化物
154	土師質土器	皿	CⅠa①		2L25	SX171	2・3	(13.20)	(2.85)	—	4	
155	土師質土器	皿	DⅠ		2M25	SK187	1	(11.00)	(2.40)	(7.10)	4	回転糸切、内外面炭化物
156	珠洲焼	擂鉢		Ⅴ期		SK187	最下・1	(32.40)	(11.60)	—	5	
157	珠洲焼	擂鉢		Ⅵ期	3M25	SK187	3	(34.00)	(9.20)	—	2	卸目摩滅
158	越前焼？	壺			2M22	SX188	1	(26.80)	(6.50)	—	1	
159	土器	甕		弥生後期～古墳前期		SX214	1	(20.00)	(4.20)	—	2	有段口縁、擬凹線
160	珠洲焼	擂鉢				SE236	1	(35.20)	(6.80)	—		卸目摩滅、内外面下端割口炭化物
161	土師質土器	皿	CⅡa			SX321	1	(8.20)	(1.50)	—	3	内外面炭化物
162	土師質土器	皿	CⅡb			SX321	1	(7.40)	(1.50)	—	5	外底面滑らか
163	青磁	盤		13C末～14C初	6J1	SX322	1	(22.00)	(4.50)	—	3	鎬蓮弁文
164	土師質土器	皿	CⅡa			SX322	1	8.00	1.38	—	9	外底面滑らか
165	土師質土器	皿	CⅡb			SX326	1	(8.00)	(1.60)	—	5	
166	土師質土器	皿	CⅡb			SX408	1	8.00	1.75	—	10	外底面滑らか
167	珠洲焼	甕		Ⅲ期		SK445	82	(57.00)	(12.90)	—	3	内面炭化物
168	珠洲焼	擂鉢		Ⅳ期		SK445	76・1	(36.20)	(5.90)	—	2	
169	珠洲焼	擂鉢				SK445	2	—	(8.75)	11.40		静止糸切
170	青磁	碗	B－Ⅰ'	14C中		SK445	45	—	(3.95)	(3.00)		内底面双魚文、蓮弁文、漆つぎ
171	土師質土器	皿	CⅠa①			SK445	46	(12.00)	(3.25)	—	7	
172	土師質土器	皿	CⅠb①			SK445	10	12.00	3.60	—	15	内外面炭化物、灯明皿
173	土師質土器	皿	CⅠb①			SK445	41	12.00	3.70	—	16	内面炭化物
174	土師質土器	皿	CⅠb①			SK445	72	(11.80)	(3.45)	—	7	外面炭化物
175	土師質土器	皿	CⅠb①			SK445		(12.70)	(3.33)	—	6	外面炭化物
176	土師質土器	皿	CⅠb①			SK445	32＋20	12.20	3.50	—	16	内面炭化物
177	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	38	7.80	1.90	7.10	14	
178	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	85	7.60	1.73	6.50	10	
179	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	2	8.10	1.75	7.20	11	
180	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	78・1	7.40	1.71	6.85	8	
181	土師質土器	皿	CⅡb			SK445		7.80	1.76	6.65	16	底部凹み
182	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	66	7.20	1.75	6.80	11	
183	土師質土器	皿	CⅡb			SK445		8.00	2.00	7.00	10	底部凹み
184	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	21	7.70	1.76	7.00	15	上げ底
185	土師質土器	皿	CⅡb			SK445		7.60	1.80	6.80	9	底部凹み
186	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	1	7.20	1.83	6.15	13	内外面炭化物
187	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	60	7.40	1.62	6.70	16	底部凹み
188	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	25	8.00	1.95	7.05	15	底部凹み
189	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	74	7.40	1.65	6.20	7	底部凹み
190	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	B	7.20	1.65	5.55	16	
191	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	64	8.00	1.86	7.45	16	
192	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	79	(7.80)	(1.65)	(6.70)	4	
193	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	29	(7.50)	(1.60)	(6.20)	7	外面炭化物
194	土師質土器	皿	CⅡb			SK445	47	7.10	1.65	6.35	16	底部凹み
195	青磁	碗	B？	14C		SK462		—	(2.50)	5.20		高台内施釉なし、蓮弁文？
196	土師器	碗		10C		P2H19	1	12.20	3.22	5.50	14	回転糸切
197	土師質土器	皿	CⅡa			P2J46	1	(9.00)	(1.50)	—	4	外底面滑らか
198	珠洲焼	甕		Ⅲ期	2J24	P2J66	1	(22.60)	(7.80)	—	1	外タタキ、被熱
199	土師質土器	皿	CⅠa①		2L25	P2L84	1	12.50	3.50	—	14	
200	青磁	碗	D	14C	2M8	P2M6	1	(16.00)	(3.40)	—	2	端反
201	土師器	高坏		古墳前期	3I11	P3I15	1	—	(4.90)	—		接合部径3.80

報告番号	種別	器種	分類	時期	出土グリッド	出土遺構	覆土層位	法 量（cm）			遺存率（/16）	備 考
								口径	高さ	底径		
202	土師器	甕			3J17	P3J16	Ⅰ	—	（1.90）	6.70		回転糸切、外面炭化物
203	白磁	合子蓋				P3J22	1	（6.00）	（1.35）	—	2	内面施釉なし
204	青磁	碗	B－Ⅰ	13C末～14C初		P3L19	1	（16.00）	（4.15）	—	1	鎬蓮弁文
205	珠洲焼	擂鉢			3M11	P3M9	3	—	（5.60）	—		最大径（31.80） 摩耗
206	白磁	Ⅲ			3M6	P3M43	1	（9.00）	（1.70）	—	2	
207	青磁	碗	E	15C前	3M12	P3M49	1	（17.70）	（4.48）	—	2	口縁部肥厚
208	土師質土器	Ⅲ	CⅠa②			P3L23	1	（13.80）	（2.75）	—	5	内外面炭化物
209	青磁	碗	B－Ⅰ	13C末～14C初		P4I69	1	—	（3.90）	—		鎬蓮弁文
210	珠洲焼	壺or甕				P4J51	1	—	—	—		漆つぎ？
211	土師質土器	Ⅲ	CⅡa		5K20	P5K11		（8.00）	（1.75）	—	4	
212	須恵器	甕			2L4		1	（24.00）	（1.95）	—	1	
213	土師器	碗		10C初	9M21		Ⅵ	12.40	4.00	5.10	11	回転糸切
214	青磁	盤	B－Ⅰ	13C末～14C初		不明		（16.80）	3.20	8.40	3	鎬蓮弁文
215	青磁	碗	B－Ⅰ	13C末～14C初	5J21			（18.40）	（2.80）	—	2	鎬蓮弁文
216	青磁	碗	B？		9K17		Ⅲ	—	（3.20）	5.40		高台内釉剥ぎ、蓮弁文？
217	白磁	Ⅲ	Ⅸ	13C中～14C初		不明	不明	（9.50）	2.30	—	2	口禿げ
218	白磁	Ⅲ	Ⅲ	12C中～後	5J3		Ⅱ	—	（1.60）	（3.80）		高台部分炭化物、内底面蛇ノ目釉剥ぎ
219	白磁	碗			5K17		Ⅴ	—	（1.80）	4.20		
220	白磁	Ⅲ				不明	不明	（9.40）	（1.80）	—	3	

別表５ 木製品観察表

報告	品名・部位	出土地点		法 量（cm）				遺存状況	木取り	樹種	備 考
		遺構	層位	長さ	幅	厚さ	径				
237	漆椀	SE9	8層	高 5.2		底 7.2	口 14.0	一部	横木	トチノキ	内外面黒漆に朱の植物模様
238	漆皿	SE9	8層	高（1.1）		底 9.8	口 10.6	一部	横木	クリ	内外面黒漆に朱の植物模様
239	曲物側板	SE9		12.6	6.0	0.7		両端欠損	柾目		外面斜めに線状痕あり・内面にケビキあり
240	曲物側板	SE9	1層	21.3	2.8	0.4		両端欠損	柾目	スギ	木釘穴３つ
241	俵編み機	SE9		7.5			3.1	1/2欠損	丸材	モクレン属	
242	部材	SE9		6.1	3.0	1.4		両端欠損	柾目		V字状の切り込み２つ・全面におこげ
243	脚部	SE111	3層	8.5	2.4	1.7		ほぼ完形		モクレン属	全体黒漆塗り
244	はし	SE111	5層	20.9	0.6	0.4		完形		スギ	
245	漆椀	SE125	3層	高（5.2）		底 9	口 13.0	1/2欠損	横木	タラノキ	内外面黒漆に朱の唐傘模様
246	漆椀	SE125	3層	高（0.8）		底 6.8	口（7.8）	一部	横木	ケヤキ	内外面黒漆見込みに朱の模様
247	漆椀	SE125	3層	高 3.6		底 8.8	口 19.4	一部	横木	ケヤキ	内外面黒漆に朱の藤の花模様
248	部材	SK143	最下層	20.4	4.5	3.9		片端欠損		クリ	約２×２の方形の穴２個
249	部材	SK143	最下層	20.3	4.7	2.6		1/2欠損			約２×２の方形の穴２個・12と同様の部材？
250	折敷	SE205	6層	24.9	7.6	0.6		1/2欠損	板目		木釘穴４つ・表面：直線上の切り跡痕多数あり
251	折敷	SE205	6層	25.5	11.6	0.5		1/2欠損	柾目		留め具つき・木釘穴２個・１片角あり
252	折敷	SE205	6層	33.4	4.4	0.5		中央部切断	板目	スギ	木釘穴４個・側面に１個・線状痕・こげ跡数カ所あり
253	折敷	SE205	6層	18.8	5.5	0.5		片端欠損	板目		止め皮も一部残存・線状痕多数あり
254	漆椀	SE205	6層	高（2.6）		底 5.0	口（8.6）	一部	横木		内面：黒漆の上に朱漆塗り・外面：黒漆に朱の模様
255	椀	SE205	6層	高 2.7		底 6.4	口 11.2	一部	横木	ブナ属	無台
256	漆椀	SE205	6層	高（2.6）		底 8.2	口(13.8)	一部	横木	ブナ属	内外面黒漆見込みに朱の模様
257	曲物底板	SK206	4層	15.8	7.8	0.9		1/2欠損	柾目		木釘穴１個・側面に３個計４個
258	はし	SK206	4層	（15.1）	0.6	0.6		片端欠		スギ	
259	はし	SK223	4層	23.3	0.6	0.6		完形		スギ	
260	漆皿	SK224	下層	高 1.0		底 7.6	口 9.6	一部	横木	ブナ属	内外面黒漆塗り
261	漆皿	SK224	下層	高（1.3）		底 7.4	口 9.4	一部	横木		内外面黒漆塗り・見込みに朱の模様
262	はし	SK227	7層	19.4	0.6	0.4		完形		スギ	
263	はし	SK227	7層	20.4	0.5	0.5		完形			
264	はし	SK227	7層	19.6	0.6	0.4		完形			
265	部材	SK232	最下層	16.0	3.7	4.1		1/2欠損	板目		一端にこげ跡・約３方形の穴２つ
266	部材	SK236	3層	36.0	16.0	2.5		両端欠損	板目	マツ属複維管束亜属	上部５×３の四角形の凹・側面に５×３の方形の穴
267	柄杓側板	SK239	7層	高 8.6			8.8	ほぼ完形	柾目	ヒノキ	身のみ存在
267	柄杓底板	SK239	7層			0.6	8.0	完形	柾目	スギ	前掲載側板と同一体
268	底板	SD301		15.8	7.0	1.0		1/2欠損	板目	スギ	木釘穴２個・片方木釘残存
269	底板	SK402	最下層	22.9	11.1	1.1		1/2欠損	柾目		
270	板材	SK402	最下層	25.1	17.5	4.2		両端欠損	板目	クリ	両端・片面加工痕
271	杭	SK402	最下層	6.6			2.8	一部	丸材	ヤブツバキ	先６面カット、杭の先
272	漆椀	SE407	9層	高（5.0）		底 7.5	口 13.6	ほぼ完形	横木	ケヤキ	内外面黒漆塗り・歪みあり
273	曲物側板	SE407	9層	高 7.0		0.5	口 31.0	ほぼ完形	柾目	スギ	底板なし
274	板材	SE407	9層	30.5	1.2	1.6		両端欠損	板目		先端部こげ跡あり・断面ほぼ方形
275	曲物底板	SE432	4層	25.2	6.3	0.7		両端・片面欠損	柾目	スギ	こげ跡１個所あり

報告	品名・部位	出土地点		法　量（cm）				遺存状況	木取り	樹種	備　考
		遺構	層位	長さ	幅	厚さ	径				
276	曲物底板	SE432	4層	15.3	4.2	0.6		両端・片面欠損	柾目		側面に木釘穴１個
277	曲物底板	SK434	4層	34.4	5.6	0.8		両面欠損	板目		木釘穴１つ・裏面全面にこげ跡
278	曲物底板	SK434	4層	24.7	9.0	0.8		両面・片面欠損	柾目	ヒノキ	木釘穴９つ・線状痕、裏面こげ跡
279	曲物底板	SK434	4層	47.0	5.3	1.2		両面欠損	板目		木釘穴１個
280	曲物柄杓	SK434	4層	高（8.9）			9.1	ほぼ完形	側板柾目・底板板目		
281	木札	SE435	4層	8.4	2.1	0.1		下部欠損	柾目		上部に孔１つ・上部圭頭状に加工
282	漆椀	SE435	8層	14.0	3.7	7.6		1/4欠損	横木	ブナ属	歪みあり･内外面黒漆、見込み朱漆で模様
283	漆椀	SE435	4層	高　5.4		底　8.6	口 14.8	ほぼ完形	横木	ブナ属	外面：黒漆に朱の模様、内面：朱漆塗り
284	曲物底板	SE435	8層	24.1	8.4	1.2		1/2欠損	柾目		木釘穴３個・こげ、線状跡痕多数
285	曲物底板	SE435	8層	54.0	13.7	1.9		両端欠損	柾目	スギ	木釘穴６個、側面継ぎくい３個
286	曲物底板	SE435	8層	29.1	6.7	1.1		全端欠損	板目		木釘穴５個（大きさ・形もバラバラ）
287	露卯下駄	SE435	8層	20.0	9.0	2.9		ほぼ完形	柾目	モクレン属	
288	連歯下駄	SE435	8層	13.4	9.9	5.3		1/4欠損	板目	ヤマグワ	
289	柱根	SE435	8層	13.5			9.7	柱根の一部	丸材	クリ	
290	杭	SE435	8層	9.4			5.0	杭の先端	丸材		
291	杭	SE435	8層	23.7			3.5	上部欠損	丸材	クリ	先端鋭く３面カット
292	杭	SE435	8層	22.1			3.5	杭の先端	丸材		
293	棒	SE435	8層	25.6			3.6	下部欠損	丸材		先端Ｙ字形
294	木札	SE435		19.4	2.9	0.6		ほぼ完形	柾目	スギ	上部下部双方の左右に切り込み
295	木札	P2I99	最下層	7.9	2.4	0.4		下部欠損	板目	スギ	墨書「蘇民将来」？
296	柱根	P2I99		44.0			9.5	上部欠損	丸材	コナラ属 アカガシ亜属	
297	杭	P2I99		12.5			4.0	上部欠損	丸材		杭の先端
298	板材	2I9	Ⅲ層	24.7	3.6	1.2		1/2欠損	柾目		先端部にこげ
299	杭	4M2	あぜⅡ層	36.7			2.9		丸材		下部削り痕・上部自然木
300	杭	4M2	あぜⅡ層	50.0			3.5	完形	丸材		両端が尖っている上下削り痕
301	こま	4M17	Ⅳ層	（7.2）			5.4	ほぼ完形		ブナ属	全体の2/3ほどにこげ跡
302	板材	5K1		40.2	1.5	0.5		一部	柾目		板材の割れた物か？
303	杭	8J24		18.2			2.5	上部欠損	丸材		先端３面鋭く切られ尖る
304	部材	9J16	Ⅴ層	12.4	5.0	2.6		1/2欠損	板目	スギ	径12cmほどの円形有孔部材
305	木札	9J16	Ⅴ層	13.9	1.9	0.4		ほぼ完形	柾目	スギ	
306	木札	9J16	Ⅴ層	13.8	1.8	0.4		ほぼ完形	柾目		

別表６　石製品観察表

No.	遺構・グリット	層位	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　考
307	SK21	1層	石錘	安山岩	7.4	5.5	1.9	91.0	両端欠損
308	SK42		茶臼	細礫岩	7.6（高さ）	30.0（底径）		850.0	下臼
308	SK42	6層	茶臼	細礫岩	5.8（高さ）	21.0（底径）		840.0	被熱・上臼
309	SK89	4層	石臼	安山岩	19.0	10.7	12.8	2760.0	上臼
310	SK90	3層	砥石	凝灰岩	6.9	3.2	3.4	132.0	一部欠損・砥面三面・細い擦切溝有
311	SK108	最下層	凹石類	安山岩	10.8	10.7	2.9	360.0	表面に焦げ跡有
312	SD301	中層	不明	凝灰岩	5.0	3.7	3.7	79.0	
313	SK423		砥石	凝灰岩	8.2	7.0	5.1	315.0	砥面二面・上部湾曲部分に多数の擦切痕有
314	SE432	4層	砥石	凝灰岩	7.8	9.2	6.8	687.5	砥面四面・深い擦切痕有・凹状の砥面を有することから円筒形のもの砥いだ可能性あり
315	SK445		石鍋	滑石	7.6（高さ）	18.0（口径）	10.6（底径）	545.0	内外面縦削り・鍔付き
316	P2M64	1層	砥石	凝灰岩	9.4	4.7	1.2	128.5	側面に深い擦切溝有・砥面三面
317	P3J75	1層	砥石	凝灰岩	15.4	3.7	2.4	272.0	砥面三面・一部欠損・擦痕数本有
318	P3M9		磨石類	安山岩	16.8	10.5	5.1	1270.0	一部欠損・上面被熱し赤変
319	8M20	Ⅳ層	石鍋	滑石				55.0	暗青灰色、内外面縦削り
320	5J8	Ⅴ層	石鍋	滑石				47.0	赤みを帯びた灰色、ヨコ削りが主体・孔あり
321	5J20	Ⅴ層	石鍋	滑石				14.5	灰白色、孔径１㎝
322	5M11	Ⅲ層	岩偶	輝緑岩	13.0	6.6	3.2	385.0	磨製石斧を加工？・上部に擦切痕有
323	8J12	Ⅳ層	砥石	凝灰岩	10.1	3.0	2.5	89.0	砥面四面・一部欠損
324	9M18	Ⅲ層	砥石	凝灰岩	11.0	2.7	2.1	93.5	砥面三面・細かい擦痕有・一部欠損
325	5K5	ベルト	砥石	凝灰岩	7.4	1.9	1.4	37.8	砥面二面・上面縦方向に数本の刻み有
326	6J22	Ⅴ層	不明	安山岩	7.5	5.0	3.6	142.0	正面に線状溝有
327	3I14	Ⅳ層	磨石類	安山岩	16.3	13.4	6.6	1600.0	全面に煤付着
328	8K15	Ⅲ層	磨石類	安山岩	11.1	7.6	4.1	560.0	凹痕有
329	11L10	Ⅴ層	薬研	安山岩	11.0	6.0	3.2	209.0	側面に磨痕有
330	5J8	Ⅴ層	磨製石斧	砂岩	6.5	5.9	3.0	186.0	一部欠損
331	8M8	Ⅲ層	不明	泥岩・凝灰岩	7.9	6.0	0.9	41.0	孔径5mm
332	4M18	Ⅳ層	不明	滑石	2.9	2.2	1.0	9.0	側面に文様の刻み有り
333	9M6	Ⅲ層	石鏃未成品	チャート	2.3	2.3	0.6	3.0	両面に敲打痕有

別表７　土錘一覧表

No.	出土地点	層序	遺構	法量（cm）（g）				遺存状態
				長さ	最大径	穴径	重量	
334	8J3	Ⅲ層	包含層	8.0	4.4	1.5	127.0	完形
335	7J1	Ⅳ層	包含層	4.8	(4.3)	1.5	38.7	縦側部半分（上部少し欠損）
336	5L8	Ⅳ層	包含層	(3.7)	(3.4)	1.5	30.0	縦側部半分（上部少し欠損）
337	7M14	Ⅲ層	包含層	(4.3)	3.4	1.5	14.6	側片部３分１
338	6J5	Ⅳ層	包含層	48.0	2.8	0.7	33.6	完形（復元）
339	6M14	Ⅳ層	包含層	4.1	2.4	0.7	11.2	縦側部半分（上部少し欠損）
	6L6	Ⅲ層	包含層	6.4	4.0	1.5	86.8	完形（上部少し欠損）
	9K12	Ⅲ層	包含層	5.4	3.9	1.1	38.9	縦側部半分
	6J13	Ⅲ層	包含層	4.9	4.2	1.5	38.5	縦側部半分
	7N7	Ⅲ層	包含層	4.1	(3.3)	1.5	18.6	縦側部半分（上部少し欠損）
	2H16	1 層	SK35	5.3	3.1	1.1	56.6	完形
	6I1	Ⅴ層	包含層	(3.2)	(2.1)	0.7	6.5	側片部３分１（上部欠損）

別表８　金属製品・鉄滓観察表

No.	出土地点	層位	種　別	法　量（cm・g）			
				長さ	幅	厚さ	重さ
341	7J20	Ⅴ	刀子	10.5	2.0	0.6	23.0
342	8L25	Ⅲ	刀子	9.0	0.7	0.2	6.5
343	4M	Ⅲ	鍔	7.8	7.4	0.5	135.0
344	SK241	最下層	バックル	2.0	1.8	0.6	3.0
345	3L1	Ⅳ	針状金属	4.8	3.3	0.5	8.5
346	5J3	Ⅳ	飾り金具	3.0	2.9	0.4	3.5
347	SX143	1	板状金属	3.6	3.4	1.2	15.0
348	8N5	Ⅲ	板状金属	5.4	3.3	0.7	20.0
349	11K5	Ⅲ	キセル	9.5	1.0	0.9	9.5
350	4K11	Ⅳ	キセル	5.0	1.1	0.7	2.0
351	8M20	Ⅲ	工具	7.5	1.9	1.3	45.0
352	SK86	5	金具	13.4	0.7	0.6	12.0
353	8K10	Ⅴ	金具	17.9	1.1	0.9	58.5
354	2M15	Ⅲ	楔（くさび）	4.9	1.3	0.6	13.8
355	P2I16	1	板状金属	5.0	1.3	0.4	9.8
356	8L16	Ⅲ	板状金属	3.7	2.2	0.6	13.2
357	5M1	Ⅲ	棒状金属（太）	5.0	2.2	1.4	40.5
358	SK407		釘	9.0	0.7	0.7	7.8
359	P2H16	1	釘	7.9	0.7	0.8	11.5
360	4M6	Ⅳ	棒状金属	8.3	0.8	0.9	19.8
361	SK42	3	棒状金属	9.8	1.2	0.9	13.5
362	SX143	1	板状金属	4.5	2.0	0.8	4.0
363	6Lベルト		羽口				
364	7M17		羽口				
365	SD301	4	鉄滓				
366	P2J44	1	羽口				
367	SD301	最下層	鉄滓				
368	SX93	1	鉄滓				
369	SD301	2	鉄滓				
370	SX317	1	鉄滓				
371	P2I14	1	鉄滓				
372	P2I14	1	鉄滓				
373	SK200	2	鉄滓（流出滓）				
374	SK200	1	鉄滓				
375	P2M20	1	鉄滓				

別表９　銭貨観察表

No.	銭貨名	出土地点	層位	初鋳年	備考	貨幣形式
221	天聖元寶	SK35	1	前蜀917	天聖元寶と熙寧元寶２枚癒着	18-4
222	熙寧元寶	SK35	1	北宋1068	天聖元寶と熙寧元寶２枚癒着	49-1
223	元豊通寶	8L16	Ⅲ	北宋1078		51-11
224	皇宋通寶	6L13	Ⅲ	北宋1038		41-5
225	景徳元寶	35T		北宋1004		34-1
226	聖宋元寶	8K8	Ⅲ	北宋1101		60-2
227	熙寧元寶	10M24	Ⅳ	北宋1068		49-1
228	至道元寶	9M12	Ⅲ	北宋995		32-1
229	永楽通寶	SX89	6	明1408		β-32
230	元豊通寶	SD313	1	北宋1078		51-14
231	明道元寶	8K1	Ⅳ			β-4
232	寛永通寶	3K1～3	Ⅱ		背文・波形・大	
233	寛永通寶	10K2	Ⅱ		背文・文・中	
234	寛永通寶	5M	Ⅲ		背文・無・中	
235	寛永通寶	8N	Ⅲ		背文・無・大	
236	寛永通寶	9K	Ⅲ		背文・無・中	

別表10　土器・陶磁器類の組成表

種　別	器　種	遺構出土							遺構外出土	合　計
		SD145	SD301	SK80	SK86	SK445	SX171	左記以外		
土師器	坏	0	0	0	0	0	0	21	21	42
	碗	9	0	0	0	1	0	21	24	55
	甕	1	2	0	0	0	0	19	37	59
	壺	0	0	0	0	0	0	20	6	26
	不明	1	0	0	0	0	0	2	7	10
須恵器	坏	9	5	0	0	2	0	59	61	136
	坏蓋	2	1	0	0	0	0	13	17	33
	甕	0	3	0	0	0	0	4	3	10
	壺	0	6	0	0	0	0	3	22	31
	長頸瓶	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	横瓶	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	広口瓶	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	瓶類	1	1	0	0	0	0	1	4	7
	不明	0	0	0	0	0	0	1	0	1
灰釉陶器	碗	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	皿	0	0	0	0	0	0	0	3	3
土師質土器	皿（Ⅰ類）	13	130	26	153	126	39	604	1536	2627
	皿（Ⅱ類）	21	138	122	272	407	4	765	2843	4572
	不明	0	0	0	0	1	0	3	13	17
珠洲焼	甕	1	2	0	1	3	0	5	29	41
	壺	0	4	0	0	1	0	4	16	25
	擂鉢	1	7	0	1	7	0	54	46	116
越前焼	壺	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	擂鉢	0	0	0	0	0	0	1	2	3
瀬戸美濃	碗	0	0	0	0	0	0	5	12	17
	皿	0	0	0	0	0	0	3	4	7
	壺	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	香炉	0	2	0	0	0	0	0	0	2
青磁	碗	0	3	0	0	4	2	14	66	89
	皿	0	1	0	0	0	0	2	9	12
	盤	0	0	0	0	0	0	4	5	9

土器・陶磁器類の組成表

種別	器種	遺構出土							遺構外出土	合計
		SD145	SD301	SK80	SK86	SK445	SX171	左記以外		
青磁	壺	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	瓶類	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	不明	0	4	0	0	0	0	2	0	6
白磁	碗	0	2	0	2	0	2	2	11	19
	皿	0	0	0	1	0	0	5	10	16
	甕	1	3	0	1	2	0	14	0	21
	蓋	0	0	0	0	0	0	2	0	2
肥前陶器	碗	0	0	0	0	0	0	0	6	6
	皿	0	0	0	0	0	0	0	7	7
	擂鉢	0	0	0	0	0	0	0	7	7
	茶入	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	1	1
肥前磁器	碗	0	0	0	0	0	0	2	20	22
	皿	0	0	0	0	0	0	0	4	4
	不明	0	0	0	0	0	0	0	1	1
越中瀬戸	碗	0	0	0	0	0	0	0	4	4
	壺	0	0	0	0	0	0	1	1	2
京・信系	碗	0	0	0	0	0	0	0	1	1
不明	碗	0	0	0	0	0	0	2	17	19
	皿	0	0	0	0	0	0	0	10	10
	不明	0	0	0	0	0	0	0	6	6
合計		60	316	148	431	554	47	1659	4905	8120

図　　版

凡　例

1　遺構図において、分割図は調査区全体を網羅したものではなく、西側部分のみとした。分割図の後に遺構土層断面図、エレベーション図を掲げた。

2　遺構分割図において、掘立柱を構成するピットにトーンを添付した（重複している建物についてはトーン濃度を変えた）。

3　土層の表記は、基本土層はローマ数字、遺構覆土は算用数字を使用した。

4　遺物実測図での土器断面は須恵器塗りつぶし、その他白抜きとした。

5　木製品・製鉄遺物は、焼けた部分や鉄がタール状に付着したところがある。これらはトーンで表記した。

焼けた部分・タール状付着範囲

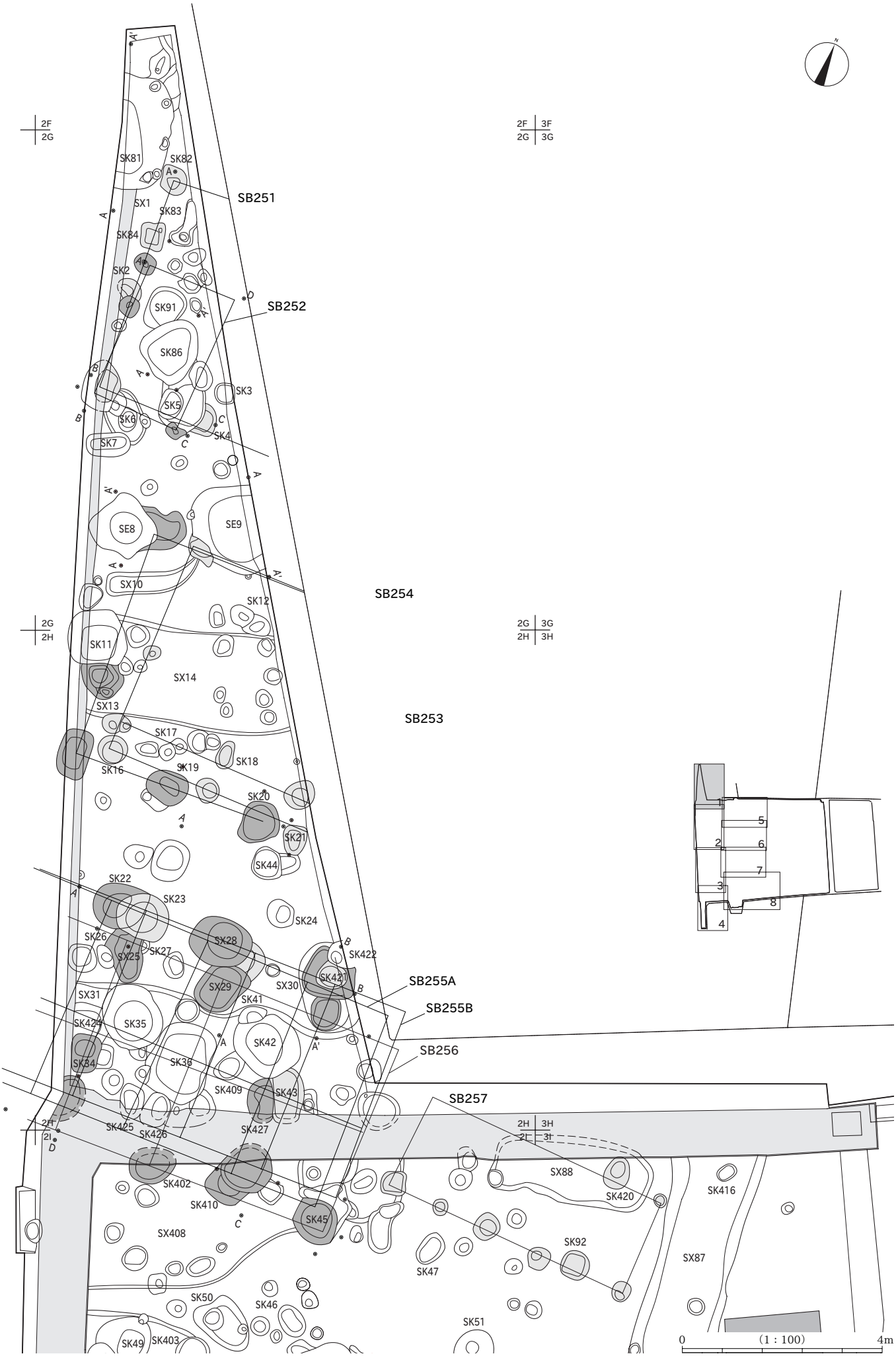
6　赤漆はトーンで色彩を表記する。

赤漆

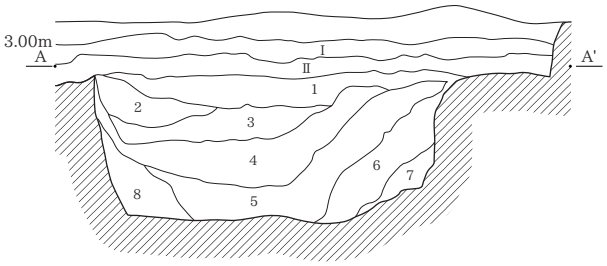
7　石器・石製品の敲打痕・磨痕・炭はトーンで表記した。

敲打痕　磨痕　炭

F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
道路法線
2.70m
2.60m
2.50m
2.40m
2.30m
2.20m
2.10m
2.00m
1.90m
1.80m
1.70m
0
(1 : 400)
20m

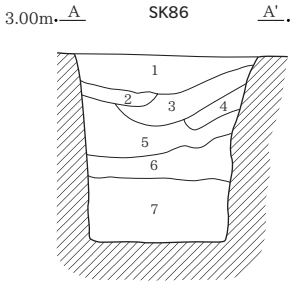

2F
2G
2F
3F
2G
3G
SK81
SK82
SB251
SX1
SK83
SK84
SK2
SB252
SK91
SK86
SK3
SK5
SK6
SK4
SK7
SE8
SE9
SX10
SK12
SB254
2G
2H
2G
3G
2H
3H
SK11
SX14
SX13
SB253
SK17
SK18
SK16
SK19
SK20
SK21
SK44
SK22
SK23
SK24
SK26
SX28
SK27
SX25
SK422
SX29
SX30
SK421
SB255A
SB255B
SX31
SK41
SK429
SK35
SK42
SB256
SK34
SK36
SK409
SK43
SB257
2I
2H
3H
2I
3I
SK425
SK426
SK427
SX88
SK420
SK416
SK402
SK410
SK45
SX408
SK92
SK47
SX87
SK50
SK46
SK51
SK49
SK403
5
2
6
7
3
8
4
0
(1 : 100)
4m

SK81



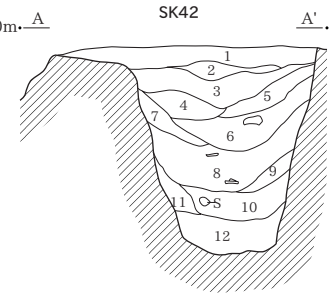
SK81
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　褐色粘質土〔わずかに遺物を混入〕
4　灰褐色粘質土〔わずかに遺物を混入〕
5　灰黄褐色粘質土
6　黒褐色砂質土
7　黒褐色土〔炭化物を多く混入〕
8　黒褐色粘質土

SK86



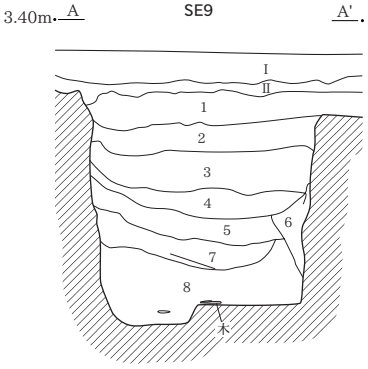
SK86
1　黒褐色粘質土
2　褐灰色粘質土〔粒子が細かい〕
3　灰黄褐色砂質土
4　黒褐色砂質土
5
6
7

SK42



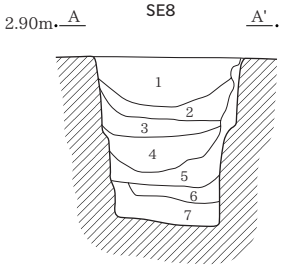
SK42
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　褐色粘質土
4　灰褐色粘質土
5　灰褐色粘質土
6　黒褐色砂質土
7　褐色粘質土
8　黒褐色粘質土
9　褐色粘質土
10　黒褐色粘質土
11　褐色粘質土
12　黒褐色粘質土

SE9



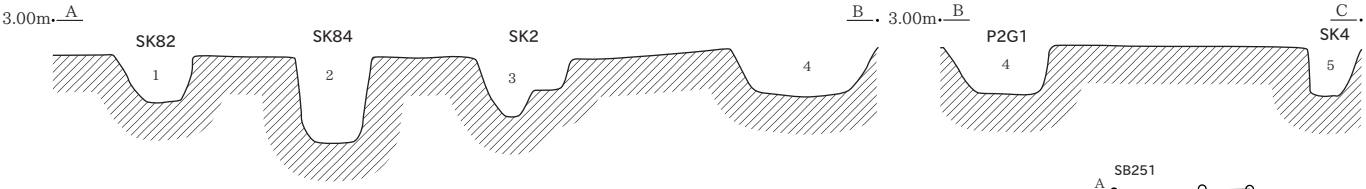
SE9
1　黒色粘質土
2　暗褐色粘質土
3　黒色粘質土
4　黒褐色粘質土
5　灰褐色粘質土
6　黒褐色砂質土
7　褐色粘質土
8　黒褐色粘質土

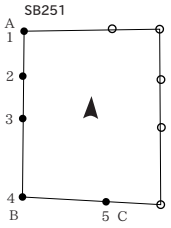
SE8



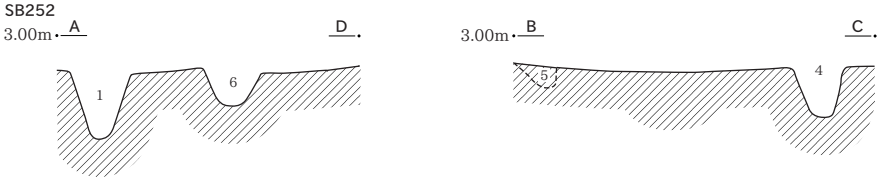
SE8
1　黒褐色粘質土〔灰黄褐粘土ブロック混入〕
2　灰黄褐色粘質土〔炭化物混入〕
3　黒褐色粘質土〔炭化物混入〕
4　黒褐色粘質土
5　黒色粘質土〔炭化物混入〕
6　黒色砂質土〔炭化物混入〕
7　黒色土

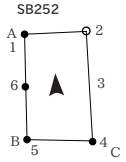
SB251



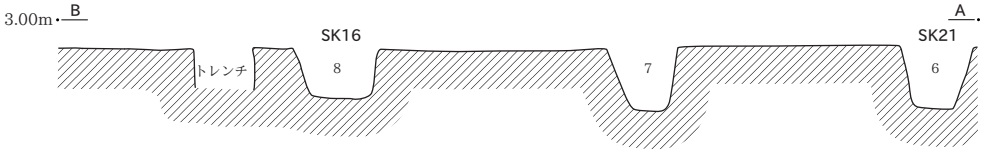


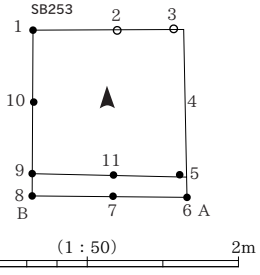
SB252

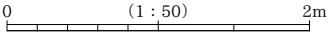


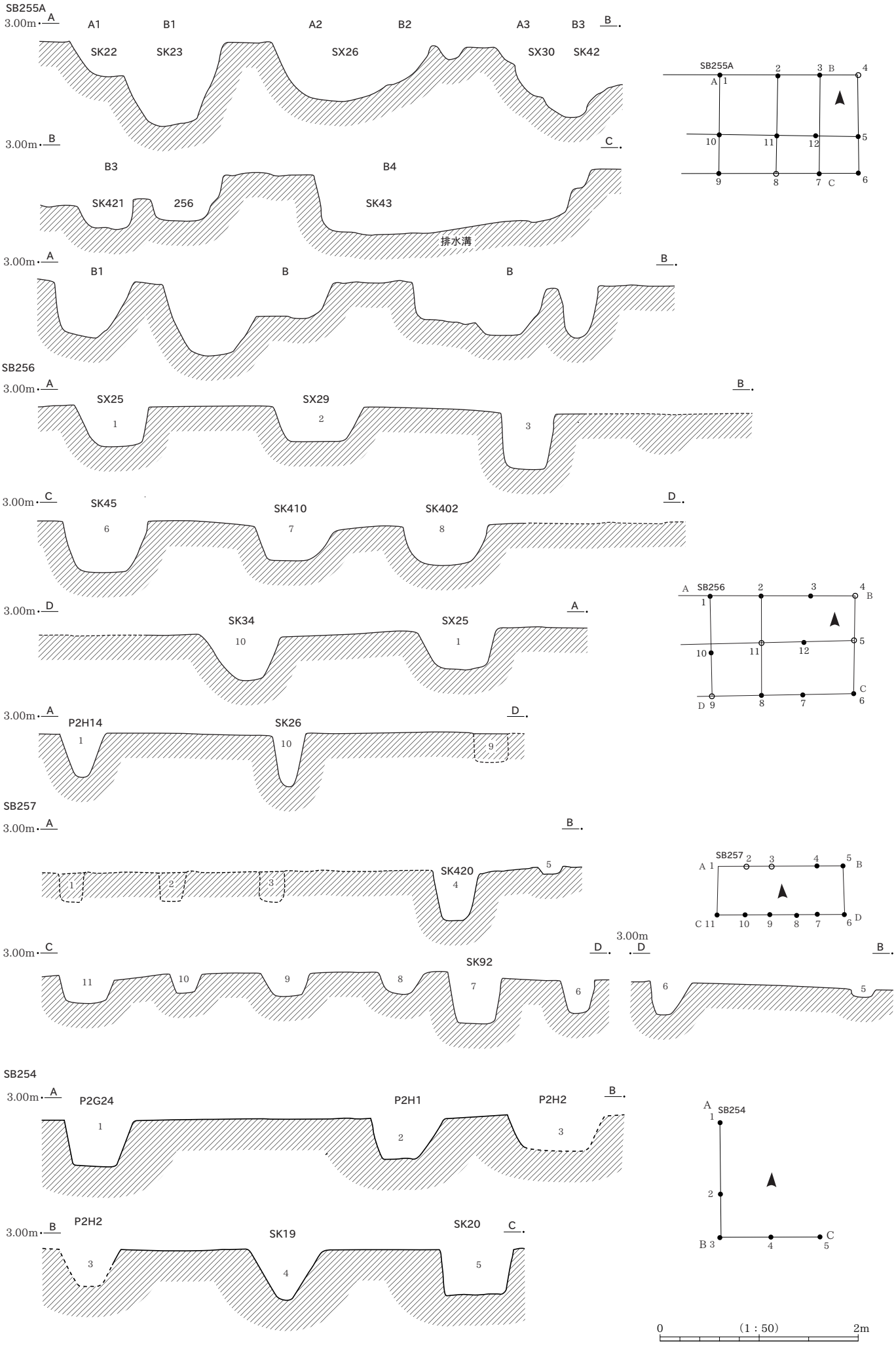


SB253

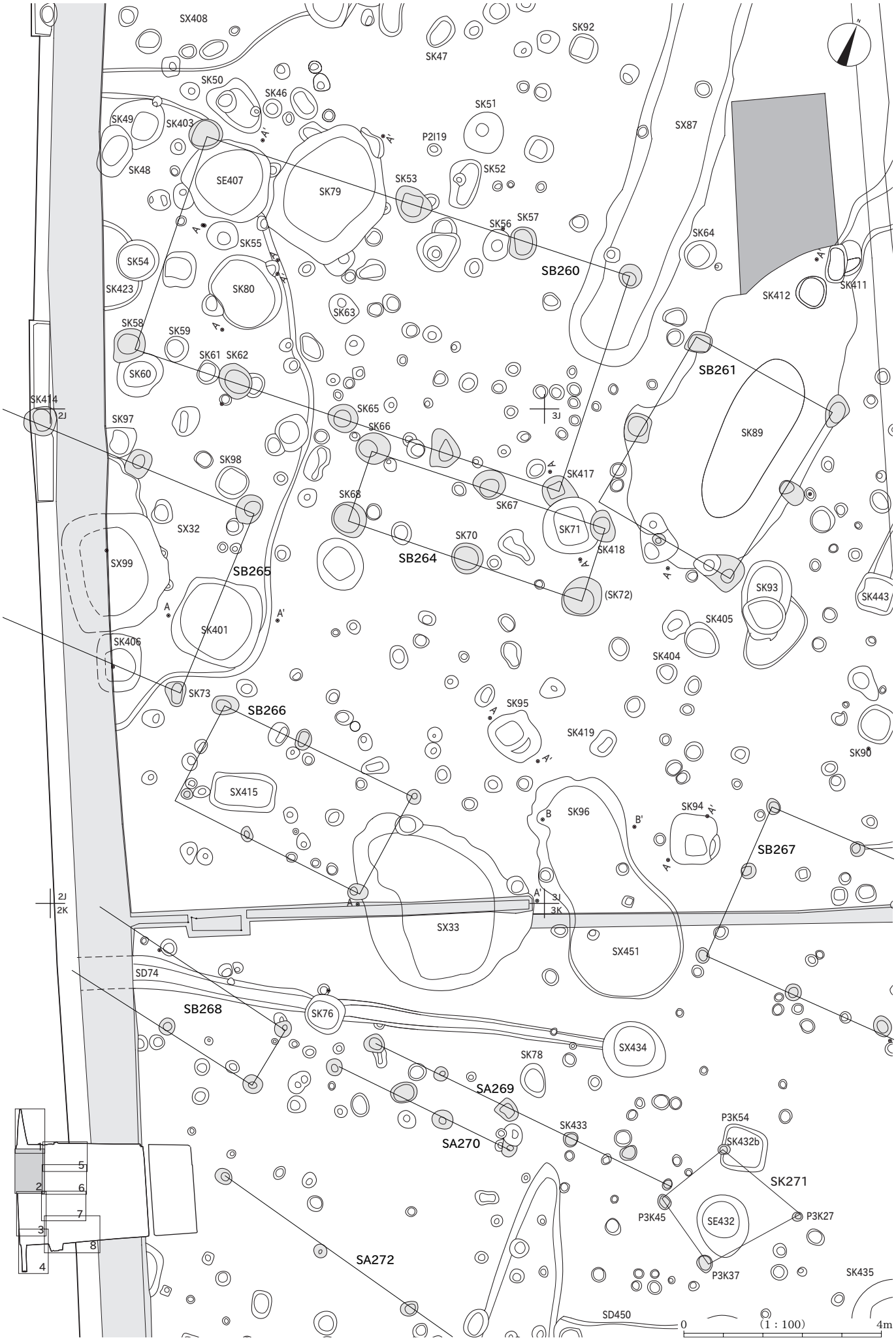




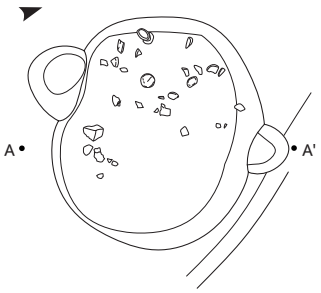


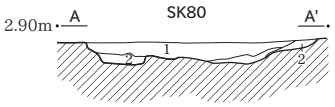

SB255A
A1
B1
A2
B2
A3
B3
SK22
SK23
SX26
SX30
SK42
B3
B4
SK421
256
SK43
排水溝
B1
B
B
SB256
SX25
SX29
SK45
SK410
SK402
SK34
SX25
P2H14
SK26
SB257
SK420
SK92
SB254
P2G24
P2H1
P2H2
P2H2
SK19
SK20
0
(1 : 50)
2m

遺構分割図（2）

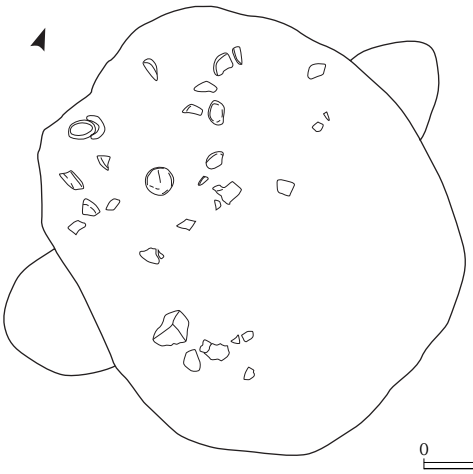

SX408
SK47
SK92
SK50
SK46
SK51
SK49
SK403
P2I19
SX87
SK48
SE407
SK79
SK53
SK52
SK56
SK57
SK64
SK55
SK54
SB260
SK423
SK80
SK63
SK412
SK411
SK58
SK59
SK61
SK62
SK60
SB261
SK414
2J
SK65
3J
SK97
SK66
SK89
SK98
SK417
SK68
SK67
SK71
SX32
SK70
SK418
SX99
SB264
SB265
SK93
SK443
(SK72)
SK405
SK401
SK406
SK404
SK73
SB266
SK95
SK419
SK90
SX415
SK96
SK94
SB267
2J
2K
3J
3K
SX33
SX451
SD74
SB268
SK76
SX434
SK78
SA269
SK433
P3K54
SA270
SK432b
SK271
P3K45
SE432
P3K27
SA272
P3K37
SK435
SD450
0
(1 : 100)
4m

SK80



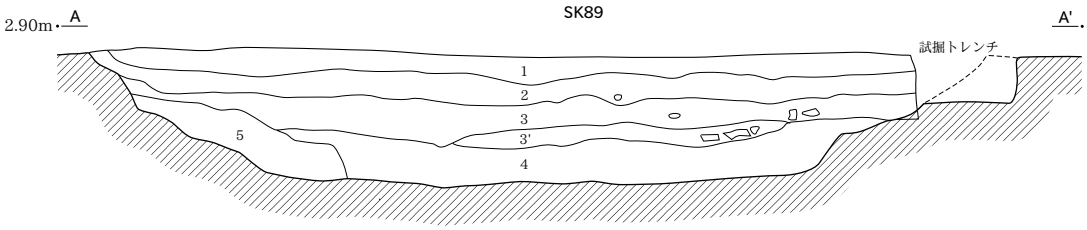


SK80遺物微細図

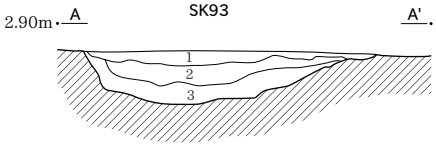


SK80
1　黒褐色粘質土
〔わずかに炭化物混入〕
2　黄褐色粘質土
〔赤褐色粘質ブロックを混入〕

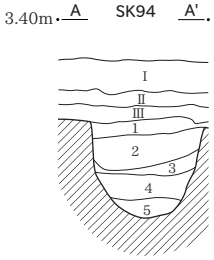
0　（1：20）　1m



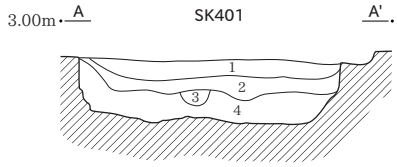
SK89
1　にぶい黄褐色粘質土
2　黒褐色粘質土
3　灰黄褐色砂質土
〔炭化物混入〕
3'　灰褐色粘質土
〔炭化物混入・遺物出土〕
4　灰黄褐色砂質土
5　やや明るい灰黄褐色粘質土



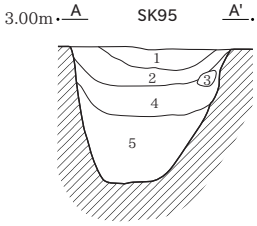
SK93
1　灰褐色粘質土
〔炭化物・遺物混入〕
2　黒褐灰色粘質土
〔炭化物混入〕
3　灰黄褐色砂質土
〔細かい灰色粘土ブロック混入〕
灰黄褐色粘質土〔地山〕



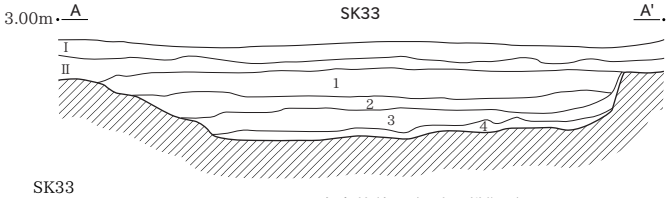
SK94
Ⅰ　褐色粘質土（旧水田耕作土）
Ⅱ　灰褐色土（旧水田耕作土床土）
Ⅲ　灰色粘質土
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　褐色粘質土
〔遺物混入〕
4　黒褐色砂質土
5　黒褐色土
〔炭化物混入〕



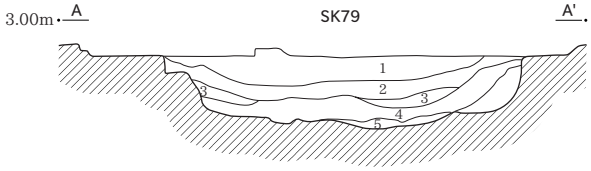
SK401
1　灰褐色粘質土
2　灰黄褐色粘質土
3　灰黄褐色砂質土
4　黒褐色粘質土
〔炭化物混入〕



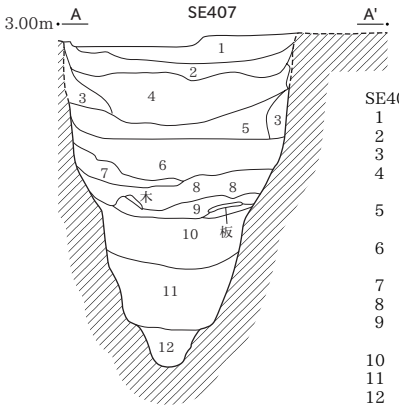
SK95
1　褐灰色粘質土
2　灰黄褐灰色粘質土
3　灰黄褐色砂質土
4　褐灰色砂質土
〔炭化物・遺物混入〕
5　黒褐色土（炭化物混入）



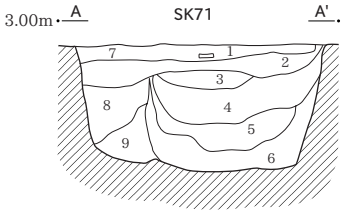
SK33
Ⅰ　褐色粘質土（旧耕作土）
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　褐色粘質土
〔わずかに遺物を混入する〕
4　黒褐色砂質土
〔炭化物が多く混入する〕
Ⅰ　褐色粘質土（旧水田耕作土）
Ⅱ　灰褐色土（旧水田耕作土床土）



SK79
1　灰色粘質土（炭化物・遺物混入）
2　灰黄褐色粘質土（灰色粘土ブロック混入）
3　灰黄褐色砂質土（灰色粘土ブロック混入）
4　黒褐灰色粘質土（炭化物混入）
5　にぶい黄褐色粘質土

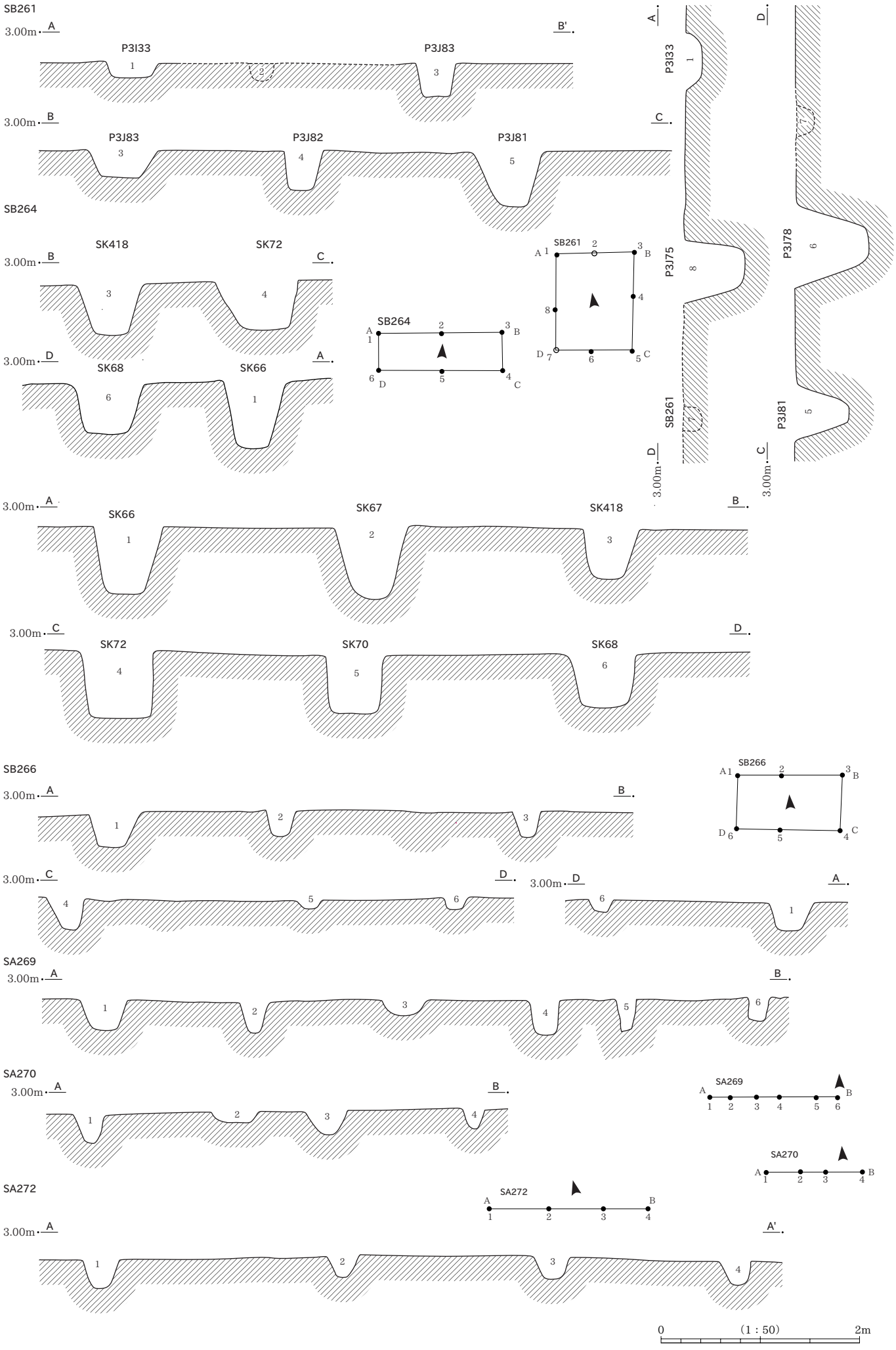


SE407
1　褐色粘質土
2　灰褐色粘質土
3　灰褐色砂質土
4　黒褐色土
〔炭化物混入〕
5　黒色粘質土
〔炭化物混入〕
6　黒色粘質土
〔炭化物混入〕
7　褐灰色砂質土
8　褐灰色粘質土
9　黒褐色土
〔炭化物混入、木器〕
10　灰黄褐色粘質土
11　灰色粘質土
12　黒色土

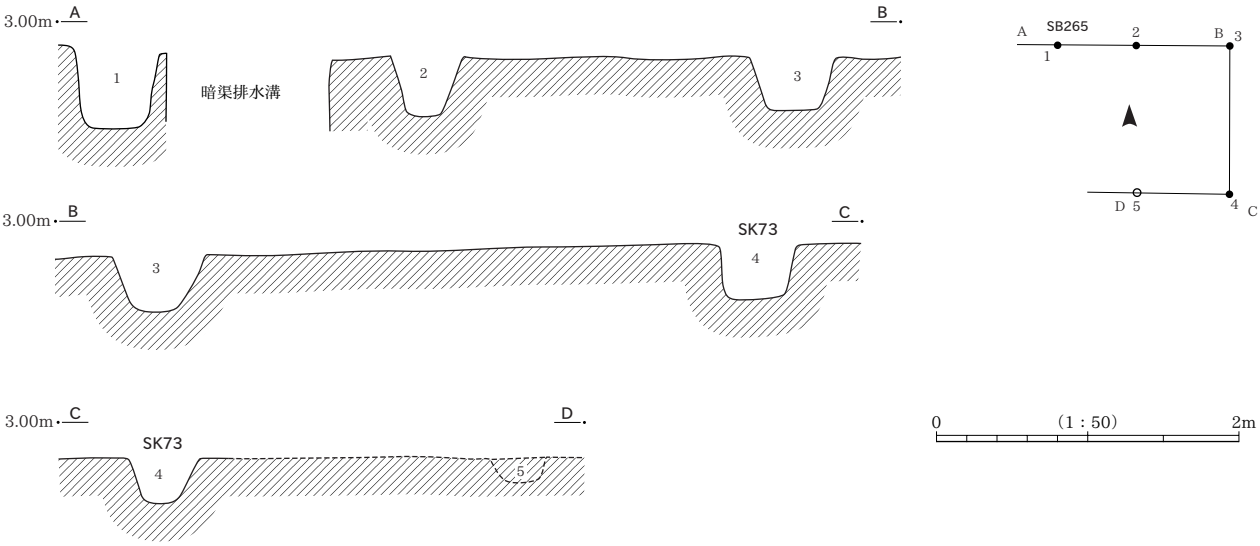


SK71
1　灰黄褐色粘質土
〔炭化物・遺物混入〕
2　灰褐色粘質土
〔灰色粘土ブロック混入〕
3　灰黄褐色砂質土
〔灰色粘土ブロック混入〕
4　褐灰色粘質土
5　黒褐色粘質土
6　にぶい黄褐色粘質土
7　暗褐色粘質土
8　にぶい黄褐色砂質土
9　にぶい黄橙色砂質土

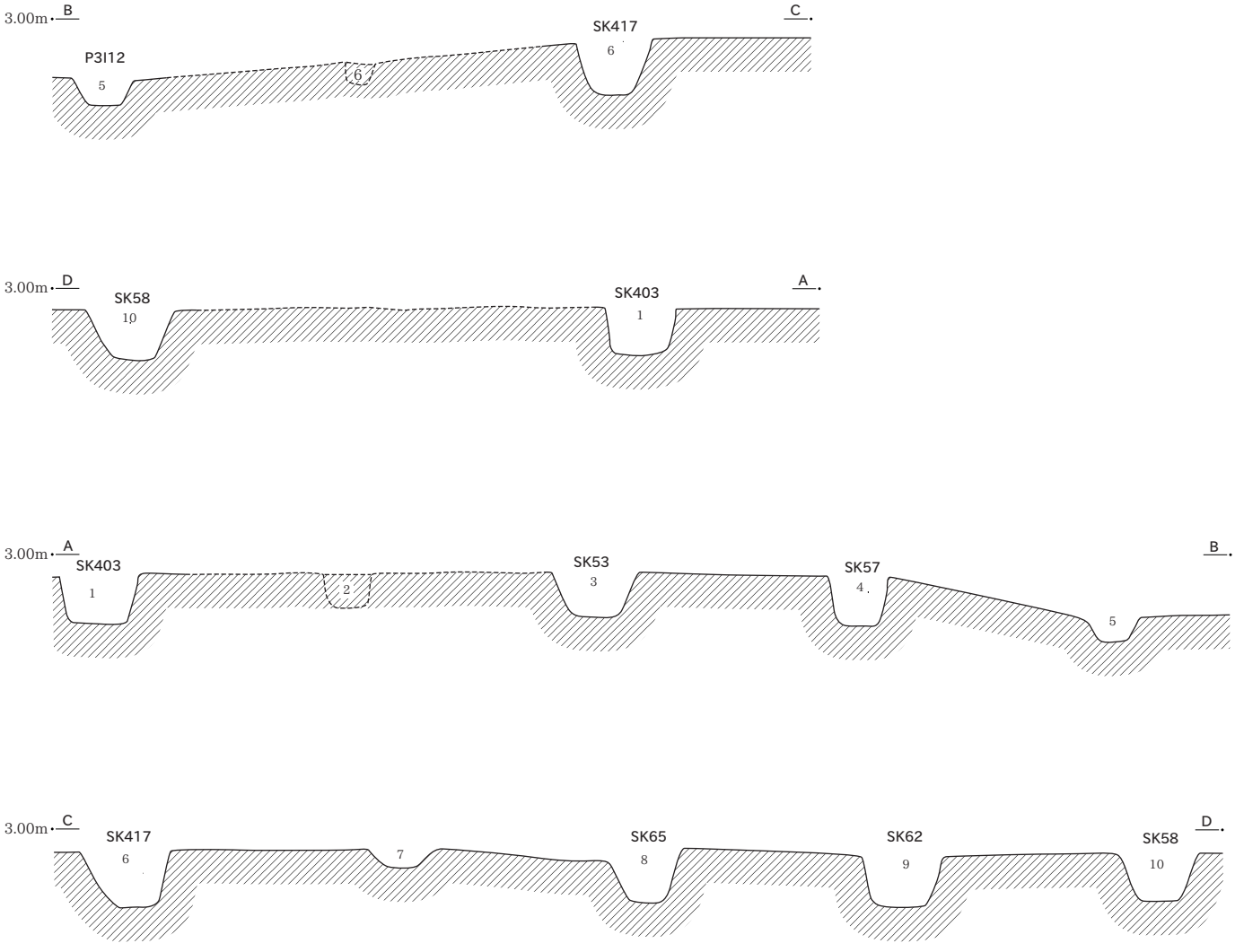
0　（1：50）　2m


SB261
3.00m A
B'
P3I33
P3J83
1
2
3
3.00m B
C
P3J83
P3J82
P3J81
3
4
5
SB264
SK418
SK72
3.00m B
C
3
4
3.00m D
A
SK68
SK66
6
1
SB261
1 2 3 A B
8 4
D 7 6 5 C
SB264
1 2 3 A B
6 D 5 4 C
A
D
P3I33
1
7
P3J75
8
SB261
7
P3J78
6
P3J81
5
D
3.00m
C
3.00m
3.00m A
B
SK66
SK67
SK418
1
2
3
3.00m C
D
SK72
SK70
SK68
4
5
6
SB266
3.00m A
B
1
2
3
3.00m C
D
4
5
6
3.00m D
A
6
1
SB266
A 1 2 3 B
D 6 5 4 C
SA269
3.00m A
B
1
2
3
4
5
6
SA270
3.00m A
B
1
2
3
4
SA269
A 1 2 3 4 5 6 B
SA270
A 1 2 3 4 B
SA272
3.00m A
A'
1
2
3
4
SA272
A 1 2 3 4 B
0
(1 : 50)
2m

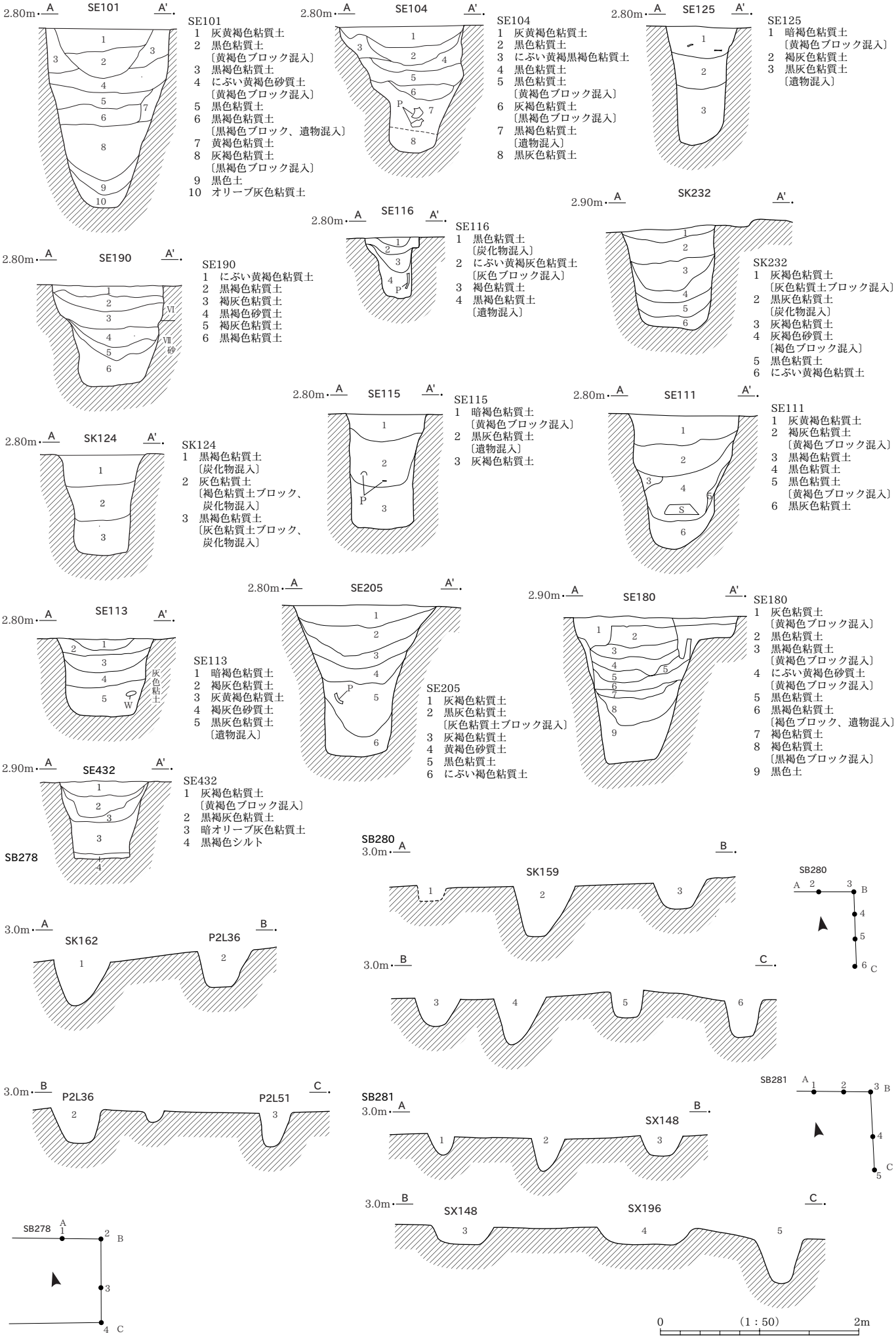
SB265

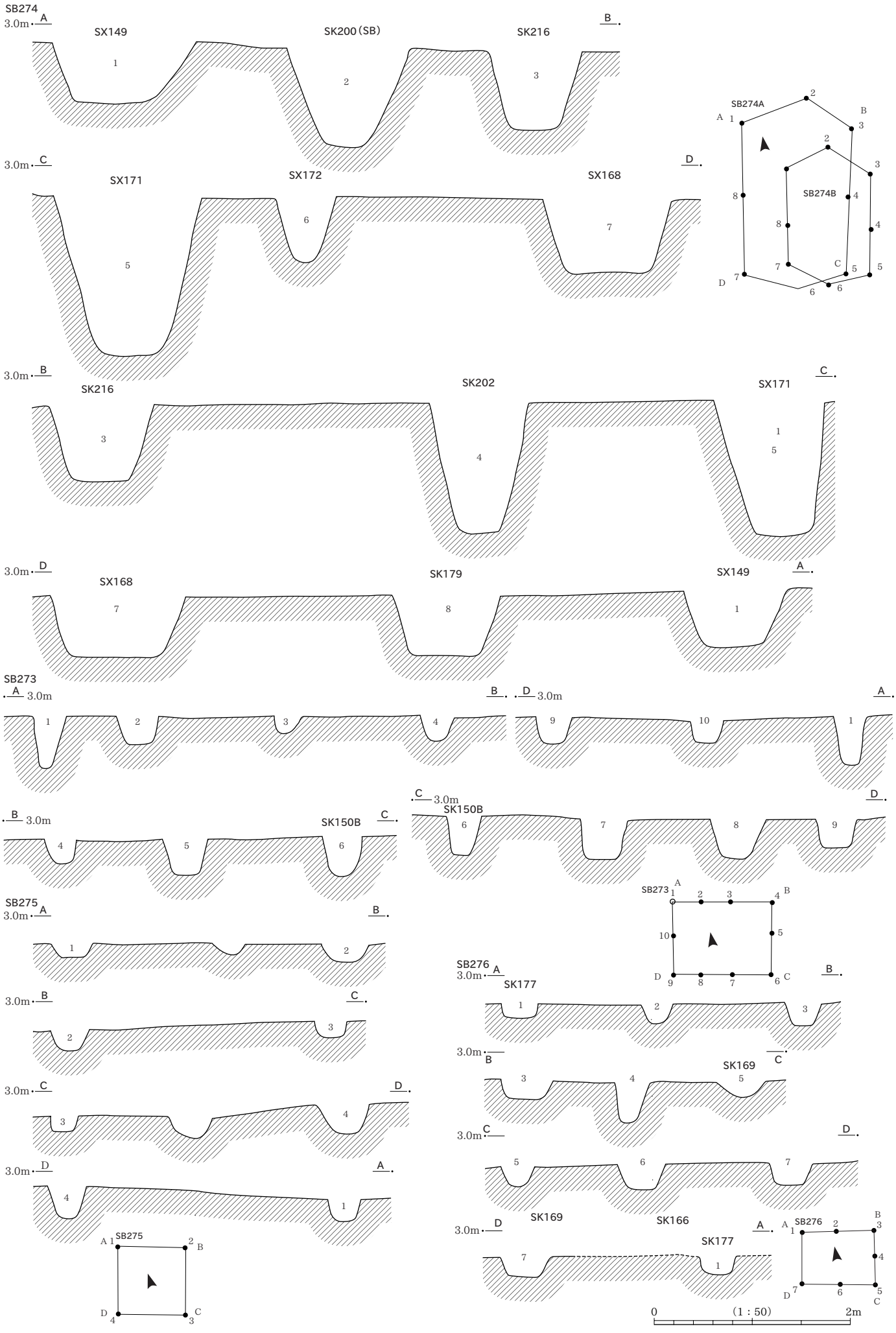

3.00m
A
B
1
暗渠排水溝
2
3
C
SK73
4
D
5
SB265
0
（1：50）
2m

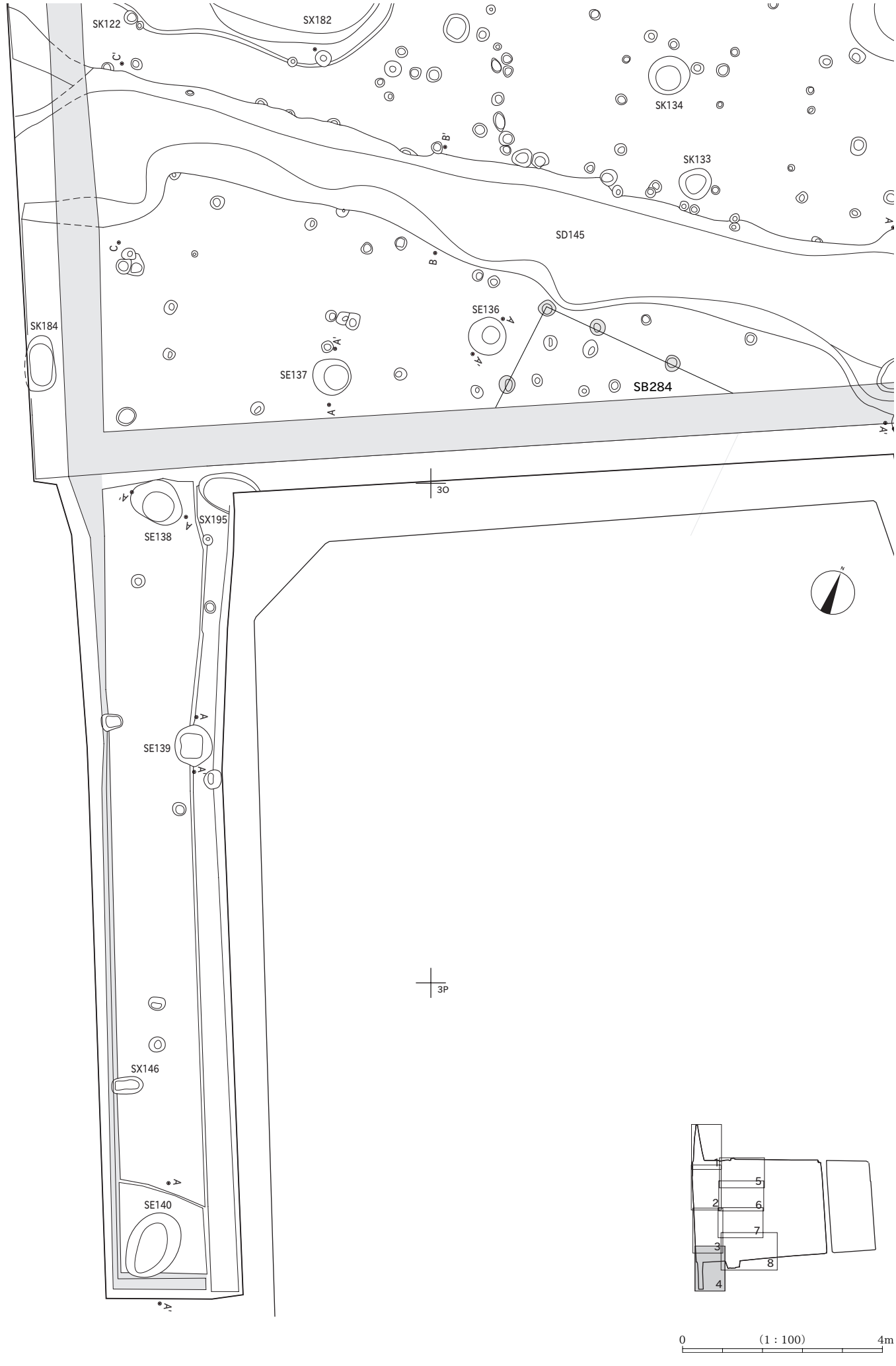
SB260

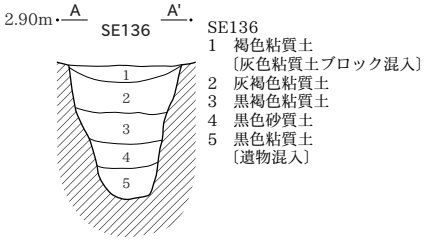

3.00m
B
C
P3I12
5
6
SK417
D
SK58
10
SK403
1
A
SK53
3
SK57
4
SK65
8
SK62
9
0
（1：60）
3m
SB260

SA272
SB273
SD450
SK435
2L
3L
SK163A
SK181
SK163B
SK162
SK150A
SX149
SK155
SK200
SK156
SK151B
SK229
SK154
SB274
SB275
SK151A
SK216
SK206
SB278
SK179
SX177
SX152
SK201
SK208
SX207
SK157
SE205
SX100
SB276
SK153
SK164B
SK160
SK161
SK202
SK204
SB274b
SB277
SK165
SK164A
SK203
SB280
SK166
SK212
SK210
SK159
SX168
SK241
SD147
SK227
SK169
SK238
SK211
SX167
SK215
SK237
SX175
SX172
SX171
SK226
SX148
SX174
SX176
SX173
3L
3M
SK225
SK239
SK224
SK232
2M
SX196
SK111
SK107
SX141
SX142
SX143A
SX143B
SX198
SB281
SE101
SK178
SE144
SK194
SK102
SK104
SK108
SE190
SK103
SB191
SB283
SE111
SK112
SE180
SK118
SK189
SX192
SE113
SE115
SX183
SX187
SE116
SK114
SK130
SK129
SK186
SK128
SK126
SK127
SK131
SX135
SK185
SX188
SE125
SB282
SK123
SK132
SX182
SK124
2N
3N
SK121
SX197
SK122
SE134
SK133
SD145
1
2
3
4
5
6
7
8
0
(1 : 100)
4m

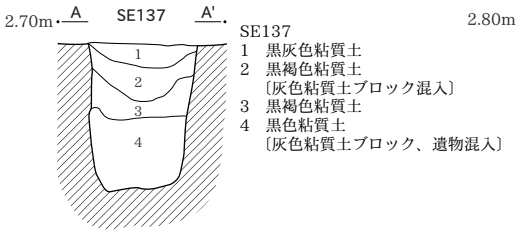

SE101
1 灰黄褐色粘質土
2 黒色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
3 黒褐色粘質土
4 にぶい黄褐色砂質土〔黄褐色ブロック混入〕
5 黒色粘質土
6 黒褐色粘質土〔黒褐色ブロック、遺物混入〕
7 黄褐色粘質土
8 灰褐色粘質土〔黒褐色ブロック混入〕
9 黒色土
10 オリーブ灰色粘質土
SE104
1 灰黄褐色粘質土
2 黒色粘質土
3 にぶい黄褐黒褐色粘質土
4 黒色粘質土
5 黒色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
6 灰褐色粘質土〔黒褐色ブロック混入〕
7 黒褐色粘質土〔遺物混入〕
8 黒灰色粘質土
SE125
1 暗褐色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
2 褐灰色粘質土
3 黒灰色粘質土〔遺物混入〕
SE116
1 黒色粘質土〔炭化物混入〕
2 にぶい黄褐灰色粘質土〔灰色ブロック混入〕
3 褐色粘質土
4 黒褐色粘質土〔遺物混入〕
SK232
1 灰褐色粘質土〔灰色粘質土ブロック混入〕
2 黒灰色粘質土〔炭化物混入〕
3 灰褐色粘質土
4 灰褐色砂質土〔褐色ブロック混入〕
5 黒色粘質土
6 にぶい黄褐色粘質土
SE190
1 にぶい黄褐色粘質土
2 黒褐色粘質土
3 褐灰色粘質土
4 黒褐色砂質土
5 褐灰色粘質土
6 黒褐色粘質土
SE115
1 暗褐色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
2 黒灰色粘質土〔遺物混入〕
3 灰褐色粘質土
SE111
1 灰黄褐色粘質土
2 褐灰色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
3 黒褐色粘質土
4 黒色粘質土
5 黒色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
6 黒灰色粘質土
SK124
1 黒褐色粘質土〔炭化物混入〕
2 灰色粘質土〔褐色粘質土ブロック、炭化物混入〕
3 黒褐色粘質土〔灰色粘質土ブロック、炭化物混入〕
SE205
1 灰褐色粘質土
2 黒灰色粘質土〔灰色粘質土ブロック混入〕
3 灰褐色粘質土
4 黄褐色砂質土
5 黒色粘質土
6 にぶい褐色粘質土
SE180
1 灰色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
2 黒色粘質土
3 黒褐色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
4 にぶい黄褐色砂質土〔黄褐色ブロック混入〕
5 黒色粘質土
6 黒褐色粘質土〔褐色ブロック、遺物混入〕
7 褐色粘質土
8 褐色粘質土〔黒褐色ブロック混入〕
9 黒色土
SE113
1 暗褐色粘質土
2 褐灰色粘質土
3 灰黄褐色粘質土
4 褐灰色砂質土
5 黒灰色粘質土〔遺物混入〕
SE432
1 灰褐色粘質土〔黄褐色ブロック混入〕
2 黒褐灰色粘質土
3 暗オリーブ灰色粘質土
4 黒褐色シルト
SB278
SB280
SK159
P2L36
SK162
P2L51
SB281
SX148
SX196
0　(1：50)　2m


SB274
SX149
SK200（SB）
SK216
SX171
SX172
SX168
SB274A
SB274B
SK202
SK179
SB273
SK150B
SB275
SB276
SK177
SK169
SK166
0
（1：50）
2m

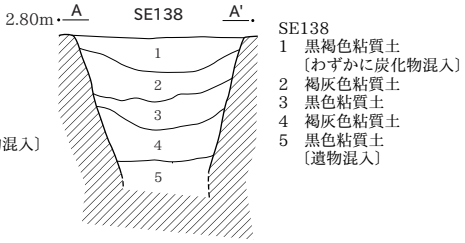

SK122
SX182
SK134
SK133
SD145
SK184
SE136
SE137
SB284
3O
SE138
SX195
SE139
3P
SX146
SE140
1
2
3
4
5
6
7
8
0
(1 : 100)
4m



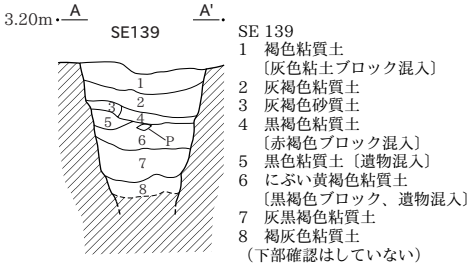
SE136
1　褐色粘質土
〔灰色粘質土ブロック混入〕
2　灰褐色粘質土
3　黒褐色粘質土
4　黒色砂質土
5　黒色粘質土
〔遺物混入〕



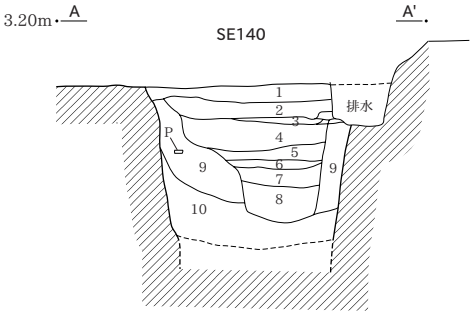
SE137
1　黒灰色粘質土
2　黒褐色粘質土
〔灰色粘質土ブロック混入〕
3　黒褐色粘質土
4　黒色粘質土
〔灰色粘質土ブロック、遺物混入〕



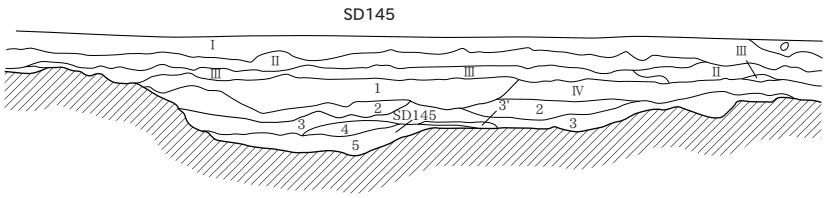
SE138
1　黒褐色粘質土
〔わずかに炭化物混入〕
2　褐灰色粘質土
3　黒色粘質土
4　褐灰色粘質土
5　黒色粘質土
〔遺物混入〕

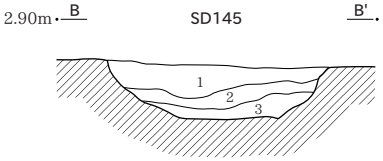


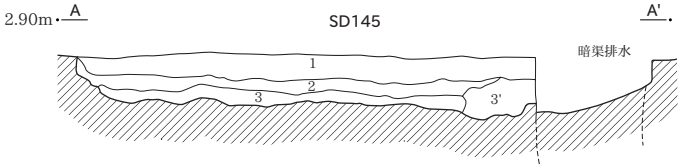
SE 139
1　褐色粘質土
〔灰色粘土ブロック混入〕
2　灰褐色粘質土
3　灰褐色砂質土
4　黒褐色粘質土
〔赤褐色ブロック混入〕
5　黒色粘質土〔遺物混入〕
6　にぶい黄褐色粘質土
〔黒褐色ブロック、遺物混入〕
7　灰黒褐色粘質土
8　褐灰色粘質土
（下部確認はしていない）

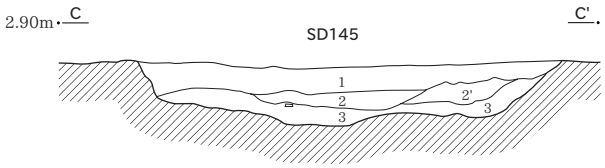


SE140
1　褐色粘質土
〔灰色粘質土ブロック混入〕
2　黒灰色粘質土
3　黒褐色粘質土
4　灰褐色砂質土
〔褐色ブロック混入〕
5　黒色粘質土
6　にぶい黄褐色粘質土
〔黒褐色ブロック・遺物混入〕
7　灰黒褐色粘質土
8　灰色粘質土
9　オリーブ灰色粘質土
10　黒褐色粘質土



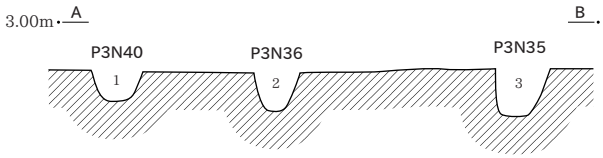


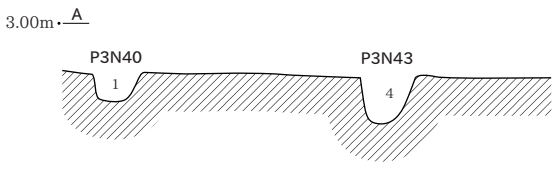


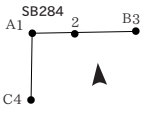


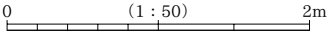
SD 145
1　灰黄褐色粘質土
2　黒褐色粘質土
3　褐灰土
3'　黒色土
4　黒褐色粘質土
〔赤褐色ブロック混入〕
5　黒色粘質土
〔遺物混入〕
6　にぶい黄褐色粘質土
〔黒褐色ブロック混入・遺物混入〕

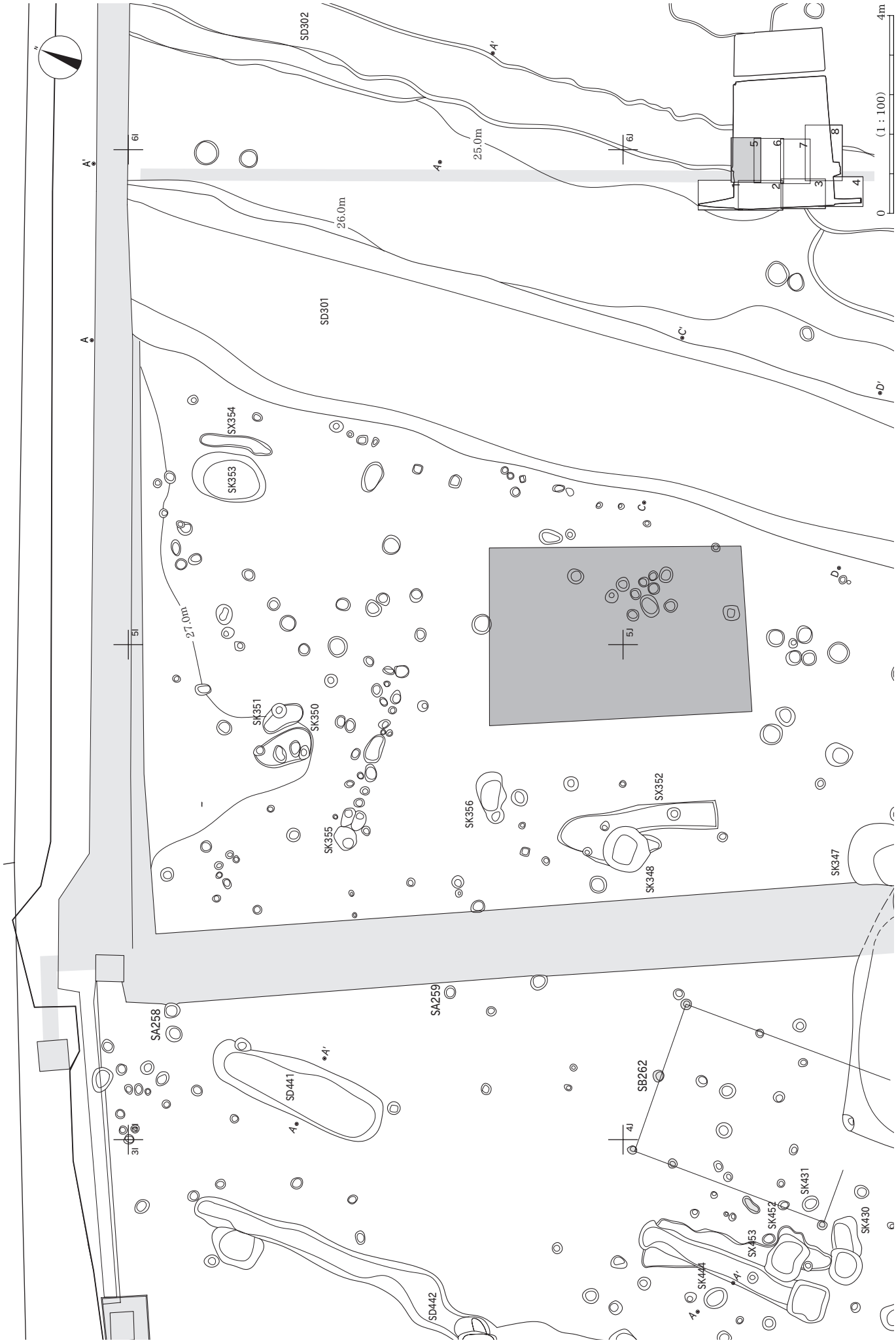
SB284

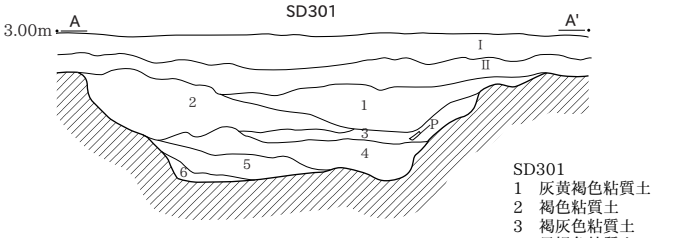




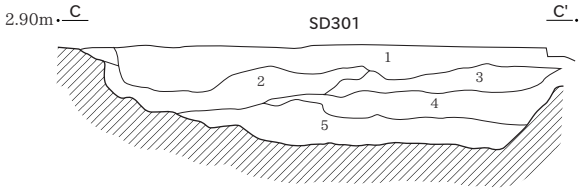


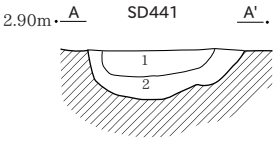



SD302
SD301
SX354
SK353
SK351
SK350
SK355
SK356
SX352
SK348
SK347
SA258
SA259
SD441
SB262
SK431
SK452
SK430
SX453
SK444
SD442
25.0m
26.0m
27.0m
(1 : 100)
0
4m

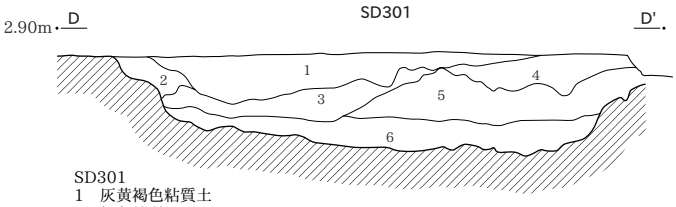


SD301
1　灰黄褐色粘質土
2　褐色粘質土
3　褐灰色粘質土
4　黒褐色粘質土
5　黒色粘質土
6　オリーブ灰色粘質土

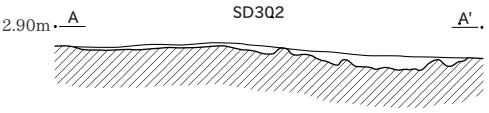




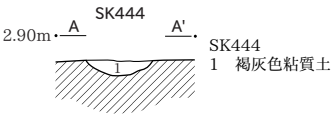
SD441
1　褐灰色粘質土
2　にぶい黄褐色粘質土



SD301
1　灰黄褐色粘質土
2　褐色粘質土
3　褐灰色粘質土
4　黒褐色粘質土
5　黒色粘質土
6　オリーブ灰色粘質土

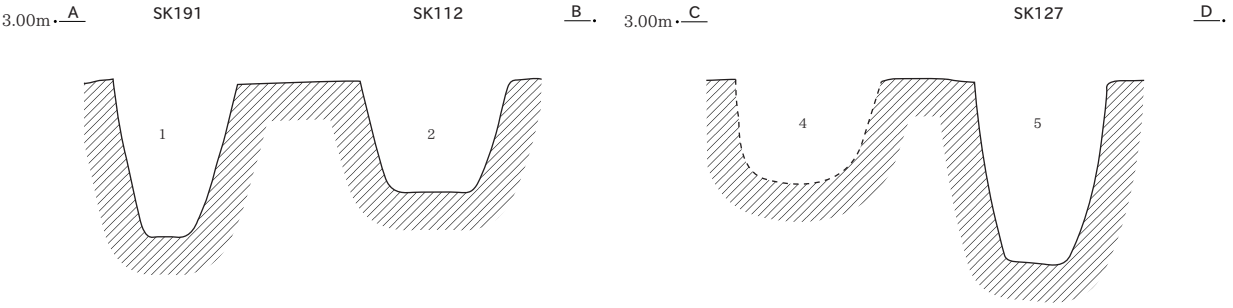


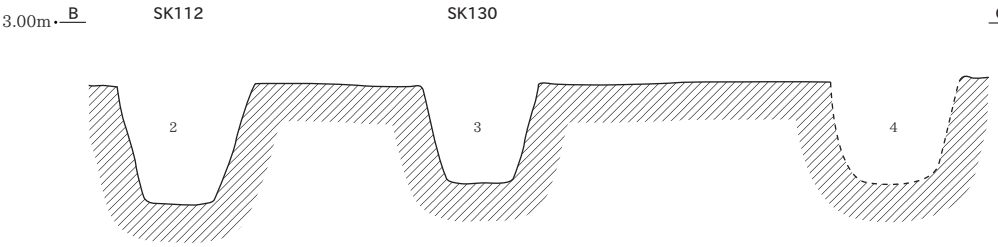
SD302
1　灰褐色粘質土

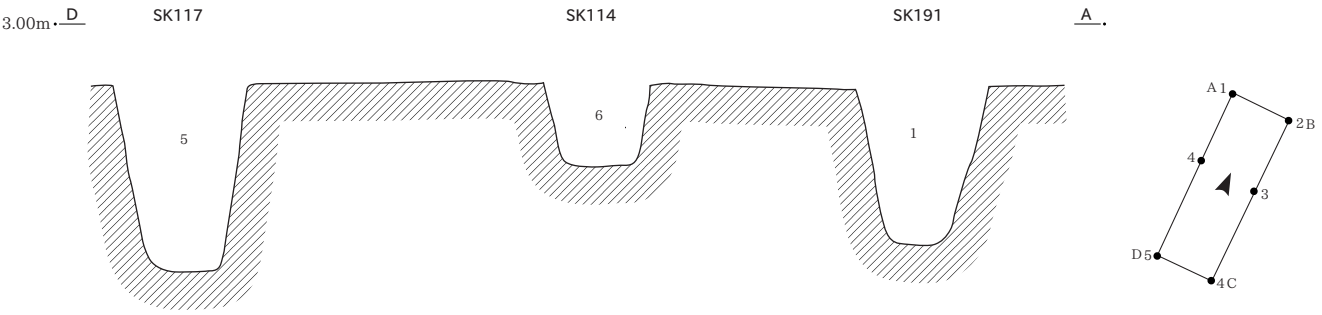


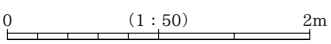
SK444
1　褐灰色粘質土

SB282

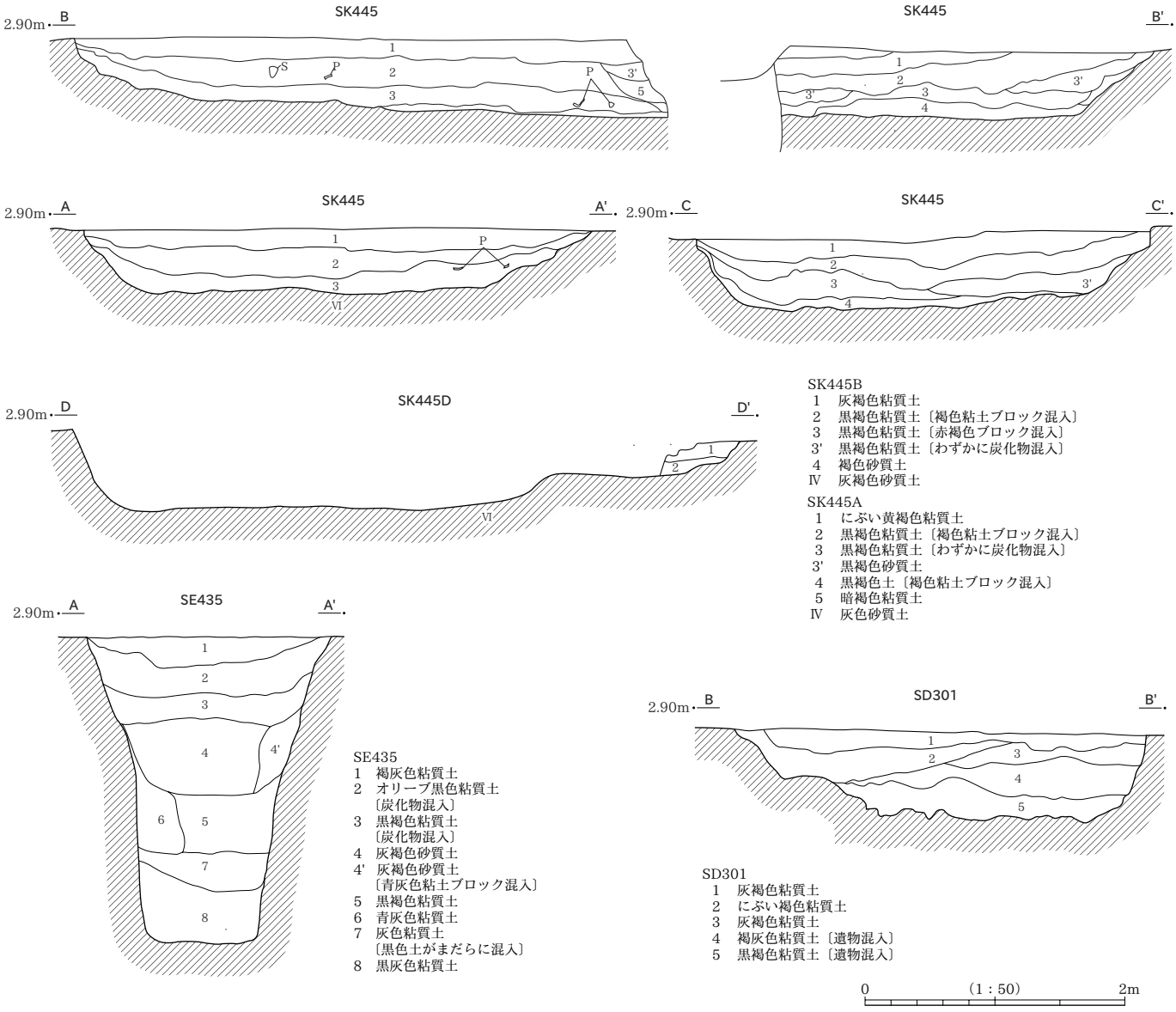








5m
(1 : 100)
0
1
2
3
4
5
6
7
8
6K
5J
5K
4J
4K
SD302
SD301
SD447
SD449
SK347
SK445
SK439
SK436
SK437
SK438
SK429
SK431
SK430
SK428
SK453
SK452
SK444
SK443
SK90
SB267
SE435
27.0m
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'



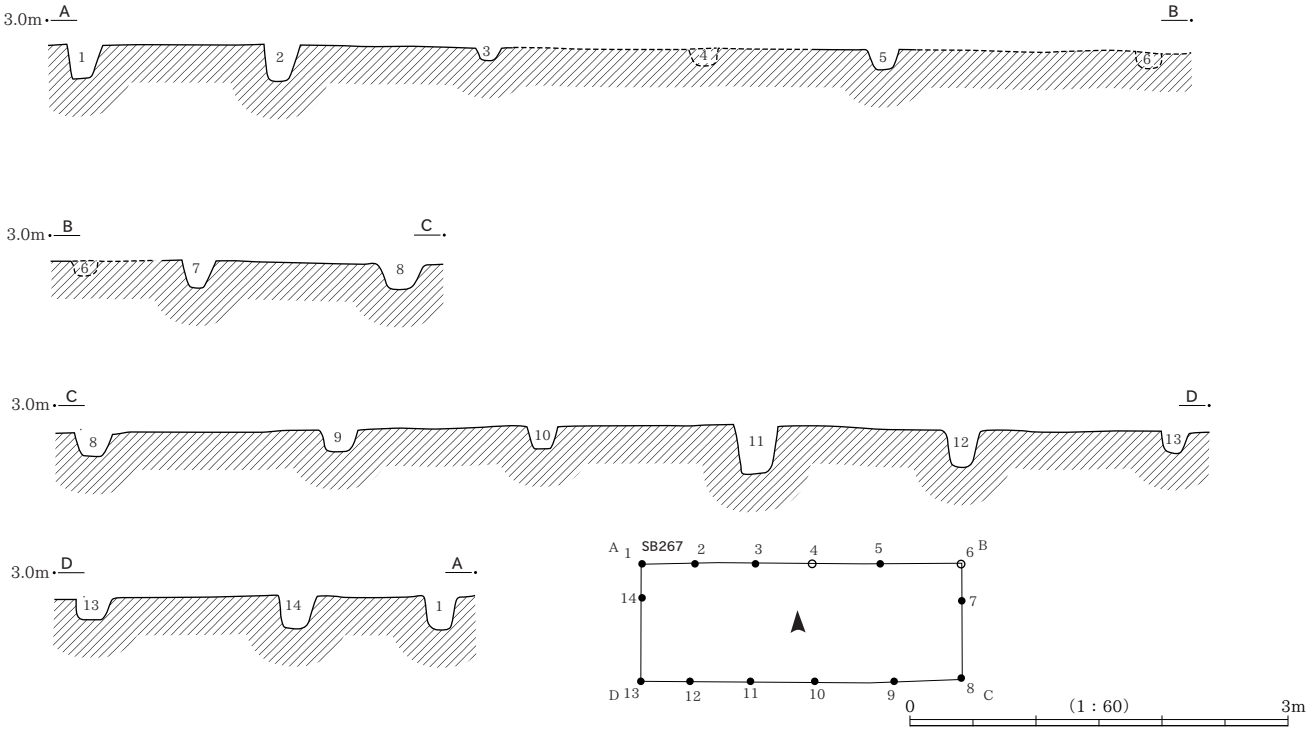
SK445B
1　灰褐色粘質土
2　黒褐色粘質土〔褐色粘土ブロック混入〕
3　黒褐色粘質土〔赤褐色ブロック混入〕
3'　黒褐色粘質土〔わずかに炭化物混入〕
4　褐色砂質土
Ⅳ　灰褐色砂質土

SK445A
1　にぶい黄褐色粘質土
2　黒褐色粘質土〔褐色粘土ブロック混入〕
3　黒褐色粘質土〔わずかに炭化物混入〕
3'　黒褐色砂質土
4　黒褐色土〔褐色粘土ブロック混入〕
5　暗褐色粘質土
Ⅳ　灰色砂質土

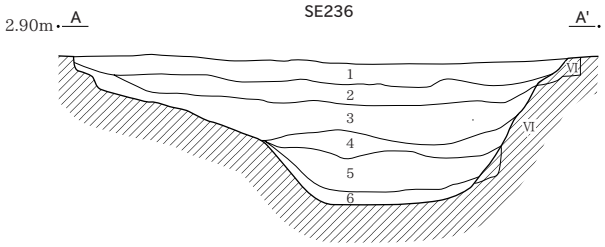
SE435
1　褐灰色粘質土
2　オリーブ黒色粘質土
〔炭化物混入〕
3　黒褐色粘質土
〔炭化物混入〕
4　灰褐色砂質土
4'　灰褐色砂質土
〔青灰色粘土ブロック混入〕
5　黒褐色粘質土
6　青灰色粘質土
7　灰色粘質土
〔黒色土がまだらに混入〕
8　黒灰色粘質土

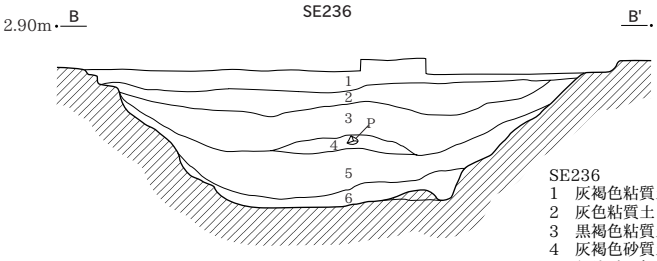
SD301
1　灰褐色粘質土
2　にぶい褐色粘質土
3　灰褐色粘質土
4　褐灰色粘質土〔遺物混入〕
5　黒褐色粘質土〔遺物混入〕

SB267

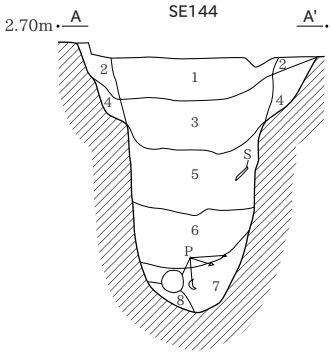


N
6K
6L
6M
5K
5L
4K
4L
4M
25.0m
0
(1 : 100)
4m
1
2
3
4
5
6
7
8
SD301
SD302
SD447
SD448
SE236
SE435
SK206
SK207
SK213
SK223
SK234
SK235
SK440
SX198
SX233
SB191

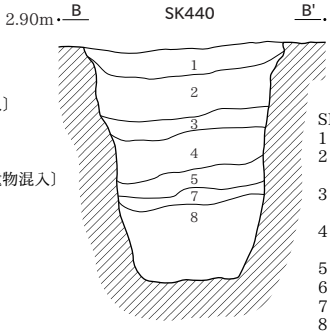




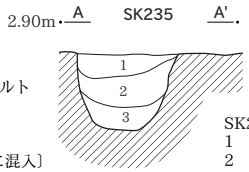
SE236
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　黒褐色粘質土
4　灰褐色砂質土
〔灰褐色ブロック混入〕
5　黒褐色砂質土
6　灰黒褐色粘質土



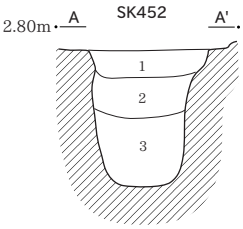
SE144
1　褐灰色粘質土
2　褐色粘質土
〔灰色粘質土ブロック混入〕
3　黒褐色粘質土
〔炭化物混入〕
4　黒色砂質土
〔灰色粘質土ブロック、遺物混入〕
5　褐色粘質土
〔遺物・炭化物混入〕
6　灰褐色粘質土
7　灰褐色粘質土
〔黒色土がまだらに混入〕
8　黒灰色粘質土
〔遺物・炭化物混入〕



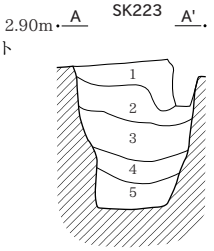
SK440
1　褐灰色粘質土シルト
2　褐灰色粘質土
〔炭化物混入〕
3　黒褐色粘質土
〔炭化物わずかに混入〕
4　黄褐色砂質土
〔赤褐色ブロック混入〕
5　灰オリーブ色粘質土
6　オリーブ色粘質土
7　褐灰色粘質土〔炭化物混入〕
8　黒灰色粘質土



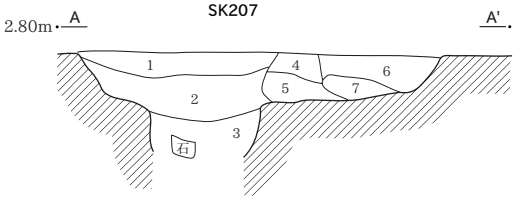
SK235
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　灰黒色粘質土



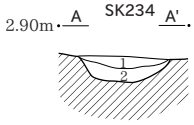
452
1　褐灰色粘質土シルト
2　黄褐色粘質土
3　黒灰色粘質土



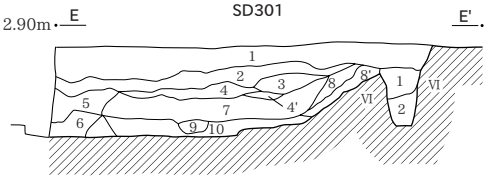
SK223
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　黒褐色粘質土
〔灰色粘土ブロック混入〕
4　灰褐色粘質土
〔赤褐色ブロック混入〕
5　黒褐色粘質土

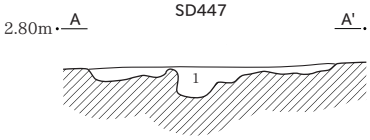


SB207
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　黒褐色粘質土
4　灰褐色砂質土
〔赤褐色ブロック混入〕
5　黒褐色粘質土
6　にぶい黄褐色粘質土
〔黒褐色ブロック混入〕
7　灰黒褐色粘質土



SK234
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土

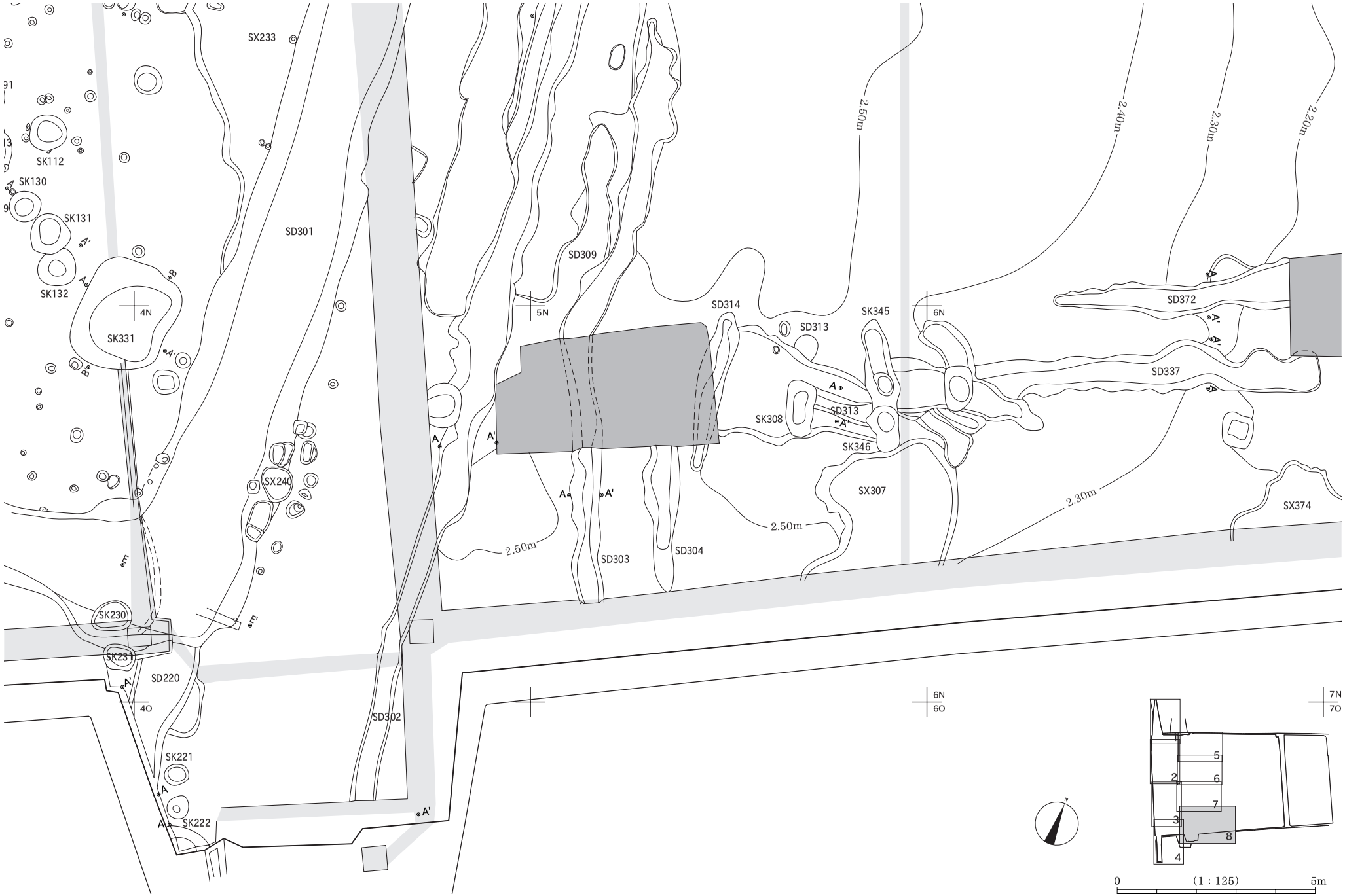


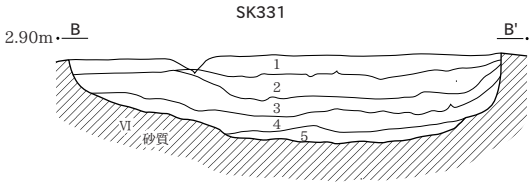


SD447
1　褐灰色粘質土シルト

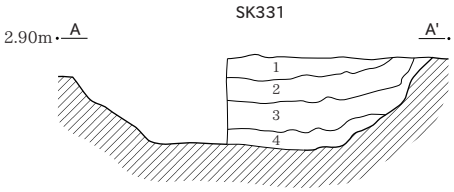
SD301
1　灰褐色粘質土
2　にぶい褐色粘質土
3　灰褐色粘質土
4　褐灰色粘質土〔遺物混入〕
5　黒褐色粘質土〔遺物混入〕
6　オリーブ灰色粘質土
7　灰褐色粘質土
8　褐灰色粘質土
8'　にぶい褐色粘質土〔灰色ブロック混入〕
9　褐灰色粘質土〔灰褐色ブロック混入〕
10　黒褐色粘質土〔遺物混入〕

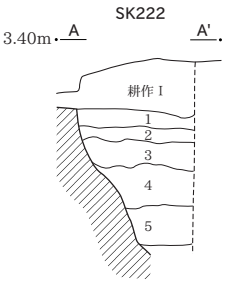
0　（1：50）　2m


SX233
SK112
SK130
SK131
SK132
SK331
SD301
SD309
SD314
SD313
SK345
SD372
SD337
SK308
SD313
SK346
SX307
SX374
SX240
SD303
SD304
SK230
SK231
SD220
SD302
SK221
SK222
2.50m
2.40m
2.30m
2.20m
4N
5N
6N
4O
6O
7N
7O
0
(1：125)
5m

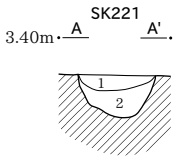


SK331
1　褐灰色粘質土
〔赤色粒子含む〕
2　灰褐色粘質土
3　黒褐色砂質土
4　褐色砂質土
5　暗褐色砂質土

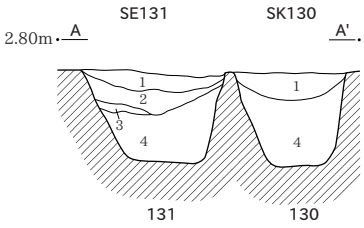




SK222
Ⅰ　耕作土
1　灰褐色粘質土
2　灰黒色粘質土
3　黒褐色粘質土
4　灰褐色砂質土
〔赤褐色ブロック混入〕
5　黒褐色粘質土

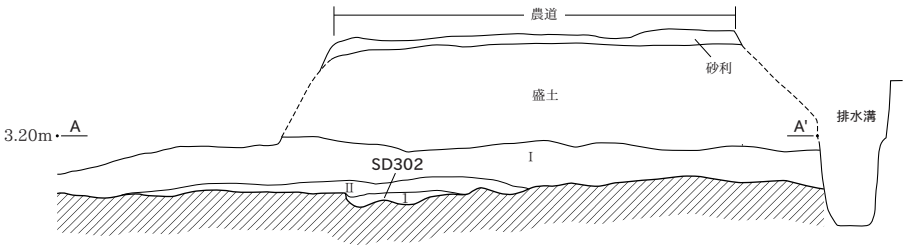


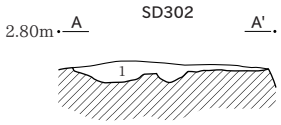
SK221
1　灰黄褐色粘質土
2　褐色粘質土



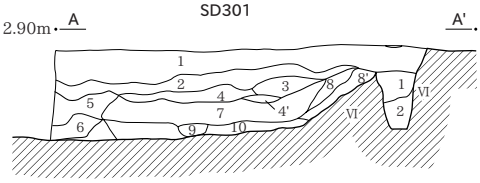
SE131
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土
3　褐灰色粘質土
4　黒灰色粘質土

SK130
1　灰褐色粘質土
4　黒灰色粘質土

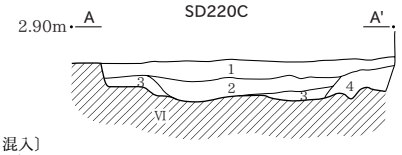




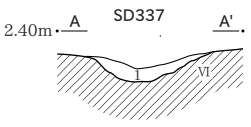
SD302
1　灰褐色粘質土



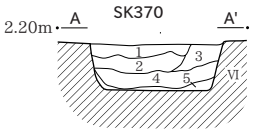
SD301
1　灰褐色粘質土
2　にぶい褐色粘質土
3　灰褐色粘質土
4　褐灰色粘質土〔遺物混入〕
5　黒褐色粘質土〔遺物混入〕
6　オリーブ灰色粘質土
7　灰褐色粘質土
8　褐灰色粘質土
8'　にぶい褐色粘質土〔灰色ブロック混入〕
9　褐灰色粘質土〔灰褐色ブロック混入〕
10　黒褐色粘質土〔遺物混入〕



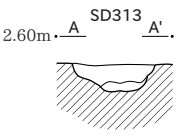
SD220
1　灰黄褐色土
〔酸化鉄混入〕
2　にぶい黄褐色土
3　褐色粘土
4　黒褐色粘質土



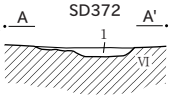
SD337
1　灰褐色粘質土



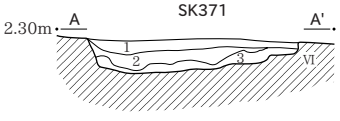
SK370
1　灰褐色粘質土
2　にぶい褐色粘土
3　灰褐色土
4　にぶい橙色粘土
5　褐灰粘土〔砂分多し〕



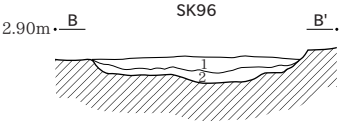
SK313
1　灰褐色粘質土
2　褐色粘質土



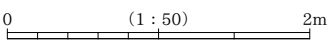
SD372
1　灰褐色粘質土
2　灰色粘質土

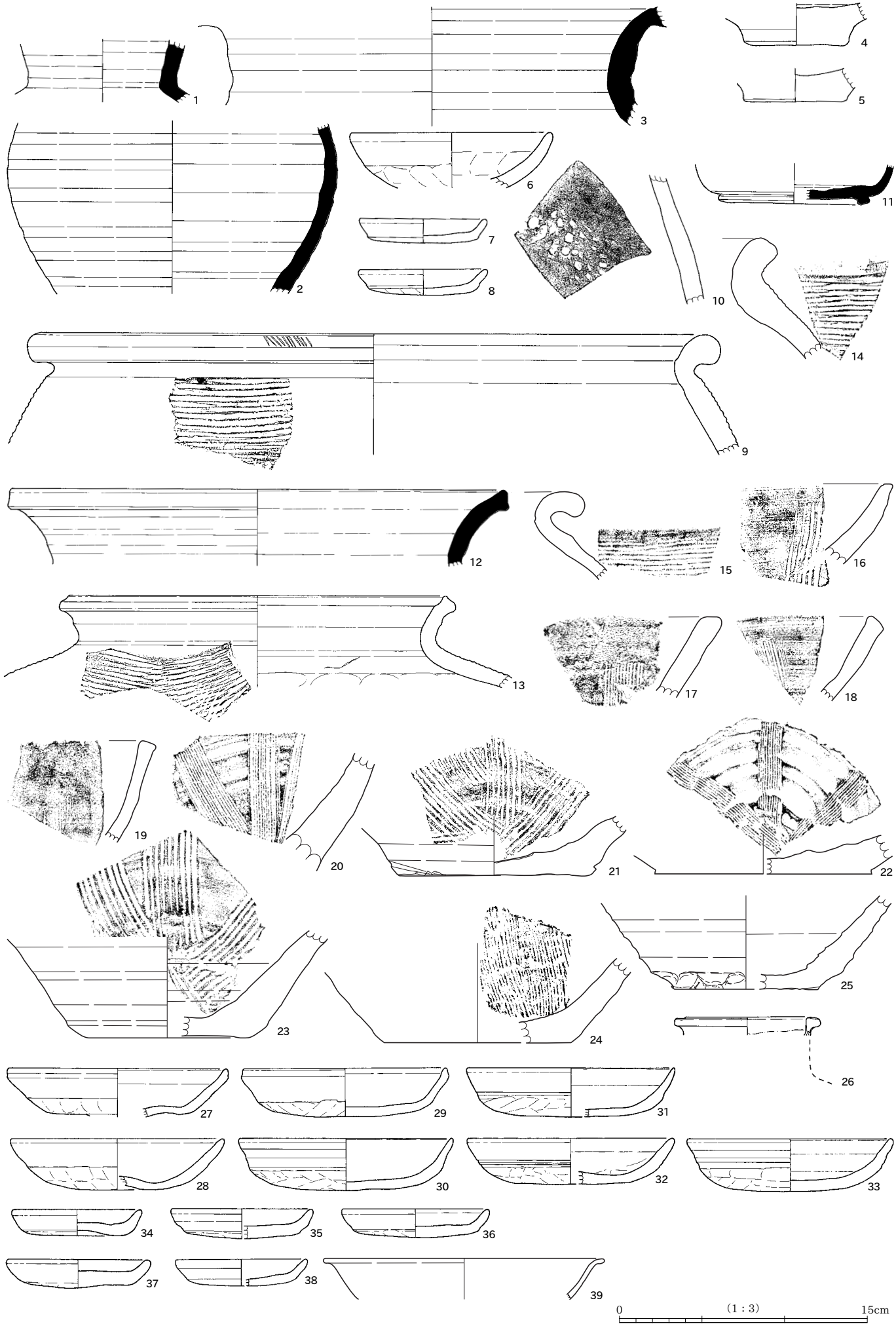


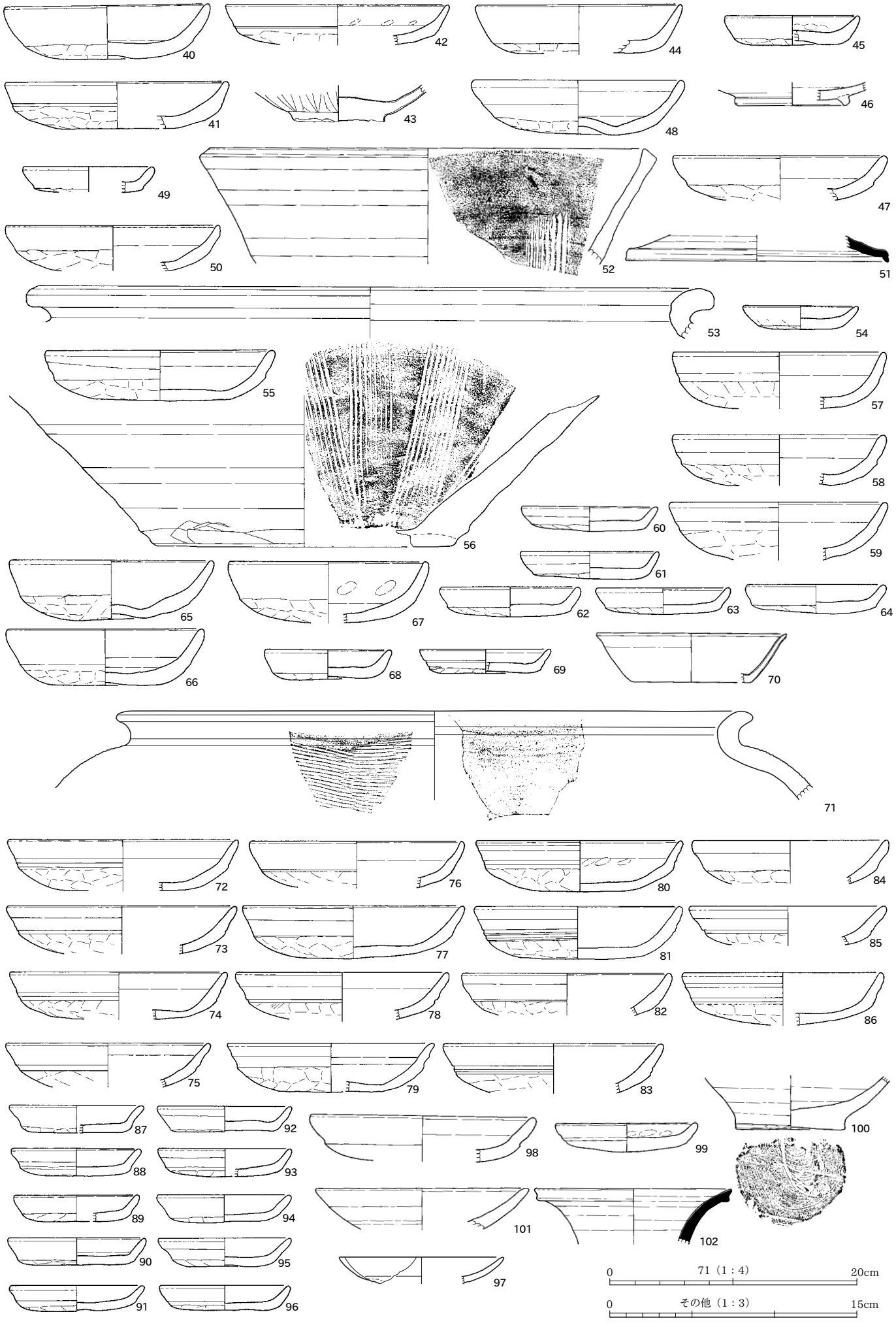
SK 371
1　灰褐色粘質土
2　黄褐色粘質土
3　黒褐色粘質土

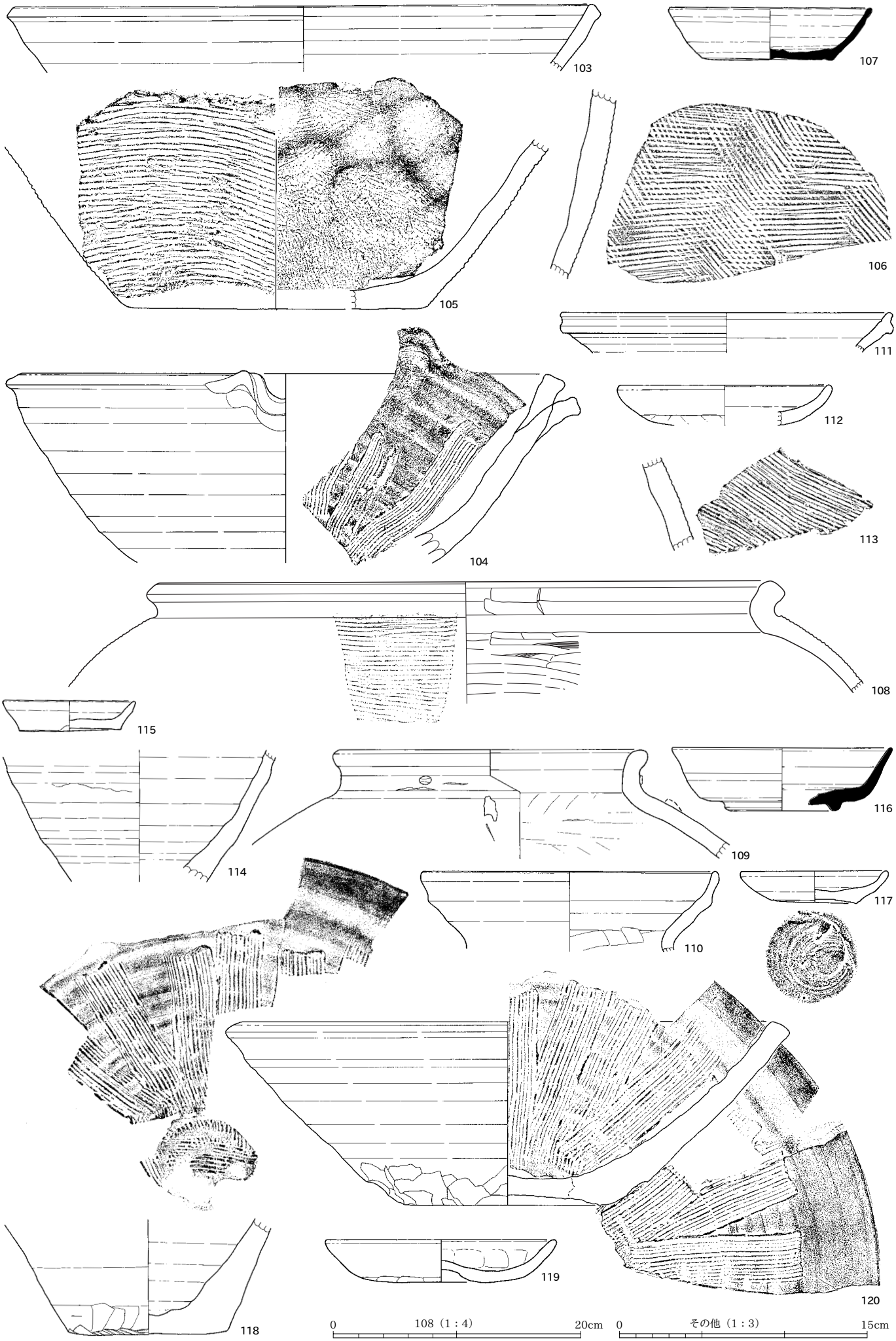


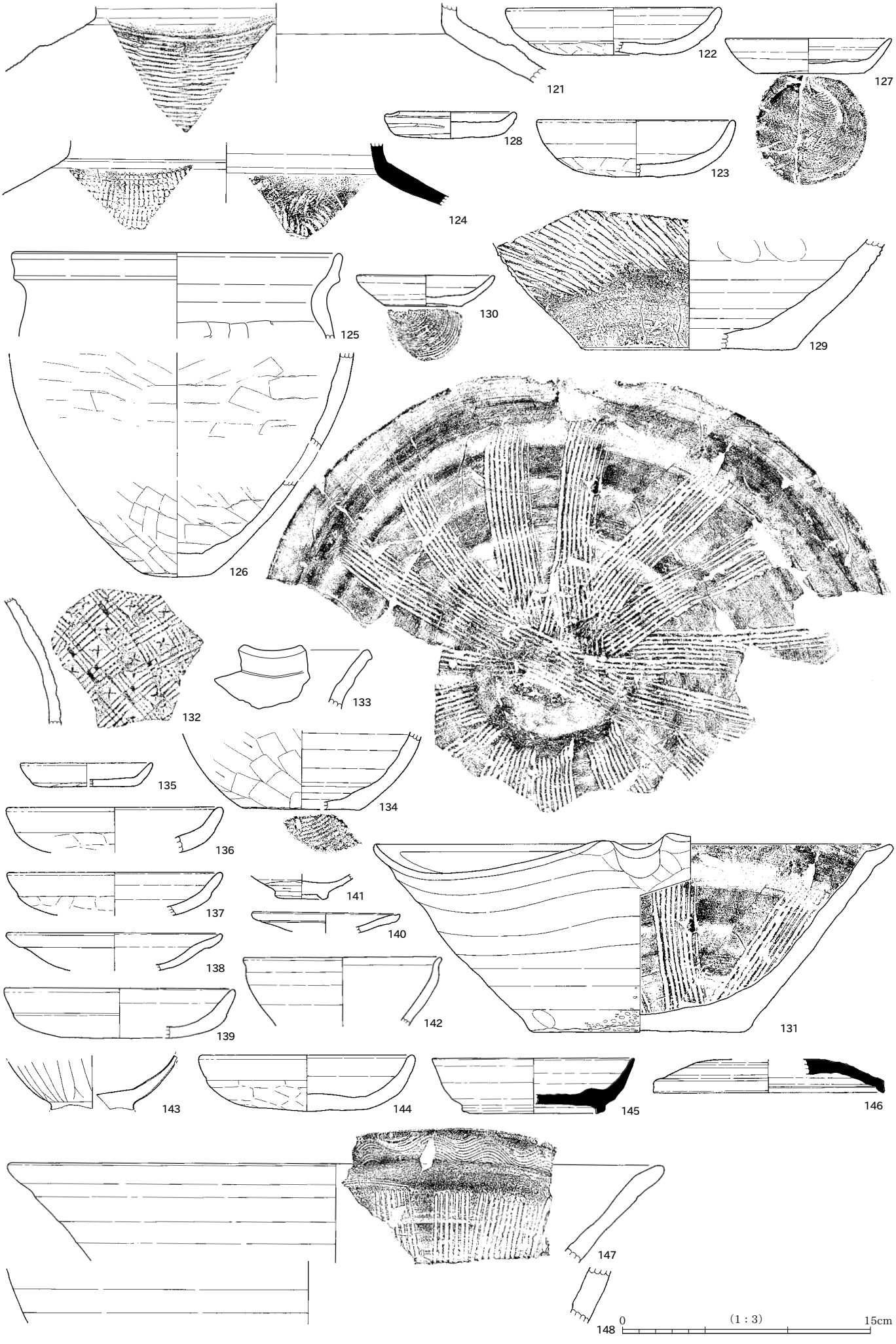
SK96
1　灰黄褐色粘質土
2　褐灰色粘質土

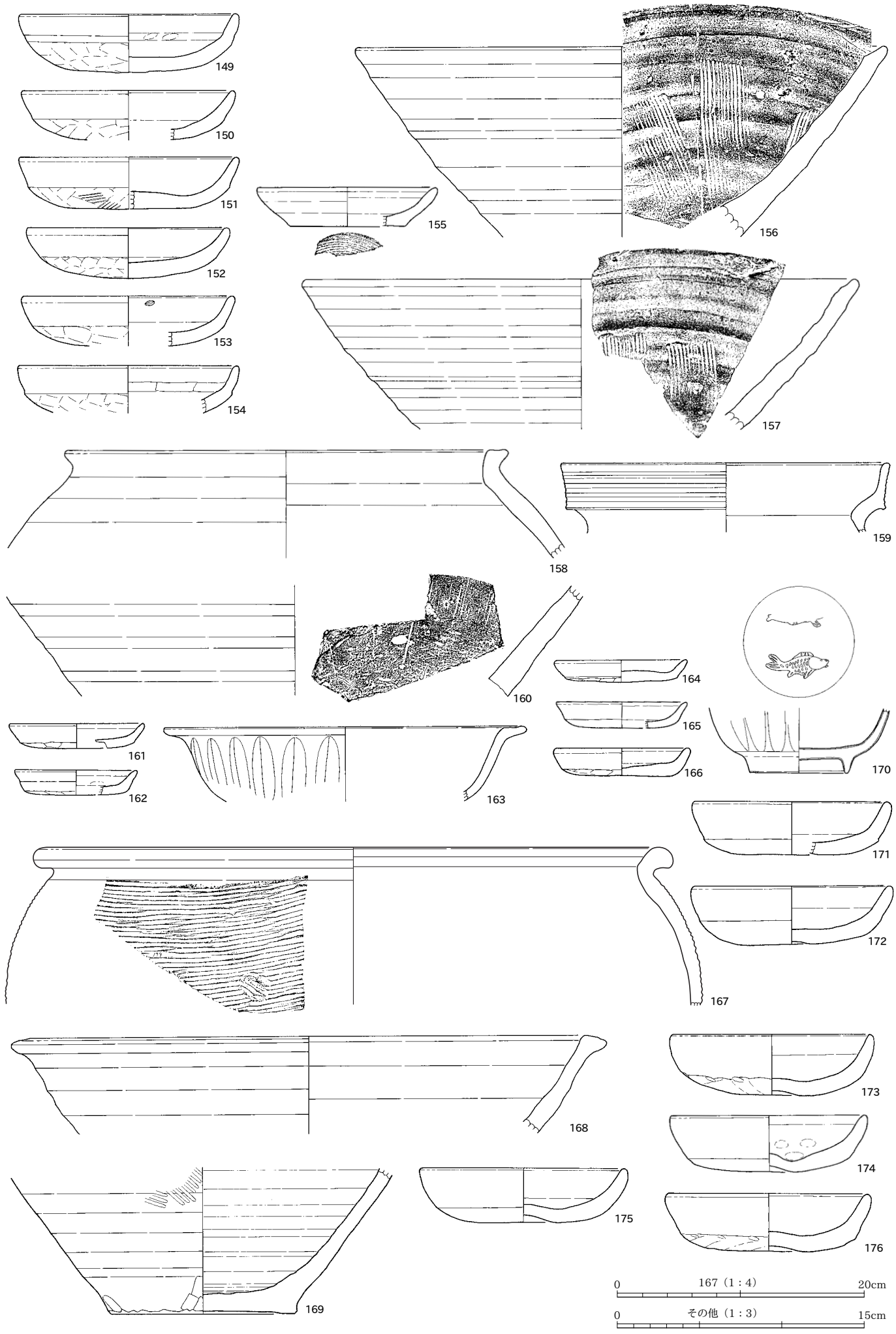


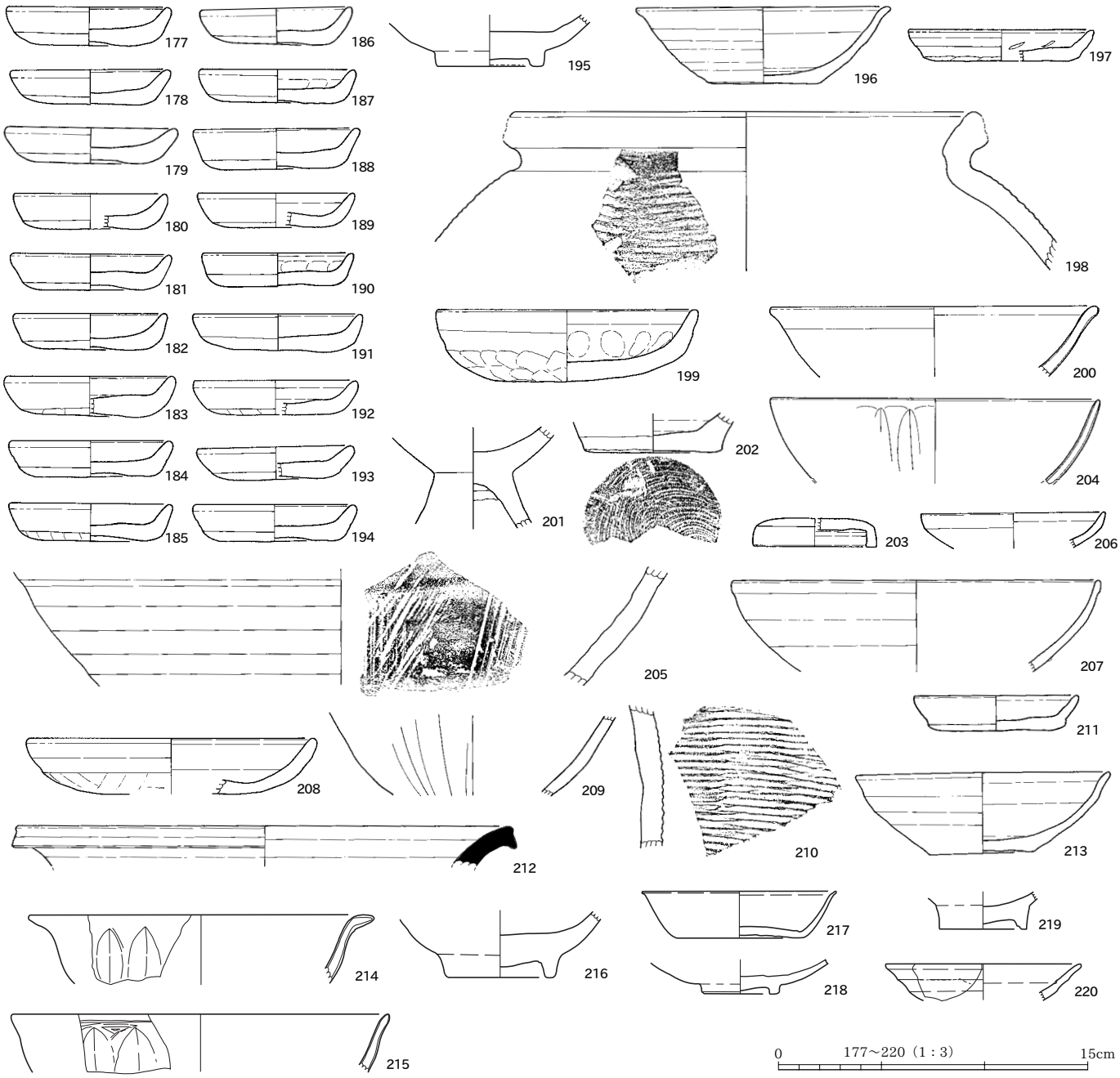

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
0
(1 : 3)
15cm

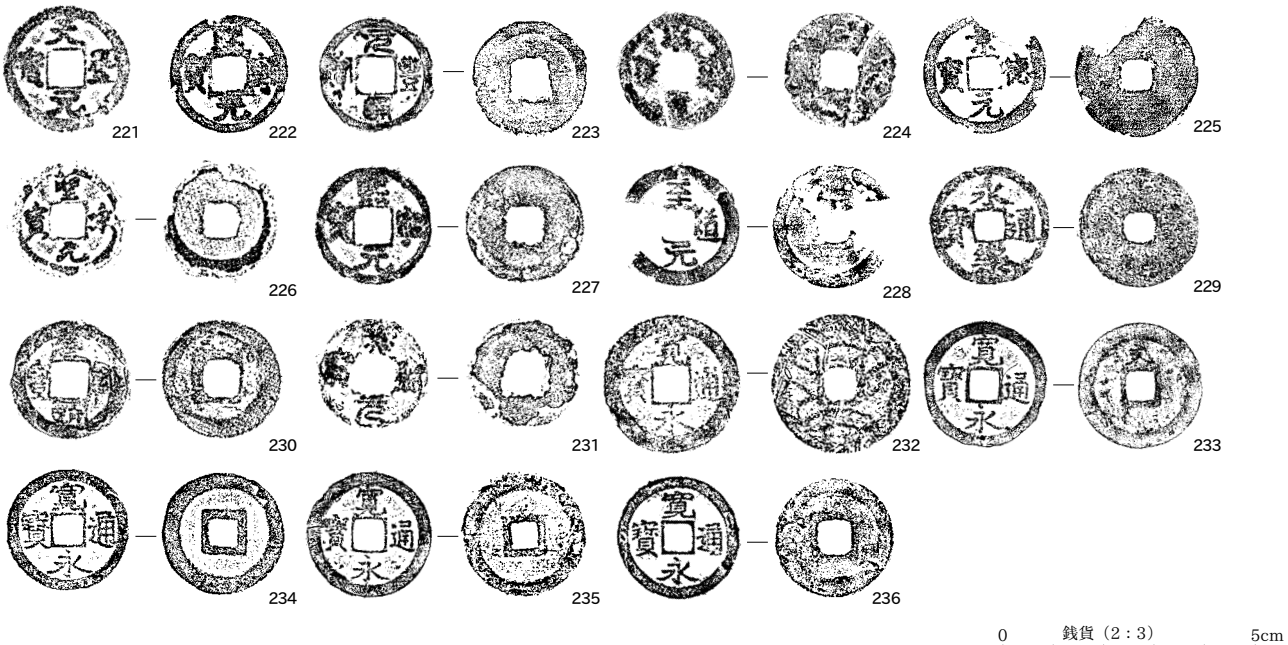

40
42
44
45
41
43
48
46
49
47
50
52
51
53
54
55
57
56
58
60
59
61
65
67
62
63
64
66
68
69
70
71
72
76
80
84
73
77
81
85
74
78
82
86
75
79
83
87
92
100
88
93
98
99
89
94
101
102
90
95
97
91
96
0
71（1：4）
20cm
0
その他（1：3）
15cm

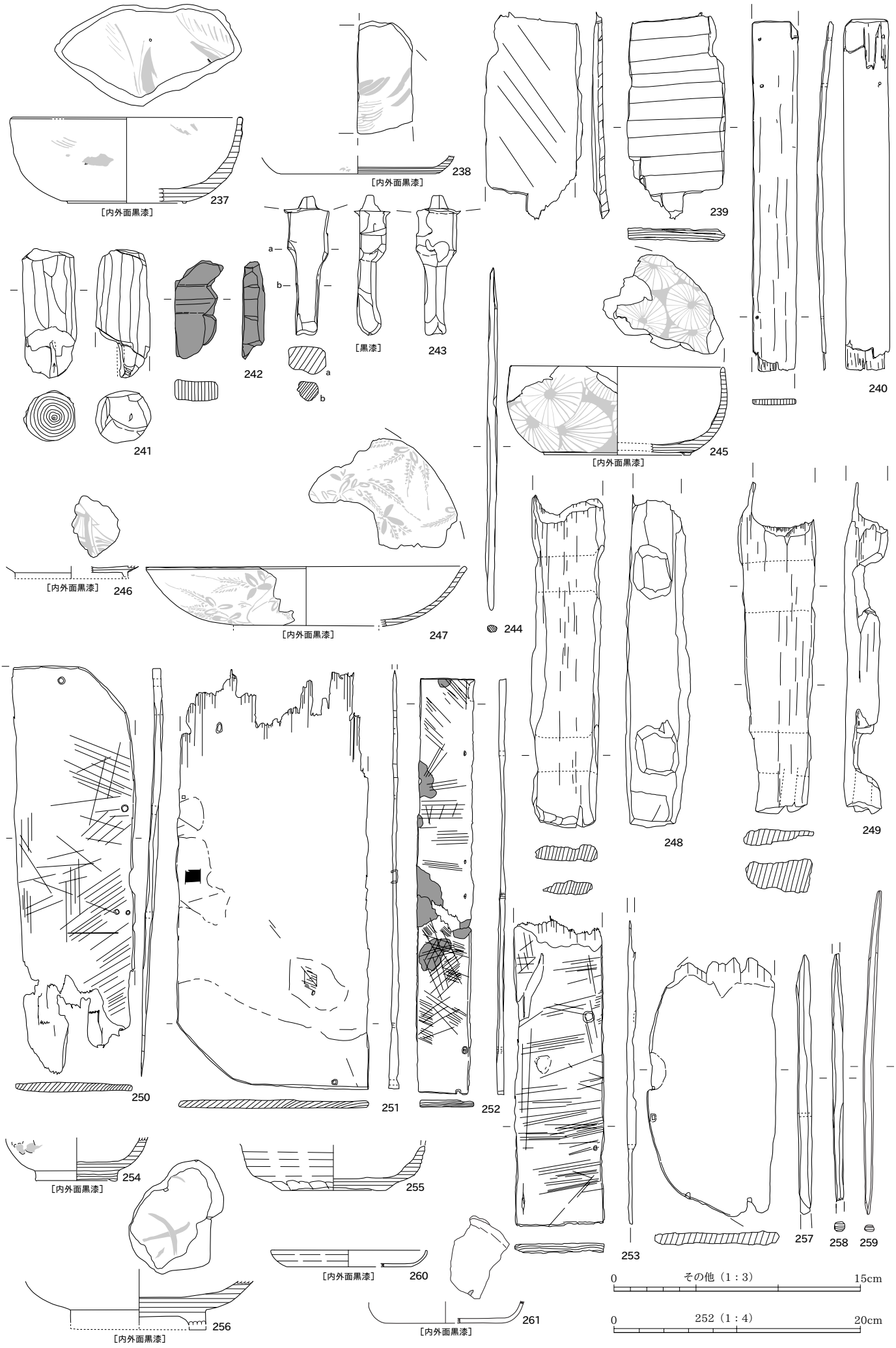

103
107
105
106
111
104
112
113
108
115
114
116
109
117
110
119
120
118
0　108（1：4）　20cm
0　その他（1：3）　15cm

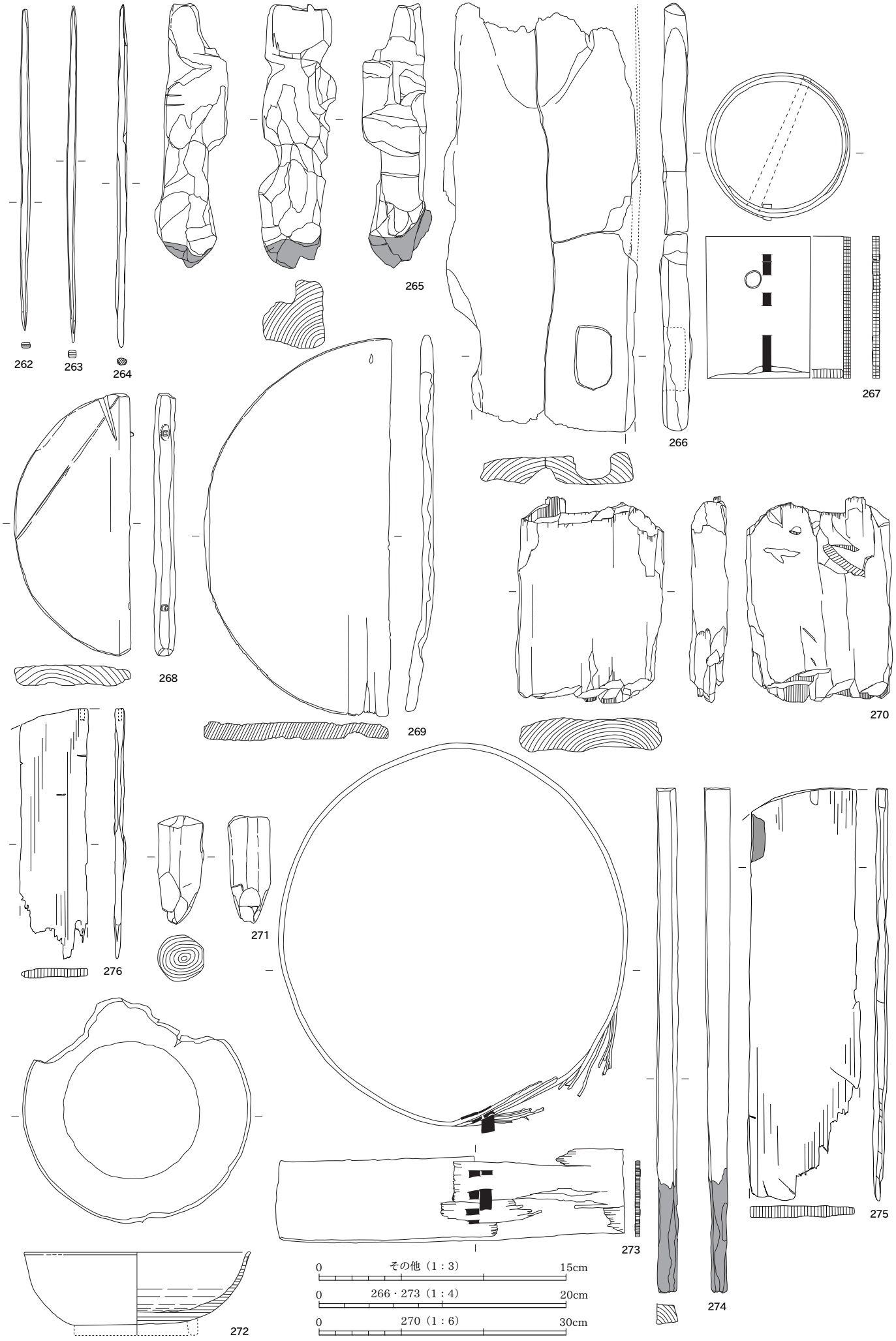

121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
0
(1 : 3)
15cm

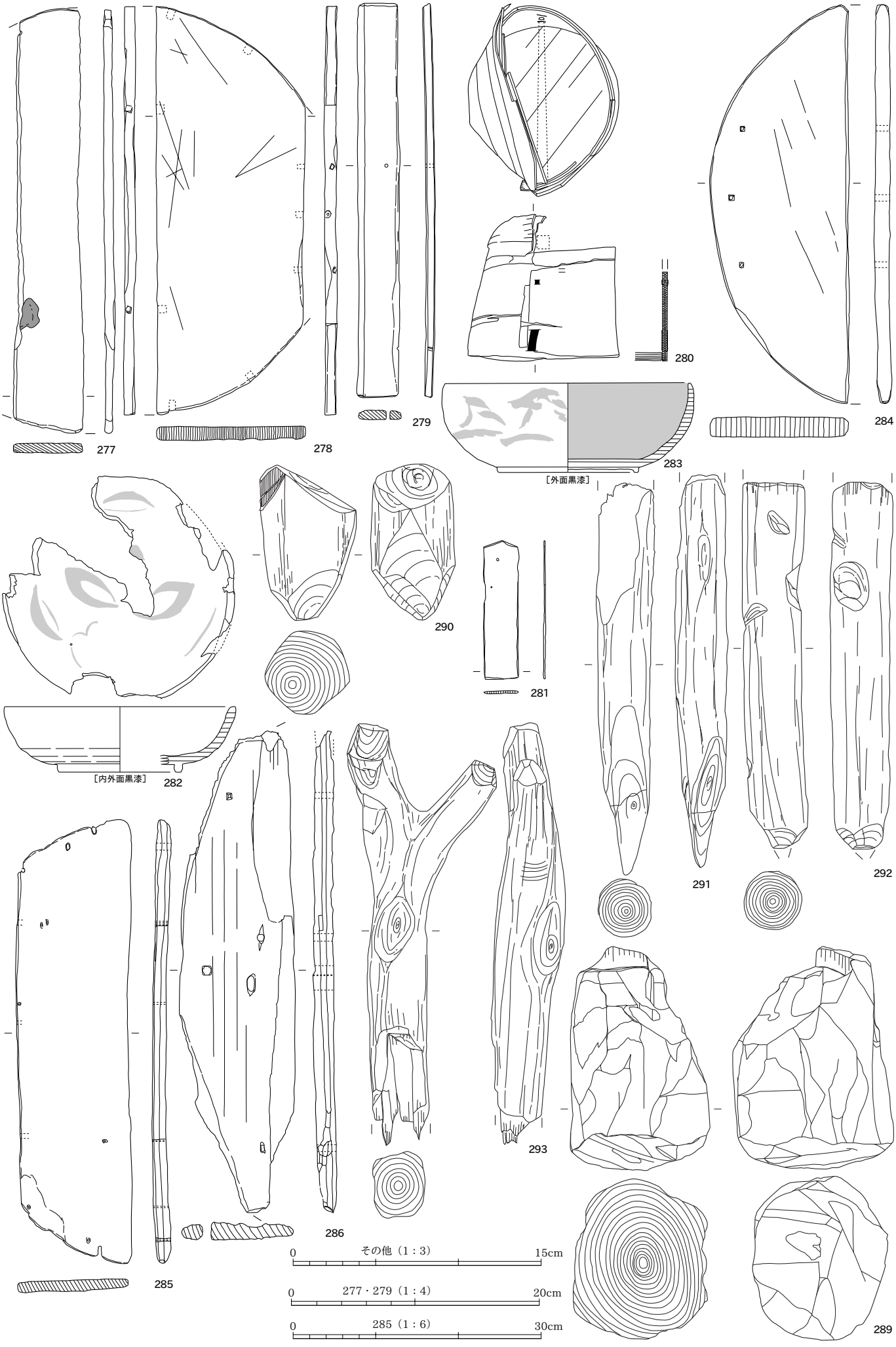

149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
170
171
172
167
168
173
174
176
175
169
0　167（1：4）　20cm
0　その他（1：3）　15cm

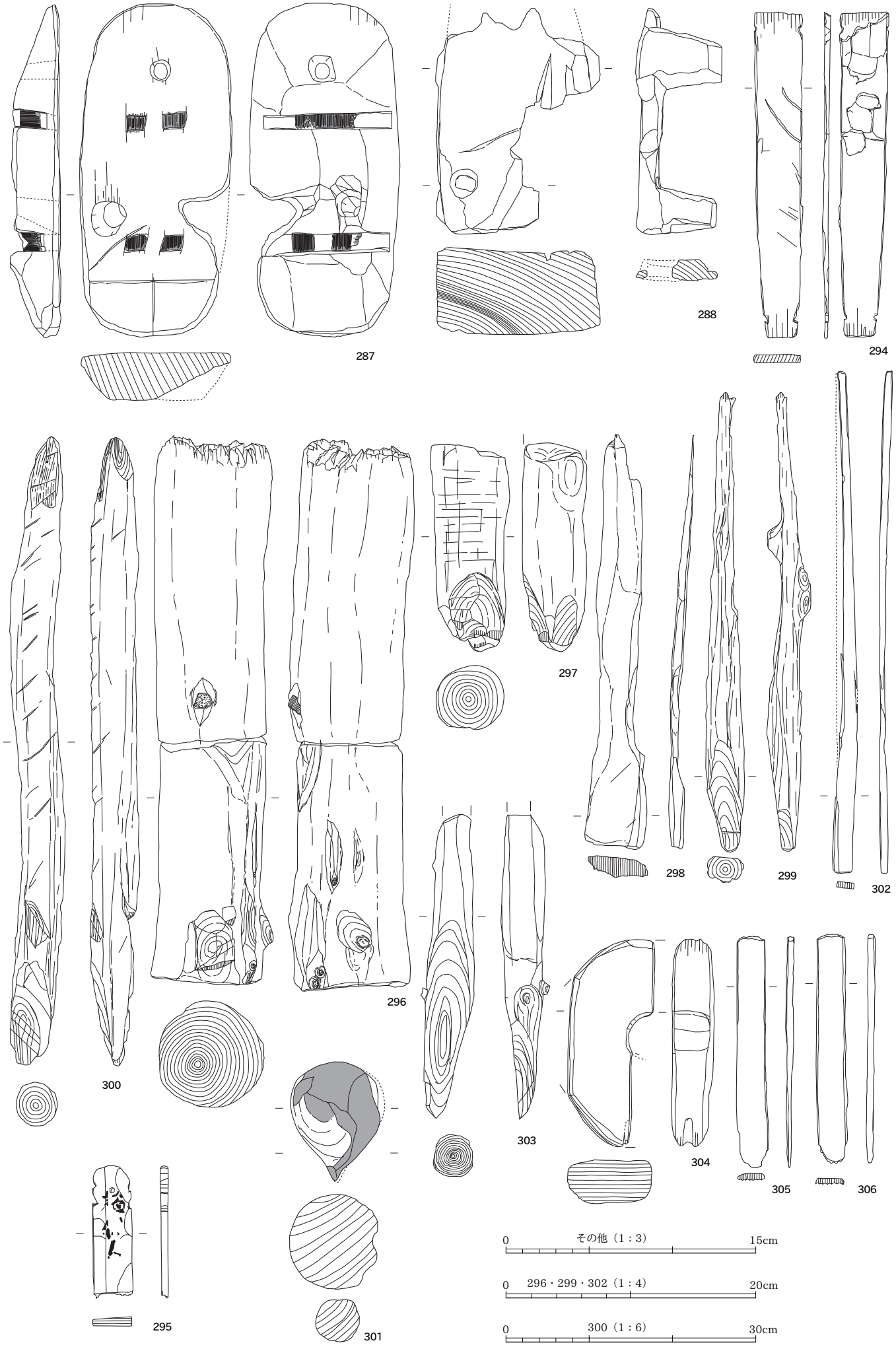

177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
0　177～220（1：3）　15cm

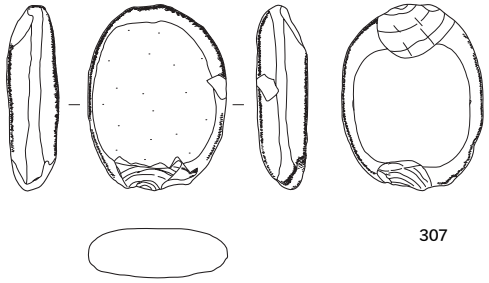

221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
0　銭貨（2：3）　5cm


237
［内外面黒漆］
238
［内外面黒漆］
239
240
241
242
a
b
［黒漆］
243
244
245
［内外面黒漆］
246
［内外面黒漆］
247
［内外面黒漆］
248
249
250
251
252
253
254
［内外面黒漆］
255
256
［内外面黒漆］
257
258
259
［内外面黒漆］
260
261
［内外面黒漆］
0　その他（1：3）　15cm
0　252（1：4）　20cm

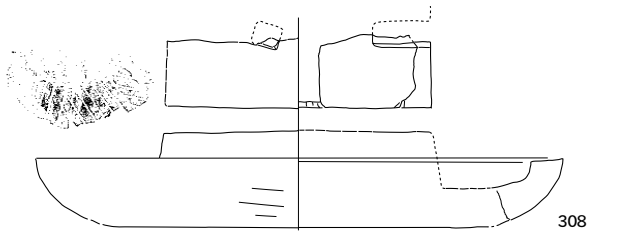

262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
0　その他（1：3）　15cm
0　266・273（1：4）　20cm
0　270（1：6）　30cm


277
278
279
280
283
［外面黒漆］
284
290
281
［内外面黒漆］
282
291
292
293
286
285
289
0　その他（1：3）　15cm
0　277・279（1：4）　20cm
0　285（1：6）　30cm


287
288
294
296
297
298
299
300
302
303
304
305
306
295
301
0　その他（1：3）　15cm
0　296・299・302（1：4）　20cm
0　300（1：6）　30cm



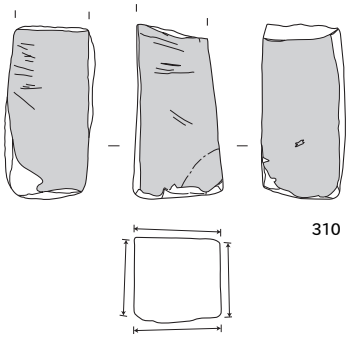
307



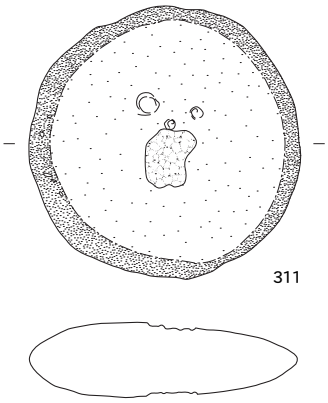
308

0　308（1：6）　30cm

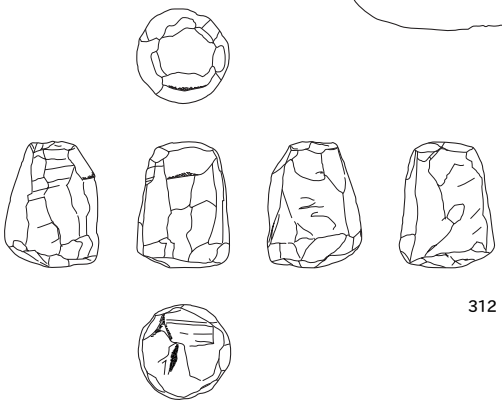
309



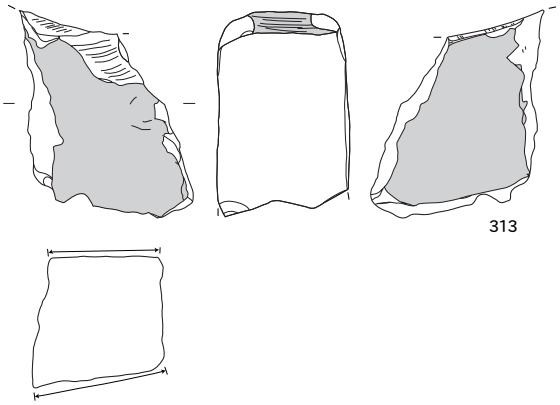
310



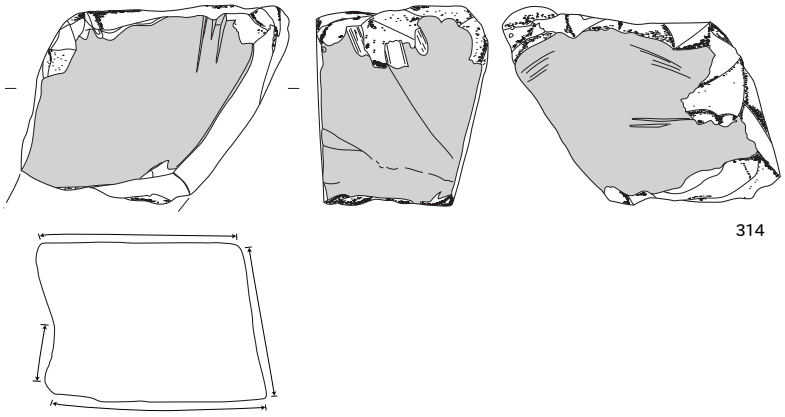
311



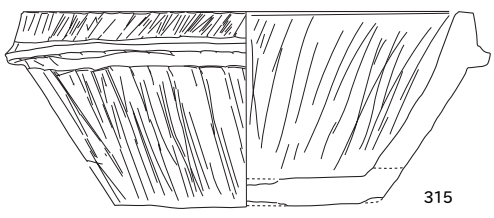
312



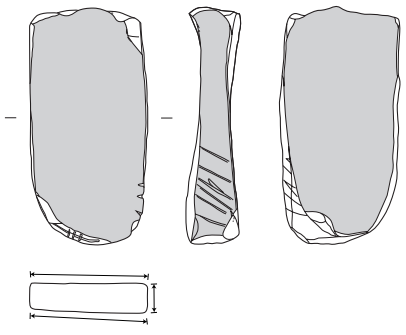
313



314

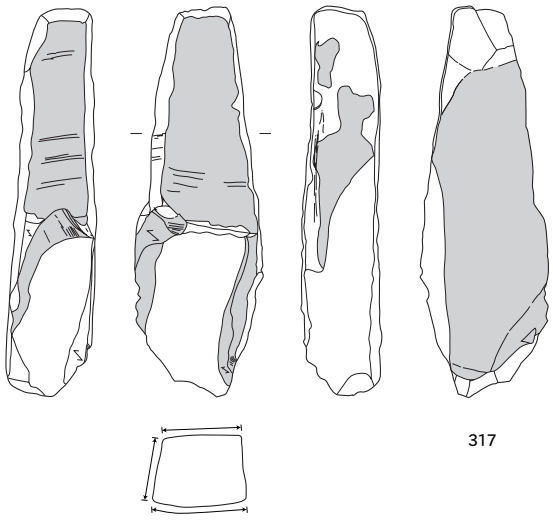


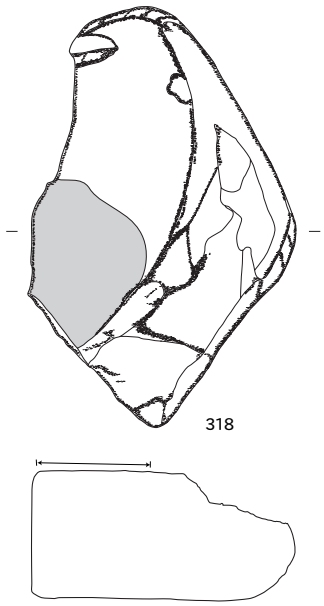
315

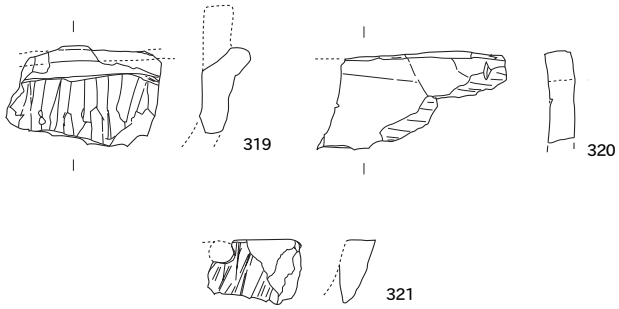


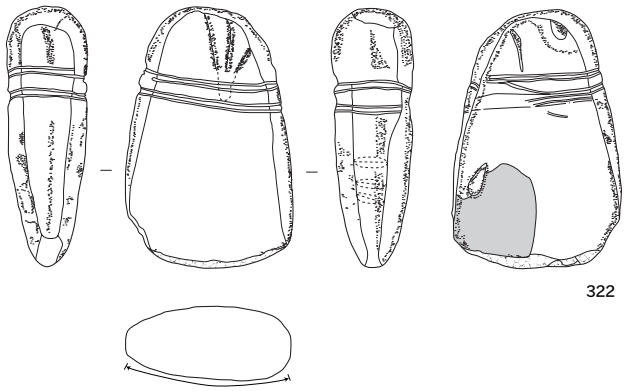
316

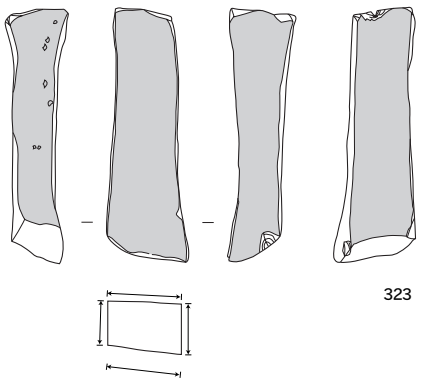
0　その他（1：3）　15cm

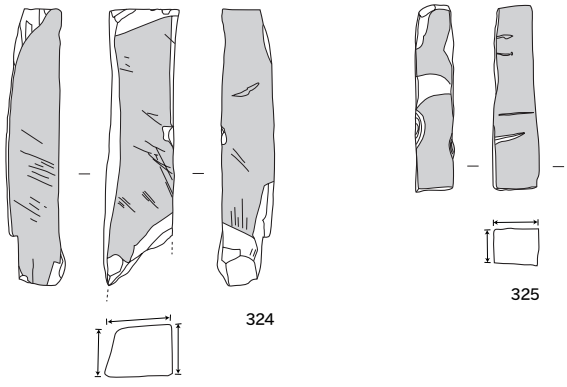


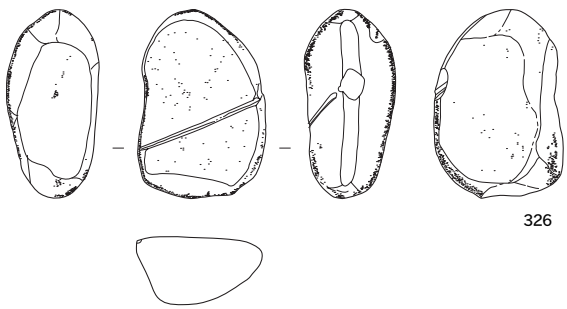




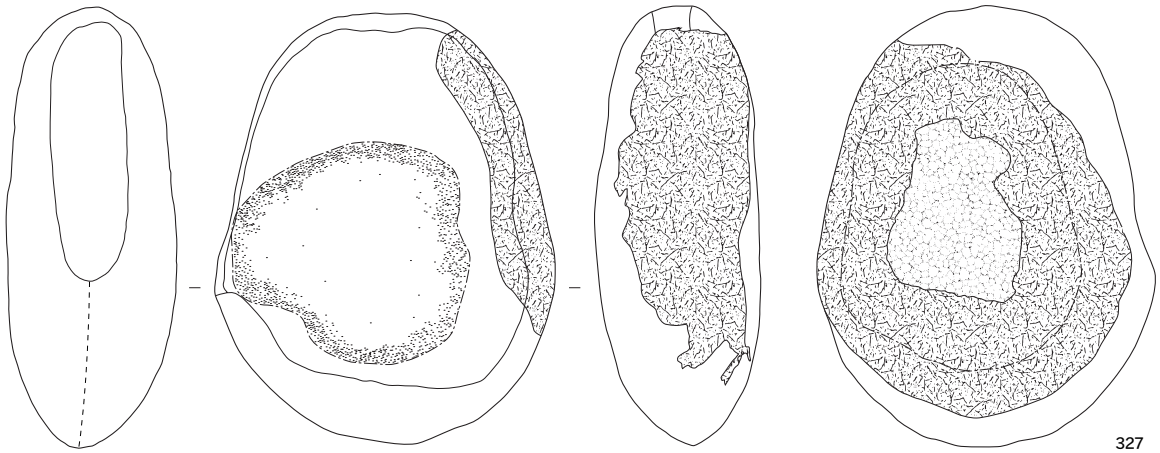


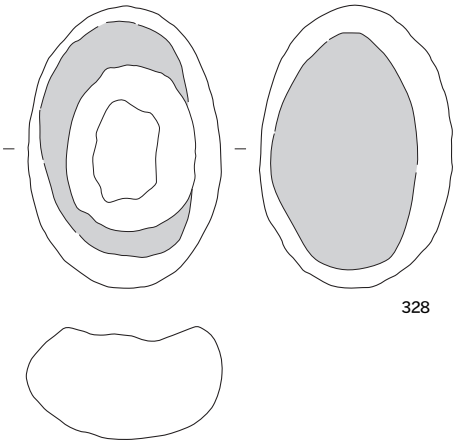


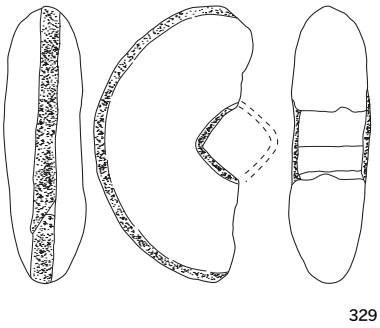


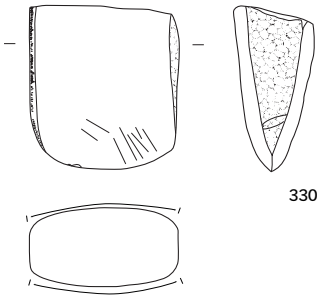


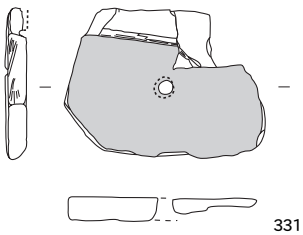
0 (1：3) 15cm

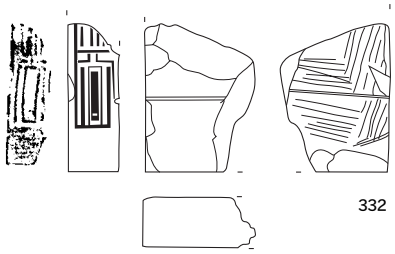

327

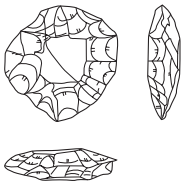

328

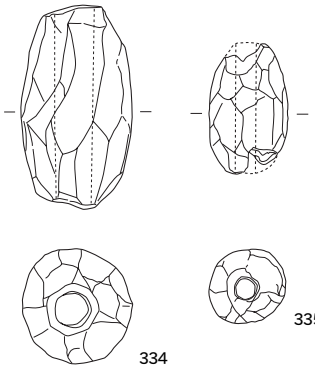

329

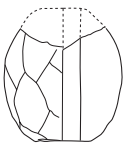

330


331

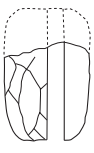

332

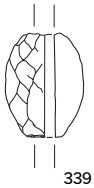

333

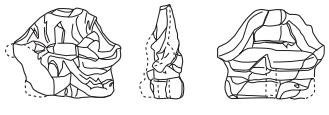

334 335


336

337

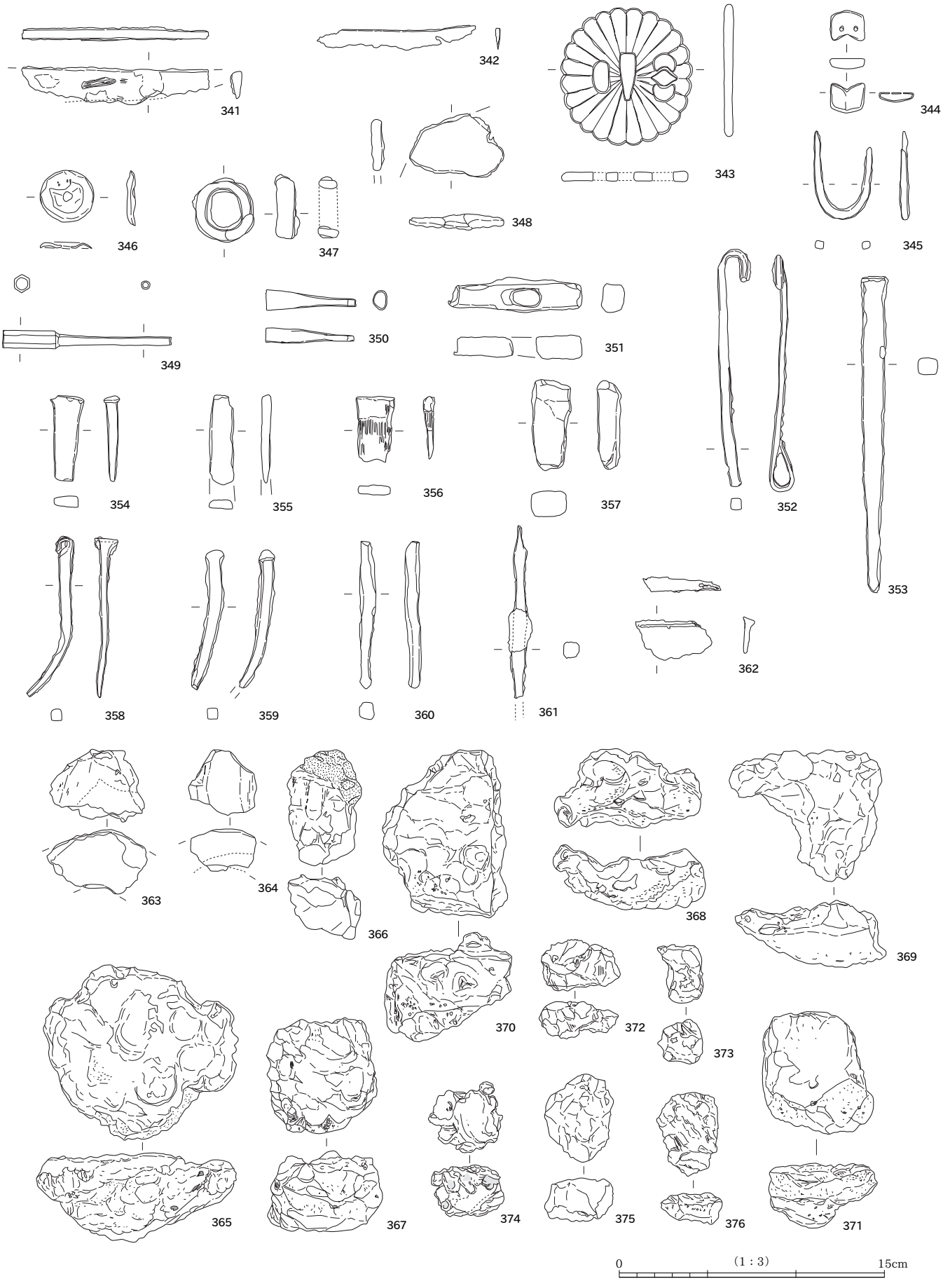

338


339


340

0 332・333（2：3） 5cm

0 その他（1：3） 15cm


341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
0
(1 : 3)
15cm

遺跡周辺空中写真〔昭和22年〕（11月11日米軍撮影）

図 版 37

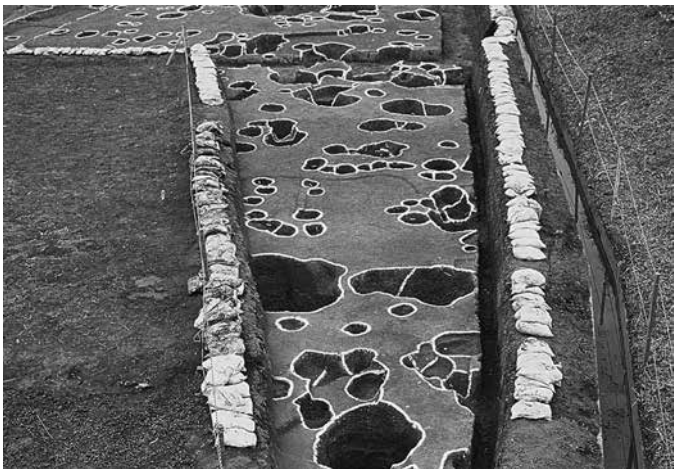
調査区近景〔南から　左奥に番神堂〕

調査区近景〔東から　左奥に米山〕

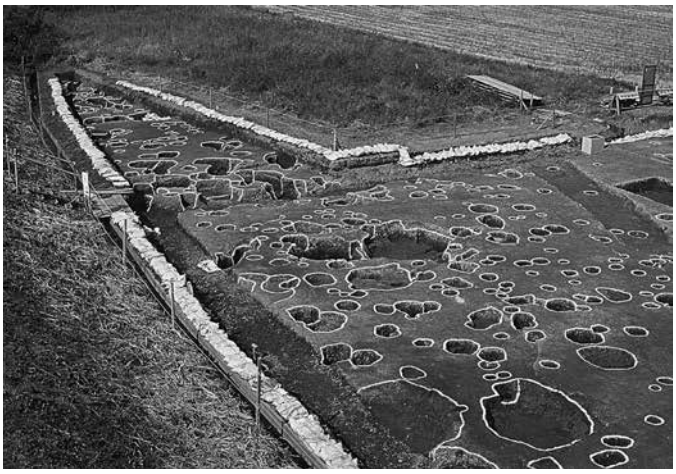
調査区完掘状況

図 版 39

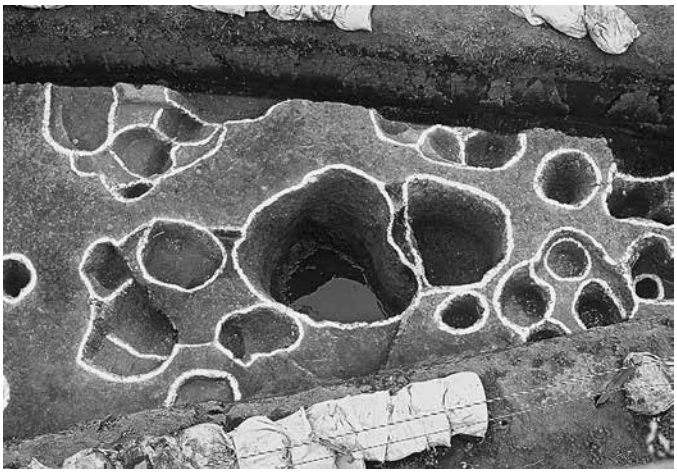
遺構集中区完掘状況〔西側部〕



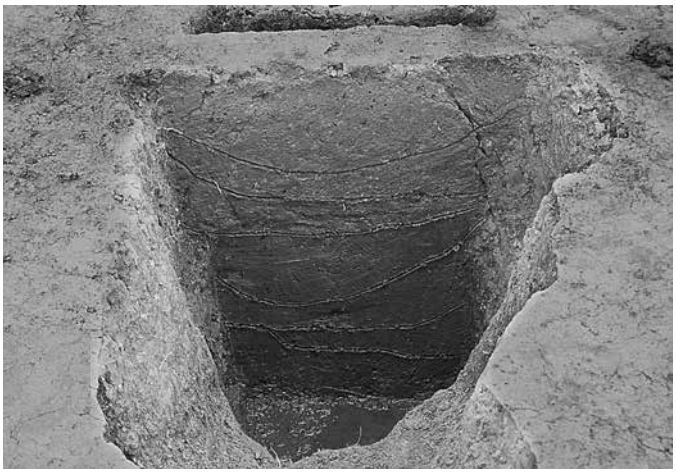
2G・2J区（北から）



2F・2J区（南西から）



SK86　完掘（東から）



SK86　土層断面（東から）

SE8　遺物出土状況（東から）

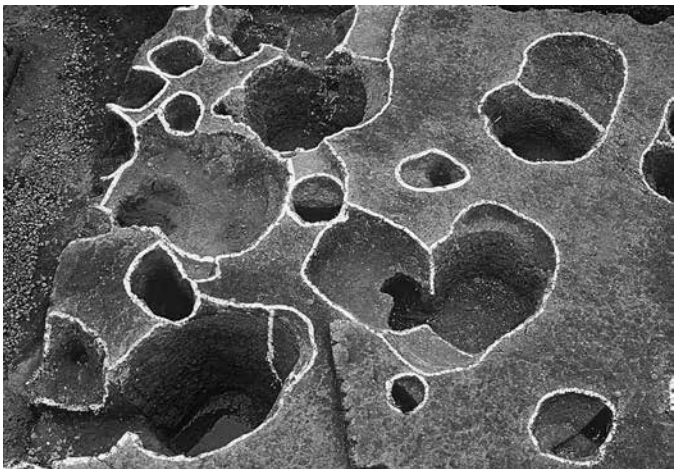
SE9　最深部遺物出土状況（東から）

SE101　土層断面（東から）

SE101　完掘（東から）

SK81　土層断面（東から）

SK81　完掘（北から）



SB255　完掘（東から）

SK235　土層断面（東から）

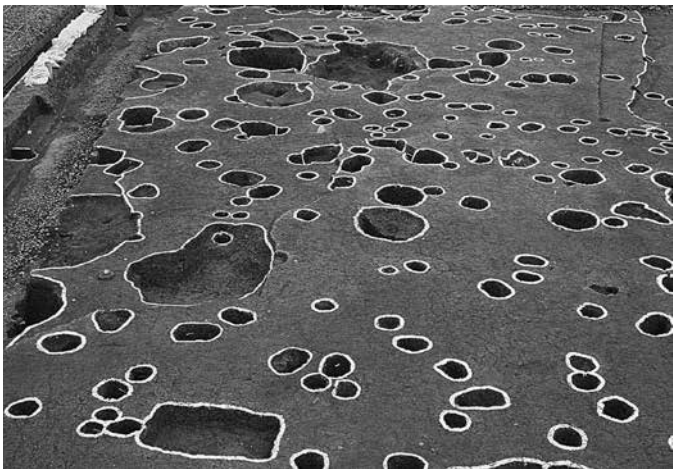
SK42　土層断面（東から）

SK42　遺物出土状況（東から）

SK33　土層断面（南から）

P2H14　遺物出土状況（東から）

2M ・ 2N ・ 3M ・ 3N 区（北西から）



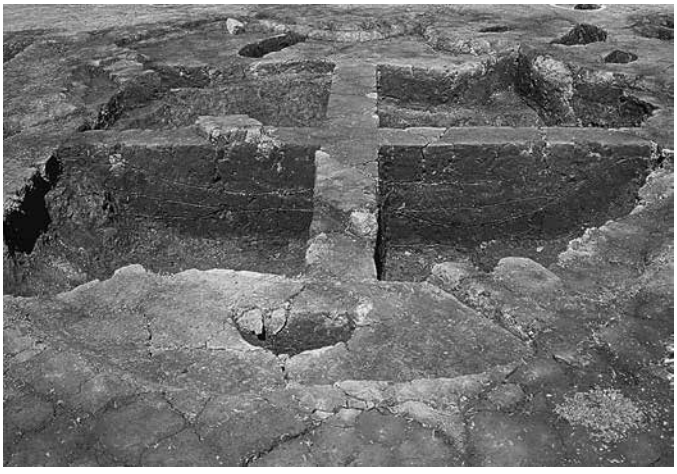
2I ・ 2J 区（南から）

SK80　遺物出土状況（南から）

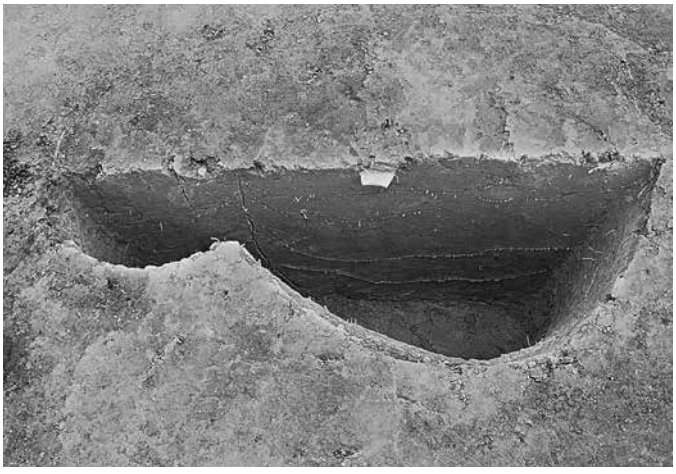
SK80　土層断面（南から）

SE407　最深部遺物出土状況（南から）

SE407　土層断面（南から）



SK79　土層断面（南から）

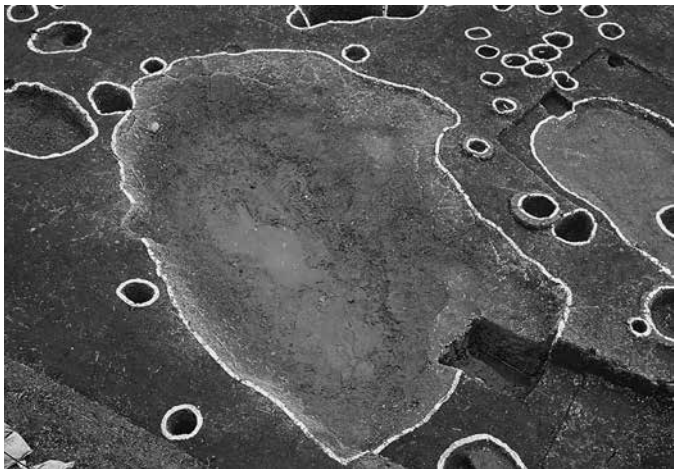


SK71　土層断面（南から）

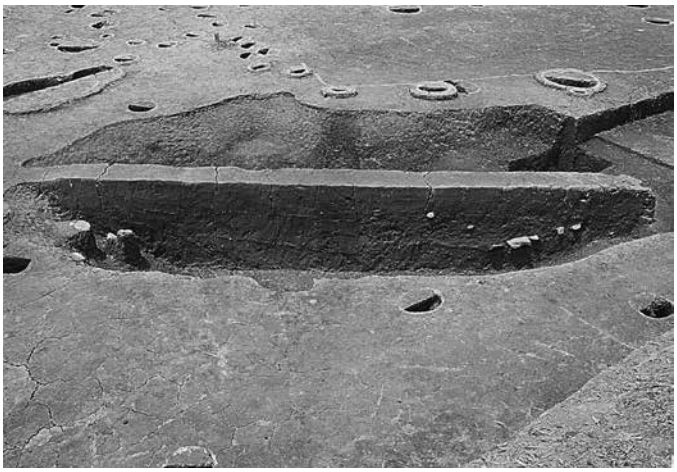
2～4・I～K区

4I・5I・5J区（北から）

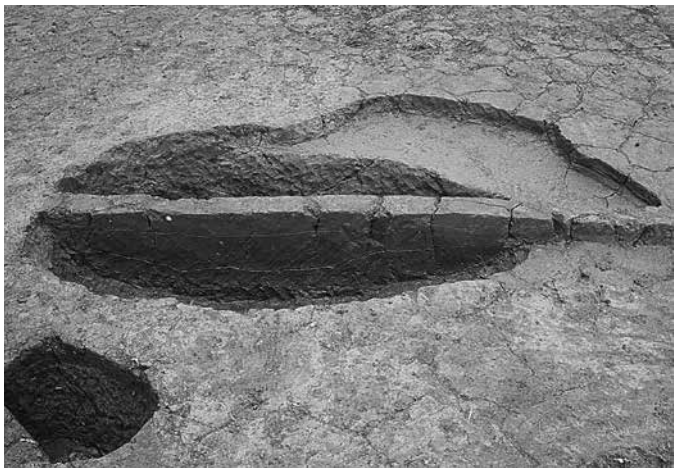
SK89　土層断面（南から）



SK89　完掘（北東から）



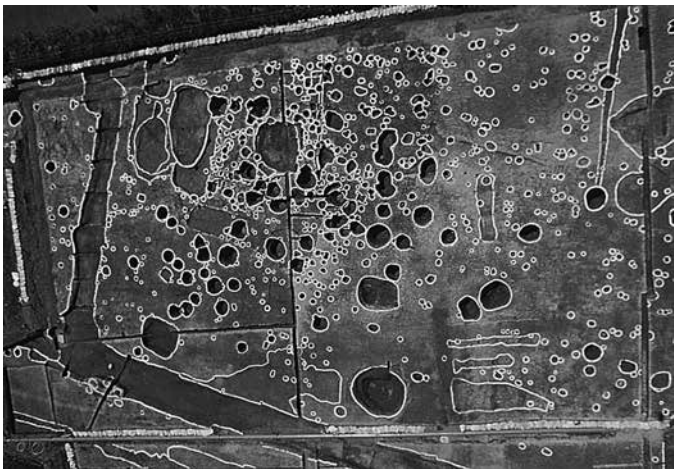
SK89　土層断面（東から）



SK93　土層断面（東から）

SK94　土層断面（東から）

SK401　土層断面（東から）



4I・4J・5I・5J区

5I・5J・5K区（南から）

SD301A-A'　土層断面（南から）

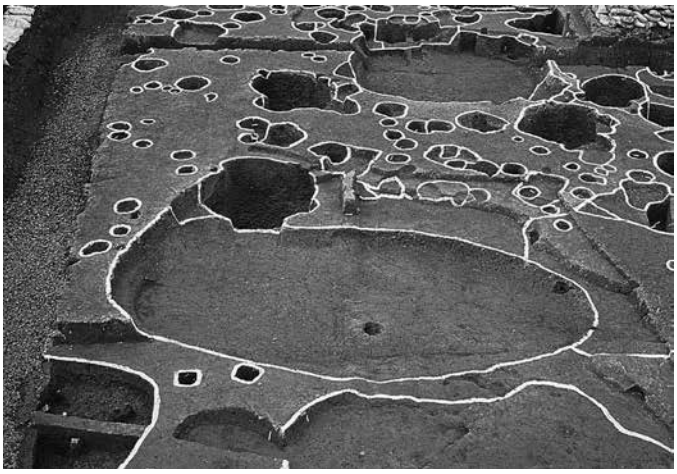
SD301B-B'　土層断面（南から）

SE139　土層断面（南から）

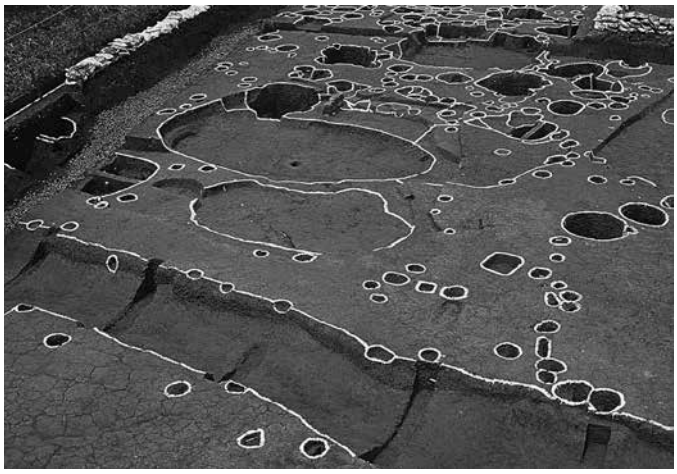
SK438　土層断面（東から）

SK124　完掘（東から）

SE125　完掘（東から）



2N・2M区（南から）



2N・3M区（南から）

SD145A-A'　土層断面（東から）

SD145B-B'　土層断面（西から）

SE180　土層断面（南から）

SK187　土層断面（西から）

SK130　遺物出土状況（南から）

SE129　最深部遺物出土状況（東から）

SB275P2（SK171）（南から）

SB275P5（SK149）　土層断面（東から）

SK182　土層断面（南から）

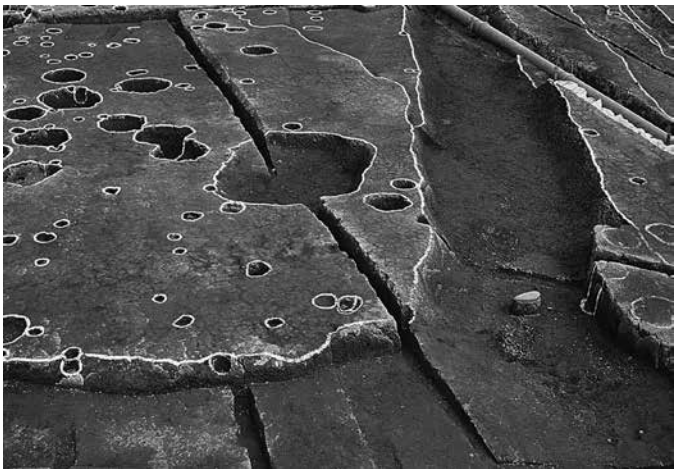
SK135　土層断面（南から）

SK225　完掘

SK204　完掘（西から）

SK209　完掘（東から）

SK239　完掘（東から）



3N・4M区（南から）

SD145C-C'　土層断面（西から）

SD301　土層断面（南から）

SK228　土層断面（南から）

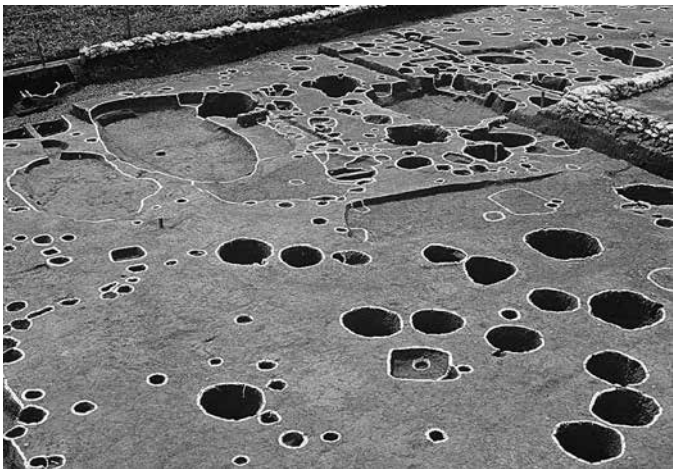
SK331　完掘（南から）

SK331　土層断面（南から）

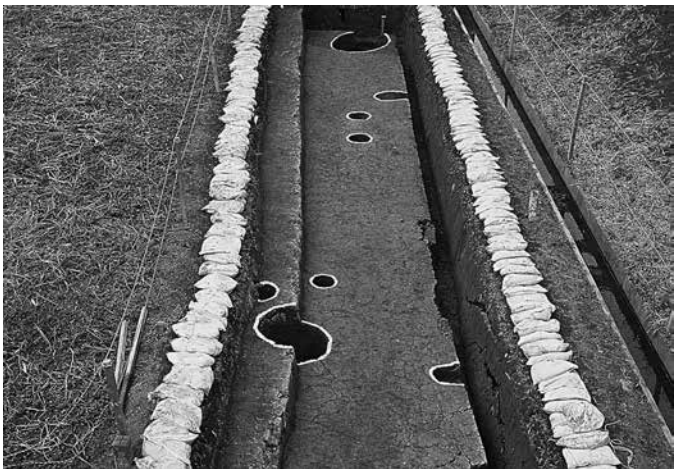
SK222　土層断面（北から）

SK227　土層断面（北東から）

2L・3L区（北から）



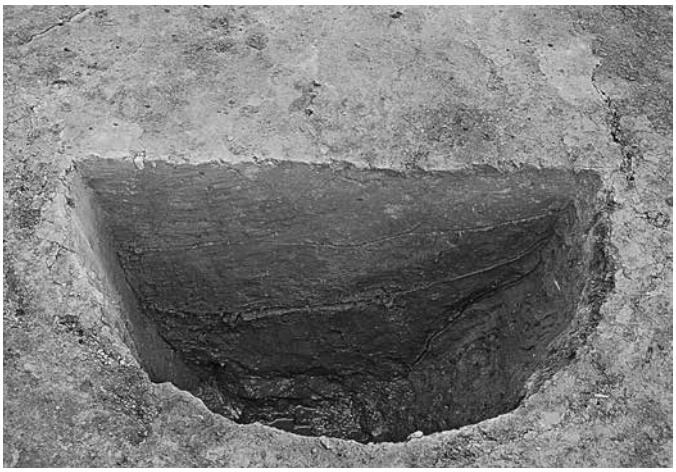
2M・3M区（東から）



2O・2P区（北から）

SK234　土層断面（東から）

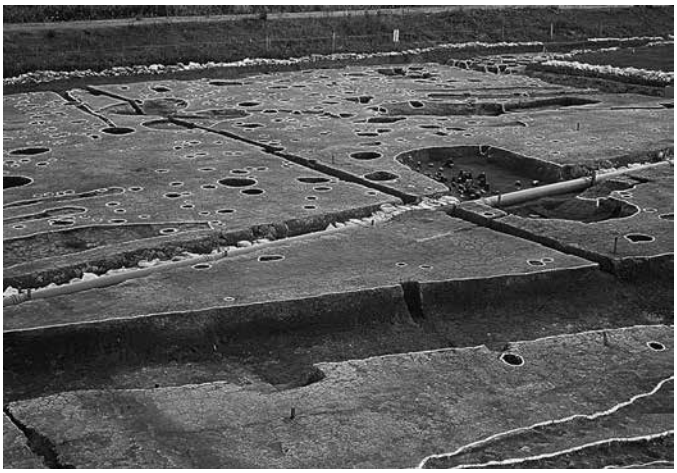
SE140　土層断面（東から）



SE111　土層断面上層（北から）

SE111　土層断面上層（北から）

SE407　完掘（東から）



2J・3K区

3I・3J・4I・4J区（北から）

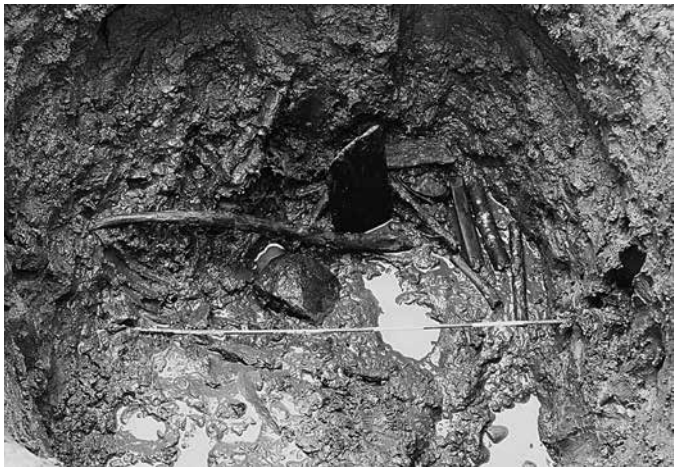
4K・4L区（北から）

SK445　完掘（南西から）

SK445　土層断面（南から）

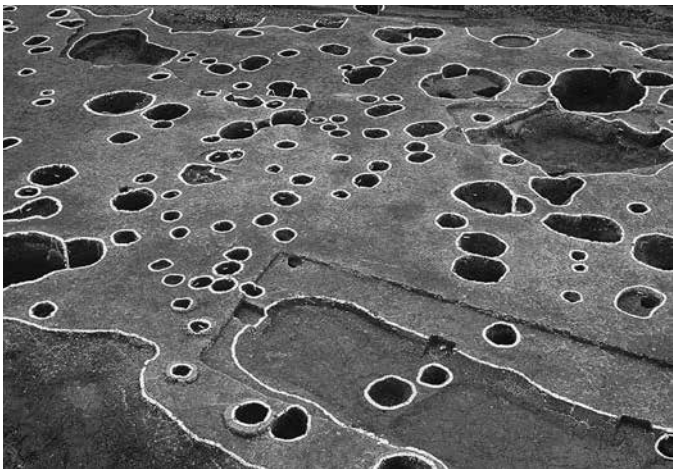
SK445　土層断面（南から）

SE435　遺物出土状況上層（北から）



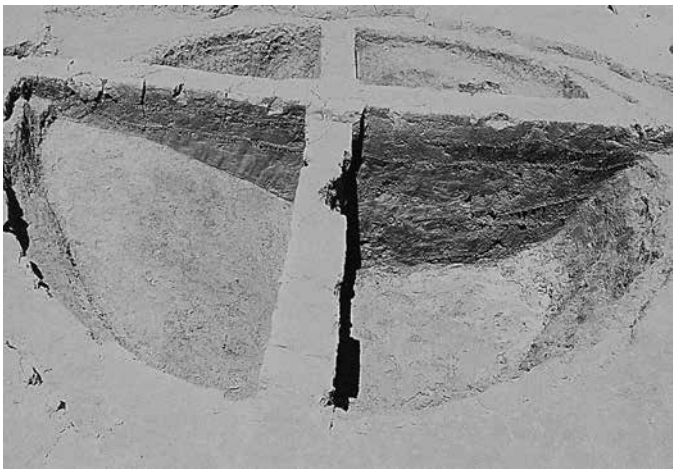
SE435　遺物出土状況最下層（北から）

3L・3K・4L・4K区（東から）



2～3I区（東から）

4M・4N区（北西から）

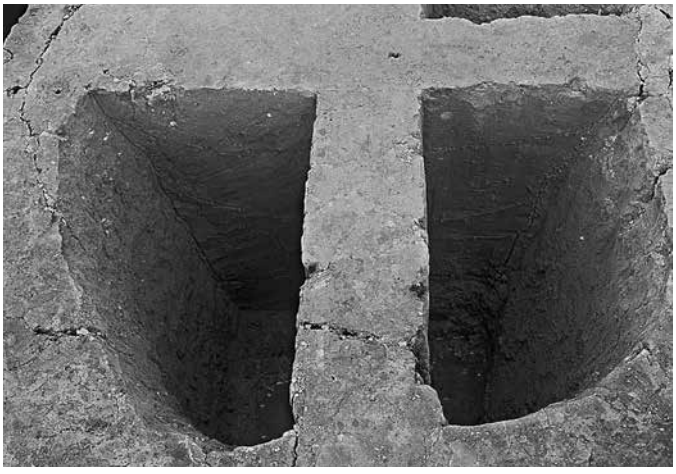


SE236　土層断面（南から）

SE236　完掘（南から）

SE144　土層断面（東から）

SE144　完掘（東から）



SK440　土層断面（南から）

SE111　遺物出土状況（東から）

SK207　遺物出土状況（東から）

SE205　遺物出土状況（東から）

SE205　土層断面（東から）

SK94　土層断面（東から）

SK93　完掘状況（西から）

SK401　土層断面（東から）

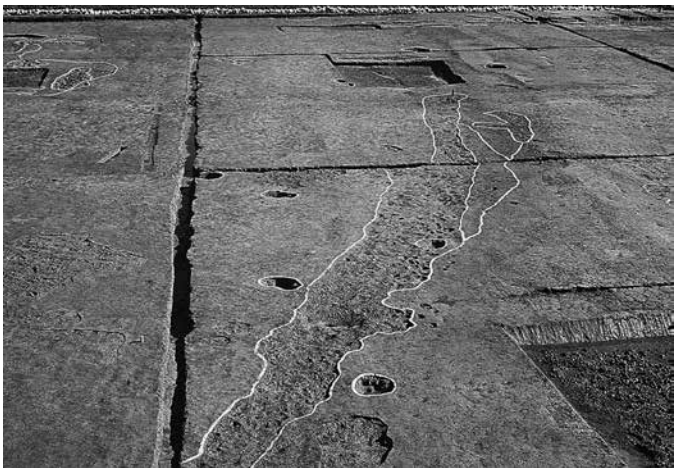
SE190　土層断面（南から）

10I～12M区（東から）

10I～12M区（南から）

10I～11J区（北から）

11I・11J区（北から）



10J・11J区（北から）

10N・11N区（南から）

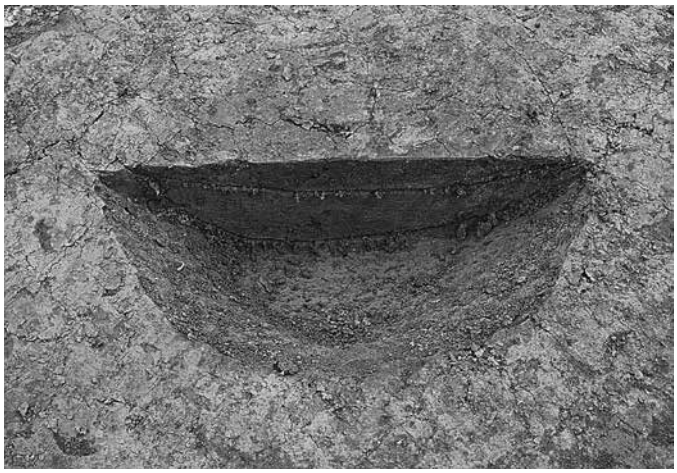
SK371　土層断面（南から）

SK222　土層断面（北から）

B・C区

C区

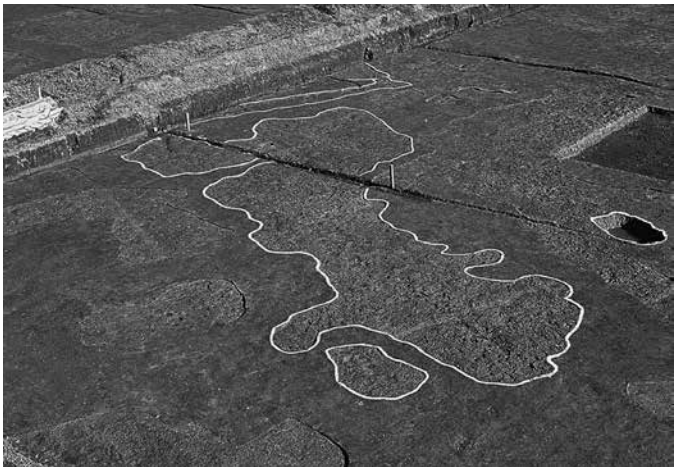
SK436　土層断面（東から）



SK206　土層断面（東から）

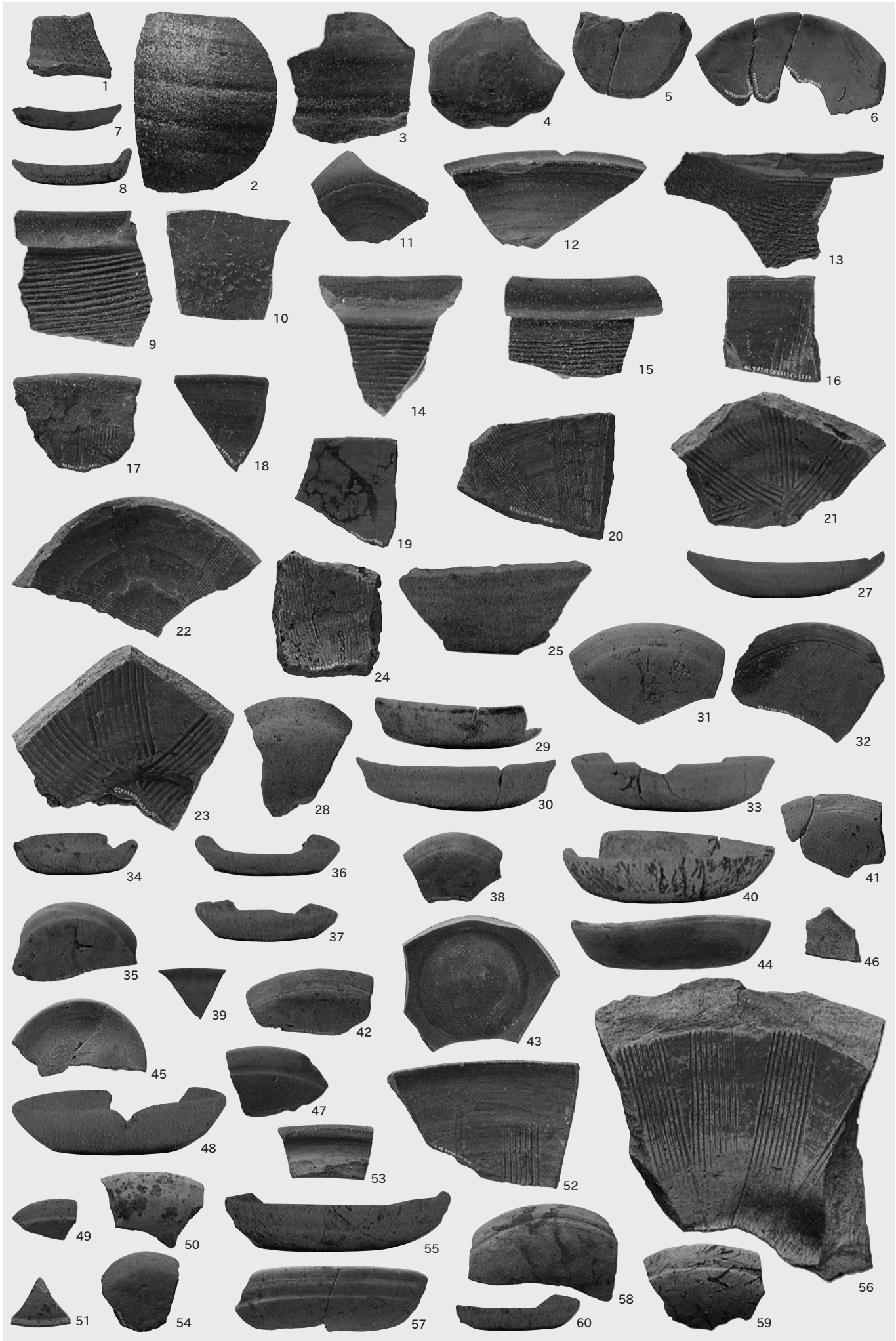
B・C区（西から）

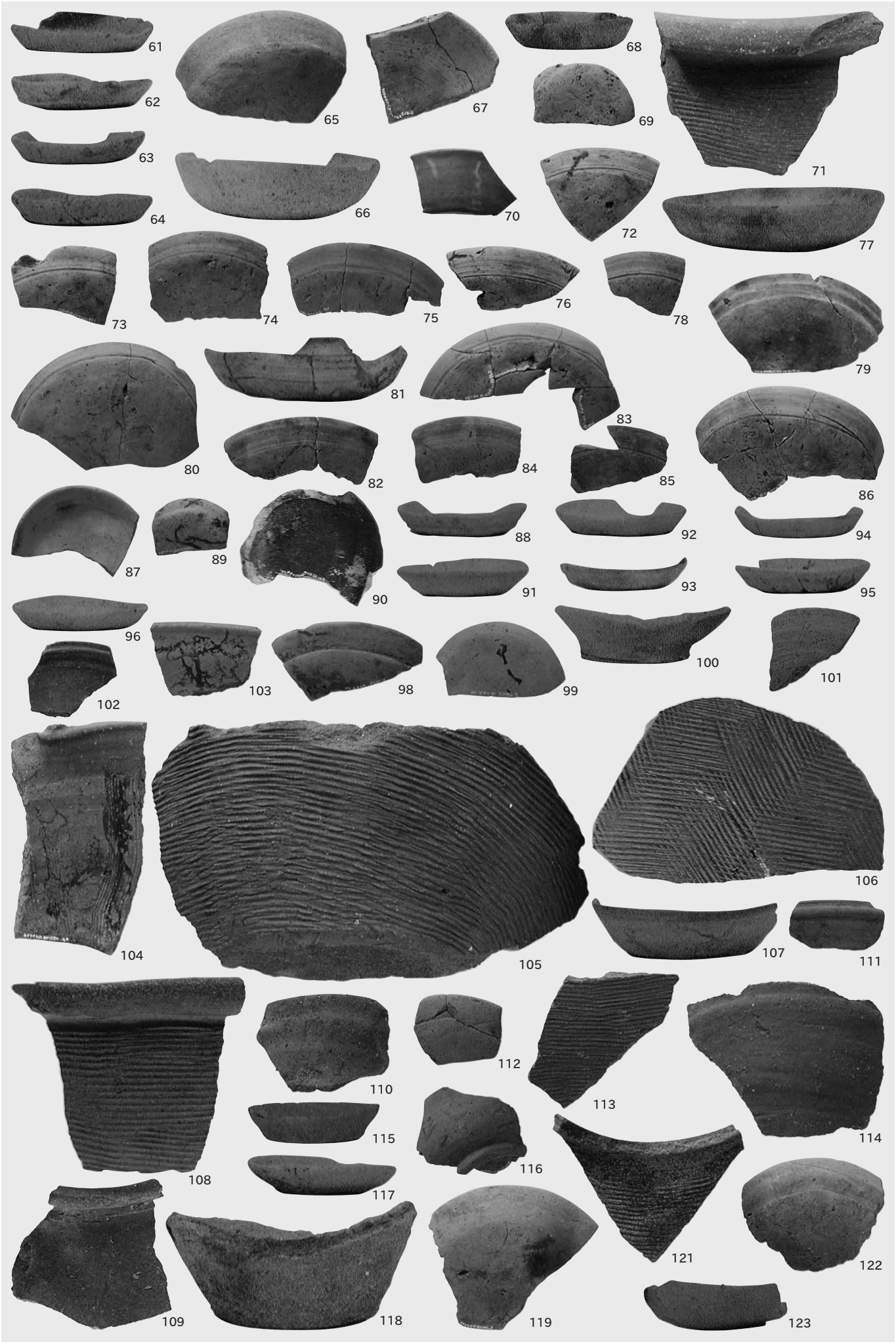
B・C区（東から）

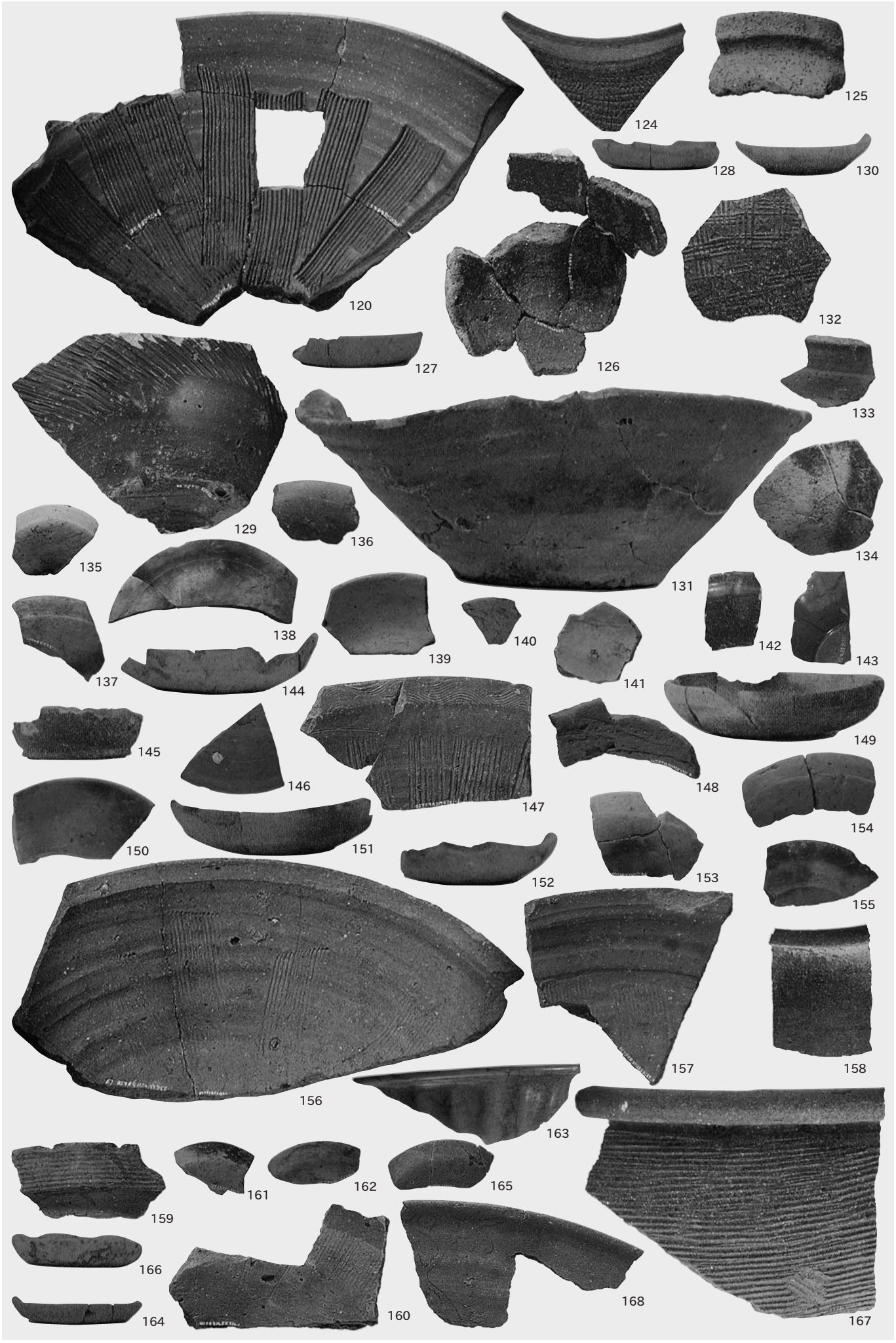


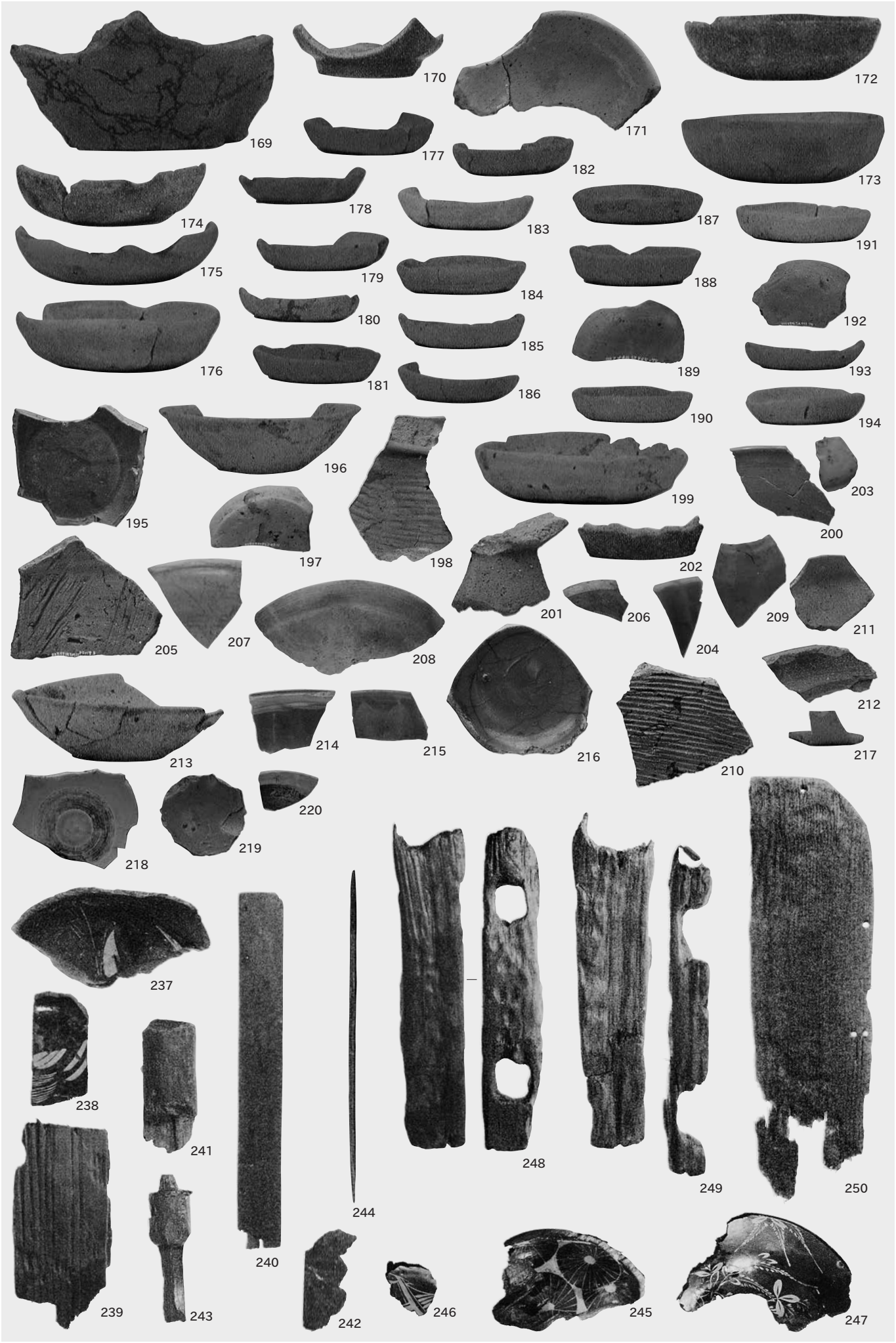
9I・9J区（北西から）

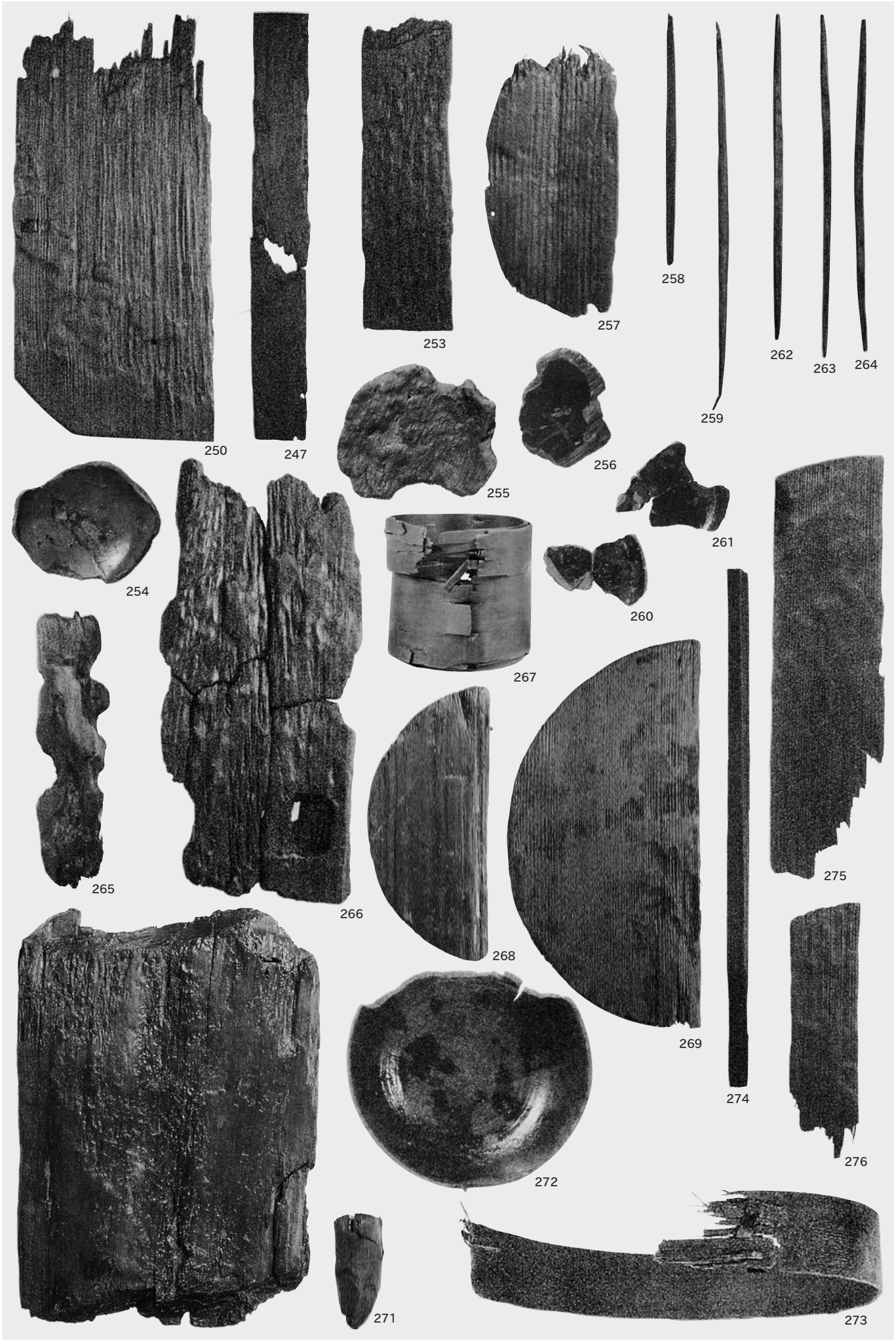
9I・9J区（東から）

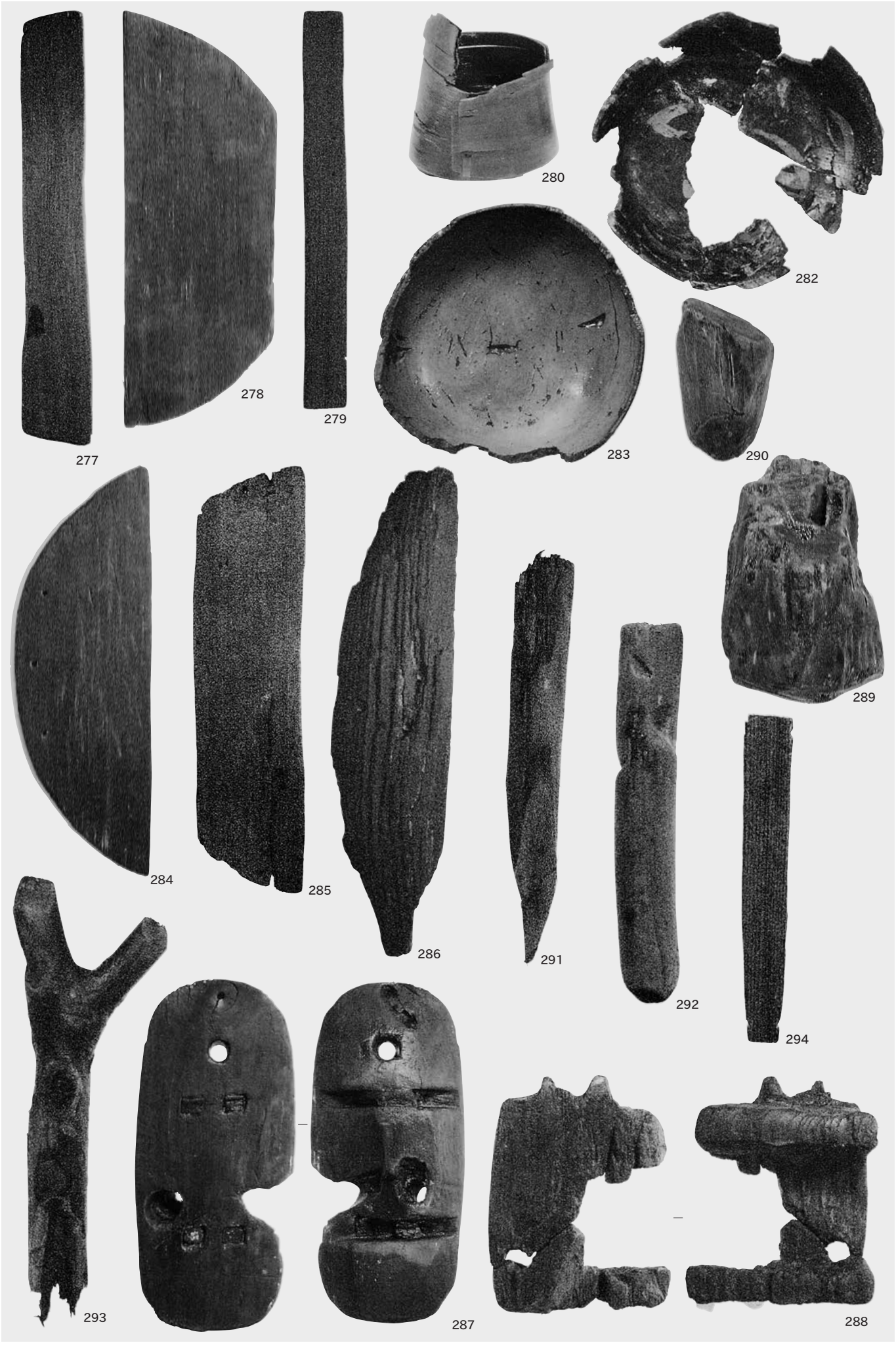

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60

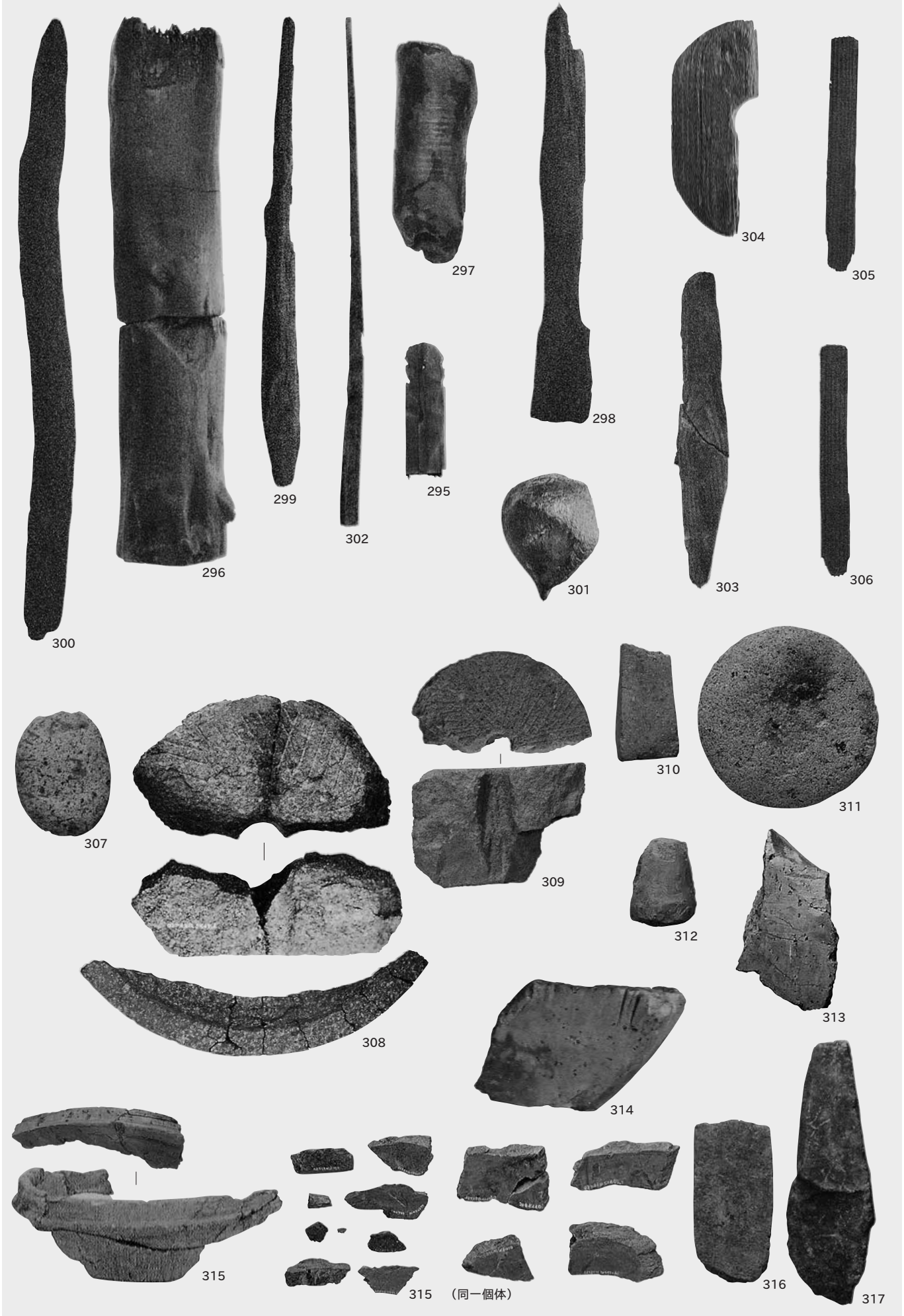

61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
121
122
123

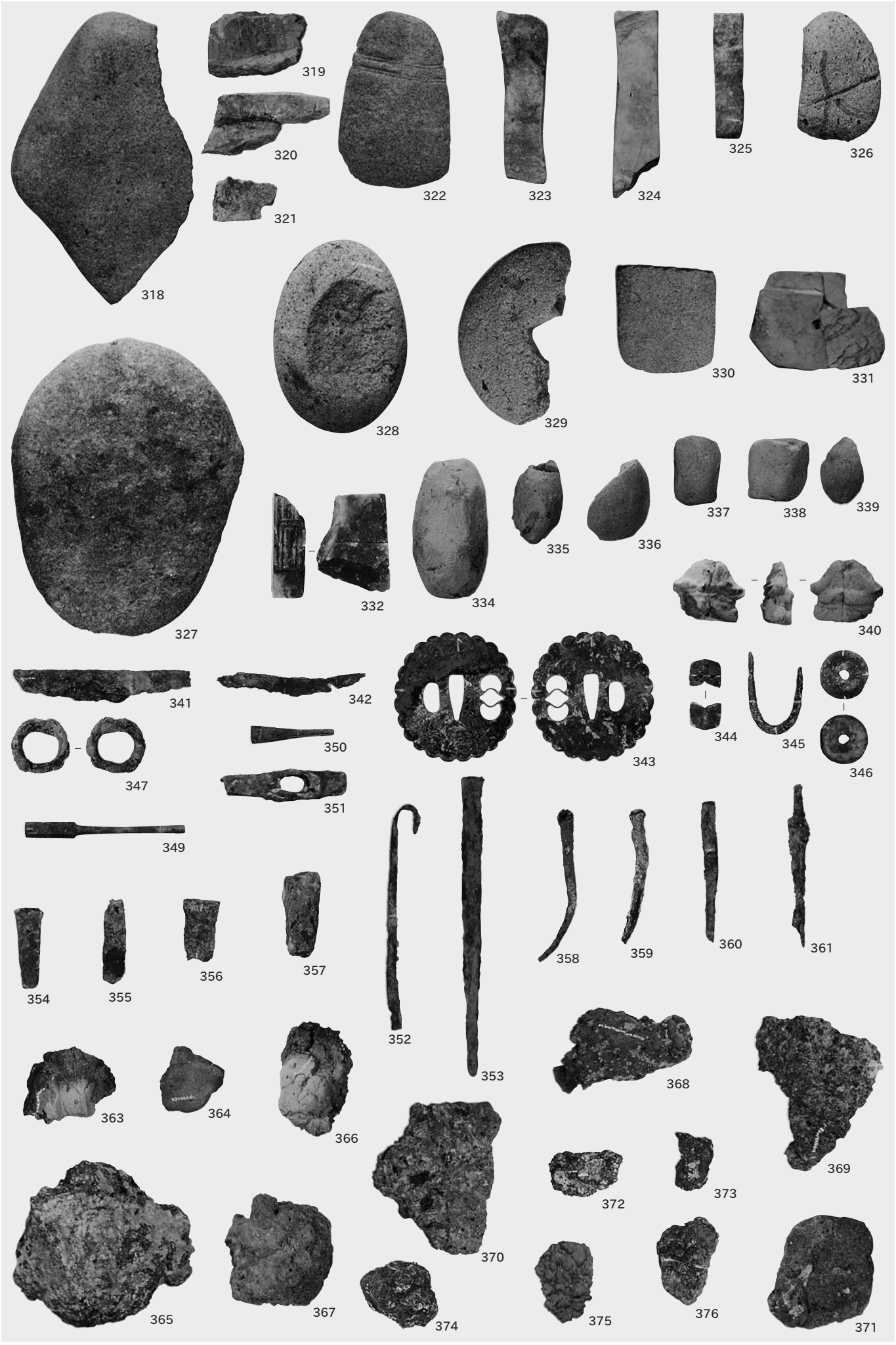

120
124
125
128
130
126
132
127
133
129
136
131
134
135
138
139
140
142
143
137
144
141
145
149
146
147
148
154
150
151
152
153
155
156
157
158
163
159
161
162
165
166
160
168
164
167


169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250


250
247
253
257
258
259
262
263
264
255
256
254
261
260
267
265
266
275
268
269
274
276
272
271
273


277
278
279
280
282
283
290
284
285
286
289
291
292
294
293
287
288


300
296
299
302
295
297
298
301
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
315 （同一個体）
316
317


319
320
321
322
323
324
325
326
318
328
329
330
331
327
332
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
350
351
349
354
355
356
357
352
353
358
359
360
361
363
364
366
368
369
365
367
370
372
373
374
375
376
371

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しもおききたいせきいち
書　　名	下沖北遺跡Ⅰ
副 書 名	一般国道８号柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ
巻　　次	
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第125集
編 著 者 名	山本　肇　加藤義孝　佐藤弘一　金子正宏　山崎忠良　高橋　保
編 集 機 関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所　在　地	〒956-0845　新潟県新津市大字金津93番地１　　TEL 0250（25）3981
発行年月日	2003（平成15）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
下沖北遺跡 （しもおききたいせき）	新潟県柏崎市 （にいがたけんかしわざきし） 大字下方字下沖 （おおあざしもかたあざしもおき） 38-1ほか	15205	708	37度 20分 45秒 （旧座標）	138度 33分 20秒 （旧座標）	20020408～ 20021031	6,500	一般国道８号柏崎バイパス建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下沖北遺跡	集落跡	中世（13世紀～14世紀）	掘立柱建物（29棟） 柵列（3基） 方形竪穴状遺構（8基） 区画溝（3条）　溝（30条） 土坑（129基） 井戸（25基）	土師器（皿、碗）　須恵器（坏、壷） 土師質土器（皿、碗）　珠洲焼（甕、擂鉢）　陶器（白磁、青磁、染付け等）　木製品（漆器椀、箸、折敷、柄杓、下駄）　石製品（石鍋、茶臼、砥石、磨石等）　金属製品（鍔、刀子、銭、鉄滓）　土製品（土錘、土人形）	

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第125集

一般国道８号　柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

下沖北遺跡Ⅰ

平成15年3月25日印刷
平成15年3月31日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町４番地１
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新津市大字金津93番地１
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社 第一印刷所
〒950-8724　新潟県新潟市和合町２丁目４番18号
電話　025（285）7161